

ANNUAL REPORT

2012

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報



目次

平成24年度の流れ	近代美術館			3
	万代島美術館			4
事業報告				
展覧会	近代美術館	常設展	第1期	つながる
				近代美術館の名品
				亀倉雄策展
			第2期	中国絵画と描かれた中国
				近代美術館の名品
				現代美術／入門
			第3期	近代美術館の名品
				戦争が終わって・昭和
				カプリチオス—象徴主義の源流—
			第4期	近代美術館の名品
				雪景
				茶室の風景
			第5期	近代美術館の名品
				いのりの絵画
				品川工・高橋信一の版画
		企画展		時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち
				地上の天空 北京・故宮博物院展
				水の記憶：吉原悠博プロジェクト
				象徴派—夢幻美の使徒たち
				GUN—新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃—
				東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華
		共催展		第67回新潟県美術展覧会長岡展
				第16回新潟県立美術館友の会作品展
				第14回亀倉雄策賞益谷克彦グラフィックデザイン展+JAGDA新人賞2012
				第43回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展
				こどもものづくり大学校作品展覧会
	万代島美術館	所蔵品展		異国憧憬～あこがれの風景～
				ひとの姿／人のかたち
		企画展		メアリー・ブレア原画展
				シャガール展2012
				ジパング展
				巨匠たちの英国水彩画展
教育普及	近代美術館	イベント		30
				館外活動・地域との連携
				刊行物
				作品解説会
				団体への解説
				学校教育との連携
				観覧料免除
				アート・ボランティア
				博物館実習
	万代島美術館	イベント		33
				刊行物
				作品解説会
				団体への解説
				学校教育との連携
				観覧料免除
				サポートメンバー
				博物館実習
調査・研究	近代美術館			100
	万代島美術館			109
収集・保存	作品の収集	平成24年度収集作品		104
	作品の保存	美術品の修復		110
		美術品の燻蒸		110
	作品の貸出	美術品の貸出		111
管理・運営				
	開館及び入館状況	近代美術館		116
		万代島美術館		117
	施設の貸出	近代美術館		118
	アンケート集計	近代美術館		119
		万代島美術館		121
	組織及び業務			123
	職員			123
施設	近代美術館			124
	万代島美術館			126
審議会等	美術館協議会（含 自己評価に対する委員評価）			128
	美術品収集委員会			139
	新潟県立美術館友の会			140
沿革				141

平成24年度の流れ（新潟県立近代美術館）

4月	22日(日)	発見！びじゅつかん「びじゅつかんの舞台裏探検」	9月	2日(日)	企画展「水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト」閉会 コレクション展第2期 閉会
	26日(木)	コレクション展第1期 開会		3日(月)～ 5日(水)	展示替えのため休館
	27日(金)	企画展「時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち」開会		6日(木)	コレクション展第3期 開会
	29日(日)	発見！びじゅつかん「しっかり観て、見ないで模写」		7日(金)	企画展「象徴派—夢幻美の使徒たち」開場式
5月	5日(土)	映画鑑賞会「あした天気にな～れ！『半分のさつまいも』」	10月	8日(土)	企画展「象徴派—夢幻美の使徒たち」開会 映画鑑賞会「ルートヴィヒ ～神々の黄昏」
	6日(日)	発見！びじゅつかん「びじゅつかんの舞台裏探検」		15日(土)	映画鑑賞会「ルートヴィヒ ～神々の黄昏」
	12日(土)	美術鑑賞講座「デザインってなんだろう」		22日(土)	映画鑑賞会「ガス燈」
	13日(日)	亀倉雄策賞の作家たちワークショップ 「わたしの名刺をつくってみよう」		23日(日)	象徴派展コンサート「ピアノで聴く象徴派」
	19日(土)	映画鑑賞会「十二人の写真家」 亀倉雄策賞の作家たちワークショップ「ロゴ★ロゴ ミュージアム」		26日(水)	巡回ミュージアム 佐渡中央文化会館にて開会
	20日(日)	発見！びじゅつかん 「なにかいる！野外彫刻たんけん隊」		29日(土)	美術鑑賞講座「フランス世紀末芸術への招待」
	26日(土)	美術鑑賞講座「書の雑学」		30日(日)	象徴派展講演会「ロマン主義から象徴主義へ」
6月	27日(日)	びじゅつ☆体験隊「ころころ石ころアート」	11月	1日(月)	コレクション展第3期 展示替え
	28日(月)	コレクション展第1期 展示替え		6日(土)	美術鑑賞講座「文学と美術」
	2日(土)	美術鑑賞講座「終戦と日本画—『日本画滅亡論』に画家たちはどう向き合ったか」		8日(月)	象徴派展ワークショップ「世紀末パリの幻想 影絵の世界」
	3日(日)	企画展「時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち」閉会 発見！びじゅつかん「びじゅつかんの舞台裏探検」		11日(木)	巡回ミュージアム 閉会
	13日(水)	共催展「新潟県美術展覧会 長岡展」開会		13日(土)	映画鑑賞会「ジェーン・エア」
	17日(日)	発見！びじゅつかん「クイズでまわろう美術館」		18日(木)	共催展「第14回亀倉雄策賞受賞者谷克彦グラフィックデザイン展+JAGDA新人賞2012」開会
	19日(火)	共催展「新潟県美術展覧会 長岡展」閉会	12月	21日(日)	企画展「象徴派—夢幻美の使徒たち」閉会
7月	24日(日)	コレクション展第1期 閉会		28日(日)	コレクション展第3期 閉会 共催展「第14回亀倉雄策賞受賞者谷克彦グラフィックデザイン展+JAGDA新人賞2012」閉会
	25日(月)～ 27日(水)	展示替えのため休館		29日(月)～ 31日(水)	展示替えのため休館
	28日(木)	コレクション展第2期 開会		1日(木)	コレクション展第4期 開会
	1日(日)	びじゅつ☆体験隊「にじみのもようどうちわを作ろう」		2日(金)	企画展「GUN—新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃」開場式
	2日(月)	企画展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」開場式		3日(土)	企画展「GUN—新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃」開会
	3日(火)	企画展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」開会		4日(日)	GUN展アーティストトーク 前山忠氏
	10日(火)	友の会作品展 ギャラリーにて開会		10日(土)	映画鑑賞会「アキレスと亀」
8月	16日(月)	友の会作品展 閉会		11日(日)	びじゅつ☆体験隊「張り子のオブジェ」
	23日(月)	コレクション展第2期 展示替え		18日(日)	GUN展アーティストトーク 堀川紀夫氏 びじゅつ☆体験隊「ミニ掛け軸を作ろう」
	5日(日)	企画展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」閉会	1月	8日(土)	GUN展記念シンポジウム「地方と前衛」
	14日(火)	企画展「水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト」開会		15日(土)	美術鑑賞講座「新潟現代美術家集団GUNとその時代」
	17日(金)	こどもアートミュージアム 開会		17日(月)	コレクション展第4期 展示替え
	18日(土)	水の記憶関連イベント「吉原悠博トークイベント」		22日(土)	美術鑑賞講座「雪をめぐる 雪を描く」
	19日(日)	びじゅつ☆体験隊「まわれペットボトル風見鶏」		28日(金)～ 31日(月)	年末の休館
	20日(月)	博物館実習初日	2月	1日(火)～ 3日(木)	年始の休館
	23日(木)	こどもアートミュージアム 閉会		14日(月)	企画展「GUN—新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃」閉会
	25日(土)	美術鑑賞講座「現代美術 映像作品の誕生」		24日(木)	共催展「新潟県ジュニア展 長岡展」開会
	31日(金)	博物館実習最終日		3日(日)	コレクション展第4期 閉会 共催展「新潟県ジュニア展 長岡展」閉会
9月	2日(日)	企画展「水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト」閉会 コレクション展第2期 閉会		4日(月)～ 3/11日(月)	館内設備点検のため休館
	3日(月)～ 5日(水)	展示替えのため休館		12日(火)	コレクション展第5期 開会
	6日(木)	コレクション展第3期 開会		15日(金)	企画展「東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華」開場式
	7日(金)	企画展「象徴派—夢幻美の使徒たち」開場式		16日(土)	企画展「東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華」開会 共催展「こどもものづくり大学校作品展覧会」開会
	8日(土)	企画展「象徴派—夢幻美の使徒たち」開会 映画鑑賞会「ルートヴィヒ ～神々の黄昏」		24日(日)	共催展「こどもものづくり大学校作品展覧会」閉会
	15日(土)	映画鑑賞会「ルートヴィヒ ～神々の黄昏」	3月		
	22日(土)	映画鑑賞会「ガス燈」			
	23日(日)	象徴派展コンサート「ピアノで聴く象徴派」			
	26日(水)	巡回ミュージアム 佐渡中央文化会館にて開会			
	29日(土)	美術鑑賞講座「フランス世紀末芸術への招待」			
	30日(日)	象徴派展講演会「ロマン主義から象徴主義へ」			

平成24年度の流れ（新潟県立万代島美術館）

4月	15日(日) 所蔵品展「異国憧憬～あこがれの風景～」閉会 16日(月)～27日(金) 展示替えによる休館 27日(金) 企画展「メアリー・ブレア原画展」開場式 28日(土) 「メアリー・ブレア原画展」開会 メアリー・ブレア原画展関連イベント 「かわいい！たのしい！モール手芸教室」
5月	5日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「かわいい！たのしい！モール手芸教室」 12日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント「みんなあつまれ！メアリー・ブレアのえほんのじかん」 19日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「かわいい！たのしい！モール手芸教室」 26日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「みんなワクワク！魔法のうたごえ」
6月	2日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント「みんなあつまれ！メアリー・ブレアのえほんのじかん」 3日(日) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「東村アキコ×三好寛 ギャラリートーク+サイン会」 10日(日) 美術鑑賞講座「メアリー・ブレア 魔法の色彩」 16日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「かわいい！たのしい！モール手芸教室」 23日(土) メアリー・ブレア原画展関連イベント「みんなあつまれ！メアリー・ブレアのえほんのじかん」
7月	1日(日) メアリー・ブレア原画展関連イベント 「かわいい！たのしい！モール手芸教室」 8日(日) 企画展「メアリー・ブレア原画展」閉会 9日(月)～29日(日) 展示替えによる休館 30日(月) 企画展「シャガール展2012—愛の物語—」 開場式・開会
8月	1日(水) 博物館実習初日 5日(日) 美術鑑賞講座「シャガールとロシア」 9日(水) 博物館実習最終日 19日(日) シャガール展関連イベント 「ミュージアム・コンサート」 26日(日) 美術鑑賞講座「シャガールとエコール・ド・パリ」

9月	15日(土) シャガール展コンサート「シャンソン・コンサート シャガール展開催記念 渋谷文太郎愛を歌う」 16日(日) 万代島美術館来館者100万人達成記念セレモニー 23日(日) 企画展「シャガール展2012—愛の物語—」閉会 24日(月)～30日(日) 展示替えのため休館
10月	1日(月)～5日(金) 展示替えのため休館 6日(土) 企画展「ジバング展」開会 ジバング展関連イベント「三瀬末雄ギャラリートーク」 13日(土) ジバング展関連イベント 「三瀬夏之介ギャラリートーク」 20日(土) ジバング展関連イベント「教えて！現代アート」 27日(土) ジバング展イベント「鴻池朋子ギャラリートーク」
11月	3日(土) ジバング展関連イベント「O JUNギャラリートーク」 10日(土) ジバング展関連イベント「教えて！現代アート」 17日(土) ジバング展関連イベント「青山悟ギャラリートーク」 18日(日) ジバング展関連イベント「山口晃トーク」
12月	1日(土) ジバング展関連イベント「会田誠ギャラリートーク」 2日(日) 企画展「ジバング展」閉会 3日(月)～17日(月) 展示替えのため休館 17日(月) 企画展「巨匠たちの英国水彩画展」開場式 18日(火) 企画展「巨匠たちの英国水彩画展」開会 28日(金)～31日(月) 年末の休館
1月	1日(火)～3日(水) 年始の休館 20日(日) 英国水彩画展ミュージアム・コンサート「19世紀英国の音楽—絵とともに味わう、ダンスと歌のメロディ」 27日(日) 美術鑑賞講座「ターナーと風景画の歴史」
2月	17日(日) 美術鑑賞講座「幻視の画家 ブレイクとマーティン」
3月	10日(日) 企画展「巨匠たちの英国水彩画展」閉会 11日(月)～19日(火) 展示替えのため休館 20日(水) 所蔵品展「ひとの姿／人のかたち」開会

事業報告



常設展(コレクション展)

【趣 旨】

当館の所蔵品による展示。所蔵品による展覧会であることが多くの人に伝わるよう、本年度から対外的には「コレクション展」と呼ぶことにした。

本年度は、各企画展の開催に合わせ、デザインや中国絵画、象徴主義に関連するものなどを所蔵品から選び展示し、来館者の興味を広げる工夫を凝らした。また、各期に当館の名品を展示する室を設け、名品を目当てに来館する遠来の来館者にも応えた。

【観覧料】

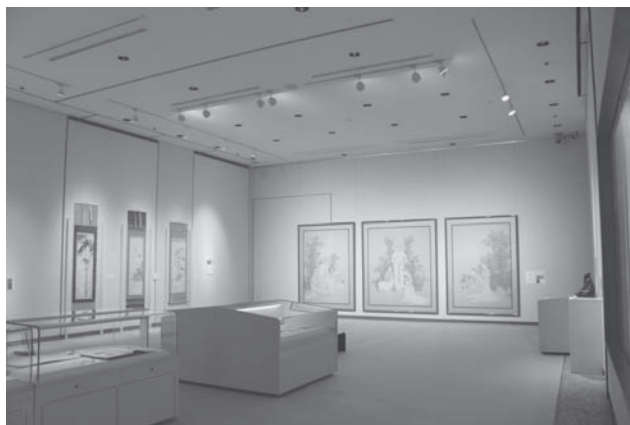
一般……………420円（340円）

大学・高校生……………200円（160円）

中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※同時期の企画展観覧券で観覧可



第1期 2012年4月26日(木)～6月24日(日) (53日間)

前期：4月26日(木)～5月27日(日)

後期：5月29日(火)～6月24日(日)

展示室1 つながる

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 亀倉雄策展

つながる

【趣 旨】

東日本大震災後、人のつながり・絆が見直されている中で、絵画・彫刻・写真など当館所蔵品の様々な美術表現を通して、人のつながりについて考えを巡らせてもらう趣旨で開催した。家族、恋人、友人、偶然出会った人々など、作者と何らかの関係をもった人物を描いた作品、また描かれた人物同士の関係性をテーマとする作品から構成した。出品作家はすべて物故であるが、そこに描かれた人物との関係性が美術作品の形で残されていることや、作者や像主と鑑賞者との間にも、鑑賞を通して新たなつながりが生まれることに気づいてもらうようにした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・昨年度、市内の図書館で出前講座を実施した際、参加者から牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》を見てみたいという声があり、本展でそのニーズに応えることができた。
- ・新収蔵の國領経郎《女医さん》を、作品にふさわしいテーマの中で初公開することができた。
- ・新聞寄稿・チラシ配布など、展覧会広報を積極的に行うことができた。

●検討課題

- ・震災後1年が経過しての開催となったが、他館ではもっと迅速に震災に関連した緊急企画を打ち出した例もあり、今後も時代や社会に即した展示を考えてゆきたい。
- ・同時開催の企画展や他のコレクション展とよく調整したうえ広報を展開していくことが必要。

【関連記事】

●新聞

5月16日(水) 新潟日報

「あーとびっくす」／長嶋圭哉

その他 新潟日報 (5/18(金))

担当 長嶋圭哉

亀倉雄策展

【趣 旨】

亀倉雄策は、1915(大正4)年に新潟県西蒲原郡吉田町(現・燕市)で生まれた。亀倉雄策といえば、東京オリンピックのポスター(1961～1964年)、《ヒロシマアピールズ1983》(1983年)、《EXPO'70》(1967年)等の代表作があるが、彼の制作歴は1934(昭和9)年から亡くなる1997(平成9)年まで60年余に及び、その作品数も膨大である。

当館には、亀倉雄策の実兄である亀倉英治氏より寄贈された亀倉雄策関連資料がある。この亀倉雄策関連資料は現在も整理作業が進行中であるが、今回の展覧会では、この資料の中から東京オリンピックのポスター以前の作品を中心に展示し、今まであまり知られてこなかった亀倉雄策の初期の業績を振り返ってみようとした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館で初めて展示するものが多かった。
- ・今回の展示を契機として、亀倉雄策関連資料の中で、ポスター、カレンダーの全作品を今年度中に資料としてデータベース登録できた。

●検討課題

- ・展示したポスター、カレンダーの1点ずつの詳細な解説を加えることができなかった。
- ・亀倉雄策関連資料の全貌をデータベース化及び展示することはまだできていない。

担当 佐藤克己

【出品リスト】

展示室1 つながる		
作家名	作品名	制作年
【全会期】		
國領 經郎	遠い海	1987
安宅 安五郎	姉弟	1931
K.コルヴィッツ	母と二人の子	c1924~37
武石 弘三郎	母	1917
岩川 義雄	山羊	1951
M.ドニ	夕映えの中のマルト	1892
E.バルラッハ	ロシアの恋人たち	1908 (1940鑄造)
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
國領 經郎	女医さん	1947
峰村 リツ子	桜井浜江像	1930
佐藤 哲三	郵便脚夫宮下君	1931
佐藤 哲三	農村託児所	1934
佐藤 哲三	帰路	1954
【前期】		
酒井 三良	籠居雪声	1931
牛腸 茂雄	SELF AND OTHERS (1~30)	1977
【後期】		
横山 操	母子	1958
牛腸 茂雄	SELF AND OTHERS (31~60)	1977

展示室2 近代美術館の名品		
作家名	作品名	制作年
C.コロー	ビブリ	1874-1875
T.ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845
C.トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
A.フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-1860
C-F.ドービニー	オワーズ川 イル＝ド＝ ヴォーの夜明け	1869
G.クールベ	エトルタ海岸 夕日	1869
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
P.セザンヌ	水浴	1875-77 *
J.デュプレ	羊飼いの	c1883
小山 正太郎	仙台の桜	1881
浅井 忠	農人	1890
小泉 成一	小春ノ日和	1888
高村 真夫	春日野	1911
本間 琢斎(初代)	羅漢鈕香炉	1870
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
佐伯 祐三	広告塔	1927
牧野 虎雄	サンルーム	1929
須田 国太郎	水辺の草(杜若)	1947
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
宮 芳平	ドント・オープン	大正中期
安井 曾太郎	読書	1942
矢部 友衛	習作	1920
鳥海 青児	北海道風景	1943
横山 操	秋	1963
工藤 甲人	夜	1963
加山 又造	馬	1957
市橋 敏雄	黄銅ざくろ文花瓶	1982
元永 定正	作品、ピンク・赤・91	1960
山口 長男	段	1968
田中 敦子	作品	1963 *
菅井 汲	ナショナルルートNo.12	1964
M.マリーニ	馬	1953
G.カボグロッシ	表面 308	1959
E.カステラーニ	白の表面 No.40	1966 *
E.スカナヴィーノ	Prezenza Passiva 覚書	1961 *
L.フォンタナ	空間概念 期待	1962
G.ライング	減速 No.1	1964 *
B.ニコルソン	Painting 1946	1946
横山 操	十勝岳	1962

回廊

北村 四海	すみれ	1920
竹田 康宏	Under the leaves	1994

ロビー

チャールズ・ヒンマン	休憩	1965 *
O.ロダン	考える人	1881

*印は寄託作品

展示室3 亀倉雄策展		
作家名	作品名	制作年
亀倉雄策 装幀	夜間飛行	1934
	自由日記	1934
	自由日記	1935
亀倉雄策	生産と家庭 第12号 緩急針	1948
	1948年のニューデザイン 正 シク美シク新シイ東洋ノ置時計	1948
	ミリオンテックス	1953
	ミリオンテックス	1953
	第3回集団フォト展	1953
	第1回 ニッコールクラブ写真展	1953
	ゼネラル カレンダー 7月・8月・9月	1953
	ニコソ	1954
	グロビウスとバウハウス	1954
	ミリオンテックス	1954
	桑沢デザイン研究所	1954
	ニッポン放送 7月15日開局	1954
	第4回日宣美展	1954
	勅使河原蒼風展	1954
	富士フォトコンテスト	1955
	グラフィック'55	1955
	世界・今日の美術展	1956
	世界のトレードマーク	1956
	NIPPON KOGAKU K・K カレンダー 1月・2月	1956
	日本商品展覧会	1956
	地下鉄開通記念	1956
	地下鉄開通記念	1956
	ドイツ新刊書籍展	1957
	タカシマヤ カレンダー 7月・8月	1957
	第3回アジア競技大会	1958
	東京オリンピックシンボルマーク	1961
	東京オリンピック・陸上	1962
	東京オリンピック・水泳	1963
	EXPO'70	1967
	EXPO'70 試作	1967
	EXPO'70 試作	1967
	EXPO'70 試作	1967
	EXPO'70 試作	1967
	ヒロシマアビールズ1983	1983

第2期 2012年6月28日(木)～9月2日(日) (59日間)

前期：6月28日(木)～7月22日(日)

後期：7月24日(火)～9月2日(日)

展示室1 中国絵画と描かれた中国

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 現代美術／入門

中国絵画と描かれた中国

【趣 旨】

2012年は、1972年に日本と中国の国交が正常化されてから40年の節目の年であったことに関連し、企画展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」の開催時期に合わせ、当館が収蔵する中国の絵画や書、また日本美術の作品の中でも中国を題材にした作品を紹介した。

明治以前までの日本では、美術においても常に中国がその手本であり、模範であった。その意味で、鎖国時代に日本人画家に中国絵画を教え広めた江稼圃や中国の文人趙崇弼などの日本美術に影響を与えた中国人作家の作品や、中国に由来する故事や山水等を描いた日本人作家の作品を展示した。その一方、近代以降は、直接中国を訪問し自らの眼で見た風景や人物を描いた作品―梅原龍三郎や横の会の日本画家など、現代にかけての画家の作品を展示。中国にまつわり、様々な方向から作品を選定した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・これまで焦点をあててこなかったテーマを取り上げることにより、展示する機会の少なかった作品を紹介することができた。そのため、既視感のない新鮮な雰囲気での展示室となった。
- ・企画展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」の開催に合わせて企画されたテーマであるが、「中国」というキーワード以外に特につながりはなく、企画展からの誘導がスムーズであったかどうかは疑問であった。

担当 宮下東子

現代美術／入門

【趣 旨】

「現代美術」は、主に1945年以降から現在までの約70年間を示す。そのため、「現代美術」という名称ではひとくくりに出来ないほどの多種多様な作品が作られてきた。結果として「わかりにくい」「難しい」美術の代名詞ともなっている。また美術書籍などを眺めてみても、専門用語が多くわかりにくいことも多い。

本展では①「現代美術」はわからないものである。②「現代美術」はその制作年に多くを負っている。という二つの観点を提示した上で、「現代美術」が身近な存在であること、今生きている我々こそが最も理解し易い美術であることを、作品を通じて理解してもらえるよう展覧会を構成した。また、通常の作品解説だけではなく、キャプションに♥マークと♠マークをつけ、その数によって作品の理解しやすさがわかるようにし、鑑賞者の関心や、現代美術への理解度の違いがあっても、それぞれの立場で現代美術を楽しんでもらえるよう工夫した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・作品解説パネルにはなるべく専門用語の使用を避け、一般的な語句によって理解できるよう心掛けた。
- ・♥マーク、♠マークの使用によって、アンケートなどからも「わかりやすい」「キャプションに親しみがもてる」などの意見が多く、鑑賞者からより親しんでもらえたと思われる。

●検討課題

- ・現代美術の流れを把握するには作品数が少なかったと思われる。

担当 藤田裕彦

【出品リスト】

展示室 1 中国絵画と描かれた中国		
作家名	作品名	制作年
【全会期】		
喬 十光	江南の水郷	1988年
江 稼圃	漢詩（竹図）	不詳
趙 崇弼	漢詩	不詳
尾竹 国観	瓢箪から駒	昭和初期
橋本 関雪	梅溪漁舟図	1941
晏 少翔	秋牧図	1994
巻 菱湖	漢文 三国志抄	不詳
江川 蒼竹	漢武帝詩「秋風辞」	1977
堺 時雄	レクイエム	1921
堺 時雄	大連郊外	1921
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
富樫 寅平	農家	1943
長崎 真人	炳靈寺石窟 天馬—甘肅省博物館	1980
長崎 真人	石碑—甘肅省博物館	1980
岩田 正巳	花と漢拓下絵	1976
堀 泰明	雲南讃歌	1988
八田 哲	夏のカシュガル	1988
村田 茂樹	同里の町よりⅡ	1984
【前期】		
藍沢 南城	山水自画賛	不詳
【後期】		
五十嵐 俊明	中国武将図屏風	不詳

展示室 2 近代美術館の名品		
作家名	作品名	制作年
C.コロー	ビブリ	1874-75
T.ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845
C.トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
A.フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-60
C-F.ドービニー	オワーズ川 イル＝ド＝ヴォーの夜明け	1869
G.クールベ	エトルタ海岸 夕日	1869
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
P.セザンヌ	水浴	1875-77 *
J.デュプレ	羊飼いの	c 1883
小山 正太郎	仙台の桜	1881
浅井 忠	農人	1890
小泉 成一	小春ノ日和	1888
高村 真夫	春日野	1911
本間 琢斎（初代）	羅漢鈕香炉	1870
O.ロダン	考える人	1880
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
佐伯 祐三	広告塔	1927
牧野 虎雄	サンルーム	1929
須田 国太郎	水辺の草（杜若）	1947
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
北川 民次	大地	1939
安井 曾太郎	読書	1942
矢部 友衛	習作	1920
鳥海 青児	北海道風景	1943
横山 操	秋	1963
工藤 甲人	夜	1963
加山 又造	馬	1957
市橋 敏雄	黄銅ざくろ文花瓶	1982
元永 定正	作品	1965
山口 長男	段	1968
田中 敦子	作品	1963 *
菅井 汲	ナショナルルートNo.12	1964
M.マリーニ	馬	1953
G.カボグロッシ	表面 308	1959
E.カステラーニ	白の表面 No.40	1966 *
E.スカナヴィーノ	Prezenza Passiva 覚書	1961 *
L.フォンタナ	空間概念 期待	1962

回廊		
北村 四海	すみれ	1920
竹田 康宏	Under the leaves	1994
* 印は寄託作品		

現代美術／入門

展示室 2		
作家名	作品名	制作年
高松次郎	椅子にかけた男の影	1965
白髪一雄	志賀#107	1965
李禹煥	コレスボンダンス	1993

展示室 3		
斎藤義重	作品(Blue)	1961
斎藤義重	無題	1961
A.ウォーホル	花	1970
K.ヘリング	花Ⅳ	1990
熊井恭子	DRAPE・G	1989
G.アルヴィアーニ	揺らぐ肌理のある表面	1966 *
川崎ヒロ子	MORE 01-02	1999
川崎ヒロ子	MORE-99-N-II	1999
長沢明	Melodical Note	1995
長沢明	BOOKBOARD-Blue	1999
木下晋	101年の胎動	2001
白木ゆり	Sonic(B)	1998
G.リヒター	無題	1967/1968 *
河原温	JAN.1.1975	1975
萩原朔美	ONE(3点組)	1976 *
伊藤隆康	負の球	1967 *

ロビー		
D.ウッドハム	Y	1965 *
舘嘯	日本	1966 *
* 印は寄託作品		

第3期 2012年9月6日(木)～10月28日(日) (46日間)

前期：9月6日(木)～9月30日(日)

後期：10月2日(火)～10月28日(日)

展示室1 近代美術館の名品

展示室2 戦争が終わって・昭和

展示室3 カプリーチョス―象徴主義の源流

戦争が終わって・昭和

【趣 旨】

1945年の敗戦により廃墟となった日本は、その後劇的な復興を遂げ、20年足らずで経済大国への道を歩むまでになった。戦争が残した過酷な現実と価値観の転換の中で、美術家たちは、生きること・描くことの意味を模索しながら創造を続け、日本美術界に新しい生命を吹き込んだ。創造的エネルギーに溢れたこの20年間の歩みを、「第1章 敗戦の爪あと」「第2章 都市の復興と発展」「第3章 新潟の風土を見つめて」「第4章 躍動する戦後美術」という構成で迎えることとした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館の所蔵作品を通して、①戦争が残した深い傷あと、②焦土からの復興、③農村の生活と風土、④美術の新しい可能性という4テーマに迫った。展示全体の流れを通して、戦後20年間の「創造の息吹」を来館者に味わってもらうことができた。
- ・来館者アンケートには、「興味深い」「すっきりと端的な解説で、心によく入る」との記載があった。来館者目線で、大切な内容を「平易な言葉で端的に伝える」ことを継続する。

●検討課題

- ・「戦争が終わって」という深いテーマは、1回で終わることなく、継続的に探究していく内容である。テーマや展示を連続させる必要がある。
- ・「戦後、復興、風土」について、あらゆる機会を通して継続的に考え、話題にしていきたい。

担当 佐藤久美子

カプリーチョス ―象徴主義の源流

【趣 旨】

「象徴派―夢幻美の使徒たち」の開催に合わせて、当館所蔵のゴヤ《カプリーチョス》を中心に特集展示を行った。「女」「滑稽」「闇」「幻」「異形」「飛翔」というキーワードを立てて作品の象徴性が際立つよう試みた。また、19世紀末において象徴派のバイブルとされたユイスマンスの小説『さかしま』を手がかりとして、文中で言及された芸術家たち（デューラー、バルバリ、カロ）についても作品を紹介し、幾筋もの流れから成る象徴派の系譜を示すことを試みた。

【総 括】

●評価すべき点

- ・「象徴派」展は19世紀後半という時代を横断するコンセプトだったが、コレクション展では象徴派の源流を遡るものを紹介することによってこの芸術運動の系譜的な側面を示し、補完することができた。
- ・一見何のつながりももたなかったいくつかの所蔵品に「象徴派」という光を当てることで、相互の有機的な結びつきが浮かび上がり、今後の活用のヒントが得られた。

●検討課題

- ・担当者が同時期の企画展の担当も兼ねていたため、準備期間が重なり、作品解説などは最小限の情報量にとどめざるを得なかった。相乗効果を十分に得るためには担当の兼任は避けるべきだと実感した。
- ・企画展示室から最も遠い位置にある場所で企画とリンクさせた内容をとりあげ、結果的にどの程度まで鑑賞者に意図が伝わったか判然としなかった。途中の導線を明快にするなどの工夫が必要だった。

担当 平石昌子

【出品リスト】

展示室1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
麻田 鷹司	那智	1960
加山 又造	月と駱駝	1957
横山 操	炎炎桜島	1956
横山 操	朔原	1959
青木 繁	妙義山	1902
坂本 繁二郎	牛	1915
安宅 安五郎	群蝶	1926
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928
吉原 治良	静物	1929
脇田 和	花・鳥・人	1959
C.コロー	ビブリ	1874-1875
J.デュブレ	羊飼いの	不詳
C.モネ	コロンブの平原、霜	1873
G.ルオー	晩秋 No.3	1948-52
千野 茂	裸婦	1957
亀倉 康之	白い馬	1997 *
長谷部 権次郎	河岸の家	2002 *

【前期】

橋本 龍美	風之唄	1981
竹内 栖鳳	秋陽	1926
菱田 春草	放鶴	1904
小林 古徑	雨	1917
橋本 雅邦	秋景山水図	1892

【後期】

山本 丘人	湖上嶺	1951
佐々木 象堂	蠟型鍍銅獣装耳小花入	1959
土田 麦僊	山茶花	1933
中村 岳陵	嵐山朝陽・東山夕照	1926
川合 玉堂	溪山晚秋	不詳

ロビー

亀倉 浦舟	磨崖	1973
O.ロダン	考える人	1881

回廊

津田 信夫	丹山彩鳳	1934
竹田 康宏	Under the leaves	1994

※ *印は追悼展示

展示室2 戦争が終わって・昭和

作家名	作品名	制作年
第1章 敗戦の爪あと		
渡辺 義雄	「戦中・戦後の東京」	1945
	豊島区雑司谷町1945年	
	文京区竹早町1945年5月	
	文京区竹早町1945年5月	
	浅草、震災記念堂をのぞむ	1945年9月
	国会議事堂1945年9月	
	焼けた銀座通り、手前は三越奥は松屋1945年9月	
藤田 嗣治	私の夢	1947
阿部 展也	太郎	1949
阿部 展也	子供	1950
阿部 展也	埋葬	1952
三芳 悌吉	歯車の廃墟	1950
横山 操	カザフスタンの女	1951

第2章 都市の復興と発展

小野 末	夏の街（街景）	1949
小野 末	街角	1950
小野 末	風景	1951
三芳 悌吉	踏切	1951
亀倉 雄策	地下鉄開通記念	1956
亀倉 雄策	東京オリンピック 陸上	1962
亀倉 雄策	東京オリンピック公式ポスター	1964
亀倉 雄策	EXPO.70日本の祭り	1967
亀倉 雄策	札幌オリンピックフィギュアスケート	1969
亀倉 雄策	札幌オリンピックジャンプ	1969
赤穴 宏	日本橋の赤レンガ	1980年代中期
三輪 晃勢	街	1951
横山 操	高速四号線	1964

第3章 新潟の風土を見つめて

佐藤 哲三	残雪	1952
佐藤 哲三	風景	1953
佐藤 哲三	帰路	1954
濱谷 浩	ホンヤラ洞にゆく子供たち	1956
濱谷 浩	雁木	1956
濱谷 浩	雁木下をゆく醫女	1956
矢部 友衛	泉 農民百態39 蒲原で	1951
早津 剛	小出の家（中魚沼郡中里村小出にて）	1979
鳥越 憂	雪の季節	1972
小島 丹津	待つ	1965
栢森 義	織女の家路	1971

第4章 躍動する戦後美術

斎藤 義重	作品1	1957
山口 薫	林と動物	1958
村井 正誠	ものうり	1958
渡 曜	素描	1956
岡本 太郎	顔	1965
白髪 一雄	志賀#107	1973
田刈 安一	輪舞	1961
上野 省策	いすこえ	1975

展示室3 カブリーチョス—象徴主義の源流

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
J.d.バルバリ	ヴェネツィア鳥獸図（複製版・1962年刊）	1500
【前期】		
F.d.ゴヤ	カブリーチョス	1788
	1 フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	
	2 娘たちはハイと承諾して最初に来た男と結婚する	
	5 似たもの同志	
	6 誰もお互いが分からない	
	7 こうしても彼女が分からない	
	9 タンタロス	
	10 愛と死	
	14 何たる犠牲か	
	15 けっこうな忠告	
	16 神よお赦し下さい、それが母だったとは	
	37 弟子の方が物知りなのだろうか	
	38 ブラボー	
	39 祖父の代まで	
	3 ほら、お化けが来るよ	
	8 彼女はつれ去られた	
	43 理性の眠りは怪物を生む	
	59 これでもまだ立ち去らぬ	
	48 吉げ口屋	
	45 たった吸わなきや	
	46 訓戒	
	47 師匠への贈り物	
	49 小悪魔たち	
	51 おめかしごっこ	
	52 仕立屋のなせる業	
	60 修業	
	61 彼女は飛び去った	
	64 よいご旅行を	
J.カロ	聖アントニウスの誘惑（第2版）	1635

【後期】

作家名	作品名	制作年
F.d.ゴヤ	カブリーチョス	1788
	17 びったりよ	
	19 みんなひっかかるだろう	
	20 むしりとられて追い出される	
	26 彼女たちはもう席を得た	
	27 どちらの方が首ったけ	
	28 しいっ	
	31 彼女のために祈ってる	
	35 彼女は男の髭をそる	
	73 怠けている方がまだ	
	40 何の病気で死ぬのだろう	
	41 どっちもどっち	
	42 おまえも苦労だろうけど	
	36 ひどい夜	
	32 感じ易かったがために	
	34 睡魔が彼女たちを圧倒する	
	62 一体誰が信じるだろうか	
	12 歯を盗む	
	56 浮き沈み	
	63 何と勿体ぶった奴らだ	
	70 敬虔な誓い	
	71 夜が明けたらでかけよう	
	75 われわれを解き放してくれる者はいないのか	
	65 ママ、どこへいくの	
	66 さあ、あちらへ行くよ	
	68 すてきな先生	
	72 お前は逃げられまい	
A.デューラー	《黙示録》 第9図 太陽の女性と7頭の竜	1498
	《黙示録》 第13図 バビロンの娼婦	1498
E.ドラートル	ユイスマンズの肖像	1894

第4期 2012年11月1日(木)～2013年2月3日(日) (76日間)

前期：11月1日(木)～12月16日(日)

後期：12月18日(火)～2月3日(日)

展示室1 近代美術館の名品

展示室2 雪景

展示室3 茶室の風景

雪景

【趣 旨】

四季豊かな日本において、冬の雪の見せるさまざまな姿は、古くより美術作品のモチーフとされてきた。静かに降り積もる粉雪、雪を冠した山々の風景、すべてを覆い尽くす白の世界、そして春を待ちわびる残雪——雪景の風情は多くの作家の心をとらえ、そして豊かなイメージを生み出してきた。県人作家をはじめ、様々な作家たちの雪景を展望し、あらためて雪景の魅力を探る。

【総 括】

●評価すべき点

- ・新潟の様々な文化を生み出してきた「雪」をテーマに、多様なジャンルの作品を紹介することができた。
- ・会期中、『北越雪譜』の結晶図を用いた紋切り体験コーナー「雪花もようをつくろう」を設置した。さらに、レストランのメニューに雪の干菓子を添えた抹茶セットを加えてもらうなど、展示だけにとどまらず、幅広い雪の文化に親しむ場を提供できた。
- ・社団法人日本雪氷学会北越支部のイベント会場で、コレクション展のチラシを配布してもらうなど、新たな協力体制を築くことができた。

●検討課題

- ・依然コレクション展へ足を運ぶ来場者は少ない。コレクション作品の魅力をどのように発信すべきか、引き続き考えたい。

担当 伊澤朋美

茶室の風景

【趣 旨】

工芸家には茶道を嗜んだ作家も少なくない。所蔵品の中からそれらの茶道具・器類を中心に展示するとともに、渡邊義雄による茶室の建築写真を加え、しつらいを意識しながら構成し、茶道の美意識に触れる展示を試みる。

【総 括】

●評価すべき点

- ・個々の作品にとどまらず箱書の展示や二畳の畳の間を設けたり、茶道そのものにまつわる解説を強化したりするなど「茶の湯」の理解を深めるよう心がけた。
- ・これまで紹介の機会が限られていた館内庭園プランに関するパネル紹介を行った。
- ・茶道関係者へ簡易チラシを送付し、冬場ながら興味ある層に対する集客を行った。
- ・展示室1の「雪景」展と合わせて、会期中レストランで抹茶セットを出してもらうなど(左記「雪景」の総括を参照)、同時期のテーマ展との連携をとることができた。

●検討課題

- ・館内日本庭園の公開、さらには茶会など工夫の余地を残した。
- ・一部損傷のある陶磁器作品について今回はそのまま展示を行ったが、早めの修復措置が望まれる。

担当 荒井直美

【出品リスト】

展示室 1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
横山 操	林	1968
麻田 鷹司	東尋坊	1962
白倉 嘉入	比叡山	1962
岩田 正巳	夢	1982
三輪 晃勢	満	1964
青木 繁	妙義山	1902
坂本 繁二郎	牛	1915
安宅 安五郎	群蝶	1926
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928
吉原 治良	静物	1929
脇田 和	花・鳥・人	1959
C.コロー	ビブリー	1874-1875
J.デュプレ	羊飼いの	不詳
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
G.ルオー	晩秋 No.3	1948-52
千野 茂	裸婦	1957
長谷部 権次郎	河岸の家	2002
亀倉 康之	白い馬	1997

【前期】

中島 萬木	長岡悠久山の松林	1971
椿 椿山	梅竹凍雀図	1853
横山 大観	朝暉	1954
郷倉 千鶴	豊饒群雀	1928

【後期】

會津 八一	対句	1953
小林 古径	文珠	1931
前田 青邨	被物	不詳
尾竹 竹坡	梧桐	1911

ロビー

亀倉 浦舟	磨崖	1973
O.ロダン	考える人	1881

回廊

津田 信夫	丹山彩鳳	1934
竹田 康宏	Under the leaves	1994

※ *印は追悼展示

展示室 2 雪景

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
小島 丹澤	河口暮色	1956
麻田 鷹司	雪景色	1965
長崎 真人	雪の山村	1969
萬 鉄五郎	雪の景（土沢）	1915
相馬 其一	雪景色	1934
早津 剛	倉俣の家（中魚沼郡中里村倉俣にて）	1981
鳥越 優	雪の季節	1972
長崎 真人	雪の山麓	1968
加山 又造	烈風	不詳
麻田 鷹司	雪原	1962
山崎 隆夫	新雪	1980
横山 操	雪峽	1963
川合 清	白粧	1983
伊藤 豊	陶板画・雪山松籟	1973
富岡 惣一郎	富士雪景	不詳
富岡 惣一郎	作品	1962
富岡 惣一郎	雪国	1971
富岡 惣一郎	雪国	1971
富岡 惣一郎	雪原	1971
富岡 惣一郎	雪国シリーズ 北海道雷電海岸	1974
富岡 惣一郎	北の海 流水	1985
三芳 悌吉	雪景の中の静物（戦場ヶ原）	1971
岩下 尊弘	地吹雪-1	1997
岩下 尊弘	地吹雪-2	1997
岩下 尊弘	地吹雪-3	1997
原 雅幸	霧と残雪	1985
齋藤 三郎	色絵椿文面取壺	1975
番場 春雄	残雪の椿園	1972
村山 径	残雪の高原	1958
中山 爾郎	凍る影	1988
佐藤 哲三	残雪	1952

【前期】

歌川 広重	東海道五十三次 蒲原・夜之雪	1833
濱谷 浩	『裏日本』より 吹雪	1955
濱谷 浩	『裏日本』より 寒念仏の講仲間	1955
濱谷 浩	『裏日本』より 道を阻む断崖	1955
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1985	1985
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1986-I	1986
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1985	1985
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1988	1988
岡田 紅陽	秀峰 三ッ峠	1965
岡田 紅陽	冬の農村（忍野）	1943

【後期】

歌川 広重	東海道五十三次 亀山・雪晴	1833
濱谷 浩	『裏日本』より 雲と波と雪と家	1955
濱谷 浩	『裏日本』より 海の家族	1955
濱谷 浩	『裏日本』より 道を阻む断崖	1955
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1985-II	1985
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1986-II	1986
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1985	1985
蕪木 研爾	樹氷〈奥飛騨〉作品1986-I ver.3	1986
岡田 紅陽	陽光 三ッ峠	1965
岡田 紅陽	寒村（忍野）	1954

展示室 3 茶室の風景

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
堀 淨規	兜釜	1970
山本 自炉	錆銅瓶掛	1939
三浦 小平二	青磁豆彩 茶入 中国舞姫文	1987
内田 宗寛	黒塗大棗	1974
内田 宗寛	黒塗中棗	1982
三浦 小平二	紫紅釉茶盃	1983
齋藤 三郎	灰釉碗	不詳
齋藤 三郎	かわくじら茶碗	不詳
齋藤 三郎	文字入鉢	不詳
渡辺 義雄	三溪園春草廬・中柱と調口	1973
渡辺 義雄	高台寺参亭	1943
渡辺 義雄	慈光院書院と南側の庭	1973
渡辺 義雄	向月亭 延段	1973
渡辺 義雄	迎賓館：別館渡り廊の坪庭	1975
渡辺 義雄	迎賓館：別館茶室の蹲い	1975
齋藤 三郎	色絵柚子香盒	不詳
齋藤 三郎	染付梅花文拍子木香盒	不詳
三浦 小平二	鉄絵土瓶・汲出 [D51]	1967
齋藤 三郎	茶焼菓文角切菓子箱	1975
齋藤 三郎	灰釉鉄絵柳文手付鉢	1975
齋藤 三郎	染付椿文扇面皿（大3客・小8客）	1970
齋藤 三郎	色絵付椿文松皮羹向付（5客組）	1965
齋藤 三郎	鉄絵草文輪花皿（6客組）	1955
齋藤 三郎	青白磁緑文花入	1975

【前期】

伊東 深水	浄洗（大下絵）	1943
會津 八一	江山清趣	1950年代
安宅 安五郎	越後風景六捨図 新潟斎藤家別邸庭園	1944

【後期】

竹内 臨川	漢文 四言和氣 一行書	1972
江口 草玄	忘筌	1982
安宅 安五郎	越後風景六捨図 新潟斎藤家別邸中庭	1944
安宅 安五郎	越後風景六捨図 新潟斎藤家別邸中庭	1944

第5期 2013年3月12日(火)～4月7日(日) (24日間)

展示室1 近代美術館の名品
展示室2 いのりの絵画
展示室3 品川工・高橋信一の版画

いのりの絵画

【趣 旨】

人知を超えた存在である神仏への期待、何かを願う気持ちというものは、現代においても通底してあるものである。仏やキリストの姿を捉えた作品から、鎮魂や平和への想いを託した作品まで、様々な「いのりのかたち」を概観する。

【総 括】

- 評価すべき点
 - ・当館コレクションのうち、これまで展示機会があまりなかった作品を紹介することができた。
- 検討課題
 - ・テーマも相まって難解な印象となってしまった。

担当 伊澤朋美

品川工・高橋信一の版画

【趣 旨】

柏崎出身の二人の版画家を紹介し、県出身作家への再認識を図る。

【総 括】

- 評価すべき点
 - ・平成23年度の新収蔵の品川工の初期版画が加わったことで、品川の版画歴を幅を広げて紹介することができた。また、高橋も所蔵品の全点を展示することで作風の変遷の一端を再確認できた。
- 検討課題
 - ・この常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。

担当 松矢国憲

【出品リスト】

展示室1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
三浦 康廣	観白	1986
市橋 敏雄	萌生	1977
下村 観山	菅公幼児	大正中期 *
鍋木 清方	狐火	1943
鍋木 清方	保名	1943
鍋木 清方	炭橋	1943
加山 又造	白い華	1995
岩田 正巳	鏡	1953
三輪 晃久	曉霞	1984
大矢 紀	風渡る	1999
佐藤 哲三	柿を持つ女	1934
牧野 虎雄	T婦人像	1928
田中 道久	メクネスの城塞（モロッコ）	1976
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
岸田 劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916
萬鉄 五郎	木の間風景	1918
佐伯 祐三	広告塔	1927
小山 正太郎	仙台の桜	1881
A.フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-1860
J.デュブレ	羊飼いの	c1883
C.コロー	ビブリ	1874-75
C.F.ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C.モネ	コロンプの平原、霜	1873
M.ドニ	夕映えの中のマルト	1892
細野 稔人	鳥と少女	1976

ロビー

本間 一秋	冬夏青々	1977
-------	------	------

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

* 印は寄託作品

展示室2 いのりの絵画

作家名	作品名	制作年
ほとけへのいのり		
畠中 光享	スジャータ奉粥	1988
畠中 光享	散華Ⅳ	1996
長崎 真人	敦煌石窟 西魏432窟	1979
長崎 真人	敦煌石窟 北魏248窟	1979
桐谷 洗麟	釈尊一代記	1915
	第一巻 誕生	
	第五巻 乳糜供養	
聖なる像		
	イコン：キリストの復活と12の奇蹟	19世紀
	イコン：カザンの聖母	19世紀
	イコン：聖ソフィア	18世紀
	イコン：ハウスクロイツ	19世紀
中山 爾郎	聖像の窓	1976
木津 一夫	未来への遺産Ⅱ	1987
笹岡 了一	ウィリアム物語	1978
河内 文夫	エル・カミーノ	2007
河内 文夫	アストリアスへの旅	1996
聖地巡礼		
宮 芳平	聖地巡礼シリーズ	1966-70
	1 マリアの驚き	
	2 降誕	
	3 逃避	
	4 ベテスタの池	
	5 ニカノルの門	
	6 ユダの椅子	
	7 ニザンの月	
	8 ゴルゴダ	
	9 埋葬	
	10 マグダラのマリアの悲しみ	
	11 エフタとその娘	
	12 サロメ	
	13 ルツとナオミ	
われらの父よ（主のいのり）		
H.M.ベヒシュタイン	われらの父よ（主の祈り）	1921
	扉絵	
	われらの負い目を赦してください	
	御国はあなたのものだからです	
いのりのかたち		
上野 泰郎	もろびと	1975
近藤 直行	発掘された祈りC	1968
近藤 直行	祈り	1988
小林 哲夫	サンサーラ（輪廻転生）	1985
市橋 敏雄	吹分オベリスク 南冥の鎮魂碑	1995
藤田 熊雄	とむらい	1959
亀倉 雄策	恐怖と悲しみ！ガン！	1959
亀倉 雄策	ヒロシマアビールズ	1983 1983

展示室3 品川工・高橋信一の版画

作家名	作品名	制作年
品川 工	飛ぶ鳥	1950
	真昼の夢	1952
	バントマイム1	1952
	バントマイム2	1952
	仮面劇	1953
	噛み合い交差する色面 No.4	1968
	噛み合い交差する色面	1969
	ネガとポジ No.19	1968
	ネガとポジ No.6	1972
	ネガとポジ No.8	1973
	ネガとポジ No.20	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.1A	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.2A	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.3A	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.5B	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.6A	1974
	ネガとポジ(鏡シリーズ) No.7A	1974
	ネガとポジ No.10	1975
	ネガとポジ No.16	1975
高橋 信一 韻響		
	韻響	不詳
	白い道（水面）	不詳
	メインストリート	1960
	眼の中	1960
	白い道（S）	1969
	白い道（T）	1970
	庵の光C	不詳
	白い道（魚紋B）	不詳
	群B	不詳
	ノートルダム	不詳
	史7	不詳
	白い道（History H）	不詳
	白い道（懐古）	不詳

企 画 展



時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち

【趣 旨】

1999年第1回の受賞作より第12回まで、当館が収集してきた歴代の亀倉雄策賞作品を初めて一堂に展示した。それぞれの作家の近作を加えたことで、各作家の個性や受賞後の活躍ぶりや時代とともに変遷するデザインのありようを明らかにした。デザインに特化したワークショップや出品作家による講演会などのイベントを行い、また、企画展示室前のロビーに受賞作家によるパッケージや美術館ロゴのデザインを展示するなど、多角的な紹介に努めた。

【総 括】

●評価すべき点

- ・収蔵したまま紹介機会の少なかった作品をまとめて展示するとともに、図録のかたちで記録することができた。
- ・近接する長岡造形大学の協力を得て、学生証提示による事実上のリピーター割引を実施した。
- ・デザインに特化したワークショップを実施し、また造形大協力の下で講演会を実施した。
- ・パッケージ展示、美術館ロゴ展示により、身近なデザインへの興味を喚起することができた。

●検討課題

- ・造形大学生の観覧が予想より低迷し、観覧者増に結びつかなかった。
- ・若年層への訴求力が不足していた。
- ・デザインの展示においてはクライアントなどの協力が不可欠であるにもかかわらず、JAGDAに一任するかたちとなったため、出品内容や広報について十分に深めることができなかった。

【開催日・その他】

＝2012年4月27日(金)～6月3日(日) (34日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館、社団法人日本グラフィックデザイナー協会、長岡造形大学

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、燕市、新潟県専修学校各種学校協会、新潟日報社、新潟日報美術振興財団、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送、デザイナーズネットワーク長岡、長岡産業デザイン研究会、NCAD新潟デザイン専門学校、JAM日本アニメ・マンガ専門学校

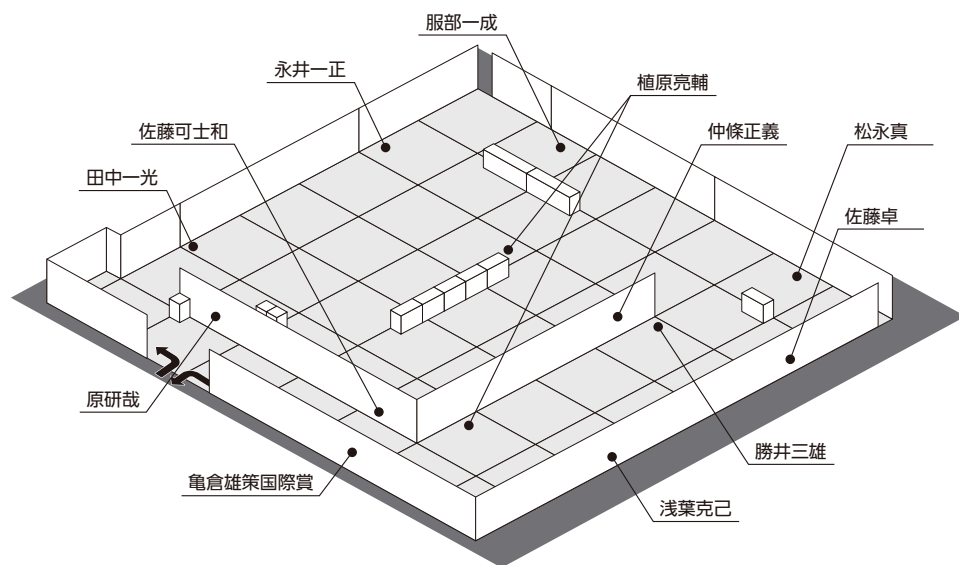
協 力：株式会社山田写真製版所、株式会社竹尾、富山県立近代美術館、クリエイションギャラリーG8、亀倉雄策賞事務局、JAGDA新潟地区

観覧料：一般……………800円 (600円)

大学・高校生……………600円 (400円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・特別講演会

原研哉「日本のデザイン」

6月1日(金) 18:30～

長岡造形大学大講義室

講師：原研哉氏（第3回亀倉雄策賞受賞）

参加者数：300名

・ワークショップ

「わたしの名刺をつくってみよう」

5月13日(日) 14:00～ 講座室

講師：荒井直美（当館主任学芸員）

伊澤朋美（当館美術学芸員）

参加者数：8名

「ロゴ★ロゴ ミュージアム」

5月19日(土) 4:00～講座室

講師：荒井直美（当館主任学芸員）

伊澤朋美（当館美術学芸員）

参加者数：3名

・学芸員による作品解説会

4月29日・5月6日・5月20日・5月27日・

6月3日 14:00～

参加者数：7名／10名／5名／20名／15名

【図録】

仕様：A4判変形

編集：社団法人日本グラフィックデザイナー協会
[JAGDA]

発行：新潟県立近代美術館

内容：はじめに／徳永健一、勝井三雄、永井一正

亀倉雄策賞 亀倉雄策国際賞

受賞作家作品

亀倉雄策賞選考経過

亀倉雄策略歴



【関連記事】

●新聞

5月28日 新潟日報

文化欄「「亀倉雄策賞の作家たち」展
に寄せて」／荒井直美（当館主任学
芸員）

その他 新潟日報（4/27）

読売新聞（4/20、5/18、5/25）

長岡よみうり（5/23）

栃尾タイムス（4/25）

十日町新聞（5/10）

●テレビ

UX（4/28）

●ラジオ

FM PORT（5/11）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,874
	前売	1,254
無料観覧者数	無料	1,078
	免除	360
総観覧者数		4,566
有料率（％）		68.5

担当 荒井直美、藤田裕彦、伊澤朋美



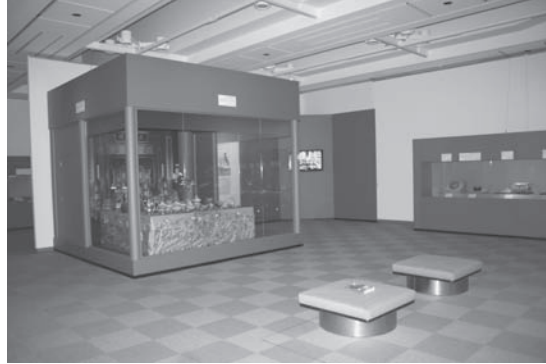
【出品リスト】

No	作家名	作品名	制作年	寸法(縦×横cm)	技法・素材	受賞	所蔵先
1		亀倉雄策賞盾					
受賞作家作品							
2	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ポスター	1998	103.0×145.6	オフセット印刷	第1回亀倉雄策賞	
3	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ポスター	1998	103.0×72.8	オフセット印刷	第1回亀倉雄策賞	
4	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ポスター	1998	145.6×103.0	オフセット印刷	第1回亀倉雄策賞	
5	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ポスター	1998	103.0×72.8	オフセット印刷	第1回亀倉雄策賞	
6	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ポスター	1998	103.0×72.8	オフセット印刷	第1回亀倉雄策賞	
7	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」カタログ	1998	28.5×43.5			
8	田中一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」ウインドウディスプレイ	1998	25.3×30.0			
9	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
10	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
11	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
12	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
13	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
14	永井一正	Life ポスター	1998	103.0×72.8	シルクスクリーン UVクリアーインク	第2回亀倉雄策賞	
15	永井一正	LIFE2010ポスター	2010	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
16	永井一正	LIFE2010ポスター	2010	103.0×72.8			
17	永井一正	LIFE2010ポスター	2010	103.0×72.8			
18	永井一正	LIFE2011ポスター	2011	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
19	永井一正	LIFE2011ポスター	2011	103.0×72.8			
20	永井一正	LIFE2011ポスター	2011	103.0×72.8			
21	原研哉	『紙とデザイン』ブックデザイン	2000	—	オフセット印刷	第3回亀倉雄策賞	
22	原研哉	TAKEO PAPER SHOW 2000 展覧会「紙とデザイン」企画・構成	2000	103.0×72.8			日本デザインセンター
23	原研哉	TAKEO PAPER SHOW 2000 「RE-DESIGN—日常の21世紀」企画・構成	2000	103.0×72.8			日本デザインセンター
24	原研哉	「TOKYO FIBER '09-SENSEWARE」ポスター	2009	145.6×103.0			クリエイションギャラリーG8
25	原研哉	「TOKYO FIBER '09-SENSEWARE」ポスター	2009	145.6×103.0			
26	原研哉	「TOKYO FIBER '09-SENSEWARE」ポスター	2009	145.6×103.0			
27	佐藤可士和	CD「Smap」ポスター	2000-2001	291.0×102.8	オフセット印刷, PP加工	第4回亀倉雄策賞	
28	佐藤可士和	CD「Smap」ポスター	2000-2001	291.0×102.8	オフセット印刷, PP加工	第4回亀倉雄策賞	
29	佐藤可士和	CD「Smap」新聞広告	2000-2001	53.8×40.8	オフセット印刷		
30	佐藤可士和	CD「Smap」新聞広告	2000-2001	53.8×40.8	オフセット印刷		
31	佐藤可士和	ユニクロ 旗艦店<パリ・オペラ店>ポスター	2009	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
32	佐藤可士和	ユニクロ 旗艦店<パリ・オペラ店>ポスター	2009	103.0×72.8			
33	佐藤可士和	ユニクロ 旗艦店<パリ・オペラ店>ポスター	2009	103.0×72.8			
34	佐藤可士和	ユニクロ 旗艦店<パリ・オペラ店>ポスター	2009	103.0×72.8			
35	仲條正義	仲條のフジのヤマイ ポスター 36点組のうち6点	2002	103.0×145.6	印刷 紙	第5回亀倉雄策賞	
36	仲條正義	仲條のフジのヤマイ ポスター 36点組のうち6点	2002	72.8×103.0	印刷 紙	第5回亀倉雄策賞	
37	仲條正義	髑髏 ポスター	2009	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
38	仲條正義	髑髏 ポスター	2009	103.0×72.8			
39	仲條正義	髑髏 ポスター	2009	98.2×69.6			
40	仲條正義	髑髏 ポスター	2009	98.2×69.6			
41	仲條正義	HIROSHIMA APPEALS 2005 ポスター	2005	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
42	仲條正義	秀英体<冬>ポスター	2010	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
43	服部一成	『流行通信』vol.471-494 ブックデザイン	2002-2004	—	印刷, 書籍 紙	第6回亀倉雄策賞	
44	服部一成	『流行通信』Extra issue "GRAPHIC" ブックデザイン	2004	—	印刷, 書籍 紙		
45	服部一成	ロトチェンコ+ステパノフ—ロシア構成主義のまなざし—ポスター	2010	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
46	服部一成	横山裕—ネオ漫画の全記録:「わたしは時間を描いている」ポスター	2010	72.8×51.5			クリエイションギャラリーG8
47	服部一成	金氏徹平—溶け出す都市、空白の森—ポスター	2009	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
48	服部一成	木村友紀—無題—ポスター	2010	72.8×51.5			クリエイションギャラリーG8
49	服部一成	アートみやぎ2011 ポスター	2011	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
50	服部一成	ホンマタカシ—ニュー・ドキュメンタリー—ポスター	2011	72.8×51.5			クリエイションギャラリーG8
51	松永真	ISSIMBOW "Katashi-koh" バッケージデザイン 4種	2006	—		第9回亀倉雄策賞	
52	松永真	ISSIMBOW キービジュアル ポスター	2005	103.0×145.6	オフセット		
53	松永真	ISSIMBOW キービジュアル ポスター	2005	103.0×145.6	オフセット		
54	松永真	ISSIMBOW ロゴ ポスター	2007	103.0×145.6	デジタルプリント		
55	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
56	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
57	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
58	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		

No	作家名	作品名	制作年	寸法(縦×横cm)	技法・素材	受賞	所蔵先
59	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
60	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
61	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
62	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
63	松永真	ISSIMBOW グラフィックアート ポスター	2006	103.0×72.8	デジタルプリント		
64	松永真	ISSIMBOW カレンダー2007	2007	103.0×72.8	オフセット		
65	松永真	Better HOME City ,Better Life ポスター	2010	145.6×103.0			クリエイションギャラリーG8
66	松永真	Think Forward ポスター	2010	145.6×103.0			クリエイションギャラリーG8
67	佐藤卓	21_21 DESIGN SIGHT 第2回企画展「water」ポスター(立ち上がる水)	2007	145.6×103.0	オフセット	第10回亀倉雄策賞	
68	佐藤卓	21_21 DESIGN SIGHT 第2回企画展「water」会場デザイン	2007	72.8×51.5		第10回亀倉雄策賞	クリエイションギャラリーG8
69	佐藤卓	Cleansui ポスター	2011	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
70	佐藤卓	Cleansui ポスター	2011	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
71	佐藤卓	Cleansui ポスター	2011	103.0×72.8			
72	佐藤卓	KINOISHI ポスター	2011	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
73	浅葉克己	ミサワデザイン 2009 パウハウス ポスター 7点組	2009	145.6×103.0	紙・墨書	第12回亀倉雄策賞	
74	浅葉克己	HIROSHIMA APPEALS 2009 ポスター	2009	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
75	浅葉克己	第12回亀倉雄策賞受賞記念「デザイン維新だ。浅葉克己展。」ポスター	2010	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
76	勝井三雄	視覚の地平 visionary ∞ scape ポスター	2005	103.0×72.8	シルクスクリーン	第7回亀倉雄策賞	
77	勝井三雄	視覚の地平 visionary ∞ scape ポスター	2005	103.0×72.8	シルクスクリーン	第7回亀倉雄策賞	
78	勝井三雄	VISIONARY GENE+m ポスター	2006	103.0×72.8	シルクスクリーン		クリエイションギャラリーG8
79	勝井三雄	VISIONARY GENE+m ポスター	2006	103.0×72.8	シルクスクリーン		
80	勝井三雄	VISIONARY GENE+m ポスター	2006	103.0×72.8	シルクスクリーン		
81	勝井三雄	LITHRONE project : the appearance of light ポスター	2008	103.0×72.8			クリエイションギャラリーG8
82	勝井三雄	LITHRONE project : the appearance of light ポスター	2008	103.0×72.8			
83	植原亮輔	「THEATRE PRODUCTS」グラフィックツール	2007		インク、紙	第11回亀倉雄策賞	

亀倉雄策国際賞

84	ブルーノ・モングッ ツィ [スイス]	FRAGILE	1998	128.0×90.7		第1回亀倉雄策国際賞	富山県立近代美術館
85	CCCPグラフィック研 究所 ドクター・ベッ シェ&マドモアゼル・ ローズ [フランス]	オルレアン国立劇場	2002	174.7×118.3		第2回亀倉雄策国際賞	富山県立近代美術館
86	ヴィエスワフ・ロソハ [ポーランド]	殺してはならない	2006	140.0×96.0		第3回亀倉雄策国際賞	富山県立近代美術館
87	ウラジミール・チャイ カ [ロシア]	フリーダ・カーロ+ディエゴ・リベラ=100年の愛	2008	150.0×100.0		第4回亀倉雄策国際賞	富山県立近代美術館



日中国交正常化40周年記念 地上の天宮 北京・故宮博物院展

【趣 旨】

中国明代以降の歴代皇帝のうち、24人の皇帝が居住した北京・故宮博物院（紫禁城）に所蔵されている明・清両王朝ゆかりの絵画、工芸、服飾、宝飾などの名品約200点を通して、中国宮廷文化の精髓を紹介した。

皇妃や宮女など故宮に生きた女性たちの知られざる波瀾万丈の生涯とそのまなざしをテーマに、「地上の天宮・紫禁城」の魅力を伝えようとした。なかでも、儒教思想を背景とした女性の徳と教育をテーマに九つの場面を描いた《女孝経図巻》を海外初公開し、さらに西太后をはじめ皇后や皇妃などが用いた貴重で豪華な食器セットの一部再現も試みた。

【総 括】

●評価すべき点

- ・多数の来館者のある展覧会と位置づけており、それへの対応を想定して、監視、交通・駐車場整理、誘導・案内等の体制作り、設備・用具を展覧会前に準備したことで、来館者が多くても誘導・案内で支障は来さなかったことは、評価されるべき点であったと考える。

●検討課題

- ・当日券利用者より前売券利用者が2.5倍以上あり、前売券の増刷や予算の組み立てを遙かに超える販売委託料の支払いとなり、予算執行の変更を余儀なくされた。本展のような組織的動員が期待できる展覧会での予算設定の注意事項が露わになった。

【開催日・その他】

＝2012年7月3日(火)～8月5日(日) (31日間)＝

主 催：故宮博物院展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日報社、BSN新潟放送

後 援：外務省、文化庁、中国文化部、中国大使館、中国駐新潟総領事館、長岡市、長岡市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送株式会社、(財)長岡市芸術文化振興財団、NPO法人新潟県日中友好協会

特別協力：北京・故宮博物院

協 力：NHKエデュケーショナル、ヤマトロジスティクス

企画協力：黄山美術社

企 画：東京富士美術館

観覧料：一般……………1,100円 (900円)

大学・高校生……………900円 (700円)

※中学生以下無料

※() 内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

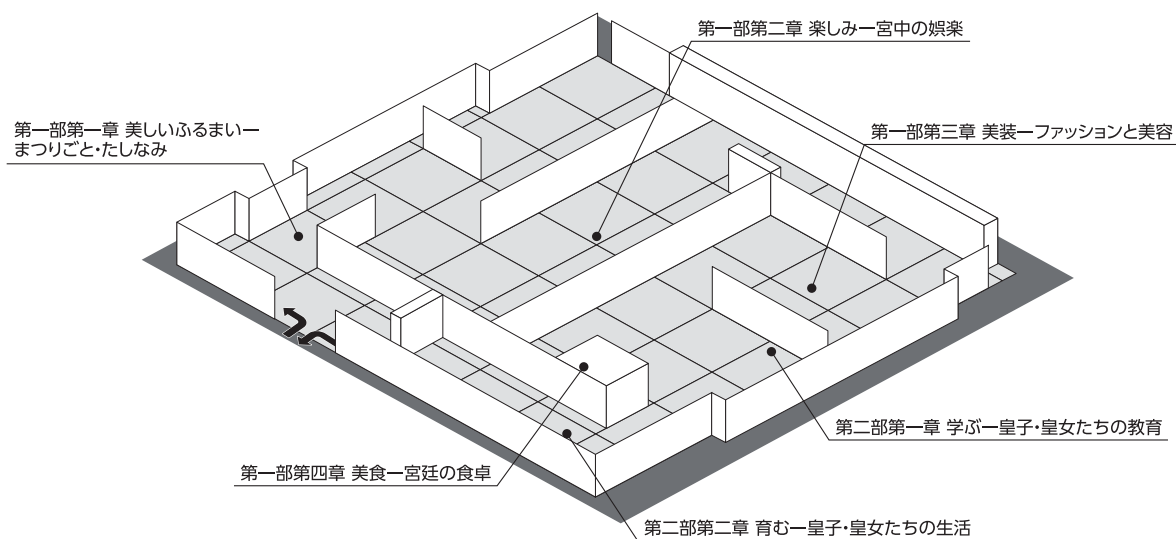
・長岡リリックホール連携事業

姜建華 (二胡) と仲間たち

7月27日(金) 19:00～ 長岡リリックホール

料 金：全席指定2,000円

主 催：リリックホール



【図 録】

仕 様：257×190mm 本文292頁
 編 集：東京富士美術館、平野賢一、鴨木年泰、平谷美華子
 発 行：東京富士美術館
 内 容：ごあいさつ、メッセージ、祝辞
 「地上の天宮 北京・故宮博物院展」開催の経緯について／陳麗華
 封建時代の中国における宮廷の后妃の生活／厳勇
 賢明な后と淑やかな妃／任万平
 多民族国家清朝の遺産／岸本美緒
 地上の天宮に生きた后妃たち／入江曜子
 第一部 故宮の后妃たち
 第二部 故宮の子どもたち
 カタログ
 作品解説
 作品リスト

【関連記事】

●新聞

6月17日 新潟日報別刷り 4面

6月1日 聖教新聞

待望の開催へ 主催団体代表が語る／
 徳永健一（当館館長）、高橋道映（新潟日報社代表取締役社長）、竹石松次（BSN新潟放送代表取締役社長）

その他 新潟日報

（4/17、6/21、6/30、7/3、7/3（夕刊）、7/8、7/21、7/30）

聖教新聞

（6/15、7/4、7/6、7/13、7/30、8/3）

栃尾タイムス（6/5、6/18）

読売新聞（6/29）

十日町新聞（6/5）

五泉市民新聞（6/10）

信濃毎日新聞（7/18、7/21）

〈連載〉

・新潟日報「故宮の名品」（作品紹介／15回）
 6/20～23、6/26～30、7/3～7

・新潟日報（夕刊）「北京世界遺産巡り」（作品紹介／4回）
 7/23、7/24、7/25、7/26

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	17,564
	前売	44,369
無料観覧者数	無料	11,489
	免除	2,020
総観覧者数		75,442
有料率（％）		82.1

担当 松矢国憲、佐藤克己、平石昌子、宮下東子、長嶋圭哉

【出品リスト】

第一部 故宮の後妃たち

第一章 美しいふるまいーまつりごと・たしなみ					
No.	作品名	員数	制作年	技法・材質	寸法
1	金漆彫龍宝座	1	清		高178.0cm、幅96.0cm、奥行155.0cm
2	《孝賢純皇后朝服像》軸	1	清・乾隆年間	絹本、着色	画面：194.8×116.2cm 表装：271.8×130.0cm
3	明黄色紗 繡彩雲金龍文 女夾朝袍	1	清・雍正年間		着丈129.0cm、両袖全長176.0cm、袖口22.0cm、裾幅120.0cm
4	明黄色紗 繡五彩雲蝠金龍文 女夾龍袍	1	清		着丈146.0cm、両袖全長178.0cm、袖口20.5cm、裾幅122.0cm
5	点翠嵌珠貴妃朝冠	1	清		高37.0cm、径27.0cm
6	梁骨鑲石鎖約	1	清		18.0×19.0cm
7	珊瑚朝珠	1	清		全長165.0cm
8	玉「孝莊皇后之宝」	1	清・乾隆年間		全高11.7cm、鈕高6.4cm、印面12.7×12.7cm
9	金龜紐「珍妃之印」	1	清・光緒年間		全高11.5cm、鈕高8.0cm、印面11.0×11.0cm
10	銀鍍金珍妃冊	1	清・光緒21年(1895)		22.2×10.0×0.15cm (各頁)
11	慶寛《光緒帝大婚典礼全図》冊	1	清・光緒年間	絹本、着色	画面：57.0×110.0cm 表装：64.0×114.0cm
12	紅色紬 繡金双喜万字地 五彩雲蝠鶴八団龍鳳文 綿袍	1	清・光緒年間		着丈137.0cm、両袖全長182.0cm、袖口23.5cm、裾幅116.0cm
13	紅色納紗 百蝶金双喜文 单氅衣	1	清・光緒年間		着丈132.5cm、両袖全長116.0cm、袖口33.5cm、裾幅114.0cm、左右裾72.0cm
14	紅呢 繡双喜龍鳳彩雲子孫万代文 炕毯	1	清・光緒年間		330.0×463.0cm
15	珊瑚点翠双喜字耳墜	1	清		4.5×2.2cm (各)
16	金鑲「謹言慎行双喜」戒指	1	清		高1.5cm、径2.0cm
17	青玉合卺杯	1	明		高9.0cm、幅7.5cm、奥行7.0cm、筒口径3.6cm (各)
18	填漆描金双喜方盒	1	清・乾隆年間		高14.7cm、幅24.0cm、奥行38.3cm ◎
19	『内政輯要』	1	清・順治12年(1655)		版型31.9×20.4cm
20	『大明仁孝皇后内訓』	1	明・永楽3年(1405)		版型35.5×21.3cm
21	『御書 妙法蓮華経』	7	清・乾隆14年(1749)		版型21.0×9.5cm
22	《女孝経図》巻 孝治章	1	南宋	絹本、着色	画面：43.8×823.7cm 表装：46.0×833.7cm ◎
23	《乾隆帝及妃威狐獲鹿図》巻	1	清	紙本、着色	画面：37.6×195.5cm 表装：38.6×273.0cm
24	金廷標《婕妤当熊図》軸	1	清	紙本、着色	画面：148.0×74.7cm 表装：300.0×108.0cm
25	七弦琴	1	清		全長121.2cm、額幅17.6cm、肩幅18.2cm、尾幅13.0cm、厚5.2cm
26	白玉・碧玉囲碁子	1	清		碁筒：高6.5cm、口径5.7cm、胴径8.0cm、底径5.3cm (各) 碁石：径1.3~1.5cm (各)、厚0.4cm (各)
27	慈禧《梅花図》軸	1	清	絹本、着色	画面：124.6×61.3cm 表装：214.0×74.0cm
28	端康皇貴妃(瑾妃)《雲中九桃園》軸	1	清	紙本、着色	画面：127.0×56.3cm 表装：239.0×83.0cm
29	紅漆描金夔鳳管紫毫筆	1	明		管長19.8cm、管径1.0cm、帽長9.6cm
30	青玉管紫毫筆	1	清・乾隆年間		管長16.0cm、管径0.9cm、帽長8.2cm
31	青玉臥鶴式硯滴	1	清		全高9.0cm、幅10.0cm
32	松花江石海水龍文長方硯	1	清・康熙年間		高3.2cm、幅12.6cm、奥行18.5cm ◎
33	水晶古琴式鎮紙	1	清		高1.5cm、幅4.0cm、奥行12.4cm
34	四庫文閣詩墨	5	清・乾隆年間		箱：34.1×30.2×4.6cm
	十二辰墨				径7.6cm、厚1.6cm
	御製文淵閣詩墨				4.9×15.6×1.9cm
	御製文津閣詩墨				13.8×6.2×1.9cm
	御製文源閣詩墨				13.0×5.8×1.9cm
	御製文溯閣詩墨				4.9×15.0×1.9cm
35	花寿山石隨形人物松樹「福寿仁恩」方印	1	清・光緒年間		高9.4cm、印面2.8×2.8cm
第二章 楽しみー宮中の娯楽					
36	黄花梨辺座人物玻璃插屏	1	清		高250.0cm、幅140.0cm、奥行80.0cm
37	銅風輪表	1	フランス 19世紀末(清)		高40.0cm、幅35.0cm、奥行20.0cm

No.	作品名	員数	制作年	技法・材質	寸法
38	銅鍍金嵌珙瑯転鴨荷花缸鍾	1	清・乾隆年間		高122.0cm、胴径49.0cm、時計の径17.0cm
39	銅鍍金人拉馬鍾	1	イギリス 18世紀(清)		高143.0cm、幅78.0cm、奥行44.0cm
40	洋人架珠鍾	1	清		高59.0cm、台座14.0×14.0cm
41	輪船式風雨表	1	フランス 19世紀末(清)		高39.0cm、幅46.0cm、奥行19.0cm
42	朱漆描金澡盆	1	清		高31.0cm、幅110.0cm、奥行90.0cm
43	画珙瑯牡丹花唾盂	1	清・乾隆年間		高9.0cm、幅12.0cm、奥行10.0cm
44	黄緋糸鳳梧牡丹紫檀木刻字柄団扇	1	清		49.0×33.5cm
45	烏木股刻寿字辺金面彩画花卉折扇	1	清		骨長28.7cm、扇面高16.5cm
46	朱漆描金勾連開光龍鳳手炉	1	清・乾隆年間		全高13.0cm、口径10.6×16.0cm、底径12.1×17.8cm ◎
47	金鍍空葫芦式香薰	1	清		高19.0cm、幅23.0cm、奥行20.7cm
48	銅鍍金累糸嵌翠石三鑲如意	1	清		高15.0cm、幅61.0cm、奥行15.0cm
49	銅鍍金鑿暗八仙翠蝠如意	1	清		高11.0cm、幅62.0cm、奥行15.0cm
50	画珙瑯長方盆玉蘭盆景	1	清		全高47.0cm 盆：幅25.0cm、奥行17.0cm
51	金質長方盆木樹盆景	1	清		全高32.5cm、幅24.5cm、奥行17.5cm
52	八音盒	1	スイス 19世紀(清)		高23.0cm、幅51.0cm、奥行29.0cm
53	顧闳中《韓熙載夜宴圖》卷	1	五代(オリジナル)、1950年代模写	絹本、着色	画面：28.7×335.5cm 表装：30.0×345.5cm
54	仇珠《女樂圖》軸	1	明	絹本、着色	画面：145.5×85.5cm 表装：294.5×105.0cm ◎
55	《玫貴妃・春貴人行樂圖》	1	清	紙本、着色	画面：169.0×90.0cm 表装：179.0×100.0cm
56	丁觀鵬・郎世寧他《弘曆歲朝行樂圖》	1	清	絹本、着色	画面：305.0×206.0cm 表装：315.0×216.0cm
57	緑緋繡 海棠菊花 犬服	1	清末期		60.0×43.0cm
58	麻雀牌	1	清		牌：3.1×2.3×1.5cm(各)
59	青花西遊記人物鉢	1	清・康熙年間		高15.4cm、口径20.0cm、高台径15.4cm
60	水滸人物紙牌	1	清		牌：長8.5cm、厚0.4cm(各)
61	銅投壺	1	清		高44.5cm、胴径20.0cm、口径6.7cm

第三章 美装—ファッションと美容

62	《乾隆妃古裝像》軸	1	清	絹本、着色	画面：101.0×97.2cm 表装：243.5×113.2cm
	《胤禩妃行樂圖》軸	12 354	清	絹本、着色	画面：184.0×97.8cm(各) 表装：254.0×131.0cm(各)
63	〔初夏〕立持如意				
64	〔盛夏〕觀書沈吟				
65	〔仲秋〕燭下縫衣				
66	〔冬〕烘炉觀雪				
67	《孝貞顯皇后像》軸	1	清	紙本、着色	画面：130.5×67.5cm 表装：195.0×81.0cm
68	綠色緋糸 子孫万代 蝶文綿襪衣	1	清・光緒年間		着丈130.0cm、両袖全長113.0cm、袖口32.5cm、裾幅110.0cm
69	品月色緋糸 水墨海棠文大坎肩	1	清		着丈139.0cm、裾幅116.0cm
70	鍍金点翠鑲珠石鳳鈿子	1	清・嘉慶年間		高19.0cm、幅30.0cm、内径17.0cm
71	金鑲珠宝帽頂	1	清		径16.0cm
72	梅蝶点翠長形頭面	1	清		長70.0cm、幅6.0cm
73	梅蝶点翠円形頭面	1	清		14.5×29.0cm
74,75	嵌宝石点翠花簪	2	清・乾隆年間		14.5×12.0cm(各)
76	銀鍍金嵌宝石靈芝簪	1	清・同治年間		15.0×5.0cm
77	銀鍍金嵌珠宝鈿花	1	清		14.5×11.8cm
78	鑲宝石碧璽花簪	1	清・乾隆年間		25.0×12.0cm
79	銀鍍金嵌宝蝴蝶簪	1	清		15.0×5.3cm
80	金鑲珠石松竹靈寿簪	1	清		24.0×7.5cm
81,82	銀鍍金点翠穿珠流蘇	2	清		81：全長43.0cm、幅4.5cm 82：全長49.0cm、幅4.5cm
83	翠扁方	1	清		34.8×3.3cm
84	玳瑁鑲珠石翠花扁方	1	清		33.0×3.0cm
85	銀鍍金嵌珠双龍点翠長簪	1	清		27.0×6.0cm
86	金環鑲東珠耳飾	1	清		全長4.3cm、径1.5cm(各) 玉製ケース：高4.0cm、幅10.3cm、奥行7.0cm
87	金鑲伽楠香嵌金糸寿字鐲	2	清		外径8.5cm、内径6.0cm、厚1.5cm(各)
88	翠鐲	2	清		外径8.2cm、内径7.0cm(各)
89	帶珠翠珊瑚十八子手串	1	清		全長29.0cm、周長35.0cm

No	作品名	員数	制作年	技法・材質	寸法
90	伽楠香嵌金長園寿字十八子手串	1	清		全長26.0cm、周長39.0cm
91	翡翠十八子手串	1	清		全長28.0cm、周長36.0cm
92	金鑲紅藍寶石戒指	1	清		幅1.4cm、径1.7cm
93	金鑲古銭文指甲套	1	清		高5.2cm
94	慈禧太后便服像	1	清	油彩、カンヴァス	163.5×97.0cm
95	香色紬 繡花手帕	1	清・光緒年間		50.0×49.0cm
96	翠荷葉佩	1	清		全長13.0cm 佩：7.0×4.0cm
97	白玉鏤彫鳳凰墜佩	1	宋		5.0×3.5×0.5cm
98	帶翠碧璽福寿佩	1	清		全長11.0cm 佩：4.0×4.0cm
99	翠仏手佩	1	清		全長10.0cm 佩：4.5×3.0cm
100	紅色緞釘綾福寿文活計	9	清・光緒年間		扇入れ：31.0×5.5cm 煙草入れ：11.0×7.0cm 懐中時計カバー：8.0×7.5cm 鏡：10.0×7.5cm コンパクト：10.0×10.0cm 檳榔入れ：14.0×8.5cm 巾着：7.5×9.0cm メモ入れ：12.5×8.5cm
101	藍緞 繡団鳳高腰綿襪	1	清・康熙年間		全高46.0cm、足裏長24.0cm (各)
102	嵌料石万寿字花盆底鞋	1	清・光緒年間		高20.5cm、幅9.0cm、長23.0cm (各)
103	硬木嵌珠寶鏡盒	1	清		高53.0cm、幅28.8cm、奥行20.0cm
104	銅鍍金嵌紅料辺瑪瑙柄玻璃鏡	1	清		18.5×13.0×1.3cm
105	招糸珞珈山水樓閣銅鏡	1	清・乾隆年間		径9.5cm、厚0.6cm
106	描金帶彩黄楊什錦梳具	1	清末期		ケース：高3.5cm、幅30.0cm、奥行22.0cm
107	粉玻璃円式香水噴子	1	清末期		高21.5cm、径10.5cm
108	画珞珈花卉粉盒	1	清・乾隆年間		高3.5cm、口径6.2cm
109	銅鍍金四方委角粉盒	1	清末期		高2.6cm、幅6.3cm、奥行6.5cm
110	金累糸龍文胭脂盒	1	清		高2.1cm、幅7.5cm、奥行5.3cm
111	水晶玉柄五珠太平車	1	清		全長15.0cm、幅14.2cm、玉柄長9.0cm
112	瑪瑙按摩器	1	清中期		11.4×3.1×1.5cm
113	燕窩	1	清末期		盒：高13.0cm、径22.0cm
114	人參茶膏	1	清末期		缶：高14.5cm、径12.0cm
115	啓脾益寿膏	1	清		缶：高19.0cm、底径13.0cm
116	普洱茶膏	1	清末期		箱：高3.9cm、幅17.8cm、奥行10.5cm
117	龍井芽茶	1	清末期		缶：高17.5cm、幅10.5cm、奥行10.5cm
118	大凸花茶	1	清末期		缶：高22.7cm、幅19.8cm、奥行8.5cm

第四章 美食—宮廷の食卓

119	明黄色緞 繡雲龍文 桌团	1	現代		正面部分：72.0×250.0cm 側面部分：72.0×230.0cm (各)
120,121	青玉勾雲夔龍寿字文燭台	2	清		全高54.0cm 燭台：高39.0cm、盤最大径16.2cm、底足径12.7cm (各)
122,123	青玉蕉葉螭龍寿字文花瓶	2	清		全高33.8cm 花瓶：高28.8cm、口径16.0cm、底径9.7cm (各)
124,125	銅鍍金松棚果罩 慈禧太后「万寿慶典」用磁器	2	清		高67.0cm、台座径34.0cm (各)
126,127	里紅鶴外黄地粉彩開光萬壽無疆蓋碗	2	清・光緒年間		高14.0cm、口径24.2cm (各)
128,129	里紅鶴外黄地粉彩開光萬壽無疆蓋碗	2	清・光緒年間		高9.5cm、口径19.5cm (各)
130,131	黄地粉彩萬壽無疆碗	2	清・光緒年間		高9.3cm、口径20.7cm (各)
132,133	黄地粉彩萬壽無疆白里碗	2	清・光緒年間		高8.8cm、口径18.0cm (各)
134,135	里外黄釉萬壽無疆碗	2	清・光緒年間		高6.5cm、口径11.6cm (各)
136,137	黄地粉彩開光萬壽無疆杯	2	清・光緒年間		高3.5cm、口径6.6cm (各)
138,139	黄地粉彩萬壽無疆蓋碗	2	清・光緒年間		高8.5cm、口径11.0cm (各)
140,141	黄地粉彩金萬壽無疆碗	2	清・光緒年間		高5.5cm、口径28.0cm (各)
142,143	黄地粉彩金萬壽無疆盤	2	清・光緒年間		高4.2cm、口径17.6cm (各)
144,145	黄地粉彩萬壽無疆盤	2	清・光緒年間		高2.5cm、口径10.5cm (各)
146,147	里外黄釉紅蝠寿高足碗	2	清・光緒年間		高14.6cm、口径17.3cm (各)
148,149	里外黄釉紅蝠寿高足盤	2	清・光緒年間		高11.0cm、口径24.4cm (各)
150,151	黄地開光萬壽無疆羹匙	2	清・同治年間		高3.0cm、長18.5cm、幅5.3cm (各)
152	画珞珈花卉執壺	1	清・嘉慶年間		高23.9cm、口径4.4cm、高台径7.1cm ◎
153	画珞珈開光山水花鳥蓋碗	1	清・乾隆年間		全高26.9cm、口径24.1cm、高台径11.2cm ◎
154	招糸珞珈团花文菱花式火鍋	1	清末期		高19.0cm、口径21.0cm、高台径15.0cm
155	画珞珈開光瓜棱盒	1	清・乾隆年間		全高14.9cm、口径17.5cm、高台径12.2cm ◎
156	画珞珈花卉杯	1	清・雍正年間		全高8.5cm 杯：口径5.1cm、高台径2.5cm 盤：口径16.0cm、高台径12.0cm ◎
157	金鑲花執壺	1	清		高30.4cm、全幅27.0cm、口径5.4cm、高台径10.7cm

No.	作品名	員数	制作年	技法・材質	寸法
158	金帯托奠盅	1	清		杯：高6.0cm、口径6.5cm、高台径3.0cm 盤：高3.0cm、径15.8cm
159	金鑿花双喜円寿茶碗	1	清・同治年間		高5.6cm、口径9.6cm、高台径5.2cm
160	銀龍鳳多穆壺	1	清・宣統年間		高46.0cm、口径6.8cm、底径10.8cm
161	青玉鑲赤金筷	1	清・乾隆年間		全長28.9cm
162	青玉柄金匙	1	清・乾隆年間		全長18.8cm、最大幅3.9cm
163	青玉柄赤金叉	1	清・乾隆年間		全長19.8cm、最大幅1.6cm
164	黄紬 繡彩龍鳳金双喜 懷当	1	清・光緒年間		73.5×72.0cm
165	粉彩歲朝嬰戲大果盤	1	清・同治年間		高10.0cm、口径63.0cm、高台径35.0cm
166	画珐瑯仙女採芝大盤	1	清・乾隆年間		高7.7cm、口径55.6cm、高台径37.1cm ◎
167	画珐瑯纏枝蓮八宝攢盒	1	清中期		高12.5cm、口径33.5cm、高台径32.7cm
168	金胎珐瑯執壺	1	清・乾隆年間		全高39.0cm、最大幅28.0cm、口径7.3cm、高台12.3×11.7cm ◎
169	画珐瑯八棱開光提梁壺	1	清・乾隆年間		全高37.0cm、口径9.1cm、底径13.5cm ◎
170	招采珐瑯勾蓮嵌石多穆壺	1	清・乾隆年間		全高53.4cm、口径10.4cm、底径14.0cm 杯：高5.0cm、口径5.6cm、高台径3.1cm 盤：高2.8cm、口径18.7cm、高台径12.9cm ◎
171	金胎画珐瑯花卉杯盤	1	清・乾隆年間		高30.0cm、径24.5cm
172	銀鍍金寿字火鍋	1	清		高30.0cm、幅34.0cm、奥行34.0cm
173	錫方式一品鍋	1	清		
	白地紅花卉開光詩句茶具一式				
174	長方盤	1	清・乾隆年間		高2.2cm、口径19.7×12.7cm、高台17.5×10.5cm
175	茶壺	1	清・乾隆年間		高12.7cm、口径6.3cm、高台径7.0cm
176	蓋碗	1	清・乾隆年間		全高9.0cm、口径8.8cm、高台径3.7cm
177	蓋碗	1	清・乾隆年間		全高9.0cm、口径8.8cm、高台径3.7cm
178	瑪瑙光素茶碗	1	清		高6.7cm、口径10.6cm、高台径4.2cm
179	紅彫漆福字盒	1	清・乾隆年間		高8.7cm、口径19.6cm
180	剔紅龍鳳文円盤	1	明・万曆年間		高3.8cm、口径25.2cm、高台径19.4cm
181	剔紅飛龍宴盒	1	清・乾隆年間		高20.8cm、口径49.0cm

第二部 故宮の子どもたち

第一章 学ぶ—皇子・皇女たちの教育

182	《乾隆帝妃と嘉慶帝幼年像》	1	清・嘉慶年間	絹本、着色	326.5×186.0cm
183	《孝全成皇后便装像》軸	1	清	絹本、着色	画面：177.0×96.5cm 表装：200.0×108.0cm
184	《同治帝遊芸怡情図》軸	1	清	紙本、着色	画面：147.5×84.0cm 表装：185.0×84.0cm
185	《四書五經》				
	《四書》6冊	6	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×7.5cm
	《周易》2冊	2	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×3.5cm
	《書經》4冊	4	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×6.0cm
	《詩經》4冊	4	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×6.8cm
	《礼記[らいき]》10冊	10	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×11.5cm
	《春秋左伝》12冊	12	清・同治13年(1874)		版型26.5×16.4cm、版面19.0×14.5cm 箱：26.7×17.5×12.0cm
186	《聖祖仁皇帝庭訓格言》	1	清・雍正8年(1730)		版型29.2×19.0cm
187	溥儀習字冊《十三經集字》より《三伝》	1	清		27.0×15.7×7.2cm
188	溥儀絵画習作《百物図》	1	清		版型21.7×14.8cm
189	奕訢《馬図》軸	1	清	紙本、着色	画面：47.3×23.4cm 表装：92.0×36.0cm
190	瑪瑙子硬木小算盤	1	清・康熙年間		6.2×12.4×1.3cm
191	紙籌計算器	1	清・康熙年間		高5.0cm、幅19.0cm、奥行11.0cm

第二章 育む—皇子・皇女たちの生活

192	杏黄緞 虎頭式 綿風帽	1	清・同治年間		49.0×33.0cm
193	紅色菊花文縐紬 大襟小綿襖	1	清・同治年間		着丈46.0cm、両袖全長73.0cm、袖口20.0cm、裾幅49.0cm
194	香色四合鈴杵文暗花縐紬 琵琶襟小綿坎肩	1	清・同治年間		着丈24.0cm、肩幅23.0cm、裾幅34.0cm
195	紅色竹梅文暗花縐紬 兜兜	1	清・同治年間		30.0×30.0cm、襟ぐり幅11.0cm

No.	作品名	員数	制作年	技法・材質	寸法
196	藍色紬 夾屁簾	1	清・光緒年間		長52.0cm、裾幅50.0cm、腰幅12.0cm、 帯長67.0cm
197	桃紅色暗花紬 小孩夾褲	1	清・同治年間		長39.0cm、胴囲46.0cm、裾幅12.0cm
198	杏黃色菊蝶文実地紗 画虎文夾套褲	1	清・同治年間		長28.0cm、裾幅10.5cm
199	黄緞釘線虎頭 小夾鞋	1	清・同治年間		幅5.0cm、長11.5cm
200	木製積み木	1	清末期		高6.6cm、幅29.0cm、奥行18.8cm
201	木製彩漆棋子	1	清		高3.0cm、幅27.0cm、奥行27.0cm
202	幻術変小孩機器人	1	フランス 19世紀(清)		高74.0cm、幅44.0cm、奥行36.0cm
203	金廷標《冰戲図》軸	1	清・乾隆年間	紙本、着色	画面：121.0×64.8cm 表装：260.0 ×98.0cm
204	《道光帝喜溢秋庭図》軸	1	清	紙本、着色	画面：181.0×202.5cm 表装：191.0 ×212.5cm
205	粉彩花卉凸三嬰戲瓶	1	清・乾隆年間		高21.0cm、口径5.8cm、高台径7.6cm ◎
206	招徠珐瑯花卉三獸耳活環嬰足鼓式蓋炉	1	清中期		高38.0cm、口径23.0cm
207	百子彫漆円盒	1	清・乾隆年間		高8.7cm、口径14.2cm ◎
208	嬰戲彫漆長方盒	1	明・宣德年間		高8.2cm、幅14.4cm、奥行11.4cm ◎
209	紅彫漆百子図挿屏	1	清・乾隆年間		高49.3cm、幅58.2cm
210	青玉双童洗象	1	清		高20.8cm、幅13.0cm

※◎印は一級文物



水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト

【趣 旨】

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「水と土の芸術祭2012」等の大規模な現代美術の展覧会開催に合わせて、「水と土の芸術祭2012」や県立万代島美術館「記憶のかたち展」の出品作家でもある吉原悠博の映像プロジェクトを行った。吉原悠博は1960年に新潟県新発田市に生まれ、1982年より渡米し、ニューヨークのプラット・インスティテュートに留学、1984年帰国し、1987年に東京芸術美術学部絵画科油画科を卒業すると、本格的に作家活動を開始。光と音が洪水のように鑑賞者を刺激する巨大なインスタレーション作品を次々に発表、坂本龍一のビデオ作品の制作協力、デビッド・リンチ展の会場構成、現代オペラ作家ロバート・アシュリーの空間演出等を担当、国際的に活躍している。

やがて2003年に新発田市の実家の写真館に帰省した際、大量のガラス乾板を発見したことにより、映像作品《SPIRAL LIFE:吉原家の130年》を発表。制作の拠点を新発田市に移した。以降、自らの家系や歴史、関係の深い風土や自然などといった身近な主題による映像作品を次々に発表している。

本展では、そんな吉原悠博の映像作品の中から、人間の生活と自然との関係、生と死などを主題に制作された《新川史眼》と《さくら》を紹介した。

特に《新川史眼》は横1メートル、縦4メートルの巨大な画面での紹介となり、作品自体の美しい映像とともに鑑賞者を圧倒することとなった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・現代美術ファンのみならず一般来館者の好意的な意見が圧倒的に多く、他の作品も見たいという意見もあった。
- ・「水と土の芸術祭2012」の来館者が訪れてくれ、相乗効果となった。

●検討課題

- ・展示室の構造上、二つの作品の音声の影響し合い、集中できないという意見があった。

【開催日・その他】

＝2012年8月14日(火)～9月4日(日) (18日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館

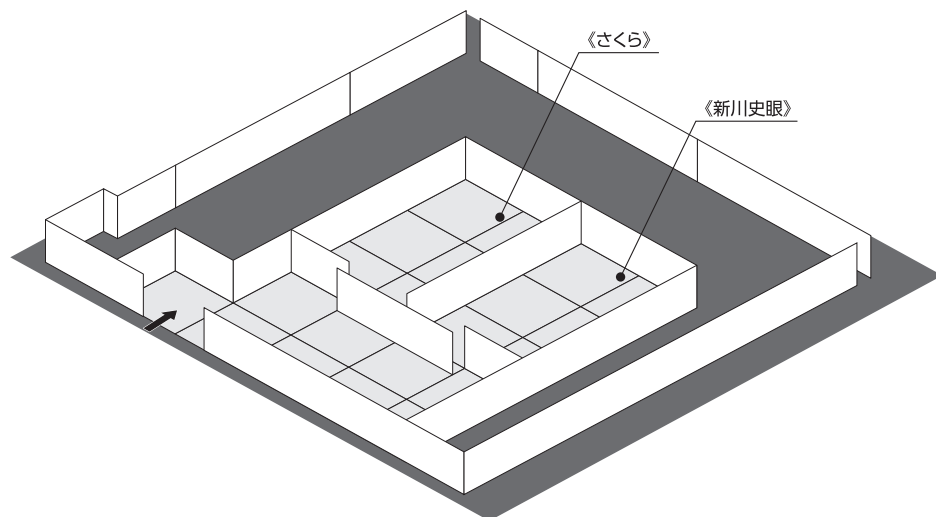
後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ、シー、ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、FMながおか80.7、燕三条エフエム株式会社

観覧料：一般……………420円 (340円)

大学・高校生……………200円 (160円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

- ・吉原悠博トークイベント
8月18日(土) 午後2時～ 当館講堂
トーク：吉原悠博（吉原写真館店主、新潟大学・
敬和学園大学非常勤講師）
聞き手：伊澤朋美（当館美術学芸員）
参加者数：40名

- ・美術鑑賞講座
「現代美術 映像作品の誕生」
8月25日(土) 午後2時～ 当館講堂
講 師：藤田裕彦（当館学芸課長）
参加者数：18名

- ・関連イベント
対談「僕らが、今、ここにいること」
（主催：新潟写真祭実行委員会／新潟写真文化賞
実行委員会）
8月1日(水) 午後1時～
NEXT21（6F市民プラザ）
トーク：佐野史郎（俳優）
吉原悠博（美術家）
司 会：荒井直美（当館主任学芸員）

【関連記事】

- 新聞
新潟日報（8/15）

【観覧者数】 ※コレクション展と同カウント

有料観覧者数	当日	1190
	前売	—
無料観覧者数	無料	755
	免除	167
総観覧者数		2112
有料率（％）		56

担当 藤田裕彦、佐藤克己、佐藤久美子、伊澤朋美





象徴派—夢幻美の使徒たち

【趣 旨】

19世紀後半のヨーロッパでは、想像力や夢の世界の復権を主張する芸術家たちが、「象徴主義」と呼ばれる美術運動を起こした。イギリスではラファエル前派が文学性を湛えた作品を発表、フランスではゴーガンやその継承者であるナビ派が登場し、大胆な色面構成による総合主義絵画を確立した。本展は、「象徴派」を系統的に収集している岐阜県美術館、姫路市立美術館と当館の学芸員によって共同企画されたものである。3館の所蔵品を中心に国内の公私立美術館や個人蔵の作品を加えて200点余りの構成とし、象徴主義の変遷をたどった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・開催3館の担当学芸員の専門分野を活かして全作品に解説をつけ、資料面も充実した図録を作成した。美術館相互の協力態勢を築き、高い意識で企画に取り組んだ経験は、大きな収穫となった。当館所蔵作品にも「象徴派」という角度から光が当たることで、作品間の有機的結びつきが浮かび上がり、今後の作品調査や展示活用に多様な可能性が開かれた。
- ・広報印刷物やテレビスポットでは「綺麗な女には毒がある」という挑発的なキャッチコピーを付して、象徴派の反社会的な側面を視覚的に伝えた。また19世紀に流行した挿絵新聞を擬したガイドを作成し、時代の空気を伝えるという独自の工夫を凝らした。
- ・講演会やコンサートなど、多様なイベントを開催した他、県内図書館に「象徴主義関連ブック

コーナー」の開設を働きかけた。美術、音楽、文学など詩人ボードレールが提唱した異分野間の呼応が実現できたといえる。こうした関係は一過性でなく、継続することこそ望ましい。

●検討課題

- ・イベントや他機関との協働など、草の根的な工夫を試みたが、期待したほどの反響は得られず、入場者は目標人数に達しなかった。来館者個人の満足度は深かったものの、大きな波が起ったという実感はない。県単独の開催で広報予算も欠如していた。良質の展覧会を開催するためには、企画内容を掘り下げることに加えて、県民ニーズの調査や前年度からの長期的な広報を模索すべきだと感じた。

【開催日・その他】

＝2012年9月8日(土)～10月21日(日) (38日間)＝

主 催：新潟県立近代美術館、新潟日報社、NST

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟県美術教育連盟、新潟・フランス協会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

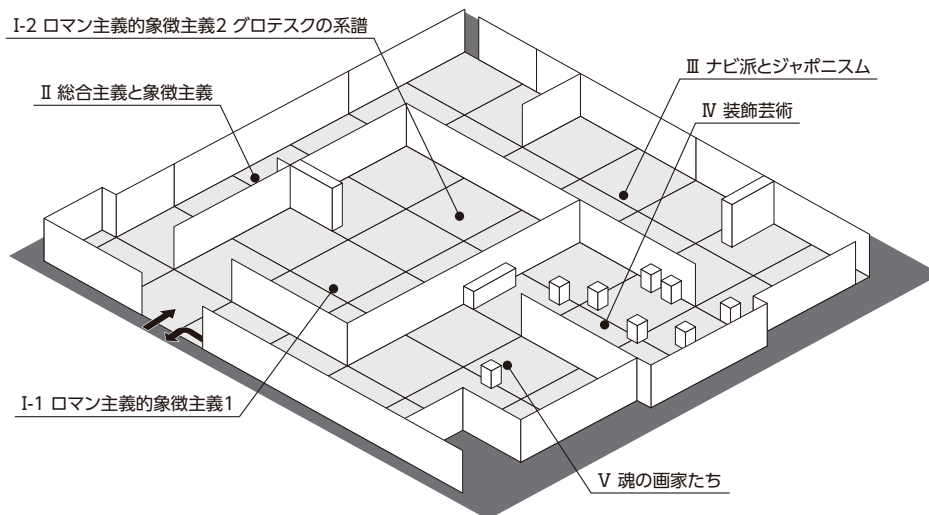
協 力：新潟日報美術振興財団

観覧料：一般……………1,000円 (800円)

大学・高校生……………800円 (600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・講演会

「ロマン主義から象徴主義へ—詩の世界を中心に」

9月30日(日) 14:00～ 講堂

講 師：高木裕氏（新潟大学文学部長）

参加者数：60名

・コンサート

「ピアノで聴く象徴派—ドビュッシーを中心に」

9月23日(日) 14:00～ 講堂

演 奏：遠藤吉比古氏（新潟大学非常勤講師）

参加者数：137名

・美術鑑賞講座

「フランス世紀末芸術への招待」

9月29日(土) 14:00～ 講堂

講 師：平石昌子（当館学芸課長代理）

参加者数：38名

「文学と美術—漱石の見た倫敦」

10月6日(土) 14:00～ 講堂

講 師：荒井直美（当館主任学芸員）

参加者数：33名

・映画鑑賞会 講堂

「ルートヴィヒ—神々の黄昏」

9月8日、9月15日 13:00～

参加者数：71名

「ガス燈」

9月22日(土) 10:00／14:00

参加者数：60名

「ジェーン・エア」

10月13日(土) 10:00／14:00

参加者数：62名

・ワークショップ

「世紀末パリの幻想 影絵のせかい」

10月8日(月・祝) 14:00～

講 師：伊澤朋美（当館美術学芸員）

参加者数：4名

・ジュニアのための鑑賞シートの作成／設置

・作品解説会

会期中の日曜日 14:00～ 企画展示室内

・地域との連携

長岡市立中央図書館、新潟県立図書館、ほんぼーと（新潟市立中央図書館）、上越市立高田図書館の4館にて象徴派関連ブックコーナーを開設

・館内関連企画

・2階レストラン広告塔にて関連メニュー

「アリスのティー・タイム」アールグレイまたはコーヒートイギリス・フランス・ベルギーの菓子セット（700円）

・ミュージアムショップKINBIにてパティスリー

リ・リ製造の会期限定商品「エドガー・ポー・サブレ」（200円）を販売

【図 録】

仕 様：A4判 196頁

編 集：山本敦子（岐阜県美術館）、平石昌子、山田真規子（姫路市立美術館）、増井恵（中日新聞社）

発 行：中日新聞社

内 容：ごあいさつ

謝辞

「フランス象徴主義の時代」山本敦子

「モーリス・ドニのやわらかな風景—自然と抽象のあいだ」平石昌子

「ベルギーの象徴主義」山田真規子

カタログ

I-1 ロマン主義的象徴主義 1

I-2 ロマン主義的象徴主義 2—グロテスクの系譜

II 総合主義と象徴主義

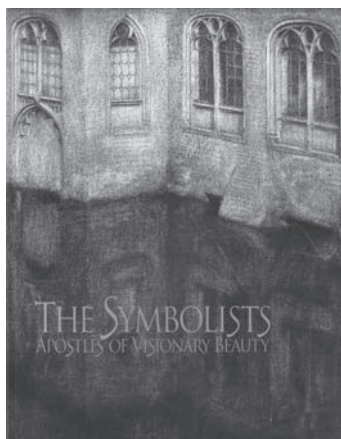
III ナビ派とジャボニスム

IV 装飾芸術

V 魂の画家たち

関連年表

作品リスト



【関連記事】

●新聞

9月25日 新潟日報

象徴派展（上）エドヴァルト・ムンク 荘重な生命の響き／平石昌子

9月26日 新潟日報

象徴派展（下）ポール・ゴーギャン 風景に原始的な力／平石昌子

10月18日 新潟日報

窓欄 美術作品 間近で見て感動／鈴木英一

その他 新潟日報

（8/5、9/8、9/29、10/6、10/12）

十日町新聞（8/15）

長岡新聞（9/15）

五泉市民新聞（9/2）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,972
	前売	503
無料観覧者数	無料	2,162
	免除	1,298
総観覧者数		7,935
有料率（%）		56.4

担当 平石昌子、荒井直美、伊澤朋美

【出品リスト】

I-1 ロマン主義的象徴主義 1							
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示
1	ギュスターヴ・モロー	ピエタ	1854	油彩、画布	75.0×96.0	岐阜県美術館	
2	ギュスターヴ・モロー	聖セバスティアヌスと天使	1876頃	油彩、板	27.0×15.0	岐阜県美術館	
3	ビエール・ビュヴィ・ド・シャヴァンヌ	休息	1861	油彩、画布	63.5×93.3	島根県立美術館	
4	ビエール・ビュヴィ・ド・シャヴァンヌ	聖ジュヌヴィエーヴの幼少期	1875頃	油彩、画布	52.0×102.3	島根県立美術館	前期
5	ジョン・エヴァレット・ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859	油彩、板	22.5×17.5	当館	
6	ダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル、紙	90.0×56.0	郡山市立美術館	前期
7	フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコボ・フォスカリ	1869	チョーク、紙	44.0×26.5	郡山市立美術館	後期
8	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	不詳	油彩、画布	102.5×69.4	郡山市立美術館	
9	ウジェーヌ・カリエール	想い	1890-93頃	油彩、画布	65.5×48.7	大原美術館	
10	フェルナン・クノップフ	ヴェネツィアの思い出	1901頃	パステル、鉛筆、紙	17.5×9.4	姫路市立美術館	
11	フェルナン・クノップフ	ブリュージュにて 聖ヨハネ施療院	1904頃	鉛筆、木炭、パステル、紙	29.0×50.3	姫路市立美術館	
12	フェリシアン・ロップス	古い物語	1867	油彩、板に裏打ちした紙	27.6×23.0	姫路市立美術館	
13	フェリシアン・ロップス	サテュロスを抱く裸の少女（バンへの賛美）	1871	木炭、鉛筆、紙	23.0×16.0	姫路市立美術館	
14	ウィリアム・ドッガーヴェド=ヌック	夜の中庭あるいは陰謀	1895	パステル、紙	41.9×62.1	姫路市立美術館	

I-2 ロマン主義的象徴主義 2 グロテスクの系譜							
15	ロドルフ・プレスダグ	死の喜劇	1854	リトグラフ、紙	22.0×15.2	岐阜県美術館	前期
16	ロドルフ・プレスダグ	善きサマリヤ人	1861	リトグラフ、紙	56.4×44.4	岐阜県美術館	後期
17	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『地獄篇』 第3歌 地獄の門	1865	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	前期
18	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『地獄篇』 第5歌 パオロとフランチェスカ（ダンテに身の上を語るフランチェスカ）	1865	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	後期
19	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『煉獄篇』 第12歌 蜘蛛に変えられたアラクネ	1868	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	後期
20	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『煉獄篇』 第29歌 黙示録の行列（二十四長老）	1868	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	前期
21	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『天国篇』 第18歌 木星天（第六天：正義を愛した人々の魂）	1868	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	後期
22	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『天国篇』 第27歌 恒星天（第八天：天国の大合唱）	1868	木口木版画	430×310	町田市立国際版画美術館	前期
23	オディロン・ルドン	沼の花		木炭、紙	51.2×35.0	岐阜県美術館	前期
24	オディロン・ルドン	骸骨	1880頃	木炭、紙	52.0×37.0	岐阜県美術館	後期
25	オディロン・ルドン	『夢のなかで』表紙=扉絵	1879	リトグラフ、紙	30.2×22.3	岐阜県美術館	前期
26	オディロン・ルドン	『夢のなかで』I 孵化	1879	リトグラフ、紙	32.8×25.7	岐阜県美術館	前期
27	オディロン・ルドン	『夢のなかで』III 車輪	1879	リトグラフ、紙	23.2×19.6	岐阜県美術館	前期
28	オディロン・ルドン	『夢のなかで』IV 冥府	1879	リトグラフ、紙	30.7×22.3	岐阜県美術館	前期
29	オディロン・ルドン	『夢のなかで』VIII 幻視	1879	リトグラフ、紙	27.4×19.8	岐阜県美術館	前期
30	オディロン・ルドン	『夢のなかで』X 皿の上に	1879	リトグラフ、紙	24.4×16.0	岐阜県美術館	前期
31	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』表紙=扉絵	1882	リトグラフ、紙	16.5×11.5	岐阜県美術館	後期
32	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』I 眼は奇妙な気球のように無限に向かう	1882	リトグラフ、紙	26.2×19.8	岐阜県美術館	後期
33	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』II 憂鬱の黒い太陽の前にレノアが現れる	1882	リトグラフ、紙	16.8×12.7	岐阜県美術館	後期
34	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』III 仮面は叫びの鐘を鳴らす	1882	リトグラフ、紙	19.2×15.8	岐阜県美術館	後期
35	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』IV 水平線には確信の天使が、暗い空にさぐるようなまなざしが	1882	リトグラフ、紙	27.2×20.8	岐阜県美術館	後期
36	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』V 諸存在を導く息吹は球の中にもある	1882	リトグラフ、紙	27.3×20.9	岐阜県美術館	後期
37	オディロン・ルドン	『エドガー・ポーに』VI 狂気	1882	リトグラフ、紙	14.5×20.0	岐阜県美術館	後期
38	オディロン・ルドン	蜘蛛	1887	リトグラフ、紙	27.7×21.7	岐阜県美術館	前期
39	オディロン・ルドン	不恰好なボリーブは薄笑いを浮かべた醜い一つ目巨人のように波間を漂っていた	1883	リトグラフ、紙	21.9×20.0	岐阜県美術館	後期
40	フェリシアン・ロップス	スフィンクス	1884	エリオグラヴィール	16.2×24.0	姫路市立美術館	
41	ジェームズ・アンソール	悪魔が私を脅かす	1895	エッチング、紙	11.5×15.5	姫路市立美術館	
42	ジェームズ・アンソール	キリストのブリュッセル入城	1898	エッチング、水彩、紙、銅版、手彩色	24.7×35.6	姫路市立美術館	

II 総合主義と象徴主義							
43	ボール・ゴーギャン	家畜番の少女	1889	油彩、画布	73.3×92.1	静岡県立美術館	
44	ボール・ゴーギャン	ステファーン・マラルメの肖像	1891	エッチング、ドライポイント、紙	18.5×14.3	岐阜県美術館	
45	ボール・ゴーギャン	ノアノア（かぐわしい）	1893-94	木版多色刷り、紙（ルイ・ロウ版）	35.7×20.5	岐阜県美術館	
46	ボール・ゴーギャン	ナヴェナヴェ・フェヌア（かぐわしき大地）	1893-94	木版多色刷り、紙（自刷り）	35.5×20.4	岐阜県美術館	
47	ボール・ゴーギャン	ナヴェナヴェ・フェヌア（かぐわしき大地）	1893-94	木版多色刷り、紙（ルイ・ロウ版）	35.5×20.8	岐阜県美術館	
48	ボール・ゴーギャン	マナオ・トゥパバウ（彼女は死霊のことを考えている）	1893-94	木版、紙（自刷り）	20.5×35.5	岐阜県美術館	
49	ボール・ゴーギャン	マナオ・トゥパバウ（彼女は死霊のことを考えている）	1893-94	木版多色刷り、紙（ルイ・ロウ版）	20.4×35.7	岐阜県美術館	
50	エミール・ベルナル	ボンタヴェンの市場	1888	油彩、画布	65.2×91.0	岐阜県美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示
51	エミール・ベルナール	青い肩かけのブルターニュ婦人	1887	水彩、紙	27.3×21.5	当館	前期
52	エミール・ベルナール	サン・ブリアクの収穫	1887	水彩、紙	20.5×26.5	当館	前期
53	エミール・ベルナール	レゼビアン―サン・ブリアクの小湾	1888	水彩、紙	21.0×27.0	当館	前期
54	エミール・ベルナール	帽子を被って座るポンタヴェンの二人の婦人	1888	水彩、紙	14.2×14.6	当館	後期
55	エミール・ベルナール	アヴェン川の大きな赤い帆	1889	水彩、紙	31.0×19.5	当館	前期
56	エミール・ベルナール	川を渡る船上の四人の人物	1889	水彩、紙	18.5×29.3	当館	後期
57	エミール・ベルナール	ポンタヴェンのぼら色の道	1892	水彩、紙	29.5×18.5	当館	後期
58	エミール・ベルナール	ブルターニュの谷間の風景	不詳	水彩、紙	19.5×27.5	当館	後期
59	オディロン・ルドン	眼をとじて	1900以降	油彩、画布	65.0×50.0	岐阜県美術館	
60	オディロン・ルドン	神秘的な対話	1896頃	油彩、画布	65.0×46.0	岐阜県美術館	
61	オディロン・ルドン	オルフェウスの死	1905-10頃	油彩、画布	50.0×73.5	岐阜県美術館	
62	アンリ・ファンタン=ラトゥール	暁と夜(「夜」を追い払う「暁」)	1887	パステル、画布	75.0×92.7	島根県立美術館	前期
63	アンリ・ファンタン=ラトゥール	二人のオンディーヌ	1903	油彩、画布	56.0×66.0	黒壁美術館	
64	アンリ・ファンタン=ラトゥール	ジークフリートとラインの娘たち	1897	リトグラフ、紙	26.0×30.7	町田市立国際版画美術館	前期
65	アンリ・ファンタン=ラトゥール	ローエングリン序曲	1898	リトグラフ、紙	49.0×34.5	町田市立国際版画美術館	後期
66	オディロン・ルドン	パルジファル	1892	リトグラフ、紙	32.2×24.2	岐阜県美術館	前期
67	オディロン・ルドン	ブリュンヒルデ(神々の黄昏)	1894	リトグラフ、紙	38.2×29.4	岐阜県美術館	後期
68	オディロン・ルドン	翼のある横向きの胸像	d	パステル、木炭、 チョーク、紙	71.0×54.8	岐阜県美術館	前期
69	オディロン・ルドン	青い花瓶の花々	1904頃	パステル、紙	47.0×60.5	岐阜県美術館	後期
70	オディロン・ルドン	ダブル・プロフィール		ペン、木炭、紙	25.7×20.7	岐阜県美術館	
71	オディロン・ルドン	光の横顔	1886	リトグラフ、紙	34.4×24.2	岐阜県美術館	前期
72	オディロン・ルドン	眼をとじて	1890	リトグラフ、紙	31.3×24.0	岐阜県美術館	後期
73	ジョルジュ・デヴァリエール	アフロディテ	1899	油彩、板	41.0×22.5	岐阜県美術館	
74	ジョルジュ・デヴァリエール	ミュージック・ホール	1903	油彩、画布	153.0×138.5	大原美術館	
75	ジョルジュ・ルオー	ゲッセマニ	1892	油彩、画布	41.3×33.3	パナソニック汐留ミュージアム	
76	ジェームズ・アンソール	薔薇	1881	油彩・画布	80.2×100.4	姫路市立美術館	
77	ジェームズ・アンソール	シノワズリー	1920- 1925頃	油彩、画布	50.7×66.5	当館	
78	ジェームズ・アンソール	オルガンに向かうアンソール	1933	油彩、画布	80.0×100.5	メナード美術館	
79	レオン・スピリアルト	自画像	1907	グアッシュ、パ ステル、紙	74.3×49.2	姫路市立美術館	
80	レオン・スピリアルト	磔刑のキリストと煉獄	1908	パステル、グ アッシュ、紙	51.2×40.9	姫路市立美術館	
81	レオン・スピリアルト	オステンドの灯台	1908	墨、色鉛筆、水彩、 パステル、紙	64.6×49.5	姫路市立美術館	
82	エドヴァルト・ムンク	死と乙女	1894	エッチング、紙	30.5×21.0	姫路市立美術館	
83	エドヴァルト・ムンク	ヴァンパイアⅡ	1895	リトグラフ、紙	39.0×52.7	岐阜県美術館	
84	エドヴァルト・ムンク	マドンナ	c.1895 -1912	カラーリトグラ フ、紙	60.5×44.2	岐阜県美術館	
85	エドヴァルト・ムンク	腕の骨のある自画像	1895	リトグラフ、紙	45.5×31.7	姫路市立美術館	
86	エドヴァルト・ムンク	森へ	1897	木版、紙	49.5×64.5	姫路市立美術館	
87	エドヴァルト・ムンク	橋の上の少女たち	1920	木版、紙	49.1×42.7	姫路市立美術館	
88	ワシリー・カンディンスキー	鏡	1907	リノカット、紙	31.9×15.8	愛知県美術館	前期
89	ワシリー・カンディンスキー	夕暮れ	1903	木版、手彩色、紙	24.8×14.8	愛知県美術館	後期
90	マックス・クリンガー	『手袋』1. 場所	1881	エッチング、アク アティント、紙	25.7×34.7(plate)	岐阜県美術館	前期
91	マックス・クリンガー	『手袋』2. 行為	1881	エッチング、アク アティント、紙	29.9×21.0(plate)	岐阜県美術館	前期
92	マックス・クリンガー	『手袋』3. 願望	1881	エッチング、アク アティント、紙	31.6×13.8(plate)	岐阜県美術館	前期
93	マックス・クリンガー	『手袋』4. 救助	1881	エッチング、紙	23.6×18.1(plate)	岐阜県美術館	前期
94	マックス・クリンガー	『手袋』5. 凱旋	1881	エッチング、紙	14.4×26.8(plate)	岐阜県美術館	前期
95	マックス・クリンガー	『手袋』6. 敬意	1881	エッチング、紙	15.9×32.3(plate)	岐阜県美術館	前期
96	マックス・クリンガー	『手袋』7. 不安	1881	エッチング、紙	14.3×26.8(plate)	岐阜県美術館	前期
97	マックス・クリンガー	『手袋』8. 休息	1881	エッチング、紙	14.3×26.7(plate)	岐阜県美術館	前期
98	マックス・クリンガー	『手袋』9. 誘拐	1881	エッチング、アク アティント、紙	11.9×26.9(plate)	岐阜県美術館	前期
99	マックス・クリンガー	『手袋』10. キュービッド	1881	エッチング、紙	14.2×26.5(plate)	岐阜県美術館	前期
100	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』 呼びかけ(絵画の捧げ物)	1879(1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・ アクアチント	40.5×25.1	当館	後期
101	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』 遭遇(ピュラモスとティスベⅢ)	1879(1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・ アクアチント	29.5×41.0	当館	後期
102	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』 とどのつまり(ピュラモスとティスベⅣ)	1879(1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・ アクアチント	22.0×29.0	当館	後期
103	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』 第一間奏曲	1879(1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・ アクアチント	30.8×20.9	当館	後期

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示
104	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』ナルキッソスとエコー（Ⅰ）	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	28.9×41.0	当館	後期
105	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』ナルキッソスとエコー（Ⅱ）	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	29.0×22.0	当館	後期
106	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』第二間奏曲	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	24.0×35.6	当館	後期
107	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』アポロンとダフネ（Ⅱ）	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	17.4×20.4	当館	後期
108	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』アポロンとダフネ（Ⅲ）	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	13.4×29.0	当館	後期
109	マックス・クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』オヴィディウス（サテュルヌス）	1879 (1898 出版第5刷)	銅版、エッチング・アクアチント	16.9×23.8	当館	後期

III ナビ派とジャポニスム

110	ポール・セリュジエ	森の中の焚火	1889-1890頃	油彩、画布	92.0×73.0	岐阜県美術館	
111	ポール・セリュジエ	急流のそばの幻影または妖精たちのランデヴー	1897	油彩、画布	111.0×182.0	岐阜県美術館	
112	モーリス・ドニ	夕映えの中のマルト（マルト・サンボリスト）	1892	油彩、画布	130.0×71.0	当館	
113	モーリス・ドニ	ばら色の船	1893	カラーリトグラフ、紙	89.5×50.1	岐阜県美術館	
114	モーリス・ドニ	なでしこを持つ若い女	1896	油彩、画布	74.0×46.0	岐阜県美術館	
115	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』1.表紙	1892-1899	リトグラフ	56.0×45.0	当館	前期
116	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』2.寓意	1892-1899	リトグラフ	29.4×43.5	当館	前期
117	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』3.物腰は優しく清らかな	1892-1899	リトグラフ	41.5×30.3	当館	前期
118	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』4.朝のブーケ、悲しみ	1892-1899	リトグラフ	41.3×31.0	当館	前期
119	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』5.それは敬虔な神秘さだった	1892-1899	リトグラフ	46.5×32.5	当館	前期
120	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』6.騎士は十字軍で死んではいない	1892-1899	リトグラフ	42.0×30.5	当館	前期
121	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』7.たそがれは古い絵画のような優しさを持つ	1892-1899	リトグラフ	45.5×33.1	当館	前期
122	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』8.彼女は夢よりも美しかった	1892-1899	リトグラフ	43.5×32.0	当館	前期
123	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』9.そして彼女の手が優しく触れる	1892-1899	リトグラフ	42.0×31.5	当館	前期
124	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』10.私たちの魂はゆっくりとした動作の中に	1892-1899	リトグラフ	31.0×43.0	当館	前期
125	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』11.青白い銀の長いすの上で	1892-1899	リトグラフ	43.7×31.3	当館	前期
126	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』12.人生は貴重な痛み深いものとなる	1892-1899	リトグラフ	32.5×43.5	当館	前期
127	モーリス・ドニ	版画集『アムール（愛）』13.けれどあまりにも高鳴る心	1892-1899	リトグラフ	47.8×32.1	当館	前期
128	アリスティド・マイヨール	山羊飼いの娘	1890頃	油彩、画布	50.0×65.0	岐阜県美術館	
129	ビエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像、画家の妹	1890	油彩、画布	188.0×80.0	愛媛県美術館	
130	ビエール・ボナール	版画集『パリ生活の諸相』1.表紙	1895-1899	リトグラフ	41.0×33.0	当館	後期
131	ビエール・ボナール	版画集『パリ生活の諸相』3.街角	1895-1899	リトグラフ	27.5×35.0	当館	後期
132	ビエール・ボナール	版画集『パリ生活の諸相』4.中庭に面した家	1895-1899	リトグラフ	34.5×25.7	当館	後期
133	ビエール・ボナール	版画集『パリ生活の諸相』10.劇場にて	1895-1899	リトグラフ	20.0×40.0	当館	後期
134	ビエール・ボナール	版画集『パリ生活の諸相』11.街路、夕暮れ、雨	1895-1899	リトグラフ	25.0×35.5	当館	後期
135	エドゥアール・ヴエイヤール	窓辺の女	1898	油彩、厚紙	28.5×42.5	愛知県美術館	
136	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』1.表紙	1896-99	リトグラフ	51.5×39.0	当館	後期
137	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』2.チェッカーの勝負	1896-99	リトグラフ	33.1×26.5	当館	後期
138	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』3.大通り	1896-99	リトグラフ	30.5×41.0	当館	後期
139	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』6.バラ色の壁紙のある室内Ⅰ	1896-99	リトグラフ	34.5×27.5	当館	後期
140	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』7.バラ色の壁紙のある室内Ⅱ	1896-99	リトグラフ	35.0×27.5	当館	後期
141	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』9.炉辺	1896-99	リトグラフ	34.5×27.5	当館	後期
142	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』11.洋菓子店	1896-99	リトグラフ	36.0×27.7	当館	後期
143	エドゥアール・ヴエイヤール	版画集『風景と室内』13.義理の姉妹	1896-99	リトグラフ	35.5×28.5	当館	後期
144	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』1. 海辺の人々	1900頃	カラーリトグラフ、紙	23.5×41.0	岐阜県美術館	前期
145	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』2. 風景の中の赤いドレスの婦人	1900頃	カラーリトグラフ、紙	23.5×35.3	岐阜県美術館	前期
146	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』3. 縞模様のドレスの婦人	1900頃	カラーリトグラフ、紙	21.4×32.5	岐阜県美術館	後期
147	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』4. 水浴する女たち	1900頃	カラーリトグラフ、紙	25.3×41.8	岐阜県美術館	前期
148	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』5. ニンフのそばで戯れるキュービッドたち	1900頃	カラーリトグラフ、紙	21.0×33.7	岐阜県美術館	後期
149	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』6. 田園の女たち	1900頃	カラーリトグラフ、紙	23.5×32.5	岐阜県美術館	後期
150	ケル＝グザヴィエ・ルセル	『風景画集』7. 泉	1900頃	カラーリトグラフ、紙	31.5×41.2	岐阜県美術館	後期
151	ポール＝エリー・ランソン	収穫する7人の女性	1895	テンペラ、画布	130.0×287.0	当館	
152	フェリックス・ヴァロトン	エドガー・ポーの肖像	1894	木版	15.9×12.4	当館	前期
153	フェリックス・ヴァロトン	怠惰	1896	木版	20.1×24.0	当館	後期
154	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』1. 扉絵	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	前期
155	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』3. 建築中のエッフェル塔、トロカデロからの眺め	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	前期
156	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』12. パリ祭	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	前期
157	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』16. パッシイ河岸、雨	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	後期
158	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』25. エッフェル塔の中で	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	後期
159	アンリ・リヴィエール	『エッフェル塔36景』26. オステルリッツ橋	1902	リトグラフ	17.0×21.0	当館	後期
160	フェリクス・ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』表紙	1887	リトグラフ	52.0×36.0	当館	前期

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示
161	フェリクス・ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』 かもめ	1887	エッチング	30.7×47.6	当館	前期
162	フェリクス・ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』 驚いた鴨	1887	エッチング	40.0×29.0	当館	前期
163	フェリクス・ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』 葦と小鴨	1887	エッチング	34.5×26.5	当館	後期
164	フェリクス・ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』 つばめ	1887	エッチング	29.0×23.9	当館	後期

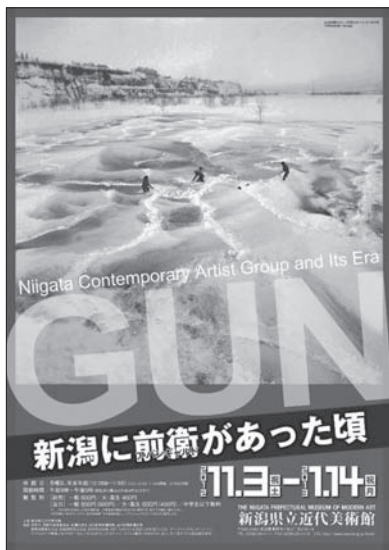
IV 装飾芸術

165	オディロン・ルドン	オリヴィエ・サンセールの屏風	1903	テンペラ、油彩等、カンヴァス	169.0×220.0	岐阜県美術館	
166	ビエール・ボナール	散歩	1895～1897頃	リトグラフ	135.5×46.0等4枚	大阪市立近代美術館建設準備室	後期
167	オーギュスト・ロダン	疲れ	1887頃	大理石	18.5×52.0×24.8	当館	
168	ジョルジュ・ミンヌ	墓所に立てる三人の聖女	1896	木	61.0×47.0×19.5	姫路市立美術館	
169	エミール・ガレ	蘭文花器	1897～1900	ガラス	h34.2×w9.9	ヤマザキマザック美術館	
170	エミール・ガレ	ジャーマンアイリス文花器	1898	ガラス	h36.9×w23.6	ヤマザキマザック美術館	
171	エミール・ガレ	花器〈アルプスのアザミ〉	1900頃	ガラス	h27.0×w20.5	個人蔵(黒壁美術館委託)	
172	エミール・ガレ	オダマキ文花器	1900頃	ガラス	h28.0×w12.5	個人蔵(黒壁美術館委託)	
173	エミール・ガレ	芥子文花器	1900頃	ガラス	h19.8×w9.8	個人蔵(黒壁美術館委託)	
174	エミール・ガレ	花文棚	1900頃	家具	h143×w81.0×d52.0	個人蔵(黒壁美術館委託)	
175	ドーム兄弟	マロニエ文花器	1908頃	ガラス	h41.0×w15.0	個人蔵(黒壁美術館委託)	
176	アルフォンス・ミュシャ	歌劇『ジスモンダ』サラ・ベルナル主演	1894	リトグラフ	216.4×73.4	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
177	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	『ラ・ルヴュ・ブランシュ』誌	1895	リトグラフ	129.4×93.7	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
178	ビエール・ボナール	『ラ・ルヴュ・ブランシュ』誌	1894	リトグラフ	80.8×62.4	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
179	アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド	トロボン	1897	リトグラフ	37.0×27.8	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
180	ヨーゼフ・ルドルフ・ヴィッツェル	『ユーゲント』誌	1896	リトグラフ	70.6×114.2	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
181	ワシリー・カンディンスキー	第1回ファランクス展	1901	リトグラフ	48.8×63.1	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	前期
182	アルフォンス・ミュシャ	花	1900	リトグラフ	51.8×73.5	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
183	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	ムーラン・ルージュ、ラ・グリユ	1891	リトグラフ	95.0×120.8	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
184	エドゥアール・ヴイヤール	ベカン	1894頃	リトグラフ	78.8×60.0	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
185	ヤン・トーロップ	演劇『バンドラ』	1919	リトグラフ	114.2×85.2	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
186	ヨーゼフ・サトラー	『パン』誌	1895	リトグラフ	イメージサイズ33.6×26.2シートサイズ53.8×36.0(余白含)	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
187	ジョルジュ・ド・フル	サロン・デ・サン	1894	リトグラフ	63.6×43.6	サントリーポスターコレクション(大阪市立近代美術館建設準備室寄託)	後期
188	エドワード・コッリー・バーン=ジョーンズ(絵)、ウィリアム・モリス(印刷 他)	『ジェフリー・チョーサー作品集』扉絵、『カンタベリー物語』序章	1896	木版	49.0×37.1×12.6	うらわ美術館	
189	オーブリー・ビアズリー	オスカー・ワイルド作『サロメ』のためのオーブリー・ビアズリー挿絵集 6.黒いケープ	1906	ラインブロック、紙	35.3×28.0×1.4	うらわ美術館	
190	オーブリー・ビアズリー	オスカー・ワイルド作『サロメ』のためのオーブリー・ビアズリー挿絵集 11.ペリヤダンス	1906	ラインブロック、紙	35.3×28.0×1.4	うらわ美術館	
191-1	オーブリー・ビアズリー	『アーサー王の死』第1巻 湖上の麗人、アーサー王に宝剣エクスカリバーのこを告げる	1893	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	
191-2	オーブリー・ビアズリー	『アーサー王の死』第1巻 いかにしてトリストラム卿は愛の媚薬を飲みしか	1893	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	
191-3	オーブリー・ビアズリー	『アーサー王の死』第1巻 トリストラム卿がモルガン・ル・フェから盾を受け取ったこと	1893	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示
192-1	オーブリー・ピアズリー	『アーサー王の死』第2巻 いかにしてランスロット卿はデイム・エレーヌに知られしか	1894	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	
192-2	オーブリー・ピアズリー	『アーサー王の死』第2巻 グウェネヴァー王妃、五月祭に馬を駆る	1894	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	
192-3	オーブリー・ピアズリー	『アーサー王の死』第2巻 悪魔が女の姿にてボーズ卿を誘惑せんとす	1894	ラインブロック、紙	各24.6×20.8×5.1	うらわ美術館	
193	ジョルジュ・ド・フル	夢の扉	1899	エレクトロタイプに 手彩色、木口木版	29.3×22.5×1.3	うらわ美術館	

V 魂の画家たち

194	カルロス・シュヴァーベ	第1回薔薇十字美術展	1892	リトグラフ	177.2×77.7	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	
195	エミール・ファブリ	夜	1892	油彩、布	128.0×61.5	姫路市立美術館	
196	フェルナン・クノップフ	ヴァイオリニスト	1898頃	赤チョーク、紙	24.3×23.0	姫路市立美術館	
197	フェルナン・クノップフ	女性習作	1900頃	鉛筆、色チョーク、 ボード	28.6×28.6	姫路市立美術館	
198	フェルナン・クノップフ	裸体習作	1910頃	パステル、木炭、紙	16.0×35.8	姫路市立美術館	
199	オディロン・ルドン	キマイラ	1889	リトグラフ、紙	13.9×9.7	岐阜県美術館	
200	オディロン・ルドン	王女マレーヌ（小さな聖母）	1892	エッチング、ドライ ポイント、紙	8.8×6.3	岐阜県美術館	
201	グザヴィエ・メルリ	イタリア・ルネサンス	1890-92	鉛筆、グワッシュ、紙	78.0×59.0	姫路市立美術館	
202	ジャン・デルヴィル	茨の冠	1892	チョーク、紙	65.1×51.0	姫路市立美術館	
203	ジャン・デルヴィル	自画像	1896	油彩、画布	47.0×33.0	姫路市立美術館	
204	ジャン・デルヴィル	ジャン・デルヴィル夫人の肖像	1898	クレヨン、紙	54.0×44.0	姫路市立美術館	
205	ジャン・デルヴィル	レテ河の水を飲むダンテ	1919	油彩、布	142.2×177.8	姫路市立美術館	
206	ジャン・デルヴィル	自画像	1896	油彩、画布	47.0×33.0	姫路市立美術館	
207	ヤン・トーロップ	種蒔く人	1895	リトグラフ、紙	21.9×33.3	三重県立美術館	前期
208	ヤン・トーロップ	聖アウグスティヌスの祝福	1915	鉛筆コンテ、パ ステル、紙	76.2×62.9	当館	後期
209	レオン・フレデリック	アッシジの聖フランチェスコ	1902	油彩、画布	115.8×186.4	姫路市立美術館	
210	レオン・フレデリック	春の寓意	1924-25	油彩、布	116.0×201.0	姫路市立美術館	



GUN—新潟に前衛があった頃

【趣 旨】

1967年10月に新潟県長岡市で「前衛美術家集団GUN」が誕生。以降、機関誌の発行、展覧会やシンポジウムの企画、ハプニングなどを積極に行った。特に1970年冬に新潟県十日町で行われた《雪のイメージを変えるイベント》でのドキュメント画像は全国的に知られ、米国のポール・グッティ美術館で開催された「芸術・反芸術・非芸術」展でも再評価されている。にもかかわらず、GUNは、1975年を最後に組織的な活動を終えることになった。

本展覧会では、GUN結成以前の前衛美術集団誕生に向けた気運の高まりをみせていく時代から、結成と収束、そしてその後の時代までを、当時のオリジナル作品や再制作作品、資料を中心に紹介した。

1960年から1970年代にかけて、日本全国で同時多発的に発生した様々な前衛美術運動が、日本全体の前衛美術活動の一端を担うとともに、その活動が明確に「現代美術」として共有され、認識されていた時代であることを知る機会となった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・これまで紹介されなかった「GUN」について、その結成前から誕生、そして現在につながる美術運動として、初めて系統立てて紹介することができた。
- ・1960～80年代後半にかけての社会的・政治的な時代性の感じられる展示構成となった。
- ・現代美術の専門家等の関心を集め、全国から熱心な来館者が訪れた。

- ・関連イベントは、作家と直接交流できる場となり、どれも好評であった。

●検討課題

- ・系統立てた調査が進まなかったことにより、展覧会の内容にも未消化の部分があったことは否めない。
- ・専門家など偏った層が興味を持つ内容であり、全国的な関心を集めたにもかかわらず、全体の観覧者数は伸びなかった。

【開催日・その他】

＝2012年11月3日（土・祝）～

2013年1月14日（月・祝）（57日間）＝

主 催：新潟県立近代美術館

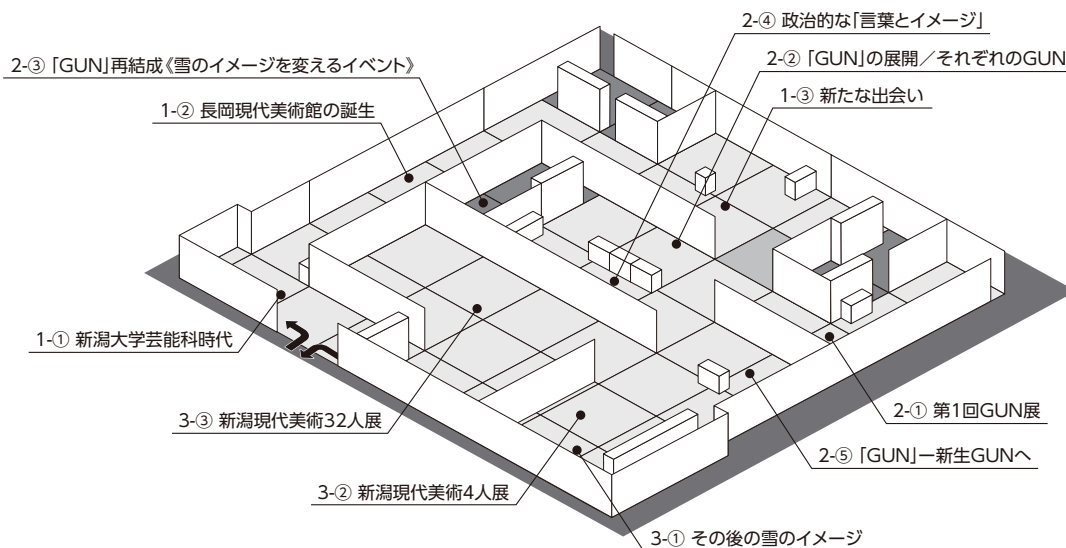
後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………800円（600円）

大学・高校生……………600円（400円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

- ・アーティスト・トーク
 - 11月4日(日) 14:30～ 企画展示室
 - トーク：前山忠氏（美術作家）
 - 参加者数：24名
 - 11月18日(日) 14:30～ 企画展示室
 - トーク：堀川紀夫氏（美術作家）
 - 参加者数：20名
- ・美術鑑賞講座
 - 「新潟現代美術家集団GUNとその時代」
 - 12月15日(土) 14:00～ 講堂
 - 講師：高晟俊
 - （新潟県立万代島美術館主任学芸員）
 - 参加者数：30名
- ・記念シンポジウム
 - 「地方と前衛」
 - 12月8日(土) 14:30～ ギャラリー
 - パネリスト：
 - 塩田純一氏（新潟市美術館長）
 - 丹治嘉彦氏（新潟大学教授）
 - 富井玲子氏（美術史家・翻訳家）
 - 前山忠氏（美術作家）
 - 堀川紀夫氏（美術作家）
 - 司会：藤田裕彦（当館学芸課長）
 - 参加者数：49名



【図録】

仕様：B5判 本文92頁
 編集：藤田裕彦、宮下東子
 発行：新潟県立近代美術館
 内容：ごあいさつ

謝辞

〈GUN〉における国際的同時性—新潟、日本、グローバルに考える／富井玲子
 〈GUN〉の特殊性とその変質／藤田裕彦
 グループ〈GUN〉がデビューするまで—日本地方都市の「前衛」／高晟俊

第1部 〈GUN〉結成以前

- 1-① 新潟大学芸能科時代
- 1-② 長岡現代美術館の誕生
- 1-③ 新たな出会い—糸魚川市展、グループ〈幻触〉と石子順造、ルナミ画廊、シロタ画廊

第2部 〈GUN〉結成

- 2-① 第1回〈GUN〉展
- 2-② 〈GUN〉の展開／それぞれの〈GUN〉
- 2-③ 〈GUN〉再結成《雪のイメージを変えるイベント》
- 2-④ 〈GUN〉政治的な「言葉とイメージ」
- 2-⑤ 〈GUN〉—新生〈GUN〉へ

第3部 〈GUN〉を超えて—〈GUN〉の収束とその後の〈GUN〉

資料編

新潟現代美術家集団GUNのあゆみ
 作家略歴
 出品作品リスト

【関連記事】

●新聞

- 12月12日(水) 朝日新聞
大地に根ざすリリシズム／大西
若人（朝日新聞編集委員）
- 12月14日(金) 新潟日報
文化欄「GUN—新潟に前衛が
あった頃」展に寄せて／藤田裕
彦（当館学芸課長）
- 1月10日(木) 読売新聞
新潟の前衛を照らす／高野清見
- 2月1日(金) 新潟日報（共同通信）
見聞録 地方から最先端発信／
福住廉（美術評論家）

その他 新潟日報（12/4(火)）
栃尾タイムス（11/5(月)）

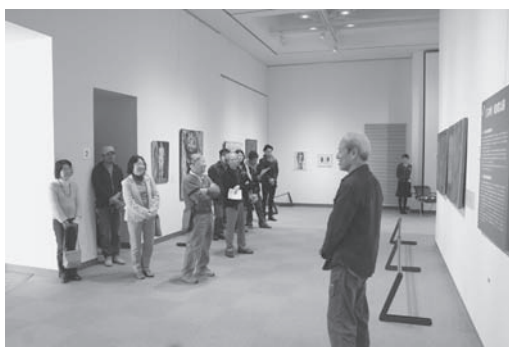
●雑誌

- 2012年12月 マイ・スキップvol.143
GUN新潟に前衛があった頃／
前山忠（美術作家）
- 2013年2月 マイ・スキップvol.145
“GUN—新潟に前衛があった
頃”展を観て／石原洋二郎

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,394
	前売	25
無料観覧者数	無料	1,598
	免除	327
総観覧者数		3,344
有料率（％）		42.4

担当 藤田裕彦、宮下東子、松矢国憲、佐藤久美子、
荒井直美、伊澤朋美



【出品リスト】

第1部 GUN結成以前

1-① 新潟大学芸術科時代

No.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	寸法 (縦×横×奥行きcm)	備考	所蔵先
1	前山 忠	建物Ⅰ	1964	油彩、木製パネル	91.0×116.7		
2	前山 忠	建物Ⅲ	1964	油彩、木製パネル	91.0×116.7		
3	前山 忠	ジンマシン	1965	油彩、木製パネル	130.3×89.4		
4	前山 忠	裸婦	1966	油彩、キャンバス	73×75		
5	堀川 紀夫	裸婦素描	c1966	クレヨン、紙	56.5×44.5		
6	堀川 紀夫	悲しき群衆	1966	油彩、キャンバス	119×82		
7	堀川 紀夫	ゴロタムシ	1967	クレヨン、紙	36.5×44		
8	堀川 紀夫	Ceremony		油彩、キャンバス	119×93		

1-② 長岡現代美術館の誕生

資料 1	長岡現代美術館外壁写真						
資料 2	長岡現代美術館看板 他、資料						当館
9	アンディ・ウォーホル	16のジャッキーの肖像	1963	アクリル、キャンバス	204.8×164.0		いわき市立美術館
10	ジェームズ・ローゼンクイスト	成長計画	1966	油彩、キャンバス	178.0×356.0		いわき市立美術館
11	アレックス・カッツ	ドンとサンドラ	1967	油彩、キャンバス	183.2×124.0		いわき市立美術館
資料 3	現代アメリカ絵画展パンフレット						
12	前田常作	人間誕生No.6	1963	油彩、キャンバス	160.7×389.9		当館
13	吉村益信	クィーン・セミラミス	1966	ミクストメディア	200.0×50.0×121.0		駒形十吉記念美術館 (当館寄託)
14	山口勝弘	作品	1967	ミクストメディア	150.0×300.0×164.0		駒形十吉記念美術館 (当館寄託)

1-③ 新たな出会い—糸魚川市展、グループ「幻蝕」と石子順造、ルナミ画廊、シロタ画廊

15	中西夏之	作品	1964	油彩、キャンバス	190.0×240.0		駒形十吉記念美術館 (当館寄託)
16	岡本太郎	顔	1965	油彩、アクリル、キャンバス	180.0×226.0		当館
17	菅井汲	ナショナルルート No.12	1964	油彩、キャンバス	205.0×154.5		当館
18	前田常作	形而上の空間 (空)	1966	油彩、キャンバス	227.0×162.0		駒形十吉記念美術館 (当館寄託)
19	加納光於	Soldered Blue	1964	カラー・メタルプリント	72.0×54.0		駒形十吉記念美術館 (当館寄託)
20	前山忠	ジンマシン	1965	油彩、キャンバス	100.0×80.3		
21	前山忠	観念の漂白 (2点組のうち1点)	1967	鏡	46×30×4		
22	堀川 紀夫	SPACE	1968/2012	木材、水性蛍光塗料、ゴム		再制作	
資料 4	現代美術 1-10号						
23	鈴木慶則	高橋由一風鮭	1966	油彩、和紙、合板	136×47		千葉市美術館
24	鈴木慶則	非在のタブロー 梱包されたオダリスク	1967	ミクストメディア (キャンバス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5		静岡県立美術館
25	前田守一	遠近のものさし	1967	塗料、プラスチック	89×139.3×29		静岡県立美術館
26	前田守一	遠近のものさし (折り尺)	1967	塗料、プラスチック	65.7×49.3×3.8 (広げた状態)		静岡県立美術館
27	飯田昭二	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0×50.1		静岡県立美術館
28	小池一誠	No.1 石	1969	石	約130×110×40 (展示した状態で)		静岡県立美術館
29	前山忠	赤いジンマシン	1966	油彩、キャンバス、セロファン	100.0×80.3		
30	前山忠	赤いジンマシン	1966	油彩、キャンバス、セロファン	41.0×31.8		
31	前山忠	(タイトル不明)	1967	鏡、ガラス、ラッカー、カービング	18.5×15×4.8		
32	前山忠	MIRROR IN MIRROR	1968	鏡、ブラックライト、カービング	50×61×10		
33	前山忠	MIRROR IN MIRROR	1968	鏡、ブラックライト、カービング	50×61×10		

第2部 「GUN」 結成

2-① 第1回「GUN」展

No.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	寸法 (縦×横×奥行cm)	備考	所蔵先
資料 5	GUN発言誌						
資料 6	GUN作品集		1969.12				
資料 7	資料 GUNのポスター5点						
34	前山忠	観念の漂白	1967/2012	鏡、カービング	40×40×65	再制作	
35	前山忠	UNTITLED	1967	鏡、カービング	43×43×8	参考作品	
36	堀川紀夫	Ceremony 12-15	1967	ポリエステル樹脂			
37	近藤直行	発掘された祈りC	1967	油彩、キャンバス	132.5×164.2	参考作品	当館
38	堀川紀夫	収束	1968	鏡面ステンレス	183×28×26		
39	堀川紀夫	日記-出発1968.4.1	1968	キャンバス地、ポタン	53×85×13		
40	鈴木力	中世の街 (カンボ広場シエナ)	1989	岩絵具、膠、キャンバス	72.0×116.0	参考作品	当館
資料 8	GUN記録写真	石膏のアグリッパを壊す					
資料 9	GUN記録写真	GUNマント					
資料 10	GUN記録写真	古町アーケード街頭ハプニング					
資料 11	GUN記録写真	花見会場でハプニング (高田公園)					
資料 12	GUN展パンフレット						

2-② 「GUN」の展開／それぞれの「GUN」

資料 13	前田常作が参加したハプニング						
資料 14	前山忠	無の計量-可逆的な距離	1969	メジャー		写真展示	
資料 15	前山忠	無の計量-地熱	1969	温度計		写真展示	
41	前山忠	無への解放	1969	パネ (鉄)	500×10×10		
42	前山忠	無への解放	1969	パネ (鉄)	90×16×16		
43	前山忠	「芸術の死」葬儀礼状	1969	はがき			
44	堀川紀夫	The Nakanomata River Plan	1969/1972	石、荷札、針金			
45	堀川紀夫	The Shinano River Plan	1969	石、荷札、針金			
46	堀川紀夫	The Shinano River Plan	1969	石、荷札、針金			
47	堀川紀夫	The Shinano River Plan	1969/2011	石、荷札、ステンレス線			
資料 16	ニクソンに石を送った際の郵便局の受領証						
資料 17	ニクソンからの礼状						
資料 18	赤塚行雄からの領収証						
資料 19	赤塚行雄からの領収証 信濃川宛て						
資料 20	東京ビエンナーレ「物質と人間」展の写真						
48	未納料金葉書			はがき			
49	前山忠	両面年賀状	1970	はがき			
資料 21	長野郵政監察局より		1970	はがき、封筒、文書			
資料 22	作家	メールアート	1970	はがき			
資料 23	前山忠	メールアート	1970	はがき			
資料 24	生徒作品	メールアート	1970	はがき			
50	市橋哲夫	FLOATING 70-2	1970	油彩、キャンバス			
51	市橋哲夫	ふりむかないヴィーナス	1971	油彩、キャンバス			

2-③ 「GUN」再結成《雪のイメージを変えるイベント》

資料 25	GUN	雪のイメージを変えるイベント	1970				東京都現代美術館
資料 26	GUN	雪のイメージを変えるイベント	1970	写真映像27点、スケッチ映像3点		プロジェクトでスライド映写	

2-④ 政治的な「言葉とイメージ」

52	GUN	反戦旗	1970	布、シルクスクリーン	98×48		
資料 27	GUN	GUN旗背にパフォーマンス	1970				
53	前山忠	反戦旗	1970	布	各142×200		
54	前山忠	反戦ステッカー (4種)	1971	ビニール、シルクスクリーン	各4×7		
資料 28	びえろた 4月号		1971				
55	堀川紀夫	零円切手シリーズ	1971	切手シート			
56	堀川紀夫	日本列島改悪論者像	1972	美術手帖掲載			
57	堀川紀夫	考現学 (4点)	1972	リトグラフ			
58	関根哲男	hi-Gun	1971	たばこパッケージ			
59	佐藤秀治	平和日本賞		紙、リボン			
資料 29	佐藤秀治	夜蛾の舞	1972.8				
60	前山忠	高貴な紋	1978	シルクスクリーン	21×30		

2-⑤ 「GUN」—新生「GUN」へ

No.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	寸法（縦×横×奥行cm）	備考	所蔵先
「眠り込むな」展							
資料 30	「眠り込むな」展ポスター						
資料 31	前山忠	再びベトナムへ	1973			写真展示	
61	前山忠	美しい日本の私	1973	布	70×96		
62	北村克躬	マス・コミ	1973	新聞紙、金網			
63	関根哲男	群（GUN）	1973	油彩、木製パネル	275×183.5		
資料 32	佐藤秀治	window	1973			写真展示	
資料 33	佐藤秀治	wood	1973			写真展示	
資料 34	佐藤秀治	樹木の存在	1973			写真展示	
資料 35	佐藤秀治	記憶のための画像の消滅を記録する行為の記録	1973			写真展示	
資料 36	佐藤秀治	ブルドーザー	1973			写真展示	
発癌性イベント							
資料 37	前山忠	美しい日本の旗	1974			写真展示	
資料 38	堀川紀夫	天皇の見える風景の中で、リンゴをかじる	1974	パフォーマンス		写真展示	
64	関根哲男	畏	1974	ねすみとり46個			
GUN IVENT TOURの記録							
資料 39	GUN	柏崎—十日町—松代—松之山	1975				
資料 40	GUN	石と遊ぶ	1975				
資料 41	GUN	柏崎市青海川海岸	1975				
資料 42	GUN	白根山頂	1975				

第3部 「GUN」を超えて—「GUN」の収束とその後の「GUN」

①その後の雪のイメージ

65	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	98×58		
66	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	117×101		
67	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	117×101.5		
68	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	117×101		当館

②新潟現代美術4人展

69	前山忠	SPACE-1	1986	鏡、カービング	90×90		
70	前山忠	SPACE-2	1986	鏡、カービング	90×90		
71	前山忠	SPACE-5	1986	鏡、カービング	90×90		
72	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	101×117		
73	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	58×98		
74	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	98×98		
75	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	102×102		
76	関根哲男	無題					
77	関根哲男	水切	1986				
78	佐藤秀治	孤独の代償			90×90		
79	佐藤秀治	黄金の食卓			90×90		
80	佐藤秀治	生成の条件	1986/1988				
81	佐藤秀治	呼吸する大地	1986/1988				

④新潟現代美術32人展

82	猪爪彦一	仮面	1987	油彩、キャンバス	194.0×162.0		
83	北村克躬	作品（2点組）	1987	油彩、キャンバス	各45.5×53.0		
84	佐藤昭久	無題	1987.8	油彩、不定形キャンバス（ボード、ベニヤ、布）	165.0×260.0		
85	佐藤秀治	聖体拝受（心眼接客）	1987/1988		191×122		
86	佐藤秀治	戦法原点	1987/1988		191×122	参考作品	
87	霜島健二	追憶	1987				
88	関根哲男	無題	1987	丸太			
89	舟見俊二	The series of space '86A	1986	シルクスクリーンプリント	195×65		
90	舟見俊二	The series of space '86B	1986	シルクスクリーンプリント	195×65		
91	星野健司	パイロンⅦ	1987	コールドテン鋼	45×45×201		
92	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代	写真	102×102		
93	前山忠	MIRROR CUT -1	1987	鏡、カービング	77×54		Studio zero
94	前山忠	MIRROR CUT -2	1987	鏡、カービング	77×54		Studio zero
95	真島若桜	シリーズ ハサミ	1987/1988		各182.5×91		
96	三上祥司	発芽する石たち	1987	流木、石、ボンド			



東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華

【趣 旨】

1983年に開館した東京富士美術館は、古今東西の絵画や彫刻・工芸、写真など、約30,000点の所蔵品を誇る。本展では、多岐にわたる同館コレクションのなかから横山大観・竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園・鍋木清方など近代日本画を代表する画家たちの作品約60点を展示し、併せて日本画の源流とも位置づけられる葛飾北斎・歌川広重らの浮世絵、谷文晁らの文人画など、江戸絵画約20点を紹介した。山水画・花鳥画・美人画など多彩なジャンルの作品に触れ、日本の四季の美を感じてもらう展覧会とした。

【総 括】

●評価すべき点

- ・年度を跨いで展覧会期を設定したため、春季展ながら予算案通過のタイミングに関わらず広報を開始できた点がよかった。
- ・掛幅をアクリルカバーによって展示し、作品を間近に鑑賞できるようにしたことが好評であり、この展示方法は今後も生かせると思う。
- ・ジャンル別の展示構成、わかり易い解説キャプション、休憩用ソファを多めにするなど、来場者への配慮にも評価の声が多かった。

●検討課題

- ・ターゲットとして設定した中高年が主要な来場者層となったが、印刷物のデザインによって企画したより若年層の取り込みについては、具体的な効果は上げられなかった。
- ・来場者の満足度（大変満足・まあまあ満足）は9割超とはならず、今後の企画展選定において

は作品や企画の質について、より厳しく吟味する必要がある。

【開催日・その他】

＝2013年3月16日(土)～5月8日(水) (47日間)＝

主 催：近代日本画の精華展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日報社、NST

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

協 力：東京富士美術館、新潟日報美術振興財団

企画協力：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

観覧料：一般……………1,000円 (800円)

大学・高校生……………800円 (600円)

※中学生以下無料

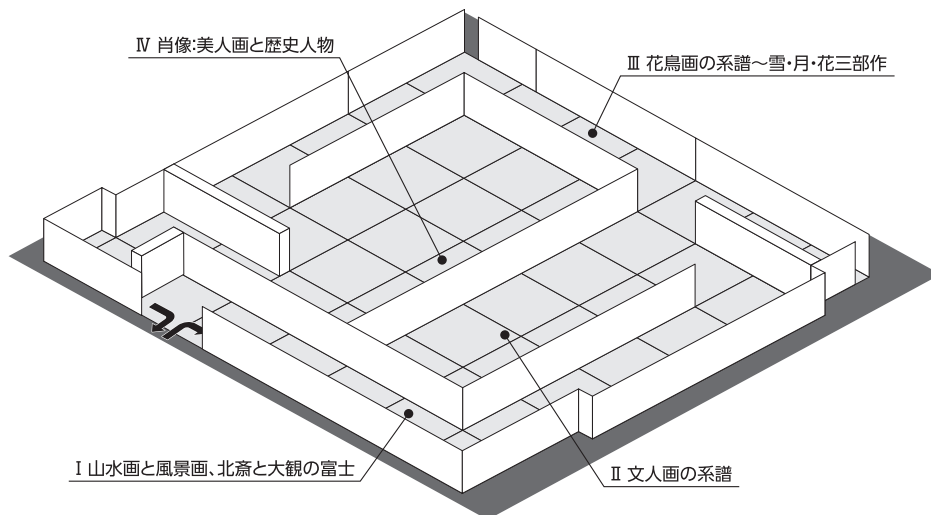
※（ ）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

・作品解説会

3月17日(日) / 3月24日(日) / 3月31日(日)
14:00～

参加者数：25名/20名/30名



【図 録】

仕 様：20.0×22.3cm 本文103頁
 編 集：アート・ベンチャー・オフィス ショウ
 発 行：アート・ベンチャー・オフィス ショウ
 内 容：ごあいさつ
 謝辞
 「近代日本画の精華」展によせて／野口玲一
 図版
 I 山水画と風景画、北斎と大観の富士
 II 文人画の系譜
 III 花鳥画の系譜～雪・月・花三部作
 IV 肖像：美人と歴史人物
 東京富士美術館紹介
 作家年表
 作家略歴
 出品目録

【観覧者数】

※3/16～3/31

有料観覧者数	当日	2,452
	前売	775
無料観覧者数	無料	601
	免除	213
総観覧者数		4,041
有料率 (%)		79.9

担当 長嶋圭哉、宮下東子

【関連記事】

●新聞

3月3日 新潟日報
 「近代日本画の精華」展 16日開幕
 (特集記事)
 その他 新潟日報
 (2/26、3/16)
 栃尾タイムス (3/25)

〈連載〉

・新潟日報「近代日本画の精華」(作品紹介／10回)
 3/13～16、3/19～20、3/22～23、
 3/26～27



【出品リスト】

Ⅰ 山水画と風景画、北斎と大観の富士						
No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	形状	展示期間
1	葛飾北斎	富嶽三十六景 東海道金谷ノ不二	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	前期
2	葛飾北斎	富嶽三十六景 山下白雨	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	前期
3	葛飾北斎	富嶽三十六景 諸人登山	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	前期
4	葛飾北斎	富嶽三十六景 駿州江尻	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	前期
5	葛飾北斎	富嶽三十六景 礪川雪ノ且	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	後期
6	葛飾北斎	富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	後期
7	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	後期
8	葛飾北斎	富嶽三十六景 甲州石班澤	天保元-天保3年（1830-32）頃	多色刷木版	額装	後期
9	歌川広重	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	安政4年（1857）	多色刷木版	額装	後期
10	歌川広重	名所江戸百景 亀戸梅屋舗	安政4年（1857）	多色刷木版	額装	前期
11	橋本雅邦	桜花紅葉山水図	明治26年（1893）頃	絹本彩色	軸装・双幅	
12	橋本雅邦	四季山水図	明治30年代	紙本墨画淡彩	画帖	
13	橋本雅邦	山水図	明治31年（1898）頃	紙本墨画	六曲一双屏風	
14	橋本雅邦	三保松原図	明治35年（1902）頃	絹本墨画淡彩	軸装	
15	橋本雅邦	富士図	明治36年（1903）	絹本墨画淡彩	軸装	
16	横山大観	漁翁	大正2年（1913）	絹本彩色	軸装	
17	横山大観	旭日	昭和2年（1927）	紙本彩色	軸装	
18	横山大観	白雲春恋	昭和14年（1939）	紙本墨画	額装	
19	横山大観	神嶽不二山	昭和15年（1940）	紙本彩色	軸装	
20	横山大観	神洲第一峰	昭和28年（1953）	絹本彩色	軸装	
21	横山大観	聳砂丘（砂丘に聳ゆ）	昭和31年（1956）	絹本彩色	軸装	
22	下村観山	雲来	大正期	絹本彩色	軸装	
23	川合玉堂	江村秋霽	大正2年（1913）	絹本彩色	軸装	
24	川合玉堂	山家早春	昭和17年（1942）	絹本彩色	軸装	
25	川合玉堂	鵜飼	昭和29年（1954）	紙本彩色	額装	
26	菱田春草	帰漁	明治34年（1901）	絹本彩色	軸装	
27	橋本関雪	春秋山水図	昭和期	絹本彩色	六曲一双屏風	
28	村上華岳	松並木円窓図	昭和期	紙本墨画	軸装	
Ⅱ 文人画の系譜						
29	中林竹洞	嵐山春景図	江戸後期	絹本彩色	軸装	
30	山本梅逸	四季花鳥図	嘉永3年（1850）	絹本彩色	軸装	
31	小田海僊	梅花双禽図	江戸後期	紙本彩色	軸装	
32	谷文晁	青緑山水図	文政5年（1822）	絹本彩色	軸装	
33	椿椿山	富貴花鳥図	弘化5年（1848）	絹本彩色	軸装	
34	中林竹溪	暁野双馬図	万延元年（1860）	絹本彩色	軸装	
35	滝和亭	藤花小禽図	明治33年（1900）	絹本彩色	軸装	
36	奥原晴湖	深天上按図	明治2年（1869）	絹本彩色	軸装	
37	小室翠雲	山水図	昭和期	絹本彩色	六曲一隻屏風	
38	松林桂月	秋景山水図	大正7年（1918）	絹本彩色	軸装	
39	松林桂月	草花紫蟹	昭和5年（1930）	絹本彩色	軸装	
40	富田溪仙	蓬萊山図	大正15年（1926）	絹本彩色	軸装	
Ⅲ 花鳥画の系譜～雪・月・花三部作						
41	松村景文	草花小禽図屏風	江戸後期	紙本金地彩色	六曲一隻屏風	
42	柴田是真	新春若松	明治期	絹本彩色	軸装	
43	酒井道一	四季流水扇面散図	明治期	紙本金地彩色	二曲一隻屏風	
44	渡辺省亭	糸桜に双雉之図	大正期	絹本彩色	軸装	
45	竹内栖鳳	獅子	明治34～35年（1901～02）	紙本金地彩色	六曲一双屏風	
46	横山大観	春秋	明治42年（1909）	紙本彩色	六曲一双屏風	
47	横山大観	秋意	昭和30年（1955）頃	絹本彩色	軸装	
48	横山大観	夜桜（花）	昭和27年（1952）	絹本彩色	軸装（三幅対のうち）	
49	川合玉堂	叭々鳥図	昭和期	紙本墨画	軸装	
50	川合玉堂	朝雪（雪）	昭和27年（1952）	絹本彩色	軸装（三幅対のうち）	
51	菱田春草	春秋の滝	明治42年（1909）	絹本彩色	軸装・双幅	
52	橋本関雪	満潮	昭和18年（1943）頃	紙本彩色	軸装	
53	小林古径	兎図	昭和期	紙本彩色	軸装	
54	小林古径	燕子花	昭和10年（1935）頃	絹本彩色	軸装	
55	小林古径	八仙花	昭和12年（1937）頃	絹本彩色	軸装	
56	川端龍子	池心（月）	昭和27年（1952）	絹本彩色	軸装（三幅対のうち）	
57	土田麦僊	紅葉小禽	不詳	絹本彩色	軸装	
58	榊原紫峰	桜花小禽図	大正12年（1923）頃	絹本彩色	軸装	

No	作家名	作品名	制作年	素材・技法	形状	展示期間
59	堅山南風	涼宵	昭和20年（1945）	絹本彩色	軸装	
60	福田平八郎	春光	昭和17年（1942）頃	絹本彩色	額装	
61	宇田荻邨	青梅双鳥図	昭和期	紙本彩色	軸装	

Ⅳ 肖像：美人と歴史人物

62	歌川国貞〔三代豊国〕	宵祭当勢姿 鉄棒引たの	文久2年（1862）	多色刷木版	額装	前期
63	歌川国貞〔三代豊国〕	鞭を持つ若衆	弘化元年（1844）頃	多色刷木版	額装	前期
64	菊川英山	文読美人図	弘化2年（1845）	多色刷木版	額装	後期
65	歌川国芳	英雄大倭十二士 佐々木三郎盛綱	安政元年（1854）	多色刷木版	額装	前期
66	歌川国芳	英雄大倭十二士 楠河内判官正成	安政元年（1854）	多色刷木版	額装	後期
67	久保田米僊	児島高德像	明治期	絹本彩色	軸装	
68	上村松園	菊寿	昭和14年（1939）	絹本彩色	軸装	
69	上村松園	美人観書	昭和16年（1941）頃	絹本彩色	軸装	
70	木村武山	林和靖	昭和期	絹本彩色	軸装	
71	伊藤小坡	春のおとずれ	昭和期	絹本彩色	軸装	
72	伊藤小坡	早春	昭和期	絹本彩色	軸装	
73	伊藤小坡	虫売り	不詳	絹本彩色	軸装	
74	簗木清方	三保の天人 竜宮の乙姫	大正9年（1920）	絹本彩色	軸装・双幅	
75	簗木清方	秋の色種	昭和3年（1928）	絹本彩色	軸装	
76	簗木清方	朗羅	昭和8年（1933）	絹本彩色	額装	
77	簗木清方	春宵	昭和10年（1935）頃	絹本彩色	軸装	
78	簗木清方	美人四季 新春の粧（春） 山百合（夏） 芳宜の細道（秋） 燈下読書（冬）	昭和25年（1950）	絹本彩色	軸装・四幅対	
79	菊池契月	楠公父子図	昭和18年（1943）	絹本彩色	軸装・双幅	
80	中村岳陵	春興秋思図	大正15年（1926）	絹本彩色	軸装・双幅	
81	伊東深水	蚊帳	昭和初期頃	紙本彩色	軸装	
82	中村大三郎	涼意	不詳	絹本彩色	軸装	
83	立石春美	秤	昭和13年（1938）	絹本彩色	額装	



共 催 展

第67回新潟県美術 展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

県民の日頃の創作活動の発表の場を提供し、併せて新潟県の芸術文化の振興に寄与することを目的に開設され、67回を迎えた。

日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の7部門に、2,933人4182点の応募があり、入賞作品54点、入選作品1,015点が選ばれた。

長岡展では、7部門の県展賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、並びに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示し、7日間で3,194名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2012年6月13日(水)～6月19日(火)＝

主 催：新潟日报社、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越教育委員会、佐渡市教育委員会

後 援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、柏崎市教育委員会、佐渡市、(財)新潟日報美術振興財団

入場料：一般450円、大学生以下無料

審査員：日本画 市原 義之、大野 逸男

洋画 根岸 右司、畠中 優

版画 佐竹 邦子、高垣 秀光

彫刻 池田 政治、小林 豊

工芸 鈴木 丘、森野 泰明

書道 大橋 修一、柳田 純一

写真 荒木 経惟、本多 進次

長岡展作品解説会

6月13日(水) 石丸 雨虹(書道)

関登 美恵(日本画)

倉茂 義隆(写真)

6月14日(木) 池山 阿有(洋画)

浦上 義昭(日本画)

6月15日(金) 荒川 希伊(書道)

今井 厚(洋画)

6月16日(土) 松本 保忠(彫刻)

河面 元(工芸)

村山 徳成(洋画)

6月17日(日) 目黒 煌人(書道)

佐藤 海雲(書道)

6月18日(月) 小川 宏(版画)

渡辺 寿(洋画)

【関連イベント】

長岡展講座

2012年6月14日(木) 13:30～14:30

日本画講座「日本画の歴史と見方」

講 師：浦上 義昭氏(県展運営委員・(財)日本美術院特待)

会 場：新潟県立近代美術館講堂

担当 伊澤朋美

第16回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第16回展では、会員17名による28点、および近代美術館長を始めとする美術館職員3名による6点、長岡市美術協会の賛助作品6点を展示紹介した。賛助作品については、平成16年度、発足10周年にあたる第8回展から、友の会発足当時ご尽力いただいた長岡市美術協会への感謝の意を表して、展示交流の機会としている。

【開催日・その他】

2012年7月10日(火)～7月16日(月・祝)

会 場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主 催：新潟県立美術館友の会、新潟県立近代美術館

入場無料

担当 佐藤和子



第14回亀倉雄策賞澁谷克彦グラフィックデザイン展+JAGDA新人賞2012

【趣 旨】

JAGDA（社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策のコレクションを所蔵する館として、氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展並びに「JAGDA新人賞」受賞作家作品展を継続的に開催している。

日本のグラフィックデザインの最新かつ最良の作品を展示し、広くデザインへの理解と親近感を醸成することを目的とする。

本年度よりこれまでも協力を図ってきた長岡造形大学および社団法人日本グラフィックデザイナー協会と正式に実行委員会を立ち上げ、組織的にも安定した運営を目指した。

展示内容としては亀倉雄策賞第14回受賞作家・澁谷克彦の化粧品会社のイメージポスター「SHISEIDO」シリーズを中心に構成した。ポスターのイメージを立体化した特設のオブジェも展示。また、資生堂創業140周年の節目である本年度より、伝統ある同社PR誌『花椿』のアートディレクターに就任し、同誌のリニューアルを行ったことから、『花椿』バックナンバーも展示、閲覧できるようにした。

併設のJAGDA新人賞2012では受賞作家池澤樹、小野勇介、高谷廉の仕事をプロダクトワークも含めて展示・紹介した。

会期中、デザインフェアに合わせて10月20日には受賞作家によるトークショーを長岡造形大学で行いデザインを志す学生も熱心に耳を傾けていた。

【総 括】

●評価すべき点

- ・チラシを例年より多く制作、また長岡市のデザインフェア期間に会期を設定することで広報・集客効果を上げることができた。
- ・実行委員会形式の導入や、デザインフェアとの連携など運営上の改善を行った。

●検討課題

- ・春に行った企画展「亀倉雄策賞の作家たち」との連携が不十分であった。
- ・出品作家のグッズ販売を希望する声が多かった。
- ・実行委員会内の役割分担など見直しが必要である。

【開催日・その他】

2012年10月18日(木)～10月28日(日)（10日間）

会 場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主 催：亀倉雄策賞展実行委員会（新潟県立近代美術館、長岡造形大学、社団法人日本グラ

第43回新潟県ジュニア 美術展覧会長岡展

フィックデザイナー協会)

協力：長岡デザインフェア2012実行委員会、新潟県立美術館友の会、株式会社資生堂、クリエイションギャラリーG8、株式会社葵プロモーション、株式会社タケナカ、酒向桂輔（CG制作）、河野博（立体制作）、植草力也、三浦遊、亀倉雄策賞事務局

入場無料

【関連イベント】

開催記念トークイベント

2012年10月20日(土) 14:00～(開場13:30～)

会場：長岡造形大学 円型講義室(定員150名・参加費無料・申込不要)

トーク：JAGDA新人賞トーク(池澤樹・小野勇介・高谷廉)

亀倉雄策賞トーク(澁谷克彦)

参加者数：150名

担当 荒井直美

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、43年間継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内713の幼稚園・保育園、小・中学校、特別支援学校等から35,244点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、柏崎市、長岡市、上越市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に3,018名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

新潟展 2012年11月24日(土)～12月6日(木)
(新潟県民会館ギャラリー)

柏崎展 2013年1月10日(木)～1月15日(火)
(柏崎市ソフィアセンター)

長岡展 2013年1月24日(木)～2月3日(日)
(新潟県立近代美術館)

上越展 2013年2月7日(木)～2月12日(火)
上越市民プラザにて

主催：新潟日报社・新潟県教育委員会・新潟県立近代美術館・新潟県美術教育連盟・新潟市教育委員会・長岡市教育委員会・上越市教育委員会・柏崎市

後援：新潟日報美術振興財団

入場無料

審査員 幼稚園・保育園(3～5歳)

戸潤幸夫(新潟県立大学教授)

小学校1年

高須賀昌志(埼玉大学教授)

小学校2年

橋本光明(信州大学名誉教授)

小学校3年

辻 政博(前東京都図画工作研究会会長)

小学校4年

佐藤哲夫(新潟大学教授)

小学校5年

相田隆司(東京学芸大学准教授)

小学校6年

小澤基弘(埼玉大学教授)

中学校1～3年

大泉義一(横浜国立大学准教授)

特別支援学校

磯部洋司(愛知教育大学教授)

担当 佐藤久美子

長岡造形大学2012年度

こどもものづくり大学校作品展覧会～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりのよろこびを体感してもらうことを目的とした、子どもを対象に行われる美術講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし、今年度は156名の子どもが参加した。当館では11月4、18日に、学外ワーク「和紙をベタベタ オブジェをつくろう」を実施した。本展覧会は、年間を通してガラス、陶芸、油彩、木工、クラフト——と、多岐にわたる講座を受講した子どもたちの作品を展示し、こどもものづくり大学校の活動を紹介するものである。今年度は333点の作品が展示され、会期中は、作品を出品した子どもの家族を中心に、1,141名の来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

＝2013年3月16日(金)～3月24日(日)＝

会 場：新潟県立近代美術館ギャラリー

主 催：長岡造形大学

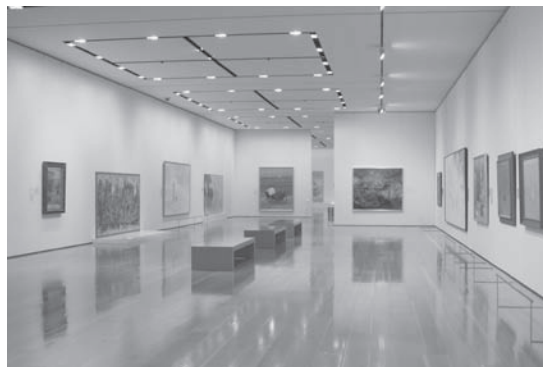
後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、
長 岡 新 聞 社、BSN新 潟 放 送、NST、
TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケー
ブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエム
ラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながお
か80.7

入場無料

担当 伊澤朋美



所蔵品展



異国憧憬～あこがれの風景～

【趣 旨】

新潟県立近代美術館・万代島美術館の所蔵品から、外国の風景や人々の暮らしを表現した作品を取り上げた展覧会。洋画、日本画、工芸を含む約70点を、3つのコーナー（「ヨーロッパの風景と人々の暮らし」、「アジア、南米、アフリカの風景と人々の暮らし」、「まだ見ぬ地と過去へのあこがれ」）に分けて展示、異なる風土や文化に対する画家たちの憧れや驚き、そこから生み出された個性的な表現を紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・「外国の風景」というテーマは、鑑賞者にとって親しみやすく、また、明治以降に日本の作家たちが、異なる風土や文化にどのような刺激を受け、どのように表現に生かしてきたかをたどる上でも意義のある展示となった。
- ・アンケートでは、「描かれた地域別の展示でわかりやすかった」という声や、「県出身作家の作品を多数見られてよかった」、「ゆったりした空間で見やすかった」というような感想が多く、おおむね好評であった。

●検討課題

- ・本展に限らず、所蔵品展においては、様々な視点から作品をとらえることのできるテーマの設定が重要となる。所蔵品のあらたな魅力を来館者に提示できるよう、検討していきたい。

【開催日・その他】

＝2012年4月1日(日)～4月15日(日)（13日間）

※全体会期は3月3日(土)～4月15日(日)

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円（250円）

大学・高校生……………150円（120円）

※中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会

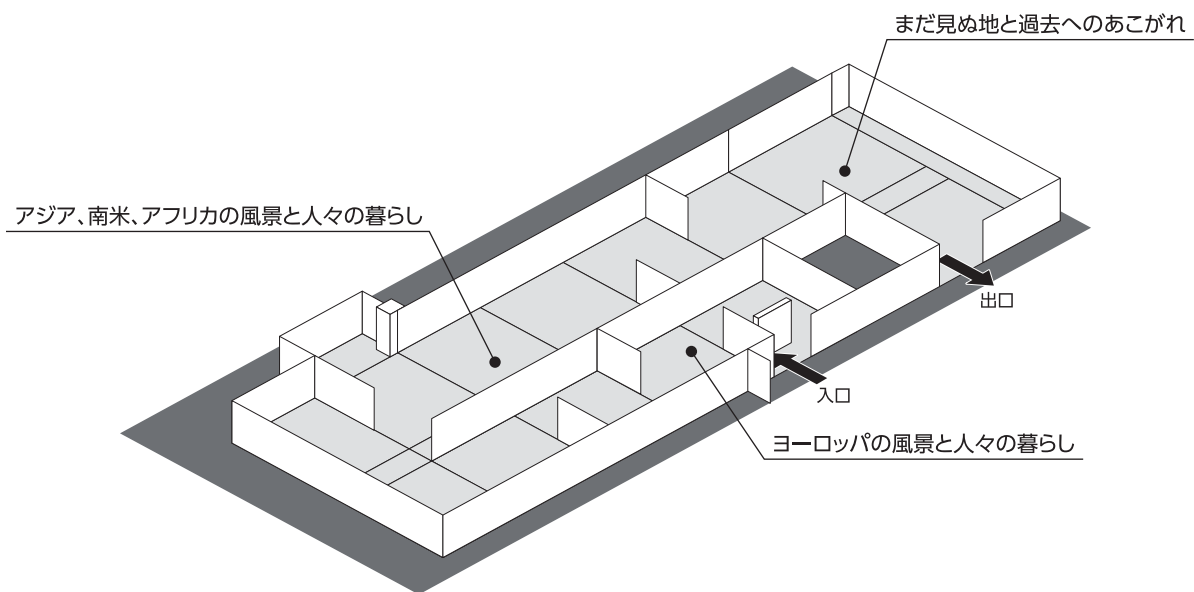
日 時：土・日・祝日 14：00～

（ただし他のイベントがある日を除く。）

場 所：美術館展示室

担 当：当館学芸員

参加者数：のべ51人（4/1～4/15 計5回）



【観覧者数】

※4/1～4/15

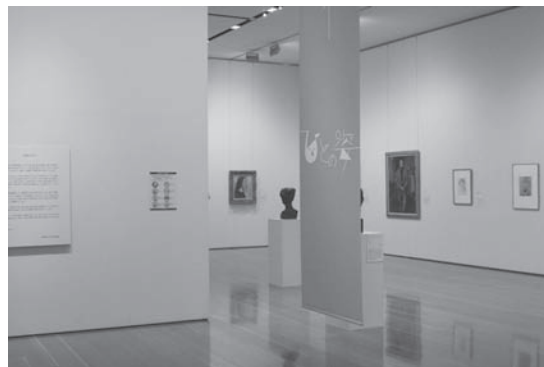
有料観覧者数	当日	714
	前売	—
無料観覧者数	無料	334
	免除	52
総観覧者数		1,100
有料率 (%)		64.9

※全会期

有料観覧者数	当日	2,111
	前売	—
無料観覧者数	無料	589
	免除	127
総観覧者数		2,827
有料率 (%)		74.7

担当 今井 有、桐原 浩

※本展の展示図面及び出品リストは、『新潟県立近代美術館・万代島美術館年報（平成23年度）』を参照のこと。



ひとの姿／人のかたち

【趣 旨】

本展では、所蔵品の中から「ひと」の姿・かたちに関わる表現を広く取り上げ、「ひとの姿」と「人のかたち」の2部構成で紹介した。

第1部「ひとの姿」では、主に肖像、風俗等の具象的表現を中心に取り上げ、「1-1 肖像／自画像」「1-2 異国の生活／身近な暮らし」として展示した。

第2部「人のかたち」では、主に人体モチーフによる構成や抽象的傾向の作品を選んだ。「2-1 人体／裸体」「2-2 顔／表情」「2-3 からだの言葉」として紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・テーマ設定により、幅広い分野から様々な所蔵品を取り上げ、新たな光を当てることができた。例えば自画像が少ない等、内容を検討していく途中で図らずも当館のコレクションの傾向についても再認できた。
- ・広報印刷物の作成では、ジバング展に引き続き、地元のデザイナーに依頼した。親しみやすく、かつ斬新なイメージが案出された。

●検討課題

- ・説得力のあるテーマを設定するには、所蔵品についての深い理解が必要とされる。だが、多忙な業務の中では所蔵品研究は後回しになりがちで、容易に解決できないジレンマを常に抱えている。
- ・ポスター・チラシのデザイン力も、広報力不足を補うには十分な効果を発揮するまでにはいか

なかった。訴求力のある魅力的なテーマ設定と効果的で優れたデザインが相まって初めて、集客に結び付く。ただその絶妙な組み合わせは簡単には実現しない。

【開催日・その他】

＝2013年3月20日（水・祝）～

3月31日（日）（11日間）＝

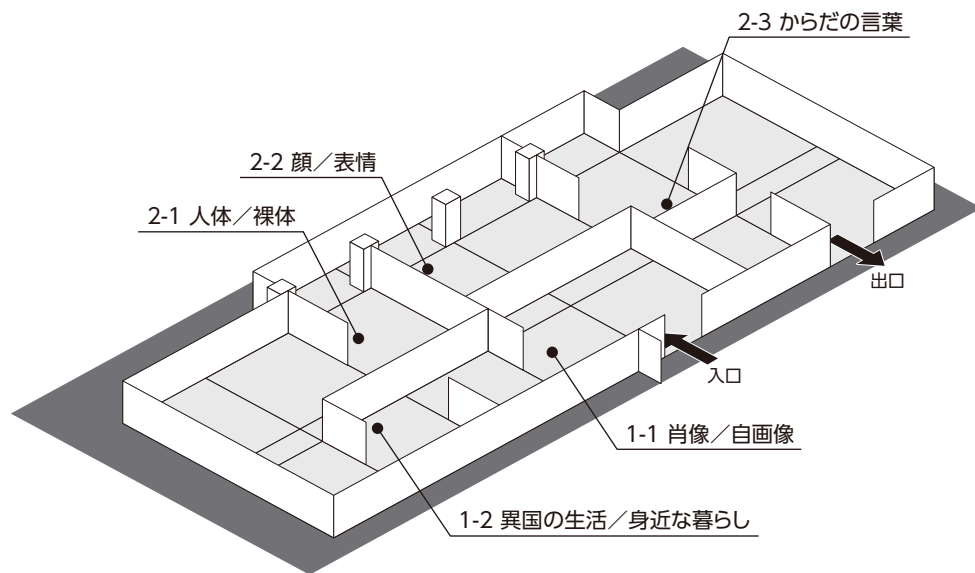
※全体会期は3月20日（水・祝）～5月19日（日）

主 催：新潟県立万代島美術館

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310（250）円
大学・高校生……………150（120）円
※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・作品解説会

日 時：日・祝日 14：00～

(ただし他のイベントがある日を除く)

場 所：美術館展示室

担 当：当館学芸員

参加者数：のべ14人 (3/20～3/31 計3回)

【観覧者数】

※3/20～3/31

有料観覧者数	当日	368
	前売	—
無料観覧者数	無料	98
	免除	33
総観覧者数		499
有料率 (%)		73.7

担当 桐原 浩、飯島千秋、高橋愛美



【出品リスト】

ひとの姿

1-1 肖像／自画像					
No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横cm）
1	ミレイ、ジョン・エヴァレット	アリス・ 그레이の肖像	1859	板、油絵具	22.5×17.5
2	小山 正太郎	婦人	1891	キャンバス、油絵具	25.6×20.5
3	小山 正太郎	男の肖像	制作年不明	キャンバス、油絵具	45.5×33.0
4	佐藤 哲三郎	鍵富三作像	制作年不明	キャンバス、油絵具	80.0×60.0
5	武石 弘三郎	母	1917	ブロンズ	高さ36.0
6	前田 寛治	赤い帽子の女	1925	キャンバス、油絵具	53.5×45.6
7	峰村 リツ子	桜井浜江像	1930	キャンバス、油絵具	116.7×72.7
8	峰村 リツ子	Y氏像	1929	キャンバス、油絵具	91.0×65.2
9	佐藤 哲三	郵便脚夫宮下君	1931	キャンバス、油絵具	87.8×42.2
10	末松 正樹	大工 高野氏の像	1932	紙、鉛筆	32.0×28.5
11	末松 正樹	自画像（1944.9.17）	1944	紙、鉛筆	19.1×25.0
12	國領 経郎	女医さん	1947	キャンバス、油絵具	116×91.0
13	國領 経郎	千原氏像	1948	キャンバス、油絵具	92.0×73.0
14	千野 茂	F嬢	1970	ブロンズ	46.2（高さ）
15	森 芳雄	バレリーナ	1972	キャンバス、油絵具	53.0×45.5
16	木下 晋	101年の胎動	2001	紙、鉛筆	190.0×100.0
17	青葉 益輝	亀倉雄策追悼作品	1998		
18	浅葉 克己	亀倉雄策追悼作品	1998		
19	宇野 亜喜良	亀倉雄策追悼作品	1998		
20	遠藤 亨	亀倉雄策追悼作品	1998		
21	大高 猛	亀倉雄策追悼作品	1998		
22	岡本 滋夫	亀倉雄策追悼作品	1998		
23	片山 利弘	亀倉雄策追悼作品	1998		
24	勝井 三雄	亀倉雄策追悼作品	1998		
25	小島 良平	亀倉雄策追悼作品	1998		
26	サイトウ マコト	亀倉雄策追悼作品	1998		
27	佐藤 晃一	亀倉雄策追悼作品	1998		
28	佐野 寛	亀倉雄策追悼作品	1998		
29	下谷 二助	亀倉雄策追悼作品	1998		
30	田中 一光	亀倉雄策追悼作品	1998		
31	戸田 正寿	亀倉雄策追悼作品	1998		
32	永井 一正	亀倉雄策追悼作品	1998		
33	仲條 正義	亀倉雄策追悼作品	1998		
34	長友 啓典	亀倉雄策追悼作品	1998		
35	中村 誠	亀倉雄策追悼作品	1998		
36	灘本 唯人	亀倉雄策追悼作品	1998		
37	早川 良雄	亀倉雄策追悼作品	1998		
38	福田 繁雄	亀倉雄策追悼作品	1998		
39	細谷 巖	亀倉雄策追悼作品	1998		
40	松永 真	亀倉雄策追悼作品	1998		
41	山本 容子	亀倉雄策追悼作品	1998		
42	横尾 忠則	亀倉雄策追悼作品	1998		
43	横山 明	亀倉雄策追悼作品	1998		
44	五十嵐 威暢	亀倉雄策追悼作品	1998		
45	和田 誠	亀倉雄策追悼作品	1998		
46	ルビ、イタロ	亀倉雄策追悼作品	1998		
47	シュヴィエジ、ヴァルデマル	亀倉雄策追悼作品	1998		
48	マチス、オルガー	亀倉雄策追悼作品	1998		
49	タイクン、カン	亀倉雄策追悼作品	1998		
50	ケイト、ケン	亀倉雄策追悼作品	1998		
51	クワスト、シーモワ	亀倉雄策追悼作品	1998		
52	トマシェフスキ、ヘンリク	亀倉雄策追悼作品	1998		
53	デイヴィス、ポール	亀倉雄策追悼作品	1998		
54	グレイザー、ミルトン	亀倉雄策追悼作品	1998		
55	ドーフスマン、ルウ	亀倉雄策追悼作品	1998		
56	サフカ、ヤン	亀倉雄策追悼作品	1998		
57	ムウオドゼニェツ、ヤン	亀倉雄策追悼作品	1998		

1-2 異国の生活／身近な暮らし

No	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横cm）
58	矢部 友衛	アメリカの農村	1940	キャンバス、油絵具	72.5×91.0
59	三芳 悌吉	ピストロにて	1962	キャンバス、油絵具	72.0×54.0
60	丸山 正三	小さな広場（ch-ミッシェル）	1977	キャンバス、油絵具	130.2×162.0
61	竹谷 富士雄	モンマルトル屋下がり	1978	キャンバス、油絵具	97.5×130.5
62	桑原 実	断絶の子ら	1969	キャンバス、油絵具	130.3×162.3
63	佐善 明	ボブの教え子	1978	キャンバス、油絵具	181.5×181.5
64	中澤 茂	グアテマラの女たち	1969	キャンバス、油絵具	259.0×194.0
65	穂刈 春雄	大河渡る	2002	紙本彩色	219.5×174.5
66	小野 末	タイの僧	1965	キャンバス、油絵具	117.0×80.5
67	竹谷 富士雄	樹下 裏磐梯にて	1944	キャンバス、油絵具	91.0×117.0
68	藤田 熊雄	狩人（またぎ）	1960頃	紙本彩色	141.0×170.0
69	小島 丹彦	待つ	1965	紙本彩色	162.0×212.0
70	富川 潤一	浜焼き	1960	キャンバス、油絵具	130.5×162.0
71	池山 阿有	炉ばた	1993	キャンバス、油絵具	130.8×162.5
72	佐藤 哲三	農村託児所	1934	キャンバス、油絵具	97.0×130.0
73	牧野 虎雄	秋近き濱	1934	キャンバス、油絵具	97.0×163.0
74	安宅 庸雄	鸚鵡と少女	1936	キャンバス、油絵具	116.0×130.0
75	安宅 安五郎	姉弟	193	キャンバス、油絵具	95.5×163.6
76	村上 耕一	街角	1959	キャンバス、油絵具	96.0×130.0
77	宮 芳平	カーテンに	1914頃	キャンバス、油絵具	74.5×53.0
78	安井 曾太郎	読書	1942	キャンバス、油絵具	66.6×55.2
79	荒井 一郎	母と子	1950	キャンバス、油絵具	91.0×73.0
80	長井 亮之	見学	1969	紙本彩色	222.5×177.0
81	三輪 晃久	宛	1974	紙本彩色	176.9×237.6
82	長谷部 権次呂	遊	1991	紙本彩色	220.5×170.0
83	山崎 隆夫	雨	1993	紙本彩色	205.0×170.0
84	米谷 清和	街一朝	1986	紙本彩色	200.0×290.0

人のかたち

2-1 人体／裸体

85	安井 曾太郎	人物	制作年不明	鉛筆、紙	31.8×23.8
86	安井 曾太郎	人物	制作年不明	鉛筆、紙	31.8×23.8
87	高村 真夫	裸婦	1921	キャンバス、油絵具	117.0×91.0
88	北村 四海	空想に耽り居る女	1916	大理石	61.5×30.0×31.0
89	佐藤 哲三郎	裸婦	1930	キャンバス、油絵具	151.5×118.1
90	桑重 儀一	浴する女	制作年不明	キャンバス、油絵具	111.8×131.3
91	矢部 友衛	習作	1920	キャンバス、油絵具	73.5×53.0
92	坂田 一男	椅子に寄る裸婦	1924	キャンバス、油絵具	92.0×60.0
93	満谷 国四郎	裸婦	1923	キャンバス、油絵具	91.0×72.8
94	小出 権重	ソファの裸体B	1930	キャンバス、油絵具	63.8×94.0
95	北川 民次	大地	1939	キャンバス、油絵具	112.0×162.0
96	國領 経郎	遠い海	1987	キャンバス、油絵具	130.0×194.5

2-2 顔／表情

97	ボテロ、フェルナンド	頭像	1989	ブロンズ	26.7×22.7×24.1
98	エルンスト、マックス	鳥＝人頭	1934-35	ブロンズ	52.0×38.0×25.0
99	阿部 展也	太郎	1949	キャンバス、油絵具	80.5×117.0
100	山口 薫	夜明けの顔	1954	キャンバス、油絵具	225.0×181.0
101	篠原 有司男	花魁殺し	1965	キャンバス、油絵具	100.0×80.1
102	岡本 太郎	顔	1965	キャンバス、油絵具	180.0×226.0
103	猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991	キャンバス、油絵具	193.6×162.1
104	倉石 隆	家系譜	1970	キャンバス、油絵具	97.2×194.2
105	郭 徳俊（クワク ドクジュン）	フォードと郭	1975	紙、インク	44.5×34.5

2-3 からだの言葉

106	ノグチ、イサム	女（リシ・ケシュにて）	1956	鋳鉄	35.5×44.0×22.0
107	末松 正樹	作品（1944.10.16）	1944	紙、鉛筆	19.8×26.3
108	末松 正樹	作品（1945.1.17）	1945	紙、鉛筆	19.3×22.0
109	末松 正樹	作品（1945.6.13）	1945	紙、鉛筆	24.0×31.5
110	末松 正樹	作品（1945.2.26）	1945	紙、鉛筆	20.2×24.2
111	末松 正樹	作品（1945.10.15）	1945	紙、鉛筆	27.5×20.6

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横cm）
112	阿部 展也	埋葬	1952	キャンバス、油絵具	73.0×91.0
113	阿部 展也	予言者	1954	キャンバス、油絵具	130.0×97.4
114	阿部 展也	人間	1955	キャンバス、油絵具	116.4×90.5
115	宮田 脩平	トルソ（一対）	1975	ステンレス	各30.0×18.0×9.0
116	原 正樹	プラスのトルソー	1988	真鍮	37.0（高さ）
117	菊畑 茂久馬	植物図鑑（一）	1965	木製パネル、油絵具、プラスチック、木	203.0×134.0×17.0 *
118	三上 誠	灸点輪廻シリーズ	1965	紙、インク、顔料	61.0×26.2
119	前田 常作	人間風景No.13	1960	キャンバス、油絵具	100.0×81.0
120	岡本 信治郎	10人のインディアン ⁽¹⁾ （10点組のうち）	1964	キャンバス、水彩	190.0×130.0 *
121	岡本 信治郎	10人のインディアン ⁽²⁾ （10点組のうち）	1964	キャンバス、水彩	190.0×130.0 *
122	岡本 信治郎	10人のインディアン ⁽³⁾ （10点組のうち）	1964	キャンバス、水彩	190.0×130.0 *
123	村井 正誠	ものうり	1958	キャンバス、油絵具	146.0×113.0
124	桂 ゆき	異邦人	1961	キャンバス、紙、油絵具	202.0×151.5
125	脇田 和	あらそい	1955	キャンバス、油絵具	145.4×112.4
126	倉石 隆	イヴ	1982	キャンバス、油絵具	104.7×202.0
127	柴田 長俊	涅槃西風	1983	紙本彩色	182.0×227.5
128	星野 真吾	消えてゆく	1987	紙本彩色	182.0×121.1
129	上野 泰郎	佳きおとづれ	1992	絹本彩色	180.0×180.0
130	八木 一夫	真珠取りの少女	1969	銅	33.0×20.0×15.5
131	宮崎 進	ナナエツの少女	1996	石膏、油絵具	80.0×32.0×100.0
132	中島 千波	空※2000-9 空即是色	2000	紙本彩色	176.0×705.0
133	小林 正人	画く力	1994	キャンバス、油絵具	220.0×293.0
134	亀倉 雄策	I'm here オリジナルボディ・デザイン オスカー・シュレンマー	1992	紙、印刷	103.0×72.7
135	亀倉 雄策	I'm here オリジナルボディ・デザイン オスカー・シュレンマー	1993	紙、印刷	103.0×72.7
136	亀倉 雄策	I'm here オリジナルボディ・デザイン オスカー・シュレンマー	1994	紙、印刷	103.0×72.7
137	亀倉 雄策	オスカー・シュレンマーへのオマージュ展	1994	紙、印刷	103.0×72.7
138	亀倉 雄策	オスカー・シュレンマーへのオマージュ展	1994	紙、印刷	103.0×72.7
139	亀倉 雄策	オスカー・シュレンマーへのオマージュ展	1994	紙、印刷	103.0×72.7
140	藪内 佐斗司	走る童子	1996	ブロンズ	79.0×46.0×56.0(6体)

※《走る童子》は5月6日まで展示
 ※*印は寄託作品

企 画 展



「スタジオジブリ所蔵」 メアリー・ブレア原画展 人生の選択、母のしごと。

【趣 旨】

メアリー・ブレアは、ディズニー・スタジオで活躍した女性アーティストで、彼女はそのモダンな感覚によってディズニーの世界をまったく新しい境地へと導いた。また、今もディズニーランドで親しまれているアトラクション「イッツ・ア・スモールワールド」のメインデザインはメアリーが担当している。その後もフリーランスのデザイナーとなり、絵本の挿絵やイラストレーション、広告、舞台デザインなど多様な仕事を残している。

当時のアメリカは働く女性には厳しい時代ではあったが、メアリーは責任ある仕事によって輝かしい経歴を築く。のみならず、彼女は常に母としての眼差しを忘れず、家族との時間も大切にしながら、アーティストとして、妻として、そして母としての生涯をまっとうした。

本展では、メアリーが描いた数多くの作品の中からスタジオジブリが所蔵する作品を中心に、母として生きたメアリーに焦点を当てながら、世代を超えて愛されるメアリー・ブレアの魅力を紹介した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・近隣の幼稚園児をオープニングに招待するなど、新たな顧客層の開拓に成功した。
- ・モール教室や読み聞かせコーナーをすることによって、子供たちにとって親しみやすい展覧会となった。

●検討課題

- ・印刷物のデザインに対して制限が多く、集客に効果的な印刷物を制作することができなかつ

た。

- ・年度当初の企画であるため、前年度中に前売券の販売促進をすることができなかった。

【開催日・その他】

＝2012年4月28日(土)～7月8日(日) (68日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、メアリー・ブレア原画展新潟展実行委員会

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 力：スタジオジブリ、ウォルト・ディズニー・アニメーション・リサーチライブラリー、ウォルト・ディズニー・イマジニアリング、ニュートラルコーポレーション、講談社、うさぎ出版

企画制作：吉田企画

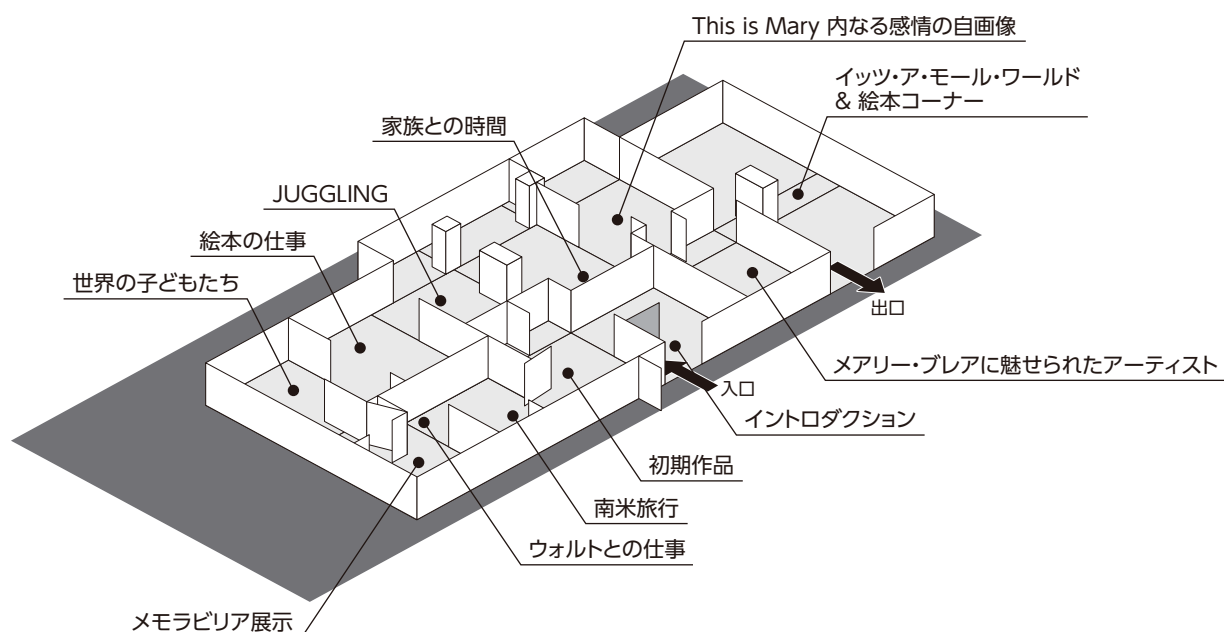
観覧料：一般……………1,000円 (800円) 〈800円〉

大学・高校生……………800円 (600円)

※中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金、

〈 〉 内は前売券料金



【関連行事】

・ワークショップ

かわいい！たのしい！モール手芸教室

講師：なかじまみこ（モールアーティスト）

11：00～/13：00～ 美術館ロビーにて開催

参加者数：4月28日(土)=40名、5月5日(土)=100名、5月19日(土)=70名、6月16日(土)=86名、7月1日(日)=30名

・読み聞かせ

みんなあつまれ！メアリー・ブレアの えほんのじかん

展示室内 絵本コーナー

5月12日(土) 11：00～/13：00～

よみきかせ：栗林紗美氏（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：68名

6月2日(土) 11：00～/13：00～

よみきかせ：堀敏彦氏（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：70名

6月23日(土) 11：00～/13：00～

よみきかせ：大平真理子氏、諸橋碧氏（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：145名

・コンサート

みんなワクワク！魔法のうたごえ

5月26日(土) 14:00～ 美術館ロビー

出演：新潟市ジュニア合唱団

参加者数：100名

・ギャラリートーク+サイン会

6月3日(日) 14:00～ 美術館展示室

トーク：東村アキコ(漫画家)

三好寛（スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館学芸員）

参加者数：270名

・美術鑑賞講座「メアリー・ブレア 魔法の色彩」

6月10日(日) 14:00～ NICOプラザ会議室

（万代島ビル11F）にて

講師：宮下東子（近代美術館学芸課長代理）

参加者数：28名

・開場式・内覧会幼稚園児招待

4月27日(金) 14:00～ 展示室

参加者数：54名（保護者含む）

【図録】

仕様：A4変形 144頁

編集：スタジオジブリ

発行：吉田企画

内容：

はじめに

メアリーの世界へ

メアリー・ブレアという魔法

Memorabilia—思い出の品々

メアリー・ブレア年譜

メアリー・ブレアディズニーの日々

シュイナード美術学院

カリフォルニア・ウォーターカラー

アニメーションの仕事へ

ウォルトとの仕事
世界のこどもたち
ジャグリング—多彩な仕事、家族との時間
This is Mary—内なる感情の自画像
メアリー・ブレアに魅せられたアーティスト
たち
寄稿



【観覧者数】

有料観覧者数	当日	12,141
	前売	3,529
無料観覧者数	無料	9,706
	免除	824
総観覧者数		26,200
有料率（%）		59.8%

担当 高 晟俊、今井 有

【関連記事】

●新聞

6月12日 新潟日報
ディズニーの発展支える一米国の画家M・ブレア／田中千義（スタジオジブリ、イベント事業室）

その他 新潟日報
（4/27、4/30、5/27、6/5）
読売新聞（4/28）
みつけ新聞（4/5）
津南新聞（4/20）

●テレビ

TeNYテレビ新潟 タフワイド新潟一番
（4/27、4/28、5/12、5/25、5/26、6/3、6/10、6/29）

●ラジオ

FM-NIIGATA（4/28、5/17）
FM PORT（5/21）

【出品リスト】

シュイナード美術学院					
No.	作品名	作家名	制作年	技法・素材	所蔵先
1	自画像	メアリー・ブレア	1934	水彩、紙	G
2	習作	メアリー・ブレア	制作年不明	水彩、紙	G
3	アイス・スケーター	メアリー・ブレア	1930年代	水彩、紙	G
4	ソリの二人	メアリー・ブレア	1930年代	水彩、紙	G
5	「海辺のメアリー」スケッチ	リー・ブレア	1930年代	水彩、紙	G
6	双子の姉妹	リー・ブレア	1940年代	油彩、カンバス	G

カリフォルニア・ウォーターカラー					
7	ビーチ・パーティー	メアリー・ブレア	1936	水彩、紙	G
8	カリフォルニアの釣り人	リー・ブレア	1950年代	水彩、紙	G
9	オールド・マンション	リー・ブレア	制作年不明	水彩、紙	G
10	“セイルッシュ”ボート	リー・ブレア	1960年代	水彩、紙	G

アニメーションの仕事へ					
11	サーカス	プレストン・ブレア	制作年不明	木炭・紙	G
12	赤い花	メアリー・ブレア	1940年代	鉛筆、水彩、紙	G
13	裸婦	メアリー・ブレア	制作年不明	鉛筆、水彩、紙	G
14	夜の並木道	メアリー・ブレア	1930年代	木炭、紙	G
15	夜のケーブルカー	メアリー・ブレア	1930年代	ミクスト・メディア	G
16	ファンタジアより「時の踊り」		1940	複製	個人蔵

ウォルトとの仕事					
17	ベイビー・パレエ ストーリー・スケッチ	メアリー・ブレア	1940	グアッシュ、パステル、紙	G
18	南米スケッチ 学生服の子供たち	メアリー・ブレア	1941	水彩、紙	G
19	三人の騎士より「ホセ・キャリオカとブラジルの旅」コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1945	複製	R
20	シンデレラ コンセプトアート	メアリー・ブレア	1950	複製	R
21	シンデレラ コンセプトアート	メアリー・ブレア	1950	グアッシュ、イラストレーション・ボード	個人蔵
22	ふしぎの国のアリス コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1951	グアッシュ、イラストレーション・ボード	個人蔵
23	ふしぎの国のアリス コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1951	複製	R
24	ピーター・パン コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1953	グアッシュ、イラストレーション・ボード	個人蔵
25	ピーター・パン コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1953	グアッシュ、イラストレーション・ボード	個人蔵
26	小さな家 コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1952	グアッシュ、イラストレーション・ボード	個人蔵
27	青い自動車 コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1952	複製	個人蔵

世界の子どもたち					
28	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1966	複製	I
29	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1964	複製	I
30	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1964	複製	I
31	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1964	複製	I
32	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1965	複製	G
33	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1963	複製	I
34	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1968	複製	I
35	イッツ・ア・スモールワールド コンセプト・アート	メアリー・ブレア	1968	複製	I
36	イッツ・ア・スモールワールド コスチューム・スケッチ	アリス・デイヴィス（左と右の絵）	1964	複製	G
37	コンテンボラリー・ホテル 壁画デザイン	メアリー・ブレア	1970	複製	I
38	コンテンボラリー・ホテル 壁画デザイン	メアリー・ブレア	1969	複製	I

ジャグリング					
39	「わたしはとべる」挿絵	ビート・ドクター	1951	複製	G
40	「わたしはとべる」挿絵	ビート・ドクター	1951	複製	G
41	ポリスマン (1)	メアリー・ブレア	制作年不明	グアッシュ、インク、紙	G
42	ポリスマン (2)	メアリー・ブレア	制作年不明	グアッシュ、インク、紙	G
43	アブストラクト・ヘッズ	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
44	バスに乗る人	メアリー・ブレア	1960年代	インク、紙	G
45	ギターと恋人たち	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
46	紫の聖母	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
47	東方の三博士	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
48	トランベット	メアリー・ブレア	制作年不明	インク、紙	G
49	ファイブ・サンタ・バンド	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
50	雑誌・表紙イラスト	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、紙	G
51	雑誌イラスト	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、紙	G

No.	作品名	作家名	制作年	技法・素材	所蔵先
52	雑誌イラスト	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、紙	G
53	アイスクリーム・ガール	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
54	レモネード・ガール	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
55	ゴブレットの人たち	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、パステル、紙	G
56	ココア・ガール	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
57	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
58	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
59	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
60	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
61	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
62	広告イラスト	メアリー・ブレア	1960年代	グアッシュ、紙	G
63	ラベンダー色の納屋と七面鳥	作者不明	1969	グアッシュ、紙	G
64	フィッシャーマン (1)	作者不明	制作年不明	グアッシュ、紙	G
65	フィッシャーマン (2)	ジャック・ミラー	1969	グアッシュ、紙	G
66	舞台「コール・ブラックと七人のドワーフ」より	メアリー・ブレア	1955	グアッシュ、グラファイト、紙	G
67	舞台「コール・ブラックと七人のドワーフ」より	メアリー・ブレア	1955	グアッシュ、紙	個人蔵
68	舞台「コール・ブラックと七人のドワーフ」より	メアリー・ブレア	1955	グアッシュ、紙	G
69	舞台「コール・ブラックと七人のドワーフ」より	メアリー・ブレア	1955	グアッシュ、グラファイト、紙	G
70	舞台「コール・ブラックと七人のドワーフ」より	メアリー・ブレア	1955	グアッシュ、グラファイト、紙	G
71	踊る二人	メアリー・ブレア	1955	水彩、紙	G
72	ケビンとドノヴァン	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、ボード	G
73	赤いカーボーイハットのドノヴァン	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、ボード	G
74	飛行機と赤いパジャマのドノヴァン	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、ボード	G
75	ディベアを持つドノヴァン	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、ボード	G
76	ブレア・ボーイズ	メアリー・ブレア	1950年代	グアッシュ、ボード	G

This is Mary

77	ファミリー・トーテム	メアリー・ブレア	1960年代	アクリル、カンヴァスボード	G
78	おかしい部屋の猫たち	メアリー・ブレア	1960年代	ミクスト・メディア	G
79	ミ・カサ・エス・ス・カサ	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
80	三頭の象	メアリー・ブレア	1960年代	ミクスト・メディア	G
81	ボーカー・ベアーズ	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
82	ファンティシー	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
83	モーニング・グローリー	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
84	ウォーターベッド	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
85	ヴィオレッタ	メアリー・ブレア	1970年代	ミクスト・メディア	G
86	日曜学校	メアリー・ブレア	1960年代	ミクスト・メディア	G
87	レ・シャ (猫たち)	メアリー・ブレア	1978	ミクスト・メディア	G

メアリーに魅せられたアーティストたち

88	小さな世界の音楽図	堤大介	2011	油彩、ペーパー・コラージュ、イラストレーション・ボード	G
89	楽しい木登り	ローレライ・ポーブ	2011	グアッシュ、イラストレーション・ボード	G
90	国民への通知...	レベッカ・ドートルメール	2011	グアッシュ、コラージュ、紙 (成型板にマウント)	G
91	耳なし芳一	ルー・ロマーノ	2011	グアッシュ、イラストレーション・ボード	G
92	昔のアリス、今のアリス	アレキサンドラ・ボイジャー	2011	水彩、グアッシュ、卵黄、ファブリアーノ水彩紙	G
93	虫の尾	ラルフ・エグルストン	2011	グアッシュ、イラストレーション・ボード	G
94	エメラルド・シティー	ベン・ブチャー	2011	ミクスト・ペーパー・コラージュ	G
95	何か見えたら、何か言いなさい	ロバート・マッケンジー	2011	アクリル・鉛筆・紙	G
96	ザ・リニューアル	ピーター・チャン	2011	鉛筆、グアッシュ、紙	G
97	ムーン・ライト	スーサ・キム	2011	油彩、カンバス	G
98	1. デザート、ブリーズ? 2. アティカス、ティーネージャー 3. クインシー、ザ・スーパー・ヒーロー 4. ビザ	ケンダル・クロンカイト	2011	セル・ビニール・ペイント、クリスタル・クリア仕上げ、イラストレーション・ボード	G
99	雨の中のリリーとオリビア	リッキー・ニエルバ	2011	グアッシュ、イラストレーション・ボード	G

※所蔵先の表示のうち、Gはスタジオジブリ、Rはウォルト・ディズニー・アニメーション・リサーチライブラリー、Iはウォルト・ディズニー・イマジニアリングを示す。



シャガール生誕125周年記念 シャガール展 2012 ―愛の物語―

【趣 旨】

詩情あふれる色彩で愛を謳いあげる20世紀の巨匠マルク・シャガール[1887-1985]の生誕125周年を記念する展覧会。ロシアの国立トレチャコフ美術館、国立ロシア美術館の2館が所蔵する代表作を中心に、国内各地の所蔵作品を加え、油彩・水彩・版画など約100点を展示した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・日本初公開ではないものの、1920年に国立ユダヤ劇場のために制作された大がかりな壁画群に関して再構成の展示を試みた。観客に特別な印象を残すことができた。
- ・幸せな結婚が主題となった代表作《街の上で》(トレチャコフ美術館)と《散歩》(ロシア美術館)の2作品を同時に鑑賞できる貴重な機会を提供できた。

●検討課題

- ・10年前に長岡市の近代美術館で開催されたシャガールの個展では12万人を超す入場者があった。新潟市で開催される本展でも、多くの集客が期待されたが、作品・内容が前回同等ではないので、安易な期待は禁物と危惧された。来館者数はそれを裏付ける結果となった。
- ・集客減の最大の要因は著作権の問題。著作権料が高額で、かつ認可にも時間がかかり、そのため、十分な広報を思うように展開できなかった。
- ・人事異動で実行委内部の担当者が代わり、情報共有、丁寧な準備のための下地ができず、広報活動に後れをとったことも集客減の要因。

- ・西洋美術全般に対して、以前ほど関心が高くないように思われる。画家の知名度に寄りかからず、新たな視点を見出し、未紹介の画家を取り上げる大胆な勇気と冒険も必要と思われる。
- ・児童生徒への教育普及について地道な努力を継続するとともに、新規の来館者を呼び込むためのイベント等の仕掛けを創意することが、今後より一層必要とされるだろう。

【開催日・その他】

=2012年7月30日(月)～9月23日(日)(53日間)=

主 催：シャガール展新潟展実行委員会、新潟県立万代島美術館、新潟日報社、BSN新潟放送

後 援：外務省、文化庁、在日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、在日フランス大使館、新潟市、新潟市教育委員会、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

特別協賛：三井ホーム 北新越ホーム株式会社

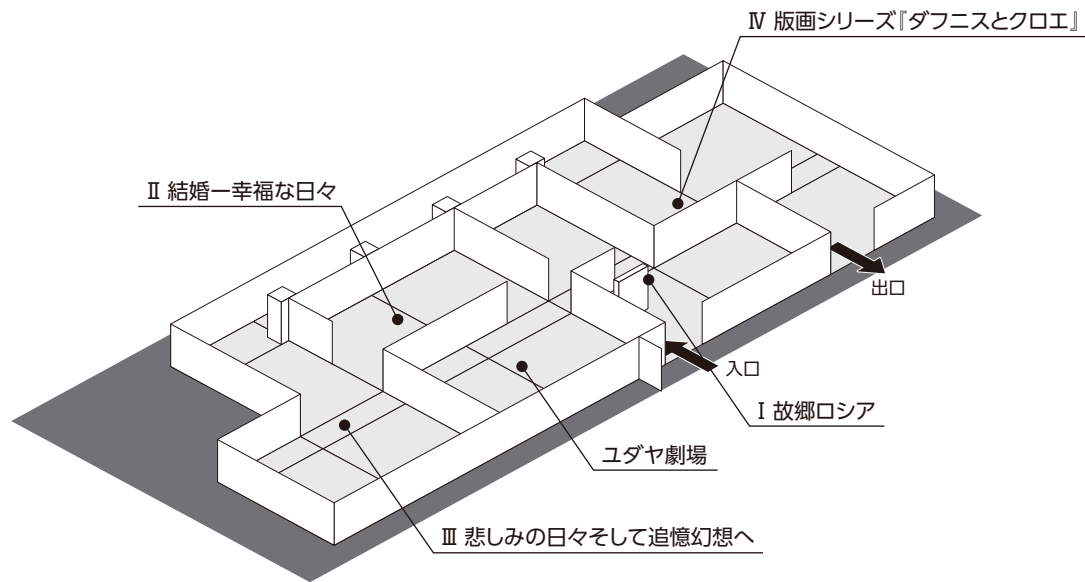
特別協力：トレチャコフ美術館、ロシア美術館、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

協 力：日本航空、Lufthansa Cargo AG、新潟日報美術振興財団

企画協力：西日本新聞社

観覧料：一般……1,200円(1,000円)<1,000円>
大学・高校生……………1,000円(800円)

※中学生以下無料



※ () 内は有料20名以上の団体料金、
〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・ミュージアム・コンサート

8月19日(日) 14:00—14:40 美術館ロビー
演 奏：平松文子氏(フルート)、松村牧子氏(ヴァイオリン)、高橋美也子氏(ヴィオラ)、
牧野純子氏(チェロ)
参加者数：135人

・シャンソン・コンサート

シャガール展開催記念 渋谷文太郎 愛を歌う
9月15日(土) 11:00—11:30
美術館ロビー
歌：渋谷文太郎氏
参加者数：150人

・美術鑑賞講座

「シャガールとロシア」

8月5日(日) 14:00—15:30
NICOプラザ会議室
講 師：桐原 浩(当館業務課長)
参加者数：42人

「シャガールとエコール・ド・パリ」

8月26日(日) 14:00—15:30
NICOプラザ会議室
講 師：今井 有(当館主任学芸員)
参加者数：50人

・作品解説会

会期中の日・祝日 14:00～
(ただし他のイベントがある日を除く)
美術館展示室
解 説：当館学芸員
実施回数：7回
参加者数：265人

・アートとなかよし こどものじかん

7/30月から8/19日まで 11:00—13:00
子連れのお客様が遠慮なく来館できるように、優先的な時間帯を設定し、一般来館者にも周知した。

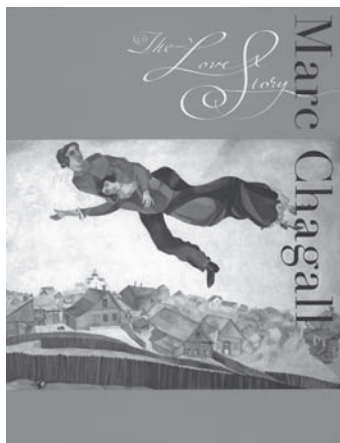
・入館者100万人達成

9月16日(日)万代島美術館開館以来100万人目の来館者を迎え、セレモニーを行った。

【図 録】

仕 様：285×227mm 本文168頁
編 集：大島武、奥野克仁、遠山景子、桐原浩、植田彩芳子、花田伸一、西日本新聞社企画事業局事業部
翻 訳：岩本真樹、渡邊精郁、ティム・クロス
制 作：株式会社大塚巧藝新社
発 行：西日本新聞社
内 容：ごあいさつ／主催者
メッセージ／イリーナ・レベデワ
メッセージ／ウラジミール・グセフ
謝辞
エッセイ「愛の物語 ～シャガールとペラの回想録から～」／奥野克仁

エッセイ「現実の人生の非現実な輪郭」／
エヴゲニヤ・ペトロワ
図版 第Ⅰ章／第Ⅱ章／第Ⅲ章／第Ⅳ章
エッセイ「天空の芸術―シャガールとステ
ンドグラス」／細萱禮子
エッセイ「マルク・シャガールと近代日本」
／植田彩芳子
略年譜
シャガールのヨーロッパ居住地
主要参考文献
作品リスト



【関連記事】

●新聞

- 7月22日 新潟日報 特集記事
魂の軌跡鮮やかに
7月31日 新潟日報
ロシア美術館学芸員に聞く
9月6日 新潟日報 窓欄
感動再び「シャガール展」
9月14日 新潟日報 文化欄
『シャガール展』の劇場壁画／桐原
浩（当館業務課長）

その他 新潟日報
(4/28、7/20、7/28、8/1、8/3、
8/20、8/25、9/9、9/16、9/17)
新潟日報 夕刊（7/30、8/11）

〈連載〉

- ・新潟日報 「シャガール展」作品紹介（全5回）

(7/31～8/4)

- ・新潟日報 「愛の物語 シャガール展より」作
品紹介（全10回）
8/24・25、8/28、8/30～9/1、9/4、
9/6～8

●雑誌

- 『トツときガイド』vol.52 2012年7～8月号
／桐原浩（当館業務課長）
『新潟県立美術館友の会だより』／桐原浩（当館
業務課長）

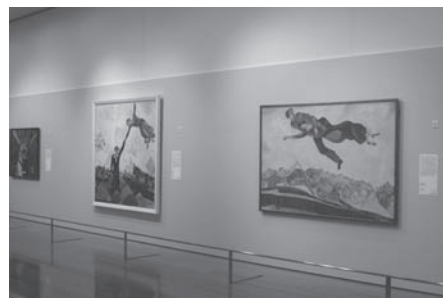
●ラジオ

- ・BSNラジオ（7/30）
・FM PORT（8/3、8/6）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	14,737
	前売	8,956
無料観覧者数	無料	4,962
	免除	1,219
総観覧者数		29,874
有料率（％）		79.3

担当 桐原 浩、今井 有



【出品リスト】

第Ⅰ章 故郷ロシア					
No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横cm）	所蔵先
1	かごを持つ女（農婦）	1906-07	紙に油彩（カンヴァスに貼付）	67.5×50.0	トレチャコフ美術館
2	村のパン屋（イズバ）	1910	カンヴァスに油彩	60.2×73.2	ポーラ美術館
3	ランプのある静物	1910	カンヴァスに油彩	81.0×45.0	宇都宮美術館
4	肉屋（祖父）	1910	紙にグアッシュ	34.5×24.5	トレチャコフ美術館
5	楽士たち	1911	紙にグアッシュ	18.5×18.7	トレチャコフ美術館
6	雨・習作	1911	紙にグアッシュ、鉛筆	23.7×31.0	トレチャコフ美術館
7	軽業師たち	1911-12	カンヴァスに油彩	38.3×55.0	ポーラ美術館
8	静物	1911-12	カンヴァスに油彩	65.9×82.0	宇都宮美術館
9	リョズノの叔父の店	1914	紙に油彩、グアッシュ、鉛筆	37.3×49.2	トレチャコフ美術館
10	負傷した兵士	1914	紙に墨	22.6×18.3	トレチャコフ美術館
11	老人と木の杖	1914	紙に水彩、インク、白色顔料	22.4×17.6	トレチャコフ美術館
12	猫を抱いた男と子どもを抱いた女	1914	紙にインク、白色顔料	22.3×17.2	トレチャコフ美術館
13	ヴィテブスクの街の上・下絵	1914	紙に水彩、鉛筆	23.0×33.6	トレチャコフ美術館
14	父と祖母	1914	紙に水彩（厚紙に貼付）	49.4×36.8	ロシア美術館
15	ヴィテブスクの店	1914	紙にテンペラ（厚紙に貼付）	34.3×41.9	ロシア美術館
16	窓からの眺め、ヴィテブスク	1914-15	紙に油彩、グアッシュ、鉛筆	50.3×37.4	トレチャコフ美術館
17	赤いユダヤ人	1915	厚紙に油彩	100.0×80.5	ロシア美術館
18	鏡	1915	厚紙に油彩	100.0×81.0	ロシア美術館
19	行進（家のそばで）	1916	紙にグアッシュ、鉛筆	20.2×18.0	トレチャコフ美術館
20	プリム祭、壁画のための習作	1916-17頃	紙にグアッシュ（厚紙に貼付）	51.3×66.3	ポーラ美術館
21	逆さまの顔の男	1918	紙に墨、鉛筆	29.2×22.3	トレチャコフ美術館
22	宮殿に戦争を	1918-19	紙に水彩、鉛筆	33.5×23.2	トレチャコフ美術館
23	サーカス	1919-20	紙に油彩（カンヴァスに貼付）	35.0×48.0	トレチャコフ美術館
24	ユダヤ劇場への誘い	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	284.0×787.0	トレチャコフ美術館
25	婚礼の祝宴	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	64.0×799.0	トレチャコフ美術館
26	音楽	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	212.5×103.2	トレチャコフ美術館
27	舞踊	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	213.3×107.8	トレチャコフ美術館
28	演劇	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	212.5×107.2	トレチャコフ美術館
29	文学	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	216.0×81.2	トレチャコフ美術館
30	舞台上の愛	1920	カンヴァスにテンペラ、グアッシュ、白色顔料	283.0×248.0	トレチャコフ美術館
第Ⅱ章 結婚―幸福な日々					
31	街の上で	1914-18	カンヴァスに油彩	139.0×197.0	トレチャコフ美術館
32	散歩	1917-18	カンヴァスに油彩	175.2×168.4	ロシア美術館
33	結婚式	1918	カンヴァスに油彩	102.5×120.7	トレチャコフ美術館
34	ヴィテブスクの眺め	1924-26	厚紙にグアッシュ	50.8×66.1	公益財団法人ひろしま美術館
第Ⅲ章 悲しみの日々そして追憶・幻想へ					
35	ヴィテブスクの冬の夜	1947	カンヴァスに油彩	45.0×59.2	ポーラ美術館
36	恋人たちとマーガレットの花	1949-50	カンヴァスに油彩	73.0×46.9	ポーラ美術館
37	曲馬	1967	紙に油彩（カンヴァスに貼付）	38.0×57.2	東京富士美術館
38	オペラ座の人々	1968-71	カンヴァスに油彩	129.8×97.0	ポーラ美術館
39	画家	1972	紙にグアッシュ・インク・毛筆・ペン	69.2×50.7	トレチャコフ美術館
40	妻と一緒に自画像	1973	紙にグアッシュ	62.1×43.8	トレチャコフ美術館
41	雪の村	1970-75	カンヴァスに油彩	55.0×46.0	日本テレビ放送網株式会社
42	河のほとり	1973	カンヴァスに油彩	81.0×100.0	公益財団法人ひろしま美術館
43	ふたり	1976-77	カンヴァスに油彩	116.0×89.0	東京国立近代美術館
44	恋人たちと花束	1978	カンヴァスにアクリル	37.9×45.5	株式会社フジ・メディア・ホールディングス
45	ロバの曲芸	1967	紙にエッチング	20.0×15.0	トレチャコフ美術館
46	幻想的なサーカス	1967	紙にエッチング	23.5×30.5	トレチャコフ美術館
47	道化師・軽業師	1967	紙にエッチング	30.2×23.6	トレチャコフ美術館
48	踊り子	1967	紙にエッチング	34.7×24.7	トレチャコフ美術館
49	月の下の踊り子	1967	紙にエッチング	30.4×23.5	トレチャコフ美術館
50	恋するバイオリン奏者	1967	紙にエッチング	30.5×23.5	トレチャコフ美術館
51	上演	1967	紙にエッチング	30.4×23.7	トレチャコフ美術館
52	動物使い	1968	紙にカラーエッチング	22.0×16.3	トレチャコフ美術館
53	サーカスにて：ポニー	1968	紙にカラーエッチング	22.0×16.5	トレチャコフ美術館
54	放浪者	1967	紙にエッチング	30.5×23.5	トレチャコフ美術館
55	村	1967	紙にエッチング	34.5×24.5	トレチャコフ美術館
56	恋人たちと雲	1968	紙にカラーエッチング	34.5×34.5	トレチャコフ美術館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横cm）	所蔵先
57	サン＝ポールのアトリエの窓	1968	紙にカラーエッチング	16.4×14.5	トレチャコフ美術館
58	サン＝ポールの恋人たちの夜	1968	紙にカラーエッチング	30.2×23.5	トレチャコフ美術館
59	自画像	1968	紙にカラーエッチング	30.0×23.5	トレチャコフ美術館

第IV章 版画シリーズ『ダフニスとクロエ』

60	扉	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×31.8	宇都宮美術館
61	ラモオンによるダフニスが発見	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
62	ドリュアスによるクロエの発見	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
63	ラモオンとドリュアスの夢	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
64	小牧場の春	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
65	狼を捕える罠	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
66	泉のほとりのダフニスとクロエ	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
67	クロエの判断	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
68	クロエの接吻	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
69	ドルコオンの策略	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
70	真昼、夏	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
71	つばめ	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
72	ドルコオンの死	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
73	ニンフたちの洞穴	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
74	葡萄の収穫	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
75	フィレータースの果樹園	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
76	フィレータースの教え	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
77	メデムナの若者たち	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
78	クロエの誘拐	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
79	ダフニスの夢とニンフたち	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
80	ブリュアクシス將軍の夢	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
81	ニンフたちへの奉納	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
82	牧神パンの饗宴	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
83	シュリンクスの伝説	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
84	冬	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
85	小鳥狩り	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
86	ドリュアス家での食事	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
87	春	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
88	ダフニスとリュカイニオン	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
89	木精	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
90	夏の季節	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
91	死せるイルカと300エキュ	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
92	クロエ	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
93	果樹園	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
94	バックス神の物語と神殿	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
95	荒らされた花々	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
96	ダフニスとグナトオン	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
97	ディオニソファネースの到来	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
98	クリアリスティから着物を着せられ髪を結ってもらうクロエ	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×32.0	宇都宮美術館
99	祭の間に娘を見出すメガクレエス	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
100	ニンフたちの洞穴での婚礼の祝宴	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館
101	結婚	1961	紙にカラーリトグラフ	42.0×64.0	宇都宮美術館



ジパング展～沸騰する日本の現代アート～

【趣 旨】

本展は「日本の現代美術の魅力を世界に向けて発信する。日本人自身にもその魅力を再認識して欲しい」というメッセージを込めて企画された。本展では、日本の伝統芸術のDNAを受け継ぎながら、従来の表現の枠に留まらず、自由闊達な表現をする新進気鋭の作家たちの作品を紹介した。

出品作家：会田誠、青山悟、池田学、伊藤達平、上田順平、O JUN、大畑伸太郎、岡本瑛里、風間サチコ、榎木知子、金子富之、熊澤未来子、鴻池朋子、近藤聡乃、指江昌克、佐藤雅晴、田代裕基、棚田康司、天明屋尚、藤田桃子、町田久美、三瀬夏之介、宮永愛子、森淳一、山口藍、山口晃、山崎史生、山本太郎、山本竜基、渡邊佳織、チームラボ

【総 括】

●評価すべき点

- ・広報展開に関して、テレビや雑誌、ウェブ（公式ホームページ、フェイスブックなど）では、持てる力を出し切って十分に展開することができた。
- ・感想掲示板を設置したり、イベントもほぼ毎週開催したりするなどにより、現代アートの素晴らしさを十分に県民に伝えることができた。

●検討課題

- ・実際に展覧会を開催してみて、若年層のみならず高齢者の中にも、既存の美術ではなく、現代アートを求めている一群がいることが検証できた。ターゲットを若者に絞ってしまったために、高齢者向けのメディアである新聞で広報展開が手薄となってしまった点は反省すべき材料である。

る。

【開催日・その他】

＝2012年10月6日(土)～12月2日(日)(55日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、ジパング展新潟展実行委員会、読売新聞社、美術館連絡協議会

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ばかばかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

特別協力：ミヅマアートギャラリー、イムラアートギャラリー

観覧料：一般……………900円(700円)〈700円〉

大学・高校生……………700円(500円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金、
〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・ギャラリートーク 当館展示室にて

三瀬末雄ギャラリートーク

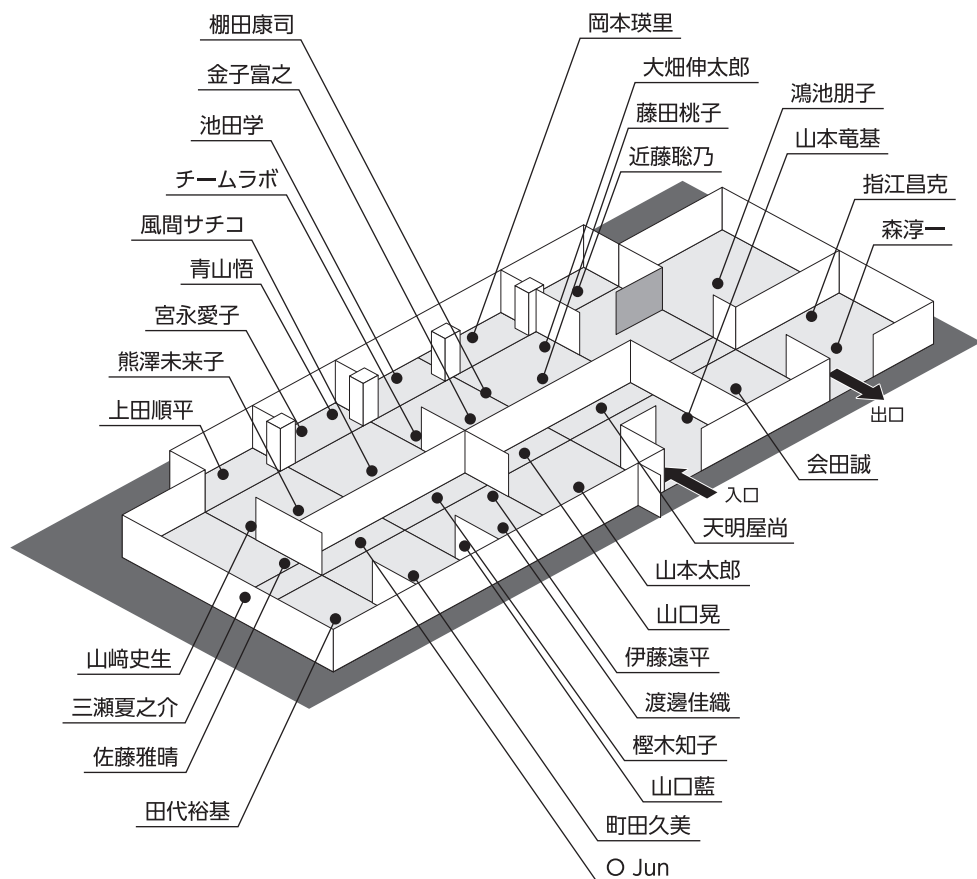
10月6日(土) 14:00～

参加者数：50名

三瀬夏之介ギャラリートーク

10月13日(土) 14:00～

参加者数：50名



鴻池朋子ギャラリートーク

10月27日(土) 14:00～

参加者数：70名

O JUNギャラリートーク

11月3日(土・祝) 14:00～

参加者数：35名

青山悟ギャラリートーク

11月17日(土) 14:00～

参加者数：35名

会田誠ギャラリートーク

12月1日(土) 14:00～

参加者数：180名

・山口晃トーク

11月18日(日) 14:00～ 万代島ビル11階
NICOプラザ会議室

参加者数：160名

・TeNYテレビ新潟アナウンサーと万代島美術館学芸員による「教えて！現代アート」

① 10月20日(土) 14:00～ 当館展示室

出演：太平真理子氏（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

桐原浩（当館業務課長）

参加者数：30名

② 11月10日(土) 14:00～ 当館展示室

出演：久保田紗也加氏（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

高晟俊（当館主任学芸員）

参加者数：35名

【図録】

仕様：B5変形 180頁

編集：青幻舎

発行：青幻舎

内容：図版

会田誠さんの人と作品／高晟俊

逃した魚と《シラー谷の者 野の者》鴻池

朋子の白い画面／山本文志

異空間を突き抜ける旅としての絵画—山口

晃と町田久美／柴田純江

対談 日本発現代アートの向かう先／三瀧

末雄×小崎哲哉

作家略歴

作品リスト

英語訳

中国語訳



【関連記事】

●新聞

- 10月5日(金) 新潟日報
「ジバング展」に寄せて／高晟俊
- 11月4日(日) 新潟日報
現代美術—不思議な感覚呼び覚ま
す／雨池誠（新潟日報編集委員）

- その他 新潟日報（10/6(土)）
読売新聞（10/7(日)、11/13(火)）
週刊五泉新聞（9/30(日)）
栃尾タイムス（9/15(土)）
十日町新聞（9/20(木)）

〈連載〉

- ・読売新聞「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」
- ① 会田誠《群娘図'97》／高晟俊（11/14(水)）
 - ② 山口晃《四季休息図》／高晟俊（11/15(木)）
 - ③ 風間サチコ《風雲13号地》／
高晟俊（11/16(金)）

●雑誌

- 『月刊美術』 2012年10月号pp.152-153
美術館へ行こう！第2弾
2012年11月号pp.67-68
HOT LINE
- 『月刊ウインド』 2012年11月号 ジバング展
に行ってきました／タイラ
- その他 『Komachi』 2012年12月号
『ギャラリー』 2012年10月号

●テレビ

- TeNYテレビ新潟 タワワイド新潟一番
（10/5、10/13、10/27、11/9、11/18、
12/1）

●ラジオ

- FM PORT（10/6(土)、10/22(月)）
FM-NIIGATA（10/8(月)）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	13,878
	前売	2,243
無料観覧者数	無料	4,795
	免除	1,000
総観覧者数		21,916
有料率（％）		73.6

担当 高 晟俊、桐原 浩



【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵先
1	山本竜基	地獄図（山本版）Ⅰ	2011	キャンバスにアクリル	作家蔵
2	天明屋尚	鎧袖一触／容貌魁偉／英姿颯爽	2008	アクリル絵具、金箔、木	株式会社ダブルブラック蔵
3	山口晃	山乃愚痴明抄	1995	キャンバスに油彩	個人蔵
4	山口晃	四季休息圖	2007	キャンバスに油彩	個人蔵
5	山口晃	五木寛之著『親鸞 激動篇』挿絵	2011	紙に鉛筆、ペン、水彩	作家蔵
6	山本太郎	青敷秋草図屏風	2008	紙本金地着色銀彩	クラーク日本美術・文化研究センター蔵
7	山本太郎	白梅点字ブロック図屏風	2006	紙本銀地着色	第一生命保険株式会社蔵
8	渡邊佳織	メ（寸法改）	2011	絵絹、水干絵具、岩絵具	作家蔵
9	渡邊佳織	カモメが翔んだ	2012	絵絹、水干絵具、岩絵具	作家蔵
10	山口藍	道すがら	2010	アクリル、綿布、毛布、パネル	高橋コレクション
11	伊藤達平	Endogenous I	2012	キャンバスに油彩	作家蔵
12	伊藤達平	蛙	2012	石粉粘土／油絵具／発砲スチロール	作家蔵
13	樫木知子	タイルの部屋	2010	アクリル、油彩、紙、パステル、鉛筆、麻布、木パネル	作家蔵
14	O JUN	ハネルコ	2011	紙に顔料	個人蔵
15	O JUN	グロリア（上段《天然無常KEIJI丸》／下段《よど号、ではない》）	2010	麻に油彩（二点組み）	作家蔵
16	町田久美	マルキ・ド・サド著『淫蕩学校』挿絵	2003-2005	雲肌麻紙に青墨、岩絵具 等	高橋コレクション
17	田代裕基	炎天華	2007	楠の木、水彩、アクリル絵具、金箔	高橋コレクション
18	三瀬夏之介	空虚五度	2012	雲肌麻紙、墨、胡粉	作家蔵
19	佐藤雅晴	speak no evil	2011	ラムダプリント	作家蔵
20	佐藤雅晴	see no evil	2011	ラムダプリント	作家蔵
21	佐藤雅晴	hear no evil	2011	ラムダプリント	作家蔵
22	上田順平	エンコ	2006	陶磁器	作家蔵
23	上田順平	ウラシマピーターパン	2009	陶磁器	作家蔵
24	上田順平	ツカイノモノ	2006	陶磁器	個人蔵
25	上田順平	キンタウルス	2008	陶磁器	個人蔵
26	山崎史生	horn	2011	楠、水彩	個人蔵
27	山崎史生	sparrow	2011	楠、水彩	個人蔵
28	熊澤未来子	より未来へ	2010	パネル、ジェッソ、鉛筆	作家蔵
29	風間サチコ	風雲13号地	2005	木版画（パネル、和紙、墨汁）	文化庁蔵
30	宮永愛子	はるかの眠る舟	2009	ナフタリン、長持、積み木、ミクストメディア	高橋コレクション
31	青山悟	Dark Days 2012	2012	ポリエステルに刺繍（コットン、ポリエステル糸）	個人蔵
32	青山悟	Dark Days 2008	2012	ポリエステルに刺繍（コットン、ポリエステル糸）	個人蔵
33	青山悟	東京の朝	2005	ポリエステルに刺繍（コットン、ポリエステル糸）	個人蔵
34	青山悟	Imagine / No More Nukes	2012	ポリエステルに刺繍	作家蔵
35	チームラボ	生命は生命の力で生きている	2011	ビデオ作品	作家蔵
36	金子富之	レッドバナスパティラージャ	2012	岩絵具、透明水彩、ペン、箔、和紙	作家蔵
37	藤田桃子	世界の終わりと始まりにⅡ	2011-2012	ミクストメディア	作家蔵
38	棚田康司	父になった少女、母になった少年	2008	朴材の一木造りに彩色	ヴァンジ彫刻庭園美術館蔵
39	池田学	方舟	2005	紙にペン、インク	森美術館蔵
40	池田学	興亡史	2006	紙にペン、インク	高橋コレクション
41	岡本瑛里	胞衣清水	2011-	パネルに綿布、アクリル、油彩	作家蔵
42	大畑伸太郎	Happy Birthday ?	2012	キャンバス、アクリル絵具、和紙、スタイロフォーム、金属、木材、フェルト	作家蔵
43	近藤聡乃	KiyaKiya	2010-2011	シングルチャンネル・アニメーションビデオ	作家蔵
44	鴻池朋子	mimio-Odyssey	2005	ビデオ、オープンブック	作家蔵
45	鴻池朋子	シラー谷の者 野の者	2009	墨、胡粉、金箔、雲肌麻紙（襖）	株式会社ダブルブラック蔵
46	会田誠	群娘図'97	1997	パネル、衛サンリオのキャラクターハローキティとけろけろけろっぴが印刷された包装紙、アクリル絵具、水性マジックペン	個人蔵
47	会田誠	おにぎり仮面	2005	ミクストメディア	作家蔵
48	会田誠	おにぎり仮面の小さすぎる旅	2006	ビデオ（DVD）	作家蔵
49	指江昌克	HEAVEN'S DOOR	2012	キャンバス、油彩	作家蔵
50	森淳一	trinity	2011	木	個人蔵



マンチェスター大学ウィットワース美術館所蔵 巨匠たちの英国水彩画展

【趣 旨】

マンチェスター大学ウィットワース美術館が所蔵する3000点以上の水彩画コレクションから、イギリスの巨匠たちの手になる作品157点を紹介した。

多彩な主題と優れた技術で水彩画の表現を高い次元に引き上げた巨匠J.M.W.ターナーの作品30点のほか、「英国水彩画の父」といわれるポール・サンドビー、詩人画家ウィリアム・ブレイク、そしてラファエル前派のジョン・エヴァレット・ミレイやダンテ・ゲイブリエル・ロセッティなど、18～19世紀に活躍したイギリスを代表する画家たちの作品により、英国水彩画150年の流れを展覧した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・一般の方にとって大変身近な画材である「水彩画」の発展とその魅力について、水彩画の本場であるイギリスの優れたコレクションにより紹介することができた。
- ・作品解説キャプションに加え、イギリスの風景画については、取材地を示した地図を付すなどし、より深い理解に資することができた。

●検討課題

- ・作品保護のため、展示室の照度を低くせざるをえなかったが、この点についてアンケートに不満の声が多く寄せられた。照度を制限しながらも、よりよい展示環境の工夫に努めたい。
- ・美術に関してすでに知識のある50代以上の来館者が多かったが、一方で学校団体が少ない時期でもあり、若年層の利用が少なかった。

【開催日・その他】

＝2012年12月18日(火)

～2013年3月10日(日)(71日間)＝

主 催：新潟県立万代島美術館、マンチェスター大学ウィットワース美術館、朝日新聞社、UX新潟テレビ21、新潟日報社

後 援：ブリティッシュ・カウンシル、ラスキン文庫、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ばかばかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛：竹中工務店

協 力：あいおいニッセイ同和損保、日本航空

観覧料：一般 ……1,100円(900円)〈900円〉

大学・高校生 ……900円(700円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金、

〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・ミュージアムコンサート

「19世紀英国の音楽—絵とともに味わう、ダンスと歌のメロディ」

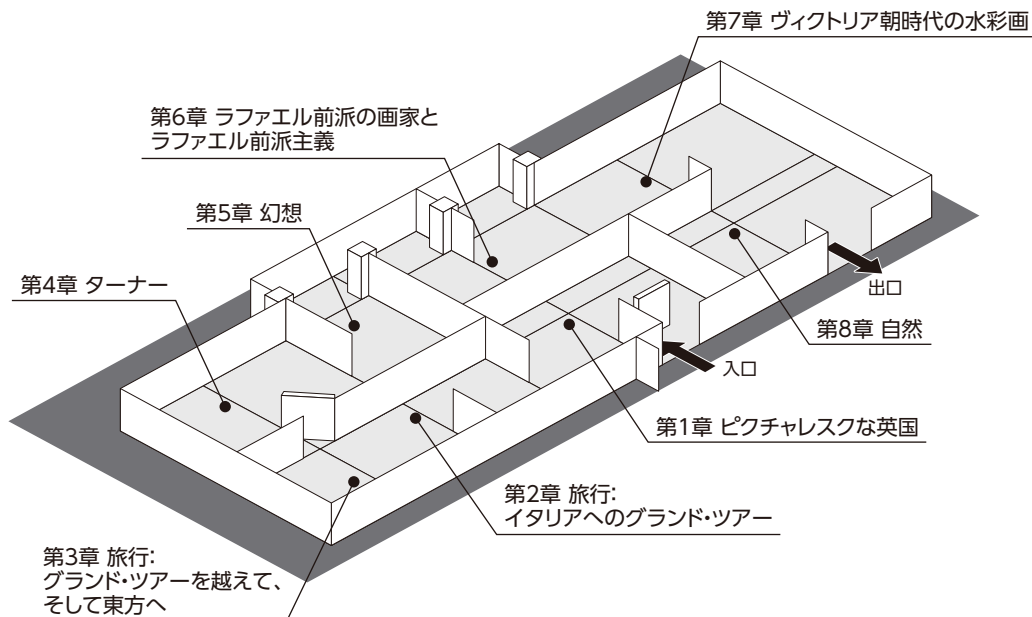
2013年1月20日(日) 14:00～

万代島美術館ロビー

演 奏：大竹奏〔フィドル(ヴァイオリン)〕

松里俊明〔ファゴット〕

参加者数：165名



・美術鑑賞講座

「ターナーと風景画の歴史」

2013年1月27日(日) 14:00～

万代島美術館ロビー

講 師：今井有（当館主任学芸員）

参加者数：60名

・美術鑑賞講座

「幻視の画家 ブレイクとマーティン」

2013年2月17日(日) 14:00～

NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）

講 師：桐原浩（当館業務課長）

参加者数：22名

・「みんなのイギリス写真展」

*一般の方が撮影したイギリスの写真（風景や建築物、人や食べ物など）を募集し、美術館ロビーに展示。

募集期間：2012年11月1日(木)～

2013年2月28日(木)

展示期間：2012年12月18日(火)～

2013年3月10日(日)

応募者数：46件

・作品解説会

会期中の日・祝 14:00～

（ただし他のイベントがある日を除く）

担 当：当館学芸員

実施回数：11回

参加者数：のべ224名

【図 録】

仕 様：A4変形版 286頁

編 集：朝日新聞社

発 行：朝日新聞社

内 容：「序文 ウィットワース美術館の所蔵する水彩画」（ヘザー・バーチャル）

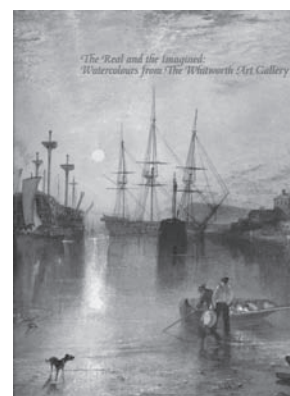
「水彩画—実在するものと心に思い描くもの」（ヘザー・バーチャル／デイヴィッド・モリス）

「私的なものから公的なものへ」（ヘザー・バーチャル）

「英国美術 生動—繊細—抑制」（木島俊介）

「『ピクチャレスク』について」（デイヴィッド・モリス）

カタログ



画家の見た風景—今と昔
 ウィットワース美術館
 マンチェスター探訪
 作家解説
 出品作家一覧
 Further Reading
 出品作品リスト
 List of Works

【関連記事】

●新聞

- 10月13日(土) 朝日新聞
 巨匠たちの英国水彩画展／木島
 俊介 (Bunkamura ザ・ミュージアムプロデューサー)
- 2月6日(水) 新潟日報
 芸術への革新遂げたターナー／
 今井有 (当館主任学芸員)

その他 新潟日報 (12/18(火)、1/23(水))
 新潟日報夕刊 (12/18(火))

〈連載〉

- ・朝日新聞「巨匠たちの英国水彩画展」
- ① J.M.W.ターナー 《旧ウェルシュ橋、シュロップシャー州シュルーズベリー》／今井有 (1/18(金))
 - ② J.M.W.ターナー 《ルツェルン湖の月明かり、彼方にリギ山を望む》／今井有 (1/20(日))
 - ③ トマス・ガーティン 《ピーターバラ大聖堂の西正面》／今井有 (1/21(月))
 - ④ ウィリアム・ブレイク 《『ヨーロッパ』図版1、口絵、「日の老いたる者」》／桐原浩 (1/22(火))
 - ⑤ ジョン・エヴァレット・ミレイ 《ブラック・ブランズウィッカー》／桐原浩 (1/23(水))

●雑誌

トツときガイド 2013年1・2月号/今井有 (当館主任学芸員)

●テレビ

1月5日(土) UX「ほっとほっと新潟」

●ラジオ

FM PORT (12/14(金)、2/11(月・祝))

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	6,367
	前売	1,000
無料観覧者数	無料	1,918
	免除	485
総観覧者数		9,770
有料率 (%)		75.4

担当 今井 有、高 晟俊

【出品リスト】

1. ピクチャレスクな英国				
No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
1	モーゼス・グリフィス	フィッシャーウィック・パーク、スタッフォードシャー、ドネガル卿の領地	1778	ペン、グレーのインク、水彩・紙
2	エイミリア・ロング(旧姓ヒューム)、ファーンバラ卿夫人	フロムリー・ヒル・ハウスの庭園からロンドンを望む、ケント	1814	水彩・紙
3	ジョン・ロバート・カズンズ	グリニッジ・パークから見るテムズ川の眺望、グリニッジ病院の彼方にロンドンのセント・ポール大聖堂を望む		鉛筆、水彩・紙
4	エドワード・デイズ	ティンターン修道院、モンマスシャー、ウェールズ	1794	鉛筆、水彩・紙
5	トマス・ローランドソン	ティンターン修道院、モンマスシャー、ウェールズ	1790-99頃	鉛筆、ペン、茶色のインク、水彩・紙
6	J.M.W. ターナー	コンウェイ城	1801-02	鉛筆、水彩・紙
7	ポール・サンドビー	南西の方角から望むコンウェイ城	1802	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
8	J.M.W. ターナー	ビルドウォズ修道院、シュロップシャー	1797	鉛筆、水彩・紙
9	マイケル・"アンジェロ"・ルーカー	ビルドウォズ修道院、シュロップシャー		鉛筆、水彩・紙
10	トマス・バーン	ニューアーク城、ノッティンガムシャー		鉛筆、水彩・紙
11	ジョン・グローヴァー	エイヴォン川から望むウォリック城		水彩・紙
12	トマス・ガーティン	タターシャル城、リンカンシャー	1798	鉛筆、水彩・紙
13	トマス・ガーティン	ピーターバラ大聖堂の西正面	1796-97	鉛筆、水彩・紙
14	トマス・ガーティン	リッチフィールド大聖堂の西正面	1795	水彩・紙
15	トマス・ガーティン	ウェア川からダラム大聖堂と橋を望む	1799	鉛筆、水彩・紙
16	トマス・バーン	ワイ川のほとりのシモンズ・ヤット、ヘレフォードシャー		鉛筆、水彩・紙
17	トマス・ジョーンズ	ワイ川、モンマスシャー		鉛筆、水彩・紙
18	ジョン・マーティン	ワイ渓谷、ウィンドクリフからチェブストウを望む景観	1844	水彩、グワッシュ、鉛筆・紙
19	J.M.W. ターナー	グレート・マルヴァーン修道院と楼門、ウスターシャー、北西から望む	1794	鉛筆、水彩・紙
20	J.M.W. ターナー	ソールズベリー大聖堂の参事会堂、ハンブシャー	1799	鉛筆、ペンとインク、水彩・紙
21	ジョン・コンスタブル	デダム教会と渓谷、サフォーク	1800	ペンとインク、水彩・紙
22	フランシス・ホイットリー	コニストン湖、ランカシャー	1785	ペンとインク、水彩・紙
23	フランシス・タウン	アンブルサイド、ウィングミア湖、ウェストモアランド	1786	ペンとインク、水彩・紙
24	ジョゼフ・ファリントン	カンバーランド州カーライルの景観、イーデン川越しに望む		鉛筆、ペンとインク、淡彩・紙
25	ピーター・デ・ウィント	マターデルから望むカンバーランドの丘陵		鉛筆、水彩・2枚継ぎの紙
26	フランシス・ニコルソン	ゴードイル・スカー峡谷の滝、ヨークシャー		鉛筆、水彩・紙
27	フランシス・タウン	ボント・アバーグラスリンのサケ用魚梯、北ウェールズ	1777	ペンとインク、水彩・紙
28	ジョン・ヴァーリー	スランベリス峠、カーナーヴォンシャー、北ウェールズ	1803	鉛筆、水彩・紙
29	ジョゼフ・ファリントン	ダンバートンを望む景観	1788	鉛筆、水彩・紙
2. 旅行：イタリアへのグランド・ツアー				
30	リチャード・ウィルソン	バラティエーノの丘、ローマ	1754	黒と白のチョーク、擦筆・紙
31	リチャード・ウィルソン	ミネルヴァ・メディカ神殿、ローマ		黒チョーク・青灰色の紙
32	アレグザンダー・カズンズ	山地の嵐		ペンとインク、水彩・紙
33	アレグザンダー・カズンズ	山の峡谷		ペンとインク、水彩・紙
34	ウィリアム・パーズ	カンボ・ヴァチーノ、ローマ		鉛筆、水彩・紙
35	ジョン・ロバート・カズンズ	ヴィラ・ボルゲーゼからサン・ピエトロ大聖堂を望む		鉛筆、水彩・紙
36	トマス・ジョーンズ	ネミ湖越しにジェンザーノを望む	1777	鉛筆、水彩・紙
37	ウィリアム・パーズ	ネミ湖		鉛筆、水彩・紙
38	ジョン・ロバート・カズンズ	ネミ湖越しにジェンザーノを望む		水彩・紙
39	フランシス・タウン	ナポリ湾	1785	鉛筆、ペンとグレーのインク、水彩・紙
40	ジョン・ロバート・カズンズ	チェターラ、サレルノ湾の漁師町、イタリア		鉛筆、水彩・紙
41	トマス・ジョーンズ	サンタ・マリア・デイ・モンティの景観、ナポリ近郊	1781	鉛筆、水彩・紙
42	サミュエル・ブラウト	ヴェネツィアの運河のカプリッチョ		ペンと茶色のインク、水彩に白のハイライト・紙
3. 旅行：グランド・ツアーを越えて、そして東方へ				
43	ジョン・ラスキン	ストラスブル大聖堂の塔	1842	鉛筆、水彩、グワッシュ・灰青色の紙
44	サミュエル・ブラウト	サン＝カンタンの市庁舎、フランス	1845	ペンとインク、水彩・紙
45	ジョン・フレデリック・ルイス	闘牛開催日のグラナダ近郊	1836	水彩、グワッシュ・紙
46	デイヴィッド・ロバーツ	アルハンブラ宮殿のコマレスの塔、グラナダ、スペイン	1834	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
47	クラークソン・スタンフィールド	ベレンの塔、リスボン	1833	ペンとインク、水彩とグワッシュ・紙
48	エドワード・リア	デルフォイからコリンティアコス湾の彼方を望む、ギリシャ		ペンとインク、水彩、グワッシュ・紙
49	エドワード・リア	コルフの湾（または南からコルフの町を望む）	1856	鉛筆、ペンとインク、水彩・紙
50	ウィリアム・ホルマン・ハント	コルフ島	1892-93	水彩・紙
51	デイヴィッド・ロバーツ	カリフの霊廟、カイロ、エジプト	1839	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
52	ウィリアム・マラー	奴隷市場、カイロ		鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
53	レジナルド・バラット	日没時のスフィンクス、エジプト	1902	水彩・紙
54	リチャード・ダッド	バイルートの穀物市場、レバノン	1842	鉛筆、水彩・紙

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
55	ウィリアム・ホルマン・ハント	岩のドーム、エルサレム、ラマダンの期間	1854-55 1860-61	水彩、グワッシュ・紙
56	〃	カイロ、ゲベル・モカッタムの落日	1854 1857 1860-61	水彩・紙
57	〃	シオンの丘からレファイム平野を望む、エルサレム	1855 1860-61	水彩、グワッシュ・紙
58	〃	ナザレの景観	1855 1860-61	水彩、グワッシュ・紙
59	作者不詳	インドラ・サバー石窟寺院内部、エローラ、インド		鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
60	ウィリアム・アレグザンダー	斜堤に接岸しようとする艀船、寧波、中国	1793	鉛筆、水彩・紙

4. ターナー

61	J.M.W. ターナー	旧ウェルシュ橋、シュロップシャー州シュルーズベリー	1794	鉛筆、水彩・紙
62	〃	デンビシャー州スランゴスレン、ウェールズ	1794	鉛筆、水彩・紙
63	〃	スウェイル川から望む聖アガサ修道院、ヨークシャー州イーズビー	1798-99	鉛筆、水彩・紙
64	〃	修道院の池	1800-01	鉛筆、水彩・紙
65	〃	クリューズ渓谷の小針峰、フランス	1802	鉛筆、黒チョーク、水彩・紙
66	〃	トゥーン湖をノイハウスの船着場から望む、スイス	1802	鉛筆、黒チョーク、水彩・紙
67	〃	シャモニー渓谷、彼方にモンブランを望む	1809	水彩、グワッシュ・紙
68	〃	ガウバロー・パークからアルズウォーター湖を望む	1815	水彩・紙
69	〃	エリッジ城、サセックス	1816	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
70	〃	デヴォン州シドマス	1825-27	水彩・紙
71	〃	ベットワース・パークの鹿、サセックス	1827	水彩、グワッシュ・青色の紙
72	〃	ウォリック城、ウォリックシャー	1830-31	水彩、グワッシュ・紙
73	〃	アップナー城、ケント	1831-32	水彩、グワッシュ・紙
74	〃	ティーズ川にかかる鎖の吊り橋	1836頃	鉛筆、水彩・紙
75	〃	テムズ河畔フェニングズ埠頭の火事、バーモンジー	1836頃	鉛筆、水彩・紙
76	〃	ローレライ、ドイツ	1827	水彩、グワッシュ・紙
77	〃	シヨン城とレマン湖、ヴィルヌーヴから望む	1836	鉛筆、水彩・紙
78	〃	大火災、ローザンヌ	1836	水彩、グワッシュ・紙
79	〃	カトリン湖―色彩の始まり	1827-29	水彩、グワッシュ、鉛筆・紙
80	〃	ティヴォリー―色彩の始まり	1827-29	水彩・紙
81	〃	海辺の落日とホウボウ	1838-40	黒のチョーク、水彩、グワッシュ・淡黄灰色の紙
82	〃	ヴェネツィア―大運河の入口からサン・ジョルジョ・マッジョーレ教会を望む	1840頃	水彩・紙
83	〃	ルツェルン湖の月明かり、彼方にリギ山を望む	1841	水彩、グワッシュ・紙
84	〃	ルツェルン湖の落日	1845	水彩・紙

5. 幻想

85	ヨハン・ハインリヒ(ヘンリー)・フュースリ	夢の中でポンペイウスの前に姿を現すユリア		鉛筆、水彩・紙
86	エドワード・バード	幽霊		鉛筆、水彩・紙
87	ウィリアム・ブレイク	陰鬱なモロクー・ミルトンの頌詩『キリスト降誕の朝に』	1809	鉛筆、ペンとインク、水彩・紙
88	ウィリアム・ブレイク	平和の夜―ミルトンの頌詩『キリスト降誕の朝に』	1809	鉛筆、ペンとインク、水彩・紙
89	ウィリアム・ブレイク	『ヨーロッパ』図版1、口絵、《日の老いたる者》	1827-	レリーフ・エッチング、ペンとインク、水彩、グワッシュ・紙
90	サミュエル・パーマー	眠る羊飼ひ	1826-32	ペンとインク、水彩・紙
91	サミュエル・パーマー	カリュプソの島、オデュッセウスの船出	1848-49	水彩、グワッシュ・紙
92	サミュエル・パーマー	船乗りの帰還	1859	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
93	ジョン・マーティン	マンフレッドとアルプスの魔女	1837	水彩、グワッシュ・紙
94	シメオン・ソロモン	律法の巻物運び	1867	水彩、グワッシュ、ワニス・キャンヴァスに貼った紙

6. ラファエル前派の画家とラファエル前派主義

95	ジョン・エヴァレット・ミレイ	愚かな乙女たち―『イエス・キリストのたとえ話』の挿絵	1864	ペンとインク、水彩・紙
96	ジョン・エヴァレット・ミレイ	毒妻を誅く敵―『イエス・キリストのたとえ話』の挿絵	1864	水彩・紙
97	ジョン・エヴァレット・ミレイ	ブラック・プランズウィッカー	1867	水彩、グワッシュ・紙
98	フォード・マドックス・ブラウン	セント・アイヴズの農園のクロムウェル、1636年	1853 1856 1874	鉛筆、ペンとインク、バステル、水彩・紙
99	フォード・マドックス・ブラウン	ロミオとジュリエット	1867	水彩、グワッシュ・紙
100	シメオン・ソロモン	画家の愉楽	1861	水彩、グワッシュ、ワニス・紙
101	ジョン・エヴァレット・ミレイ	ベン・ネヴィス山、インヴァネス	1854	水彩、グワッシュ・紙
102	ジョン・ラスキン	メール・ド・グラス、シャモニー、フランス	1860	鉛筆、ペンとインク、水彩、グワッシュ・灰色の紙

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
103	ジョン・ブレット	川辺の景色、オックスフォードシャー州ゴーリング＝オン＝テムズ付近	1865	鉛筆、ペンとインク、水彩、グワッシュ・紙
104	ジョージ・ブライス・ボイス	ヤンウス・ホール、ウェストモーランド	1884	水彩・紙
105	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	ソファでくつろぐジェイン・モリス	1869-71	鉛筆・紙
106	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	窓辺の淑女	1870	パステル・緑色の紙
107	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	《ダンテの夢》のための棺の付き添い人の習作	1874	黒、赤、白のチョーク・緑色の紙
108	エドワード・バーン＝ジョーンズ	坐る女性奏者、《哀歌》のための習作	1866	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
109	エドワード・バーン＝ジョーンズ	ウェヌス・コンコルディア（和合のヴィーナス）：《トロイア物語》のフレデラのための習作	1871	鉛筆・紙
110	エドワード・バーン＝ジョーンズ	ウェヌス・ディスコルディア（不和のヴィーナス）：《トロイア物語》のフレデラのための習作	1871	鉛筆・紙
111	エドワード・バーン＝ジョーンズ	《ペルセウスとネレイスたち》のためのネレイスの顔の習作	1895	鉛筆・紙

7 ヴィクトリア朝時代の水彩画

112	クラークソン・スタンフィールド	帆柱を切り離すマリヤットの小説『海賊』の挿絵	1836	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
113	フランシス・ウィリアム・トッパム	農民小屋の内部、ゴールウェイ州ミンロッホ、アイルランド	1845	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
114	バーバラ・リー・スミス・ボディン	アイルランド、1846年	1846	水彩、グワッシュ
115	ジョージ・アーサー・フリップ	ビーチ岬から望むイーストボーン、サセックス	1863	水彩、グワッシュ・紙
116	アナ・ブランデン	リザード・ポイント、コーンウォール	1862	水彩、グワッシュ・紙
117	エドワード・ポインター	キャッスル・ロック、デヴォン州リントン	1866	鉛筆、水彩・紙
118	ヘンリー・ムーア	ベンザンス付近	1872	水彩・紙
119	アルフレッド・ウィリアム・ハント	タインマウス埠頭、北東の風	1866	水彩・紙
120	フレデリック・ウォーカー	井戸堀り人夫	1868	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
121	ジェイムズ・トマス・ワッツ	前景に羊のいる木立の風景、ベトウス＝ア＝コイド、ウェールズ		鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
122	ウォルター・クレイン	樹木の習作	1863	水彩・紙
123	ウォルター・クレイン	イタリアの邸宅	1872	水彩・紙
124	チャールズ・ウェスト・コープ	黒板をもつ少女		水彩、グワッシュ・紙
125	マイルズ・パーケット・フォスター	夏季一ふたりの少女、幼子、人形		水彩、グワッシュ・紙
126	マイルズ・パーケット・フォスター	プロヴィデンス号＝テムズ川に浮かぶ艀船		水彩、グワッシュ・紙
127	フレデリック・ウォーカー	不意の来客		水彩、グワッシュ・紙
128	ジョージ・ジョン・ピンウェル	古い十字架	1869	鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
129	サミュエル・シェリー	ハムレットと墓掘り人夫＝シェイクスピア作『ハムレット』第5幕第1場の挿絵		鉛筆、水彩・紙
130	ジョン・メイジー・ライト	『お気に召すまま』第5幕第4場の1場面		鉛筆、水彩、グワッシュ・紙
131	ヘレン・アリンガム	収穫の進む畑、セント州ウェスターハム近郊	1895-1900頃	水彩・紙
132	ライオネル・パーシー・スマイス	春季	1885	水彩・紙
133	ライオネル・パーシー・スマイス	ブーローニュのエビを捕る人々		水彩・紙
134	ウィリアム・フレデリック・イームズ	ディナンの大通りにて、ブルターニュ地方		水彩・紙

8. 自然

135	トマス・ゲインズバラ	ブナの木、ヘレフォードシャー州フォクスリー、彼方にヤゾー教会を望む	1760	鉛筆、水彩・紙
136	アレグザンダー・カズンズ	木の習作（染みこませによる素描）		水彩・紙
137	アレグザンダー・カズンズ	木の習作（完成素描）		水彩・紙
138	ジョン・クローム	路傍		水彩・紙
139	デイヴィッド・コックス	木の習作		黒のチョーク、水彩・紙
140	フランシス・タウン	ピーモア・パークの木立、デヴォン州エクセター近郊	1804	ペンとインク、水彩・紙
141	ジョン・セル・コットマン	木の習作、ミドルセックス州ハロー	1805	鉛筆、水彩・紙
142	ジョン・ラスキン	月桂樹の枝の習作		ペンとインク、水彩、グワッシュ・淡青色の紙
143	ウィリアム・ホルマン・ハント	栗の芽	1893	鉛筆、水彩・紙
144	アンドリュー・ニコル	北アイルランドの海岸に咲くヒナゲシとダンルース城		鉛筆、ペンとインク、水彩・紙
145	ウィリアム・グッドール	ホワイ・アイド・カウリー（タカラガイ科）		ペンとインク、水彩・紙
146	ウィリアム・グッドール	花の習作：キルタンサス・オブリクス（ヒガンバナの仲間）		ペンとインク、水彩・紙
147	セーラ・ストーン	貝と珊瑚の習作		鉛筆、水彩とグワッシュ・紙
148	セーラ・ストーン	化石と貝の習作		鉛筆、水彩・紙
149	トマス・ハーン	夏季ートムソン著『四季』第2巻の挿絵	1783	鉛筆、ペンと茶色のインク、水彩・紙
150	トマス・ハーン	秋（ペイルモンとラヴィニア）ートムソン著『四季』第3巻の挿絵	1783	鉛筆、ペンと茶色のインク、水彩・紙
151	コーネリアス・ヴァーリー	山の景色、アイルランド	1808	水彩・紙
152	ヘンリー・ブライト	迫り来る嵐、ヤーマス海岸、ノーフォーク	1833	パステル・茶色の紙
153	ジョシュア・クリストール	漁網を干す漁船、ファイン湖、アーガイルシャー	1833	鉛筆、水彩・紙
154	デイヴィッド・コックス	ランカスターの砂州を渡る	1834頃	水彩・紙
155	トマス・ショッター・ボーイズ	ルーアンのセーヌ河畔、大聖堂の塔を望む、フランス	1830-33頃	水彩・紙
156	J.M.W. ターナー	サン・ゴタル峠の嵐	1845	水彩・紙
157	J.M.W. ターナー	濡れた浜辺に沈む夕陽	1845	鉛筆、水彩・紙

所蔵先はすべてマンチェスター大学ウィットワース美術館

イベント

講演会等

開催日	時 間	関連展覧会名	演 題	講 師	内 容	参加者数
6月1日(金)	18:30~ 20:00	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	特別講演会「日本のデザイン」	原研哉 (グラフィックデザイナー)	出品作家である原研哉氏が、最前線で活躍するデザイナーの仕事とデザイン観について語る	300
8月18日(土)	14:00~ 15:30	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト	吉原悠博トークイベント	吉原悠博 (吉原写真館店主、新潟大学非常勤講師) 聞き手：伊澤朋美 (当館美術学芸員)	国際的に活躍していた吉原氏が、地元に着いた作品制作に移行していくまでを映像によって紹介	40
9月30日(日)	14:00~ 15:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	ロマン主義から象徴主義へ—詩の世界を中心に	高木裕 (フランス文学者、新潟大学人文学部長)	ロマン主義から象徴主義への流れを、詩を紹介しながら解説	60
11月4日(日)	14:00~ 15:00	GUN—新潟に前衛があった頃	GUN展アーティスト・トーク	前山忠 (美術作家)	GUNの創設者である前山氏の活動と、GUN創成期とその後の新潟の前衛について解説	24
11月18日(日)	14:00~ 15:00	GUN—新潟に前衛があった頃	GUN展アーティスト・トーク	堀川紀夫 (美術作家)	堀川氏とGUNの深い関わりについて、今日までの活動とともに紹介	20
12月8日(土)	14:00~ 15:30	GUN—新潟に前衛があった頃	記念シンポジウム「地方と前衛」	塩田純一 (新潟市美術館長) 丹治嘉彦 (新潟大学教育学部教授) 富井玲子 (美術史家・翻訳家) 前山忠 (美術作家) 堀川紀夫 (美術作家)	富井氏による基調講演の後、パネラーそれぞれの立場でテーマについて語り、セッションを行う	49

計493名

講座

開催日	時 間	関連展覧会名	講 座 名	講 師	内 容	参加者数
5月12日(土)	14:00~ 15:30	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	デザインって何だろう	藤田裕彦 (当館学芸課長)	身の回りのデザインから一押しの作品を取り上げながら、デザインの大きな世界を紹介	26
5月26日(土)	14:00~ 15:30		書の雑学	松矢国憲 (当館専門学芸員)	書体と時代の関連性、日本の仮名文字の時代性を中心に書の歴史を辿る	21
6月2日(土)	14:00~ 15:30		終戦と日本画—『日本画滅亡論』に画家たちはどう向き合ったか	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	太平洋戦争終結以降の日本画の表現の変化を、代表的な画家の作品で辿る	24
8月25日(土)	14:00~ 15:30	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト	現代美術 映像作品の誕生	藤田裕彦 (当館学芸課長)	映像作品誕生の意味について、背景も含めて解説	18
9月29日(土)	14:00~ 15:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	フランス世紀末芸術への招待	平石昌子 (当館学芸課長代理)	心の内面を描こうとした「象徴派」の芸術について、ナビ派やゴッホを中心に紹介	38
10月6日(土)	14:00~ 15:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	文学と美術—漱石の見た倫敦	荒井直実 (当館主任学芸員)	19世紀末、ヨーロッパ芸術に出会った明治の文豪・夏目漱石と森鷗外に焦点を当て、日本への受容の側面を紹介	33
12月15日(土)	14:00~ 15:30	GUN—新潟に前衛があった頃	新潟現代美術家集団GUNとその時代	高展俊 (万代島美術館主任学芸員)	「新潟現代美術家集団GUN」の結成から活動終了までを紹介し、地方都市における現代アートの可能性を考える	30
12月22日(土)	14:00~ 15:30	コレクション展第4期 展示室2「雪景」	雪をめぐる 雪をえがく	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	雪景を描いた作品をもとに、雪を愛でる日本の文化について考える	14

計204名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講師	内容	参加者数
4月1日(日)	14:00~ 16:10	びじゅつのあそびば	びじゅつかんであそぼう！ わたしがモデル!?《10人のインディアン》	吉本美春・石森慧 (上越教育大学大学院)	自分がモデルとなり、様々な材料を使って、カラフルで不思議な《10人のインディアン》を制作	14
4月1日(日)	14:00~ 16:10	びじゅつのあそびば	びじゅつかんであそぼう！ 《10人のインディアン》アレンジ絵皿づくり	柴野ひさ子・小林たつ子 (見附市立葛巻小学校)	《10人のインディアン》をモチーフに絵付けしたカラフルな絵皿を制作	14
4月15日(日)	14:00~ 16:30	びじゅつのあそびば	びじゅつかんであそぼう！ おはなしをつくろう	広川佳予子 (絵本ナビゲーター)	展示作品をつなぎ合わせて物語を作り、絵本に仕立てる	18
4月22日(日)	14:00~ 15:30		発見！ びじゅつかん 美術館の舞台裏探検	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	美術館のバックヤードを巡りながら、美術館の機能や作品について新たな発見をする	4
4月29日(日)	14:00~ 15:30		発見！ びじゅつかん じっくり観て 観ないで模写	佐藤久美子 (当館副参事)	コレクション展示室の作品をじっくり鑑賞してから、別室でその作品を模写する活動	2
5月6日(日)	14:00~ 15:30		発見！ びじゅつかん 美術館の舞台裏探検	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	美術館のバックヤードを巡りながら、美術館の機能や作品について新たな発見をする	5

5月13日(日)	14:00~16:00	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	わたしの名刺をつくってみよう	荒井直美 (当館主任学芸員) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	参加者が自分自身を発見し、それを反映させたデザインの名刺を制作	8
5月19日(日)	14:00~16:00	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	ロゴ☆ロゴミュージアム	荒井直美 (当館主任学芸員) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	日用品のパッケージやロゴデザインなどから、身近にあるデザインを発見する	3
5月20日(日)	14:00~15:30		なにかいる!? 野外彫刻たんけん隊	伊澤朋美 (当館美術学芸員) 佐藤久美子 (当館副参事)	地図を見ながら美術館外のオブジェや彫刻を探検し、その魅力を味わう	3
5月27日(日)	14:00~15:30		ころころ 石ころアート	伊澤朋美 (当館美術学芸員) 佐藤久美子 (当館副参事)	石の形から発想を広げ、アクリル絵の具で彩色する	13
6月3日(日)	14:00~15:30		発見! びじゅつかん 美術館の舞台裏探検	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	美術館のバックヤード巡りながら、美術館の機能や作品について新たな発見をする	7
6月17日(日)	14:00~15:30		クイズでまわろう美術館	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	コレクション展の作品をクイズを解きながら探り、味わう	4
7月1日(日)	14:00~15:30		にじみのもようであちをを作ろう	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	にじみの技法の美しさやおもしろさを感じながら、うちを制作	12
8月19日(日)	14:00~15:30		びじゅつ☆体験隊 まわれ! ペットボトル風見鶏	佐藤克己 (当館学芸課長代理) 佐藤久美子 (当館副参事)	木材とペットボトルを組み合わせて、風を受けて回る風見鶏を制作	11
10月8日(月・祝)	14:00~15:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	世紀末バリの幻想 影絵のせかい	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	象徴派の時代背景を感じながら、影絵鑑賞と制作を行う	4
11月11日(日)	14:00~15:30		びじゅつ☆体験隊 張り子のオブジェ	佐藤久美子 (当館副参事)	和紙を重ねて貼り、アクリル絵の具等で彩色したるまを制作	1
11月18日(日)	14:00~15:30		びじゅつ☆体験隊 ミニ掛け軸を作ろう	宮下東子 (当館学芸課長代理) 荒井直美 (当館主任学芸員)	掛け軸の部位の名称を学びながら手軽な方法でミニサイズの掛け軸を制作	8

計131名

コンサート

開催日	時 間	関連展示会名	イベント名	講 師	内 容	参加者数
9月23日(日)	14:00~15:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	コンサート「耳で聞く象徴派—ドビュッシーを中心に」	遠藤吉比古 (ピアニスト・新潟大学非常勤講師) 司会: 荒井直美 (当館主任学芸員)	象徴主義の旗手とされるドビュッシーを中心に、年代を追いながら、美術とのかかわりや曲のモチーフを紹介	137

計137名

映画鑑賞会

開催日	時 間	関連展示会名	タ イ ト ル	内 容	参加者数
5月5日(土)	10:00~14:00~	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	あした元気にな〜れ! 「半分のさつまいも」	2005年 製作国: 日本 監督: 松宮正純・桑良人・田中英行 原作: 海老名香葉子「半分のさつまいも」(くもん出版) 上映時間: 90分	30
5月19日(土)	10:00~14:00~	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	十二人の写真家	1955年 製作国: 日本 監督: 勅使河原宏 企画: 亀倉雄策 出演: 濱谷浩・渡辺義雄・土門拳ほか 上映時間: 49分	30
9月8日(土)	13:00~	象徴派—夢幻美の使徒たち	ルートヴィヒ〜神々の黄昏	1972年 イタリア・フランス・西ドイツ合作映画 監督: ルキノ・ヴィスコンティ 出演: ヘルムート・バーガー 上映時間: 237分	41
9月15日(土)	13:00~	象徴派—夢幻美の使徒たち	ルートヴィヒ〜神々の黄昏	1972年 イタリア・フランス・西ドイツ合作映画 監督: ルキノ・ヴィスコンティ 出演: ヘルムート・バーガー 上映時間: 237分	30
9月22日(土)	13:00~13:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	ガス燈	1944年 製作国: アメリカ 監督: ジョージ・キューカー 出演: イングリッド・バーグマン他 上映時間: 114分	60
10月13日(土)	13:00~13:30	象徴派—夢幻美の使徒たち	ジェーン・エア	1944年 製作国: アメリカ 監督・脚本: ロバート・スティーブンソン 出演: オースン・ウェルズ他 上映時間: 96分	62
11月10日(土)	13:00~13:30	GUN—新潟に前衛があった頃	アキレスと亀	2008年 製作国: 日本 監督・脚本・編集: 北野武 出演: ビートたけし他 製作: オフィス北野 上映時間: 134分	51

計304名

体験コーナー

開催期間	時 間	関連展示会名	体験コーナー名	担 当	内 容
1月4日(金)~2月3日(日)	9:00~17:00	コレクション展第4期 展示室2「雪景」	雪華もようをつくろう	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	切り紙による雪華もよう作りを通して、伝統的な雪の文化に親しむ

総合計 1,269名

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は「遠隔地の県民に広く鑑賞機会を提供する」ことで6年ぶりに佐渡へ渡った。

新潟日報紙やNHK、ケーブルテレビ等が会期早々に取り上げて紹介されたことで、島内に広く周知されることができた。

また、セルフガイド（鑑賞の手引き）に全作品の解説を掲載し、体裁もジャバラ状に手に持ちやすい形とするなど、鑑賞しやすい環境の工夫をこらした。

【開催地・開催期日・その他】

・佐渡会場 佐渡中央文化会館
（アミューズメント佐渡）

9月26日(水)～10月11日(日)

毎週月曜日休館

主 催：新潟県立近代美術館 佐渡市教育委員会

後 援：新潟日报社 NHK新潟放送局 エフエムラジオ新潟 FMPORT79.0

出品点数：27点

入場者数：1,682人

担当 松矢国憲 伊澤朋美 佐藤久美子

【出品リスト】

No	作家	作品名	制作年
1	小山 正太郎	婦人	1891
2	満谷 国四郎	裸婦	1923
3	石井 柏亭	池	1928
4	岡 鹿之助	朝の城	1970
5	田崎 広助	箱根の富士	不詳
6	坂田 一男	椅子による裸婦	1924
7	鷹山 宇一	花	不詳
8	三芳 悌吉	雪景の中の静物(戦場ヶ原)	1971
9	末松 正樹	作品	1951
10	佐藤 哲三	越後の秋	1937
11	三浦 文治	浜	1973
12	麻田 鷹司	那智	1960
13	加山 又造	白菜と小鳥	不詳
14	三上 誠	作品3	1968
15	横山 操	流星	1960
16	阪本 文男	カッコの入っている静物	1973
17	山口 薫	或る海の網	1959
18	オノサト トシノブ	同心円	1971
19	斎藤 義重	作品 (Blue)	1961
20	M.エルンスト	喜びの鳥	1971
21	野見山暁治	誰も知らない	1993
22	M.マリーニ	馬	1953
23	有元 利夫	騎馬像	1986
24	F.ボデロ	頭部	1989
25	五代 伊藤 赤水	無名異壺	1988
26	本間 一秋	波響	1990
27	宮田修平	トルソ (一対)	1975



出前講座

開催日	時間	団体名	講座等	担当者	参加者数
5月8日(火)	14:00～ 15:40	長岡市立上組小学校6年	学芸員ってどんなお仕事でしょう？	宮下東子 (当館学芸課長代理)	70
5月25日(金)	9:00～ 16:00	長岡市立与板中学校1・2・3年	みる楽しみ	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	200
6月14日(木)	8:40～ 9:30	長岡市立川口中学校3年	デザインて何？	藤田裕彦 (当館学芸課長)	61
6月15日(金)	13:45～ 11:35	南魚沼市立五十沢中学校3年	デザインて何？	藤田裕彦 (当館学芸課長)	43
7月21日(土)	10:00～ 12:00	長岡市子育ての駅「ちびっこ広場」幼児・小学生・保護者	モノトーンの世界	佐藤久美子 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	38
7月29日(日)	10:00～ 12:00	塩沢金城わかば児童館	写してアート	佐藤克己 (当館学芸課長代理) 宮下東子 (当館学芸課長代理)	40
7月30日(月)	10:00～ 12:00	門前にこここ保育園(上越市)	写してアート	宮下東子 (当館学芸課長代理)	19
8月6日(月)	9:30～ 12:00	南魚沼市立石打小学校教員	じわじわにじみの表現	佐藤久美子 (当館副参事)	10
8月22日(水)	9:00～ 12:00	魚沼市立堀之内小学校教員	にじみの世界	佐藤久美子 (当館副参事)	20
9月14日(金)	9:30～ 12:00	新潟県立はまなす特別支援学校全学年	にじみの世界	佐藤久美子 (当館副参事)	25
9月21日(金)	13:40～ 14:30	新発田市立第一中学校1年	デザインて何？	藤田裕彦 (当館学芸課長)	117
9月25日(火)	9:35～ 12:00	長岡市立新組小学校1・2・3年	みる楽しみ	宮下東子 (当館学芸課長代理)	58
10月7日(日)	11:00～ 14:00	長岡市立表町小学校全学年・保護者	みる楽しみ紙コップツリー写してアート	佐藤克己 (当館学芸課長代理) 佐藤久美子 (当館副参事) 荒井直美 (当館主任学芸員)	200
11月13日(火)	13:55～ 14:40	新潟市立荻川小学校6年	みる楽しみ	宮下東子 (当館学芸課長代理)	81
11月22日(木)	9:00～ 12:00	長岡市立新組小学校4・5・6年	写してアート	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	69
11月25日(日)	10:30～ 12:00	長岡市子育ての駅「ちびっこ広場」幼児・小学生・保護者	みる楽しみ	佐藤久美子 (当館副参事)	25
12月5日(水)	13:45～ 14:35	魚沼市立湯之谷中学校3年	デザインて何？	藤田裕彦 (当館学芸課長)	66
12月7日(金)	10:40～ 11:25	長岡市立中島小学校2年	みる楽しみ	宮下東子 (当館学芸課長代理)	41
12月14日(金)	11:20～ 14:45	新潟市茨曽根小学校6年	写してアート	佐藤久美子 (当館副参事)	23
1月14日(月)	9:35～ 10:20	長岡市立上組小学校6年	こども学芸員作品解説会に向けて	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	95
1月15日(火)	9:35～ 10:20	長岡市立上組小学校6年	こども学芸員作品解説会に向けて	佐藤克己 (当館学芸課長代理)	95

計1,396名

第5回こどもアートミュージアム

子どもを中心とした「みる楽しみ、ふれる楽しみ」をテーマに、主に県内の保育園・幼稚園、小・中学校など、子どもたちの制作した作品展示や、ワークショップ等を行う。

今年度は、近隣施設や、当館の他事業に参加したことのある個人および団体と連携した活動ができたことが成果としてあげられる。しかし、当事業に対する新たな参加者の応募もなく、予算もないことから、事業的な広がりがみられない状況が続いていた。根本的に当事業を見直す必要があることを確認し、2013年度より当分の間当事業を休止し、検討期間とすることを決定した。

美術館活動に関心ある個人・団体の多様な立場や能力を生かし、彼らが主体的に参加できるような、魅力ある事業形態と、“美術館”で実施するという特徴を生かした、美術館・協力者双方にとって意義のある内容の創出が、今後の検討課題となっている。

【会期等】

2012年8月17日(金)～8月23日(木) (6日間)

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

入場無料

【参加者及び内容】

・ワークショップ

参加者・団体名	ワークショップ名	内 容	実 施 日
上越教育大学大学院 (上越市)	みて・さわって・つくって “よせぎ” を 楽しもう	様々な色の木を使って、オリジナルもようのコースター を作ることを通し、普段なかなか触れる機会の無い、工芸 作品に親しむ	8月21、22日
上越教育大学大学院 (上越市)	くっつけ くっつけ しろふわワールド	エコフォーム（トウモロコシでできた緩衝材）のもこ もことした素材の特徴を生かし、水で接着させ、不思議な世界をつくる	8月21～23日
広川佳予子 (絵本セラピスト)	みんなでつくろう てのひらツリー	大きな樹が描かれた台紙に、手のひらをかたどった葉っぱや木の実を付けていき、“てのひらツリー”をどんどん成長させていく	会期中随時
	てのひらアートーてのひら絵本をつくろう	手のひらのシルエットを動物や魚に見立て、オリジナルの見開き絵本を作る	8月18日
葛巻小学校（見附市）	ワイヤーアート	カラーワイヤーやビーズなどを使って、昆虫や動物などを作る	8月19日
小中川児童館（燕市）	エコステンドグラスワークショップ	お菓子やペットボトルの包装フィルムを使ってステンドグラスを作る、エコなワークショップ	会期中随時
新潟県立美術館友の会＋ 新潟県立近代美術館	まる・さんかく・しかくでお城をつくろう	色とりどりの廃チラシで作られた丸と三角・四角のピースを、台紙に貼り合わせてお城を作る	会期中随時

・作品出品

参加団体名	作 品 名	内 容
門前にここ保育園 (上越市)	仲間っていいね!!	出前講座で作ったスタンプによる作品をもとに作成したもの
小中川児童館（燕市）	エコステンドグラス	お菓子やペットボトルの包装フィルムを使って作成したステンドグラスを、模造紙に貼ったもの
葛巻小学校（見附市）	ランプシェード	陶器作品
新潟県立長岡聾学校 (長岡市)	切り紙・絵画作品18点	それぞれ四つ切り画用紙で作成
佐渡市立前浜小学校 (佐渡市)	ありがとうみなさん ありがとう思い出がいっぱいの校舎	版画作品
恵和保育園（長岡市）	共同制作作品	4m×10mの紙いっぱいに作った、貼り絵を中心にした作品

担当 伊澤朋美 宮下東子

刊行物

刊行物

刊行物名	概 要	仕 様	発行部数	発行日	内 容
平成24年度年間スケジュール	平成24年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4変形 観音 四つ折り 4色 ×4色	40,000部	2012年 4月1日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」38号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り (A4版) 4頁	10,000部	2012年 4月25日	Who is KAMEKURA? / 水の記憶 吉原悠博映像プロジェクト 吉原悠博氏インタビュー / とびまわる学芸員① GUN展準備中 雪の中の学芸員 / とびまわる学芸員② 作家調査でアメリカへ! / BOOK GUIDE 今こそ読みたい中国美術入門 / キンビのおすすめ / お世話になってます その1 白手 / 編集後記
コレクション展のススメ	平成24年度のコレクション展の日程及び内容を紹介したもの。雪椿通信38号に挟み込む形で配布	A4版 4色×4色	20,000部	2012年 4月25日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」39号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り (A4版) 4頁	10,000部	2012年 9月24日	NIIGATAアートのリンク誕生 この秋新潟は現代美術三昧 / 発売中! 『時代をかけるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち』 / インタビュー 新潟現代美術家集団GUNの夜明け / とびまわる学芸員① 作品調査で真夏の湘南へ / とびまわる学芸員② 長岡まつりで美術館のPR / BOOK GUIDE 読む象徴派 / MUSIC GUIDE 聴く象徴派 / キンビのおすすめ / お世話になってます その2 メジャー
「GUN—新潟に前衛(アバンギャルド)があった頃」図録	自主企画展図録	B5判 本文92頁	1,000部	2012年 12月	展覧会ページ参照
オトナのための・たのしくわかる・象徴派「えいりきんびしんぶん」	企画展「象徴派 夢幻美の使徒たち」のセルフガイド	A3版 二つ折り 1色×1色	7,000部	2012年 9月8日	ゴーギャンついにタヒチへ!! / 「北斎漫画」発見 / エッフェル塔工事着々…? / 美術界に衝撃走る!!世紀のダブル不倫 ラファエル前派は崩壊寸前!? / 掲示板 / パリの日本人 明治三十三年 1900 漱石さんの巴里見物 / CRSS WORD PUZZLE / NEW OPEN / IN STORE NOW
オトナのための・たのしくわかる・象徴派「えいりきんびしんぶん」ダイジェスト版	企画展「象徴派 夢幻美の使徒たち」の広報用ガイド	A4版 (片面) 1色	3,000部	2012年 9月8日	ゴーギャンついにタヒチへ!! / 「北斎漫画」発見 / TODAY'S ISSUE
巡回ミュージアム 佐渡会場セルフガイド	「巡回ミュージアム」のためのセルフガイド	A3版 蛇腹5つ折り モノクロ (リソグラフにて作成)	1,000部	2012年 9月26日	

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。

コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展（日曜日 14:00～）

コレクション展（土曜日 11:00～）

企画展
展覧会名

期日	人数
時代を駆けるデザイン亀倉雄策賞の作家たち	

4月29日	7
5月 6日	10
5月20日	5
5月27日	20
6月 3日	15
小 計	57

象徴派－夢幻美の使徒たち

9月 9日	15
9月16日	18
10月 7日	20
10月14日	20
10月21日	25
小 計	98

GUN－新潟に前衛があった頃

11月 4日	24
11月11日	2
11月18日	20
12月 2日	6
12月 9日	1
12月16日	7
12月23日	2
1月 6日	7
1月13日	23
小 計	92

東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華

3月17日	25
3月24日	20
3月31日	30
小 計	75

企画展合計 322名

コレクション展

平成23年度第5期（前年度からの続き）

4月 7日	1
4月21日	2
4月28日	3
小 計	6

第1期

5月12日	3
5月19日	1
6月 2日	2
6月 9日	5
6月23日	33
小 計	44

第2期

7月 7日	24
7月14日	15
7月21日	21
8月11日	2
8月18日	6
8月25日	3
9月 1日	5
小 計	76

第3期

9月 8日	7
9月22日	3
9月29日	10
10月13日	3
10月20日	40
10月27日	2
小 計	65

第4期

11月10日	3
11月24日	4
12月 1日	15
12月 8日	1
12月15日	3
1月 5日	5
1月12日	6
1月19日	2
1月26日	4
2月 2日	5
小 計	48

第5期

3月16日	4
3月23日	6
3月30日	9
小 計	19

コレクション展合計 258名

総合計 580名

団体への解説

希望団体に対し、作品解説や施設紹介等を行った。

時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち

5月22日(火)	小林古徑記念美術館友の会	45名
6月 2日(土)	群馬大学美術専攻学生	43名
6月20日(水)	双葉会	21名
計3回	小 計	109名

コレクション展第2期

7月11日(水)	長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会	12名
7月15日(日)	佐渡フラダンス教室	27名
7月18日(水)	坂之上コミュニティーセンター	22名
7月19日(木)	村上市神林地区長寿大学	88名
7月20日(金)	胎内市中央公民館	25名
7月28日(土)	みのわの里工房みつけ	9名
8月22日(水)	見附市美術教育研究会	21名
8月24日(金)	新潟県立生涯学習推進センター	6名
8月25日(土)	北魚図工美術サークル	10名
計9回	小 計	220名

象徴派—夢幻美の使徒たち

9月25日(火)	指定障害福祉サービス事務所あどばんす	26名
9月26日(水)	新潟教弘友の会	50名
9月27日(木)	新潟教弘友の会	50名
10月17日(水)	長岡市三島郡教育研究会	20名
計4回	小 計	146名

GUN—新潟に前衛があった頃

11月10日(土)	北魚図工美術サークル	8名
11月13日(火)	世田谷美術館友の会	32名
計2回	小 計	40名

コレクション展第4期

1月30日(水)	長岡市立新町小学校教職員	22名
計1回	小 計	22名

コレクション展第5期

3月15日(金)	みどり保育園	20名
3月17日(日)	中越教育美術会	10名
計2回	小 計	30名

合計21回	人数合計	567名
-------	------	------



学校教育との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用—展覧会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会鑑賞の機会を提供した。特に希望のあった学校団体に対して、対話を取り入れた鑑賞を行った。

【対話を取り入れた鑑賞】 合計662名

コレクション展第1期

6月 8日(金)	長岡市立与板中学校 (1年)	80名
6月15日(金)	長岡市立与板中学校 (2年)	74名
6月22日(金)	長岡市立上組小学校 (6年)	78名

コレクション展第2期

8月 1日(水)	柏崎市立第三中学校 (美術部)	10名
8月 8日(水)	小千谷市立東小千谷中学校 (造形部)	33名
8月10日(金)	妙高市立妙高中学校 (1・2年)	10名

コレクション展第3期

9月12日(水)	栃尾地区小学校	83名
9月28日(金)	新津市立第三小学校 (6年)	109名

象徴派—夢幻美の使徒たち

10月 3日(水)	長岡市立関原中学校 (美術部)	11名
10月 3日(水)	新潟大学附属長岡中学校 (美術部)	23名

コレクション展第4期

11月 8日(木)	小千谷市立千田小学校 (5年)	22名
12月12日(水)	長岡市立中島小学校 (2年)	43名
1月31日(木)	新潟県立出雲崎高校	47
2月 1日(金)	出雲崎町立出雲崎小学校 (4年)	32名

コレクション展第5期

3月27日(水)	糸魚川市立糸魚川東中学校 (美術部)	7名
----------	--------------------	----

【学芸員による解説】 合計1,703名

時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち

4月27日(金)	三条市立南小学校 (6年)	69名
5月11日(金)	長岡造形大学	22名
5月19日(土)	長岡市立東中学校 (美術部)	23名
5月19日(土)	上越市立城西中学校 (美術部)	21名
6月 2日(土)	群馬大学教育学部	41名

コレクション展第1期

4月26日(木)	日本アニメマンガ専門学校	50名
6月 5日(火)	長岡市立江陽中学校 (美術部)	24名
6月 6日(水)	長岡市立山古志中学校 (美術部)	3名
6月23日(土)	新潟市立五十嵐中学校 (美術部)	30名

コレクション展第2期

6月28日(木)	長岡市立洪海小学校 (3年)	17名
7月 5日(木)	長岡造形大学	33名
8月24日(金)	新潟県立長岡工業高校 (美術部)	10名

象徴派—夢幻美の使徒たち

9月19日(水)	燕市立小池中学校	85名
9月22日(土)	長岡市立東中学校 (美術部)	23名
9月26日(水)	新潟県立向陽高校①	155名
9月26日(水)	新潟県立向陽高校②	156名
9月27日(木)	新潟県立長岡明德高校①	148名
9月27日(木)	新潟県立長岡明德高校②	120名
10月 6日(土)	上越市立浦川原中学校 (美術部)	4名
10月18日(木)	長岡市立関原中学校 (3年)	68名
10月20日(土)	小千谷市立小千谷中学校 (美術部)	25名

GUN—新潟に前衛があった頃

11月10日(土)	長岡市立秋葉中学校 (美術部)	10名
11月11日(日)	長岡市立秋葉中学校 (美術部)	14名
11月13日(火)	小千谷市立小千谷小学校 (5年)	82名
11月14日(水)	小千谷市立小千谷小学校 (5年)	80名
11月17日(土)	新発田市立第一中学校 (美術部)	25
11月20日(火)	小千谷市立片貝小学校 (5年)	51名
12月 1日(土)	魚沼市立小出中学校 (美術部)	20名
12月11日(火)	新潟県立長岡商業高校 (2年)	40名
12月12日(水)	新潟県立長岡商業高校 (2年)	42名
12月13日(木)	新潟県立長岡商業高校 (2年)	40名
12月13日(木)	新潟県立長岡商業高校 (2年)	41名
12月14日(金)	新潟県立長岡商業高校 (2年)	42名
12月27日(木)	上越市立柿崎中学校 (美術部)	8名

コレクション展第4期

11月29日(木)	長岡市立上組小学校 (6年)	78名
-----------	----------------	-----

東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華

3月28日(木)	長岡市立山古志中学校 (美術部)	3名
----------	------------------	----

【展覧会鑑賞のみ】 合計330名

地上の天空 北京・故宫博物院展

7月 4日(水)	長岡市立小国小・中学校 (全学年)	22名
7月 7日(土)	湯沢町立湯沢中学校 (美術部)	15名
7月12日(木)	長岡高等専門学校 (1年)	41名
7月18日(水)	新潟県立明德高校 (社会人講座)	23名
7月20日(金)	小千谷市立吉谷小学校 (5年)	15名
7月20日(金)	小千谷市立和泉小学校 (5年)	18名
7月20日(金)	新潟県立長岡総合支援学校 (高等部3年)	42名
7月24日(火)	新潟市立山潟中学校 (美術部)	20名
7月31日(火)	柏崎市立東中学校 (美術部)	15名
8月 1日(水)	長岡市立旭岡中学校 (美術部)	14名

8月 1日(水)	新潟県立翠江高校 (美術部)	58名
8月 2日(木)	魚沼市立湯之谷中学校 (美術部)	12名
8月 4日(土)	糸魚川市立糸魚川中学校 (美術部)	20名
8月 5日(日)	新発田市立東中学校 (美術部)	15名

●校外学習・総合学習

学校教育における校外学習および総合学習での利用に供した。希望があった場合は、目的に応じて、施設等に関する説明や案内等を行った。

【学芸員による対応】	合計563名
コレクション展第1期	
6月 5日(火) 長岡市立前川小学校 (3年)	12名

象徴派—夢幻美の使徒たち

10月10日(水)	長岡市立中島小学校(1~6年)全校交流活動	273名
-----------	-----------------------	------

GUN—新潟に前衛があった頃

11月 7日(水)	長岡市立日越小学校 (5・6年)	189名
11月 7日(水)	見附市立西中学校 (1年)	89名

【展覧会鑑賞・自由見学】	合計595名
--------------	--------

時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち

5月 1日(火)	新潟県立新井高等学校 (3年)	194名
5月 9日(水)	新潟市立月潟中学校 (2年)	13名
5月18日(金)	新津市立第二中学校 (2年)	27名

地上の天空 北京・故宮博物院展

7月18日(水)	小千谷市立小千谷中学校 (3年)	9名
----------	------------------	----

象徴派—夢幻美の使徒たち

9月15日(土)	新潟県立江南高校 (3年)	163名
9月15日(土)	新潟県立江南高校 (3年)	154名
10月 5日(金)	新潟県立堀之内高校 (4年)	10名

コレクション展第3期

10月25日(木)	長岡市立上通小学校 (3年)	25名
-----------	----------------	-----

●職場体験・見学

学校等から希望に応じて、職場体験を受け入れた。

6月20-21日(水)-(木)		
長岡市立寺泊中学校2年職場体験	5名	
6月20-22日(水)-(金)		
小千谷市立千田中学校2年職場体験	2名	
7月24日(火)	長岡市立大島中学校1年職場体験	7名
8月21-23日(火)-(木)		
新潟県立長岡農業高校2年職場体験	4名	
9月20-21日(木)-(金)		
長岡市立南中学校1年職場体験	5名	

12月4-7日(火)-(金)		
長岡サポートセンター職場体験	4名	
2月6日(水)	長岡市立刈谷田中学校1年職場見学	9名
	合計36名	
	総合計3,889名	

●子ども学芸員作品解説

長岡市立上組小学校6年生の「総合的な学習の時間・図工」への取組として、児童が当館で作品鑑賞の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動に、学校と美術館が連携して取り組んだ。

4月	担当教諭が来館し、学芸員との事前打合せ
5月8日	出前授業「学芸員って、どんなお仕事でしょう？」により、児童への動機付け
6月22日	来館 クラスごとに対話型鑑賞を体験
1月14日・15日	出前授業「子ども学芸員作品解説会に向けて」により、児童の解説会練習
2月 2日	コレクション展示室にて児童による作品解説会



観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期間	日数	開催企画展名称	企 画 展										コレクション展										月計	
				学 校 等						障がい者	介助	合計	学 校 等						障がい者	介助	合計				
				小中・特			高校						小中・特			高校									
				校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率							
4	1～15	13	びじゅつのあそびば											0	0	0	0	0	0	20	6	26	117		
	17～22	6												0	0	0	0	0	0	3	2	5			
	26	1												0	0	0	0	0	0	1	1	2			
	27～30	4	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	1	66	3	0	0	0	13	2	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
5	1～31	27	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	4	81	3	1	181	13	101	29	408	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	408		
6	1～3	3	時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	0	0	0	0	0	0	12	3	15	0	0	0	0	0	0	1	0	1	300			
	5～24	19											7	213	19	0	0	0	22	8	262				
	28～30	3											1	15	2	0	0	0	5	0	22				
7	1	1											0	0	0	0	0	0	2	1	3	1,724			
	3～31	26	地上の天宮 北京・故宮博物院展	8	98	28	2	94	2	1,137	360	1,719	0	0	0	0	0	0	2	0	2				
8	1～5	5	地上の天宮 北京・故宮博物院展	5	64	7	1	52	6	174	40	343	0	0	0	0	0	0	0	0	0	482			
	7～12	6											3	38	5	0	0	0	9	2	54				
	14～31	16	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト											0	0	0	1	7	3	58	17		85		
9	1～2	2	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト											0	0	0	0	0	0	7	0	7	1,419		
	6～7	2												0	0	0	0	0	0	2	0	2			
	8～30	20	象徴派・夢幻美の使徒たち	4	284	21	3	841	55	157	51	1,409	0	0	0	0	0	0	1	0	1				
10	2～21	18	象徴派・夢幻美の使徒たち	6	381	23	1	7	3	109	32	555	0	0	0	0	0	0	2	0	2	594			
	23～28	6											1	23	2	0	0	0	9	3	37				
11	1～2	2												0	0	0	0	0	0	2	0	2	698		
	3～30	24	GUN・新潟に前衛があった頃	8	534	28	0	0	0	42	12	616	1	76	2	0	0	0	2	0	80				
12	1～27	23	GUN・新潟に前衛があった頃	3	66	5	0	195	10	17	3	296	0	0	0	0	0	0	0	0	0	296			
1	4～14	10	GUN・新潟に前衛があった頃	0	0	0	0	0	0	12	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83			
	16～31	14												0	0	0	1	41	6	17	4		68		
2	1～3	3												1	31	1	0	0	0	7	0	39	39		
3	12～15	4												0	0	0	0	0	0	5	0	5	227		
	16～31	14	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	2	8	2	0	0	0	160	52	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
合 計				272			41	1,582	120	8	1,370	89	1,934	587	5,682	14	396	31	2	48	9	177	44	705	6,387

* 観覧料免除申請はされていないが、小・中学生及び特別支援学校の児童生徒数を含む。

夏休み期間 観覧料免除者数

月	期間	日数	展覧会名称	高校生	月計	合計
7	14～31	16	コレクション展 第2期	7	107	234
	14～31	16	地上の天宮 北京・故宮博物院展	100		
8	1～31	27	コレクション展 第2期	0	121	
	1～5	5	地上の天宮 北京・故宮博物院展	52		
	14～31	16	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト	69		
9	1～2	2	コレクション展 第2期	0	6	
	1～2	2	水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト	6		

アートボランティア（新潟県立近代美術館ボランティア組織）

1 アートボランティア活動の目的

アートボランティア会員の生涯学習機会の増大と来館者へのサービス向上を図る。

2 アートボランティア登録人数

18名（前年度からの継続会員）
その他、友の会会員も活動に参加

3 活動内容

以下の当館事業について運営補助を行いながら、会員の研修と親睦を深めた。

- (1) 企画展「びじゅつのあそびば」、こどもアートミュージアムの運営補助（受付・体験コーナー支援）
- (2) 企画展のポスター・チラシ発送作業
- (3) 企画展ポスター掲示、ワークショップ等の表示の補助
- (4) 年間スケジュールに基づいたワークショップ・美術鑑賞講座・映画鑑賞会の補助（事前準備・当日受付）
- (5) 当館所蔵作品フォルダ・基本カードの整理や作成補助、未整理作品の整理や写真撮影
- (6) キャプション・展示ケースの整備

4 活動方法

- (1) 事前に活動日を設定し、電話連絡により活動者募集を行った。その他、会員の都合の付く日（平成24年度は火・金曜日の10:00～12:00）に活動を行った。
- (2) 美術館職員が活動の進行状況を把握し、支援と助言を行った。
- (3) 会員18名について、公費でボランティア保険に加入した。
- (4) 活動に対する報酬及び交通費の支払いは行わない。
- (5) 研修の意図で、活動日の展示室への入場を可能（無料）とした。

5 成果

- 平成24年度は、活動が73回、参加者（延べ人数）が153名であった。
- 展覧会ポスター・チラシ発送作業は、美術館・友の会との合同作業として行った。
- 当館所蔵作品フォルダ・基本カードの整備、亀倉雄策関連資料の整理、表示、イベント補助を当館の各担当者とともに進め、会員が美術文化への理解を深めた。

6 課題、次年度に向けて

活動への参加が固定した数名に限られている。ボランティア発足当初の目的を捉え直し、より組織的・計画的・主体的な活動へと高める必要がある。友の会との連携を深めながら改善を進める必要がある。

担当 佐藤久美子

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、12名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義の他、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。さらに当館所蔵品のなかから10数点の作品を実際に展示したり、作品解説会を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

8月20日(月)～31日(金) ※土日を除く

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	3名	
長岡造形大学	3名	
東北芸術工科大学	2名	
聖心女子大学	1名	
桜美林大学	1名	
昭和音楽大学	1名	
群馬女子大学	1名	合計12名

担当：長嶋圭哉、伊澤朋美、荒井直美

【カリキュラム】

月日	時限	内 容
8月20日(月)	1	開講式・館の概要説明、オリエンテーション
	2	展覧会見学（企画展・コレクション展）
	3	バックヤード見学
	4	講 義：博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況
8月21日(火)	1	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで
	2	講 義：作品の収集・分類・保管
	3	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）
	4	
8月22日(水)	1	講 義：作品の保存・修復
	2	講 義：作品の調査・研究
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）
	4	
8月23日(木)	1	講 義：学校教育と美術館、美術館の教育普及
	2	講 義：美術館の地域連携（ボランティアと友の会）
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）
	4	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策
8月24日(金)	1	実 習：作品基本カード作成とデータベース管理
	2	講 義：美術館のサービスと来館者の視点
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）
	4	講 義：美術館の広報
8月27日(月)	1	実 習：展覧会計画① （各班で作品・テーマ選定、リスト・図面・開催要項作成）
	2	
	3	
	4	
8月28日(火)	1	実 習：展覧会計画②（企画案プレゼン資料作成）
	2	
	3	実 習：展覧会計画③ （企画案発表、決定、作品所在確認）
	4	
8月29日(水)	1	実 習：展覧会計画④ （パネル・キャプション等の作成）
	2	
	3	
	4	実 習：展示作業準備
8月30日(木)	1	実 習：作品搬入、展示作業
	2	
	3	実 習：作品解説会準備
	4	
8月31日(金)	1	実 習：作品解説会、相互検討
	2	実 習：作品解説会、講評
	3	実 習：撤収作業
	4	実習のまとめ・閉講式

8時50分出勤 実習場所は会議室を基本とする

①9:00～10:20（80分） ②10:40～12:00（80分）

③13:10～14:30（80分） ④14:50～16:10（80分）

イベント

美術鑑賞講座

開催日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象等	会場	参加者数
6月10日(日)	14:00～15:30	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	メアリー・ブレア 魔法の色彩	宮下東子 (新潟県立近代美術館学芸課長代理)	メアリー・ブレアの生涯と作品について特にディズニーでの仕事を中心に詳しく解説する	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室	28
8月5日(日)	14:00～15:30	シャガール展 2012 愛の物語	シャガールとロシア	桐原 浩 (当館業務課長)	シャガールとロシアの関係について、時代を追いながら、作品を紹介する			42
8月26日(日)	14:00～15:30	シャガール展 2012 愛の物語	シャガールとエコール・ド・パリ	今井 有 (当館主任学芸員)	シャガールの二度のフランス滞在期について、同時代に活躍した画家たちや、時代背景などにも触れながら紹介する			50
1月27日(日)	14:00～15:30	巨匠たちの英国水彩画展	ターナーと風景画の歴史	今井 有 (当館主任学芸員)	ターナーの風景画の特質について、西洋の風景画の展開に位置づけながら紹介する		万代島美術館ロビー	60
2月17日(日)	14:00～15:00	巨匠たちの英国水彩画展	幻想の画家 ブレイクとマーティン	桐原 浩 (当館業務課長)	出品作家のブレイクとマーティンを取り上げ、彼らの生涯・作品について紹介する		NICOプラザ会議室	22

計202名

ワークショップ

開催日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象等	会場	参加者数
4月28日(土)	11:00～13:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	たのしい！かわいい！ モール手芸教室	なかじまみこ (モールアーティスト)	講師のなかじまみこ氏によるモール手芸教室。ショップでキットを購入された方を対象に、作り方を指導する(7月1日は追加開催)	一般 参加にはキット購入の必要有	万代島美術館ロビー	40
5月5日(土・祝)	11:00～13:00～							60 40
5月19日(土)	11:00～13:00～							40 30
6月16日(土)	11:00～13:00～							86
7月1日(日)	11:00～13:00～							20 10

計326名

その他のイベント

開催日	時 間	関連展覧会名	演 題 等	講 師 等	内 容	対象等	会場	参加者数
5月12日(土)	11:00～13:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	みんなあつまれ！ メアリー・ブレアのえほんのじかん	栗林紗美 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)	TeNYアナウンサーによるメアリー・ブレアの絵本の読み聞かせ	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	35 33
5月26日(土)	14:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	みんなワクワク！ 魔法のうたごえ	新潟市ジュニア合唱団	ジュニア合唱団による公演	一般 無料	万代島美術館ロビー	100
6月2日(土)	11:00～13:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	みんなあつまれ！ メアリー・ブレアのえほんのじかん	堀 敏彦 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)	TeNYアナウンサーによるメアリー・ブレアの絵本の読み聞かせ	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	39 31
6月3日(日)	14:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	ギャラリートーク	東村アキコ (漫画家) 三好 寛 (ジブリ美術館学芸員)	東村アキコ氏によるトークショー			270
	14:30～		サイン会	東村アキコ (漫画家)	東村アキコ氏によるサイン会	一般 参加無料	万代島美術館展示室	
6月23日(土)	11:00～13:00～	「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展	みんなあつまれ！ メアリー・ブレアのえほんのじかん	大平真理子 (TeNYテレビ新潟アナウンサー) 諸橋 碧 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)	TeNYアナウンサーによるメアリー・ブレアの絵本の読み聞かせ	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	70 75
8月19日(日)	14:00～14:40	シャガール展 2012 愛の物語	ミュージアム・コンサート	平松文子(フルート) 松村牧子(ヴァイオリン) 高橋美也子(ヴィオラ) 牧野純子(チェロ)	フルートを加えた弦楽四重奏の公演。展示にちなみロシア、フランスの作曲家の有名なプログラムで構成する	一般 無料	万代島美術館ロビー	135
9月15日(土)	11:00～11:30	シャガール展 2012 愛の物語	シャンソンコンサート 渋谷文太郎 愛を歌う	渋谷文太郎 (シャンソン歌手)	「愛の物語」をテーマにした、新潟県出身のシャンソン歌手によるコンサート			150

10月6日(土)	14:00～	ジバング展	ギャラリートーク	三瀬末雄 (エグゼクティブ・ディレクター)	ミヅマアートギャラリーのエグゼクティブ・ディレクター三瀬末雄氏によるギャラリートーク	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	50
10月13日(土)	14:00～ 14:35	ジバング展	ギャラリートーク	三瀬夏之介 (画家・東北芸術工科大学准教授)	ジバング展出品作家によるアーティストトーク。トーク終了後ロビーでサイン会を開催			50
10月20日(土)	14:00～	ジバング展	教えて！現代アート	太平真理子 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)	TeNYアナウンサーと当館学芸員による会話形式のギャラリートーク			30
10月27日(土)	14:00～ 14:50	ジバング展	ギャラリートーク	鴻池朋子 (画家)	ジバング展出品作家によるアーティストトーク。トーク終了後ロビーでサイン会を開催			70
11月3日 (土・祝)	14:00～	ジバング展	ギャラリートーク	O JUN (画家・東京芸術大学准教授)	ジバング展出品作家によるアーティストトーク			35
11月10日(土)	14:00～	ジバング展	教えて！現代アート	久保田紗也加 (TeNYテレビ新潟アナウンサー)	TeNYアナウンサーと当館学芸員による会話形式のギャラリートーク			35
11月17日(土)	14:00～ 15:00	ジバング展	ギャラリートーク	青山 悟 (現代美術作家)	ジバング展出品作家によるアーティストトーク			35
11月18日(日)	14:00～	ジバング展	山口晃トーク	山口 晃 (現代美術作家)	ジバング展出品作家山口晃氏によるアーティストトーク。終了後ロビーにてサイン会を開催	一般 無料	NICOP ラザ会議室	160 50
12月1日(土)	14:00～	ジバング展	ギャラリートーク	会田 誠 (現代美術作家)	ジバング展出品作家によるアーティストトーク。終了後ロビーにてサイン会を開催		万代島美術館展示室	180
1月20日(日)	14:00～ 14:45	巨匠たちの英国水彩画展	19世紀英国の音楽－絵と共に味わう、ダンスと歌のメロディ	大竹 奏 (フィドル (ヴァイオリン) 奏者) 松里俊明 (ファゴット奏者)	出品作と同時代のイギリス民謡をテーマにしたコンサート	一般 無料	万代島美術館ロビー	165
募集期間 11月1日(木) ～2月28日(木) 展示期間 12月18日(火) ～3月10日(日)		巨匠たちの英国水彩画展	みんなのイギリス写真展		一般県民からイギリスやヨーロッパの写真を募り、美術館ロビーに掲示した。	一般	万代島美術館ロビー	46件

計1844名
総合計2372名

刊行物

刊行物

刊行物名	概 要	仕 様	発行部数	発行日	内 容
平成24年度 展覧会案内リーフ レット	平成24年度の展覧会 の日程及び内容、年間 のイベント予定などを まとめたもの。	A4版 観音4つ折り 日英2カ国語表記	50,000部	2012年 3月31日	・展覧会予定・美術鑑賞講座案内／観覧料免除／乳幼児・障 害者向け施設案内／サポートメンバー募集／友の会案内／市 内美術館紹介・駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島 美術館便り 「B-island」No.11	美術館からの情報発信 として一般来館者向け に編集したもの。	A4版 4頁	5,000部	2012年 3月31日	・展覧会予定 ・イベントピックアップ／〔試み〕美術館の 外へ……市民とのつながりを求めて／サポートメンバーの募 集／近代美術館の企画展
新潟県立近代美術館 研究紀要 第12号	学芸員による研究報告 書	A4版 本文40頁	400部	2013年 3月22日	〔研究〕 宮下東子「対話型鑑賞—所蔵作品から」 平石昌子「樹木考—モーリス・ドニの象徴性の一側面」 高 晟峻「ニコーディム・コンダコフとチェコスロヴァキア」 〔事例報告〕 佐藤克己「収蔵作品データベース構築4年目の現状について」 伊澤朋美「企画展「びじゅつのあそびば」での取り組みについて」 〔英文要旨〕

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会期中の土・日・祝日には
学芸員による作品解説会等を行っている。

いずれも美術館に興味と親しみを感じていただくためのもの
で、来館者に興味をもって参加していただいた。

所蔵品展 異国憧憬		企画展 シャガール展		企画展 巨匠たちの英国水彩画展		所蔵品展（～3/31） ひとの姿/人のかたち	
作品解説会	人数	作品解説会	人数	作品解説会	人数	作品解説会	人数
4月 1日(日)	9名	8月11日(土)	35名	12月23日(日)	12名	3月24日(日)	6名
4月 7日(土)	10名	9月 2日(日)	35名	12月24日(月)	12名	3月31日(日)	8名
4月 8日(日)	10名	9月 9日(日)	45名	1月 6日(日)	10名	(2回)	
4月14日(土)	14名	9月16日(日)	35名	1月13日(日)	25名	小計	14名
4月15日(日)	8名	9月17日(月)	35名	1月14日(月)	10名		
(5回)		9月22日(土)	30名	2月 3日(日)	15名		
小計	51名	9月23日(日)	50名	2月10日(日)	25名		
		(7回)		2月11日(月)	25名		
		小計	265名	2月24日(日)	25名		
				3月 3日(日)	35名		
				3月10日(日)	30名		
				(11回)			
				小計	224名		
						総合計25回	
						554名	

団体への解説

団体来館のうち希望があった場合、必要に応じて作品解説や施設紹介等を行った。

「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展		
6月22日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	25名
6月27日(水)	日本アニメ・マンガ専門学校	23名
6月29日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	28名
7月 6日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	25名

ジャガール展2012 愛の物語		
8月 8日(水)	小千谷市生涯学習スポーツ課	33名
9月10日(月)	日本アニメ・マンガ専門学校	27名
9月12日(水)	日本アニメ・マンガ専門学校	24名
9月14日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	26名
9月14日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	30名
9月14日(金)	胎内市中央公民館	26名

ジバング展		
10月12日(金)	もみじ会	18名
10月17日(水)	日本アニメ・マンガ専門学校	23名
10月19日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	25名
10月19日(金)	日本アニメ・マンガ専門学校	24名
10月22日(月)	日本アニメ・マンガ専門学校	24名
10月31日(水)	青空地域生活支援センター	16名

巨匠たちの英国水彩画展		
1月18日(金)	ーノ木戸さんしん会・ーノ木戸すめい会合同旅行	30名
1月24日(木)	中之口地区協議会	43名
1月31日(木)	新潟コンピュータ専門学校	20名
		合計490名

学校教育との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用—展覧会の鑑賞
学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。

特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

【学芸員による作品解説】		合計614名
「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展		
5月30日(水)	新潟市立菅野木中学校 (1・2・3年)	15名
5月31日(木)	新潟市立葛塚中学校 (1・2・3年)	22名
6月 6日(水)	新潟市立白新中学校 (1・2・3年)	12名
6月 9日(土)	柏崎市立東中学校 (1・2・3年)	15名
6月12日(火)	村上市立神納小学校 (5年)	12名
6月19日(火)	新発田市立七葉小学校 (4年)	30名
6月30日(土)	上越市立雄志中学校 (1・2・3年)	13名

ジャガール展2012 愛の物語		
8月 7日(火)	燕市立燕中学校 (1・2・3年)	17名
8月 7日(火)	新潟市立横越中学校 (1・2・3年)	18名
8月10日(金)	阿賀野市立水原中学校 (1・2年)	20名
8月10日(金)	村上市立村上東中学校 (1・2年)	14名
8月22日(水)	村上市立荒川中学校 (1・2年)	13名

ジバング展		
10月 6日(土)	新潟市立山潟中学校 (2年)	4名
10月16日(火)	新発田市立本丸中学校 (1年)	71名
10月17日(水)	新発田市立本丸中学校 (1年)	106名
11月27日(火)	新潟市立大形中学校 (1年)	39名
11月28日(水)	新潟市立大形中学校 (1年)	39名
11月29日(木)	新潟市立大形中学校 (1年)	39名
11月30日(金)	山北・村上の美術教員	9名
11月30日(金)	新潟市立大形中学校 (1年)	38名
12月 1日(土)	阿賀町立阿賀津川中学校 (1・2・3年)	7名
12月 1日(土)	柏崎市立東中学校 (1・2年)	14名

巨匠たちの英国水彩画展		
1月19日(土)	長岡市立堤岡中学校 (1・2年)	14名
2月 8日(金)	新潟市立岩室小学校 (6年)	33名

【展覧会鑑賞のみ】		合計480名
「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展		
5月19日(土)	長岡市立堤岡中学校 (1・2・3年)	16名
5月30日(水)	新潟市立下山中学校 (1・2・3年)	41名
6月 6日(水)	新潟市立白新中学校 (1・2・3年)	28名
6月 6日(水)	新潟市立山潟中学校 (1・2・3年)	20名
6月 9日(土)	新発田市立第一中学校 (1・2・3年)	22名
6月 9日(土)	上越市立城西中学校 (1・2・3年)	24名
6月10日(日)	上越市立中郷中学校 (1・2・3年)	18名
7月 1日(日)	魚沼市立広神中学校 (1・2・3年)	23名

7月 7日(土) 湯沢町立湯沢中学校 (1・2・3年) 13名

シャガール展2012 愛の物語

7月31日(火) 阿賀野市立京ヶ瀬中学校 (1・2年) 7名
 7月31日(火) 柏崎市立東中学校 (1・2・3年) 15名
 8月 1日(水) 三条市立下田中学校 (1・2・3年) 18名
 8月 2日(木) 新発田市立豊浦中学校 (1・2・3年) 11名
 8月 2日(木) 南魚沼市立大巻中学校 (1・2・3年) 3名
 8月 3日(金) 新発田市立本丸中学校 (1・2年) 7名
 8月 4日(土) 新発田市立第一中学校 (1・2・3年) 21名
 8月 5日(日) 新潟市立新津第二中学校 (1・2年) 20名
 8月10日(金) 新潟市立山潟中学校 (1・2・3年) 17名

ジバング展

10月25日(木) 新潟県立上越総合技術高等学校 10名
 10月25日(木) 新潟県立高田高等学校 (1・2・3年) 19名
 10月25日(木) 新潟県立十日町高校 (1・2年) 8名
 10月25日(木) 新潟県立長岡商業高校 (1・2・3年) 33名
 10月25日(木) 新潟県立見附高校 (3年) 11名
 11月17日(土) 新潟第一高等学校 (1・2年) 12名
 11月23日(金) 胎内市立中条中学校 (1・2・3年) 10名
 12月 1日(土) 新潟市立山の下中学校 21名

巨匠たちの英国水彩画展

2月15日(金) 三条市立大島小学校 (5年) 11名
 3月 2日(土) 新潟県立高田高等学校 (1・2・3年) 15名
 3月 6日(水) 新潟県立新潟工業高等学校 (1・2・3年) 6名

●校外学習・総合学習

学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて、施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

【学芸員による対応】 合計231名

異国憧憬

4月12日(木) 村上市立岩船中学校 (2年) 5名

「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展

5月 9日(水) 新潟市立潟東中学校 (2年) 3名
 5月15日(火) 長岡市立北中学校 (2年) 29名
 6月 1日(金) 新潟市立庄瀬小学校 (4年) 12名
 6月 5日(火) 新潟市立石山中学校 (2年) 12名
 6月 5日(火) 新潟大学教育学部付属長岡中学校 (1・2・3年) 30名
 6月 6日(水) 上越市立直江津東中学校 (1・2・3年) 20名
 6月 7日(木) 新潟市立笹口小学校 (2年) 51名
 6月26日(火) 新潟市立新関小学校 17名

シャガール展2012 愛の物語

8月 8日(水) 新潟市立宮浦中学校 (1・2年) 13名

9月14日(金) 山形県長井市立伊佐沢小学校 (6年) 4名

ジバング展

10月12日(金) 阿賀野市立笹神中学校 (2年) 4名
 10月19日(金) 新潟市立五十嵐中学校 (2年) 8名
 11月 6日(火) 三条市立三条小学校 (4年) 19名

巨匠たちの英国水彩画展

2月20日(水) 柏崎市立教育センター (中学1～3年) 4名

【展覧会鑑賞・自由見学】

合計1118名

「スタジオジブリ所蔵」メアリー・ブレア原画展

5月 2日(水) 新潟市立中野小屋中学校 (2年) 5名
 5月 8日(火) 新潟市立東新潟中学校 (2年) 17名
 5月 8日(火) 新潟市立万代長嶺小学校 (2年) 9名
 5月 9日(水) 新潟市立山潟中学校 (2年) 27名
 5月11日(金) 新潟市立赤塚中学校 (2年) 4名
 5月16日(水) 胎内市立中条中学校 (2年) 30名
 5月16日(水) 新潟市立巻西中学校 (2年) 12名
 5月17日(木) 新潟市立小合中学校 (2年) 11名
 5月17日(木) 新潟市立白根北中学校 (2年) 6名
 5月17日(木) 加茂市立若宮中学校 (2年) 14名
 5月17日(木) 長岡市立江陽中学校 (2年) 47名
 5月17日(木) 燕市立分水中学校 (2年) 18名
 5月18日(金) 胎内市立黒川中学校 5名
 5月18日(金) 小千谷市立片貝中学校 10名
 5月18日(金) 阿賀野市立安田中学校 (2年) 24名
 5月23日(水) 加茂市立葵中学校 (特別支援学級3年) 2名
 5月23日(水) 関川村立関川中学校 (2年) 12名
 5月24日(木) 三条市立下田中学校 (2年) 14名
 5月25日(金) 新潟市立上山中学校 (2年) 5名
 5月25日(金) 燕市立小池中学校 (2年) 24名
 5月29日(火) 見附市立西中学校 (2年) 19名
 6月 5日(火) はじめ幼稚園 (5歳児) 86名
 6月 7日(木) 佐渡市立八幡小学校 (6年) 3名
 6月 7日(木) 佐渡市立小木小学校 (6年) 7名
 6月 7日(木) 佐渡市立加茂小学校 (5年) 15名
 6月 7日(木) 佐渡市立赤泊小学校 (6年) 6名
 6月 8日(金) 八千代保育園 (年長) 25名
 6月 8日(金) 佐渡市立金泉小学校 (6年) 7名
 6月12日(火) 加茂市立加茂中学校 (2年) 60名
 6月12日(火) 新潟市立月潟中学校 (1年) 10名
 6月14日(木) 佐渡市金井吉井小学校 5名
 6月21日(木) 藤見幼稚園 (5歳児) 90名
 6月27日(水) 燕市教育委員会 (小学5～中学3年) 4名
 6月27日(水) 新潟市立南万代小学校 (特別支援学級1～6年) 10名
 6月29日(金) 藤見幼稚園 4歳児 90名
 7月 4日(水) 入舟保育園 年長児 (5歳児) 26名

7月 5日(木)	新潟市立桜が丘小学校 特別支援学級2年生・6年生	2名
7月 5日(木)	新潟市立木山小学校 3・あおぞら学年	18名

シャガール展2012 愛の物語

8月17日(金)	加治川地区公民館小学生	20名
9月21日(金)	新潟市立中野山小学校 (6年)	22名
9月21日(金)	福島県北塩原村立裏磐梯中学校 (1年)	13名
10月11日(木)	新発田市立本丸中学校 (2年)	33名
10月11日(木)	新潟市立大杉中学校 (2年)	5名
10月16日(火)	五泉市青少年育成センター (小学5年・中学2年)	3名
10月17日(水)	新潟県立小千谷西高等学校 (3年)	27名
10月25日(木)	新潟県立十日町総合高等学校 (1・2・3年)	15名
10月25日(木)	新潟県立高田北城高等学校 (1・2年)	9名
10月25日(木)	新潟県立長岡明德高等学校 (1年)	92名

ジパング展

10月25日(木)	新潟県立三条高等学校 (1・2年)	15名
10月26日(金)	新潟県立出雲高等学校 (1年)	60名
11月 3日(土)	魚沼市立堀之内中学校 (1・2・3年)	17名
11月29日(木)	新潟県立駒林特別支援学校 (2年)	8名

●ワークシートの提供

来館にあわせ、展覧会をよりよく理解してもらうためのワークシートをデータにて提供した。

「メアリー・ブレア原画展」新潟市立笹口小学校 2年

●サポートスクール

近隣の小中学校12校を「サポートスクール」と位置づけ、各展覧会の広報等を厚くするとともに、協力関係を築いた。

サポートスクール

- ・新潟市立山の下小学校
- ・新潟市立沼垂小学校
- ・新潟市立笹口小学校
- ・新潟市立入舟小学校
- ・新潟市立栄小学校
- ・新潟市立白山小学校
- ・新潟市立宮浦中学校
- ・新潟市立万代長嶺小学校
- ・新潟市立南万代小学校
- ・新潟市立豊照小学校
- ・新潟市立新潟小学校
- ・新潟市立湊小学校
- ・新潟大学附属新潟小学校
- ・新潟市立東新潟中学校

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展 覧 会 名	会 期	日 数	学 校 等						障がい者	介 助	合 計
			小中・特			高 校					
			校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率			
異国憧憬～あこがれの風景～	4月1日～4月15日	13	0	38	0	0	0	0	45	7	90
メアリー・ブレア原画展	4月28日～7月8日	68	57	4,769	81	1	105	13	458	167	5,593
シャガール展2012－愛の物語－	7月30日～9月23日	53	18	1,942	22	0	0	0	711	220	2,895
ジパング展	10月6日～12月2日	55	18	2,126	31	13	408	41	403	117	3,126
巨匠たちの英国水彩画展	12月18日～3月10日	71	4	301	8	2	18	2	363	94	786
ひとの姿／人のかたち	3月20日～3月31日	11	0	31	0	0	0	0	25	8	64
合 計		271	97	9,207	142	16	531	56	2,005	613	12,554

*観覧料免除申請はされていないが、小中学生及び特別支援学校の児童生徒数を含む。

夏休み期間 観覧料免除者数

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
シャガール展2012－愛の物語－	7月30日～8月31日	31	43	266

サポートメンバー (新潟県立万代島美術館ボランティア組織)

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、2010年4月より新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】 (H25年3月時点)

6名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務で必要な活動への協力

- ・「メアリー・ブレア展」ワークショップ「かわいい！ たのしい！ モール手芸教室」実施補助
- ・「メアリー・ブレア展」「イツ・ア・モールワールド」材料準備
- ・「シャガール展」ミュージアム・コンサート実施補助
- ・「ジバング展」アーティスト・トーク実施補助
- ・「巨匠たちの英国水彩画展」ミュージアム・コンサート実施補助
- ・各展覧会広報活動（ポスター、チラシ発送）への協力
- ・亀倉雄策関連資料データベース化作業
- ・図書等整理

【課題】

- ・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
- ・昨年度に引き続き、メンバーの自主的な活動企画には至らなかったが、年間を通じてまんべんなく活動を行うことができた。

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、9名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。最終日には各自に所蔵品を使った展覧会企画を発表してもらい、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。

【実習期間】

8月1日(水)～8月9日(木)

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	2名
長岡造形大学	2名
大東文化大学	1名
東洋大学	1名
明星大学	1名
金沢美術工芸大学	1名
武蔵大学	1名
合 計	9名

【実習カリキュラム】

月日	時限	内 容
8月1日(水)	1	開校式・館長講話・オリエンテーション
	2	施設案内（朱鷺メッセ・万代島ビル）／企画展見学
	3	博物館法／美術館の課題
	4	研究課題（課題説明、資料収集）
8月2日(木)	1	展覧会の企画・運営 総論
	2	広報活動／刊行物作成（年報・紀要等）
	3	作品の点検・取り扱い（平面）
	4	研究課題（テーマ決定、構成検討）
8月3日(金)	1	作品収集／保存・修復／著作権／所蔵品管理
	2	美術館での調査・研究について／図録の編集
	3	作品の点検・取り扱い（彫刻、写真等）
	4	研究課題（リスト・図面作成）
8月7日(火)	1	受付・監視の仕事
	2	総務担当の業務について（実行委員会、予算、人事等）
	3	研究課題
	4	
8月8日(水)	1	美術館の教育普及活動について
	2	作品の取り扱い（日本画）
	3	作品の取り扱い（工芸）
	4	近代美術館・故宫博物院展撤収作業見学
8月9日(木)	1	課題発表準備（機材準備、資料配付等）
	2	課題発表・講評
	3	
	4	閉校式

担当者：高 晟俊

新潟県立近代美術館

【調査】

展覧会関連

藤田裕彦、宮下東子

- ・「GUN-新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃」作品調査
前山忠・堀川紀夫・富井玲子来館、聞き取り調査 5月29日（藤田、宮下）
前山忠・堀川紀夫 聞き取り調査 7月19日（藤田、宮下）
関根哲男作品調査 8月6日（藤田）
前山忠・堀川紀夫作品調査 ギャラリー湯山 8月31日（藤田、宮下）
佐藤秀治作品調査 9月13日（藤田、宮下）
市橋哲夫氏作品調査 9月25日（宮下）
- 長嶋圭哉・「岩田正巳展」作品調査 6月8日、2月5日、2月6日、2月12日、2月13日

作品調査

- 長嶋圭哉・小島丹彦作品調査 4月8日、6月16日
- ・津端道彦作品調査 5月8日
- ・竹内蘆風作品調査 6月13日、7月31日、11月16日
- ・尾竹竹坡作品調査 7月26日、10月26日
- 藤田裕彦・小林新一作品調査 4月13日
- ・矢部友衛作品調査 8月6日
- 松矢国憲・小林哲夫作品調査 6月12日
- ・平澤熊一作品調査 6月12日、10月19日
- ・富樫真平作品調査 9月11日
- ・宮芳平作品調査 12月7日、12月10日、2月19日、2月20日、2月21日、3月11日
- ・高村真夫作品調査 3月4日
- 松矢国憲、藤田裕彦、伊澤朋美
- ・小野末作品調査
7月26日（松矢、伊澤）
7月27日（松矢、藤田）
- 伊澤朋美・平石昌子／高晟峻・桐原浩
- ・武石弘三郎作品調査
7月5日（伊澤、平石、高）
11月7日（伊澤、平石、桐原）

【図録執筆】

「象徴派-夢幻美の使徒たち」

平石昌子・図録論文「モーリス・ドニのやわらかな風景-自然と抽象のあいだ」

平石昌子、荒井直美、伊澤朋美

- ・図録作品解説／作家解説

「GUN-新潟に前衛〈アバンギャルド〉があった頃」
藤田裕彦・図録論文「〈GUN〉の特殊性とその変質」
・各章解説
宮下東子・関係年表制作
藤田裕彦、宮下東子
・作家略歴

「東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華」
長嶋圭哉、宮下東子
・作品解説／作家略歴

【紀要】「新潟県立近代美術館研究紀要」12(2013)
佐藤克己・所蔵作品データベース構築4年目の現状について

平石昌子・樹木考-モーリス・ドニの象徴性の一側面
宮下東子・対話型鑑賞-所蔵作品から
伊澤朋美・事例報告:企画展「びじゅつのあそびば」での取組について

【寄稿】

松矢国憲・吉澤廉三郎展図録「吉澤廉三郎と師・黒田清輝の指導」
・中村彝展図録「中村彝〈洲崎義郎氏の肖像〉について」新宿歴史博物館
・「品川工・高橋信一の版画」友の会たより

新聞原稿

藤田裕彦・「瑠璃陶 坂爪勝幸展」5月22日 新潟日報あーとびっくす
・「水の記憶-吉原悠博映像プロジェクトに寄せて」8月11日 新潟日報文化欄
・「西村満〈夏の終わり〉展」10月11日 新潟日報あーとびっくす
・「〈GUN-新潟に前衛があった頃〉展に寄せて」12月14日 新潟日報文化欄
松矢国憲・故宮博物院展特集記事 6月17日 新潟日報
・故宮博物院展文物紹介 6月19日～7月3日(15回) 新潟日報
・「第4回青土会展」10月3日 新潟日報あーとびっくす
・「丸山正三さんを悼む」12月29日 新潟日報文化欄
平石昌子・「象徴派展④エドゥアルド・ムンク」

9月25日 新潟日報文化欄

・「象徴派展⑤ボール・ゴッガン」9月26日 新潟日報文化欄

宮下東子・「池山阿有展に寄せて」10月4日 新潟日報文化欄

荒井直美・「受け継がれる思想〈亀倉雄策賞の作家たち〉展に寄せて」5月28日 新潟日報文化欄

長嶋圭哉・「コレクション展 つながる」5月16日 新潟日報あーとびっくす

・「浦上義昭日本画展に寄せて」11月26日 新潟日報文化欄

伊澤朋美・「兆 稲田亜紀子日本画展」5月3日 新潟日報あーとびっくす

【講演・講義等】

新潟大学人文学部講義（美術史概説B）

長嶋圭哉・「2.日本画①ー日本画の誕生」10月10日

・「3.日本画②ー大正期の日本画」10月17日

・「4.日本画③ー昭和戦前期の日本画」10月24日

藤田裕彦・「6.工芸①ー輸出工芸の時代」11月7日

・「7.工芸②ー近代工芸の誕生」11月14日

・「8.工芸③ー意匠とデザイン」11月21日

・「15.現代美術ー概念を超えて」1月30日

宮下東子・「12.日本画④ー戦後の日本画」12月19日

松矢国憲・「13.戦後美術書と洋画①」1月9日

・「14.戦後美術書と洋画②」1月16日

澤田佳三（新潟県教育庁文化行政課主任学芸員）

・「1.日本美術史概論」10月3日

・「9.日本洋画①ー江戸から明治期」11月28日

・「10.日本洋画②ー明治期から大正期」12月5日

・「11.日本洋画③ー昭和戦前期」12月12日

まちなかキャンパス長岡 平成24年度まちなか大学「新潟県の芸術家たち」

長嶋圭哉 第2回「土田麦僊と近代日本画」9月26日

松矢国憲 第3回「長岡人・小山正太郎」10月3日

その他

松矢国憲・吉澤廉三郎講演会「近代日本画の夜明けと吉澤廉三郎」小千谷市主催 4月28日

・「第15回ふるさと講座 越後・佐渡の書の流れ」2月16日 新潟県立図書館

平石昌子・作品解説「新潟日報美術鑑賞の旅 フェルメールの至宝」7月10日

佐藤久美子・「表現および鑑賞教育の方向」8月6日 魚沼市立堀之内小学校

・「表現および鑑賞教育の方向」8月22日 南魚沼市立石打小学校

荒井直美・「日本の写真師誕生150周年シンポジウム“僕らが、今、ここにいること”〈佐野史郎×吉原悠博〉」司会 8月1日

伊澤朋美・第41回新潟大学美術研究大会「事例報告・びじゅつのあそびば」1月26日

【研修】

立川厚生・平成24年度博物館長研修 10月10～12日

藤田裕彦・国宝・重要文化財(美術工芸品)防犯対策研修会 10月11日 文化庁 都道府県会館

松矢国憲・文化財の放射線対策に関する研究会 3月11日 東京文化財研究所

宮下東子・第2回ミュージアム・エデュケーター研修 9月26～28日、2月7～8日 東京都美術館

佐藤久美子・新潟県小学校教育研究会指定研究大会 見附市立葛巻小学校

事前研究会・指導案検討会 5月29日、6月29日、8月20日

ブレ大会 11月7～8日

本大会 11月22日

・中越美術教育研究会

総会 6月8日 アトリウム長岡

研究部会 6月2日 長岡市立上組小学校

実技研修会 8月9日 長岡造形大学

・鑑賞教育指導者研修会 7月30～31日 国立西洋美術館・東京国立近代美術館

荒井直美・新潟市～新潟県交流人事研修 4月1日～3月31日

・後期メディア研修会 12月13日

立川厚生、相澤敏一、宮下東子

・第54回北信越博物館協議会/日本博物館協議会北信越支部総会・研究協議会 5

月24～25日

立川厚生、相澤敏一、長嶋圭哉

- ・新潟県博物館協議会運営研究会 7月4日
新潟県立歴史博物館

荒井直美、皆川法美

- ・平成24年度新潟県博物館協議会運営研究会・学芸員等研修会 11月14～15日

【会議等】

徳永健一・全国美術館会議 5月25～26日

立川厚生・第60回全国博物館大会 10月25～26日
秋田キャッスルホテル

藤田裕彦・公開承認施設会議 10月12日 文化庁・都道府県会館

徳永健一、立川厚生

- ・新潟県博物館協議会総会 4月23日 ホテル日航新潟

徳永健一、藤田裕彦

- ・美術館連絡協議会2012総会 10月25～26日

【その他】

審査

徳永健一・新潟デジタルコンテンツ審査会 9月26日

藤田裕彦・長岡デザインフェア2012ポスター審査会 7月23日 長岡造形大学

佐藤久美子・長岡農業祭絵画展審査会 10月4日 バストラル長岡

- ・中越教育美術展一次審査 11月14日
長岡市立上組小学校

その他

藤田裕彦・長岡デザインフェア2012実行委員会委員 4月1日～3月31日 長岡市

第1～5回実行委員会 5月23日、7月30日、8月29日、10月1日、12月21日

荒井直美・公立美術館活性化事業企画検討委員 地域創造 4月1日～3月31日

- ・「公立美術館活性化事業に伴う宇都宮美術館視察」11月24日 財団法人地域創造

佐藤久美子、立川厚生

- ・新潟県ジュニア美術展覧会
9月6日 運営委員会（立川、佐藤）
11月19～20日 審査会 新潟県民会館（佐藤）

新潟県立万代島美術館

【調査】

- 高 晟 俊 「武石弘三郎調査」2012年7月5日
高 晟 俊 「三木弘・加藤松林人調査」阿南市立情報文化センター、徳島市個人宅、横須賀市個人宅 2013年1月12日・14日

【図録執筆】

- 桐原 浩 「『写真力』の凄味」『篠山紀信展 写真力』展図録
高 晟 俊 「会田誠さんの人と作品」『ジバングII』（ジバング展図録）京都：青幻舎
高 晟 俊 「グループ〈GUN〉がデビューするまで—日本地方都市の「前衛」『GUN 新潟に前衛（アバンギャルド）があった頃』展図録
高 晟 俊 「作品解説」『ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り』図録

【紀要】『新潟県立近代美術館研究紀要』12(2013)

- 高 晟 俊 「ニコディム・コンダコフとチェコスロヴァキア」

【寄稿】

- 桐原 浩 「第30回記念新潟県彫刻会展に寄せて」文化欄『新潟日報』2012年8月2日(木)
桐原 浩 「新潟の抽象作家11人の眼展 緩やかに集まり表現を追求」（あーとびっくす）『新潟日報』2012年12月27日(木)
今井 有 「特別展 白木ゆりー奏でる線」（あーとびっくす）『新潟日報』2012年6月4日(月)

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 桐原 浩 新潟大学人文学部（美術史概説B）「5. 彫刻」2012年10月31日(水)
今井 有 新潟デザイン専門学校卒業修了制作展審査員 2013年2月15日
高 晟 俊 「NIIIGATAアートリンク記念シンポジウム みつけた、ローカルアヴァンギャルド!!」パネラー 11/25(日) 新潟市美術館
高 晟 俊 「朝鮮を描く」展（仮称）国際研究会 神奈川県立近代美術館・葉山 1/14（月・祝）
高 晟 俊 「北方文化博物館で外国語講座!!」（平成24年度文化庁文化芸術振興費補助金事業）北方文化博物館 1/19(土)、26(土)、2/2(土)、9(土)、16(土)
高 晟 俊 「ニコディム・コンダコフとチェコスロヴァキア」日本ビザンツ学会第11回全国大会 3/1(日)早稲田大学

【研修】

- 桐原 浩 第2回ミュージアム・マネージメント研修（文化庁）2012年12月12日(水)から12月14日(金)まで

美術品の収集

平成24年度収集作品一覧

分野	各 領 域 点 数	合計点数
新潟の美術	工芸1 日本画6 素描9 書1 油彩画他12 彫刻1	30
日本の美術	日本画3 資料3 版画7 素描1	14
世界の美術		0
総合計	工芸1 日本画9 素描10 書1 油彩画他12 彫刻1 資料3 版画7	44

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制 作 年	寸 法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
工芸	玉川宣夫 (たまたがわのりお) 1942-	木目金花瓶	2009年	高さ25.0 径23.0	鍛金、木目金 (銅、銀、赤銅)	購入
日本画	尾竹竹坡 (おたけちくは) 1878-1936	山岳図	大正後期以降	50.6×66	紙本彩色 まくり	寄贈
		山岳図	大正後期以降	50.6×66	紙本彩色 まくり	寄贈
		大黒天図	1924年	142×49	絹本墨画 軸装	寄贈
		阿寒湖	1932年	33.5×198	紙本彩色 まくり	寄贈
	尾竹越堂 (おたけえつどう) 1868-1931	七福神図	不明	125×50.2	絹本彩色 軸装	寄贈
	安宅安五郎 (あとかやすごろう) 1883-1960	麦圃	大正期	130×42	絹本彩色 軸装 (仮表装)	寄贈
素描	尾竹竹坡 (おたけちくは) 1878-1936	画帳 (2冊)	不明	各37.5×28	紙、鉛筆、顔料 紙、鉛筆	寄贈
		画帳 (7冊)	1冊のみ 1932年頃 (他不明)	21.5×34 他	紙、墨、鉛筆 他	寄贈
書	良寛 (りょうかん) 1758-1831	和歌一首	1821年頃	27.0×28.6	紙、墨 軸装	寄贈
油彩画	小野末 (おのすえ) 1910-1985	かめ	1960年	60.4×50.0	油彩、カンヴァス	寄贈
		自画像 (未完)	1981年	52.7×46.0	油彩、カンヴァス	寄贈
	小野末 (おのすえ) 1910-1985	闘牛	1977年頃	78.0×52.0	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		闘牛 (猛進)	1977年頃	40.0×53.0	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		闘牛 (突きあげる)	1977年頃	71.0×51.0	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		カボルカの砂丘C	1981年	110.0×143.5	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
	小林哲夫 (こばやしてつお) 1910-1985	夢宴	1976年頃	72.5×91.0	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
	平澤熊一 (ひらさわくまいち) 1908-1989	長岡	1940年頃	27.3×22	油彩、板 額装	寄贈
		宮内疎開中	1945年頃	24.2×33.3	油彩、板 額装	寄贈
		摂田屋風景	1948年	22×27.3	油彩、板 額装	寄贈
		静物	1950年代	73.5×91	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		草むら	1960年代	65.2×90.9	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
彫刻	武石弘三郎 (たけいしこうざぶろう) 1877-1963	裸婦浮彫	1939年	96.0×75.8×13.0	大理石	寄贈

日本の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制 作 年	寸 法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	堅山南風 (かたやまなんふう) 1887-1980	玉蜀黍	不明	25×23	紙本彩色 軸装	寄贈
	下村良之介 (しもむらりょうのすけ) 1923-1998	旅	1961年	93.5×164	紙粘土、顔料、紙 額装	寄贈
		翼	1980年	126×197	紙粘土、顔料、紙 額装	寄贈
版画	白木ゆり (しらきゆり) 1966-	版画集『SONIC 1992-2005』より Someday	1992年	26.5×20.5	エッチング、エンブレイ ヴィング、紙 まくり	寄贈
		版画集『SONIC 1992-2005』より an atmosphere	1996年	26.2×20.3		
		版画集『SONIC 1992-2005』より Space	1996年	26.3×21.2		
		版画集『SONIC 1992-2005』より Sonic(p)	1998年	26.1×20.5		
		版画集『SONIC 1992-2005』より ripeness-2	2005年	25.3×20.7		
		版画集『SONIC 1992-2005』より ripeness-3	2005年	25.5×20.5		
		版画集『SONIC 1992-2005』より ripeness-7	2005年	26.0×20.7		
素描	白木ゆり (しらきゆり) 1966-	core	2004年	12.0×11.8	色鉛筆、インク他 紙 まくり	寄贈
資料	中村岳陵 他 (なかむらがくりょう) 1890-1969	山崎薫宛 中村岳陵・荒井寛方・堅 山南風書簡 (3通)	1929年		紙、墨 封筒、巻紙 まくり	寄贈

新収蔵品

新潟の美術



工芸
玉川宣夫《木目金花瓶》



日本画
尾竹竹坡《山岳図》



日本画
尾竹竹坡《山岳図》



日本画
尾竹竹坡《阿寒湖》



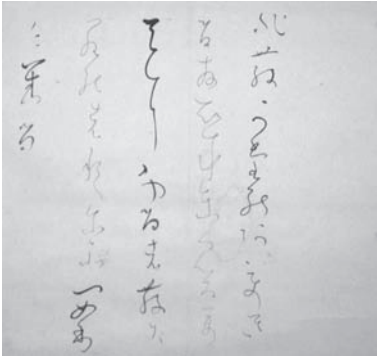
日本画
尾竹竹坡《大黒天図》



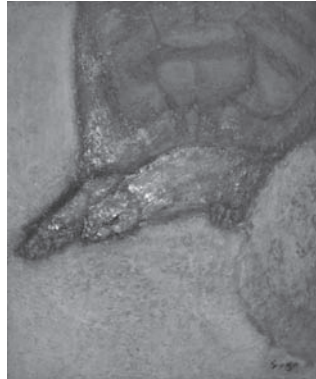
日本画
尾竹越堂《七福神図》



日本画
安宅安五郎《麦圃》



書
良寛《和歌一首》



油彩画他
小野末《かめ》



油彩画他
小野末《自画像（未完）》



油彩画他
小野末《闘牛》



油彩画他
小野末《闘牛（猛進）》



油彩画他
小野末《闘牛（突きあげる）》



油彩画他
小野末《カポルカの砂丘C》



日本画
小林哲夫《夢妄》



油彩画他
平澤熊一《長岡》



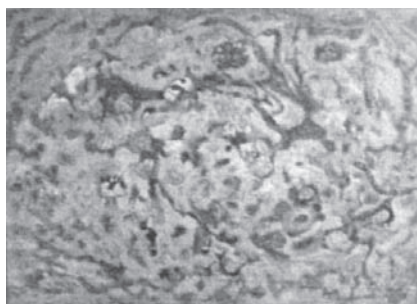
油彩画他
平澤熊一《宮内疎開中》



油彩画他
平澤熊一《摂田屋風景》



油彩画他
平澤熊一《静物》

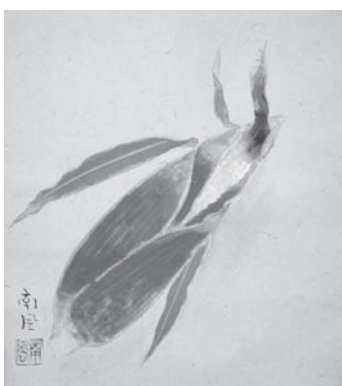


油彩画他
平澤熊一《草むら》



彫刻
武石弘三郎《裸婦浮彫》

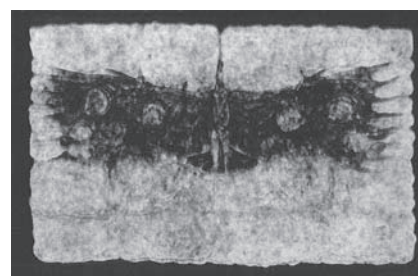
日本の美術



日本画
堅山南風《玉蜀黍》



日本画
下村良之介《旅》



日本画
下村良之介《翼》



版画
 白木ゆり 《Someday》



版画
 白木ゆり 《an atmosphere》



版画
 白木ゆり 《Space》



版画
 白木ゆり 《Sonic(p)》



版画
 白木ゆり 《ripeness-2》



版画
 白木ゆり 《ripeness-3》



版画
 白木ゆり 《ripeness-7》



素描
 白木ゆり 《core》

美術品の修復

平成24年度 修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間
日本画	小林古径	紫苑	1933年	剥落止め、クリーニング、裏打ち	株式会社半田九清堂 (東京都)	平成24年4月1日～ 9月30日 ※2ヵ年継続の2年目

美術品の燻蒸

平成23年度の新収蔵作品や亀倉雄策の資料などを燻蒸し、収蔵庫に収めた。

平成24年度 燻蒸作品一覧

分野	作家名	作品名
日本画	土田麦僊	蔬菜 ※寄託作品
日本画	長崎莫人	新緑妙義山
油彩画他	赤穴宏	白い卓上のリンゴ
油彩画他	熊谷喜代治	水着
油彩画他	高間惣七	パンダの花と青い鳥
油彩画他	安井曾太郎	京都風景
油彩画他	脇田和	鳥を呼ぶ人
彫刻	山脇敏男	蕊
版画	品川工	飛ぶ鳥
		真昼の夢
		バントマイム 1
		バントマイム 2
		仮面劇
		噛み合い交差する色面 No.4
		噛み合い交差する色面
		ネガとポジ No.19
		ネガとポジ No.6
		ネガとポジ No.8
版画	白木ゆり	ネガとポジ No.20
		Sonic (A)
		Sonic (B)
		Sonic (C)
版画	白木ゆり	Sound-40
		その他
		秋山さやか
		あるく 私の生活基本形 千秋・長岡 2009年6月20日～28日
参考資料	亀倉雄策	関係資料
参考資料	竹谷富士雄	モンマルトルにて
参考資料	小磯良平	婦人像
参考資料	三芳悌吉	聖像売りの女

燻蒸者	株式会社サニーサニター（新潟県）
実施期間	平成24年10月7日～9日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

美術品の貸出

平成24年度 作品貸与一覧（近代美術館所管作品）

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
岩下尊弘傘寿記念回顧展	柏崎ソフィアセンター	平成24年5月28日～6月3日	岩下尊弘	地吹雪（3点組） 束の間の静寂 浄水場
吉川霊華展	東京国立近代美術館	平成24年6月12日～7月29日	吉川霊華	逍遙
東京都美術館ものがたり	東京都美術館	平成24年7月15日～9月30日	藤田嗣治	私の夢
「具体」ーニッポンの前衛18年の軌跡	国立新美術館	平成24年7月4日～9月10日	今中クミ子	作品 ※寄託
アートディレクター・太田英茂の仕事	長野県信濃美術館	平成24年9月22日～11月4日	亀倉雄策	第11回羊彩会 1956年秋冬物新作発表会 ミリオンデックス 第4回集団フォト展 第4回日専美展 グラフィック'55 明治ミルクチョコレート 明治ミルクチョコレート/ブラック 明治ミルクチョコレート/ハイミルク 明治ミルクチョコレート/デラックス ニコンカメラ ニコンSP ニコンF ニコンFパッケージ 東京オリンピック（1961年） 東京オリンピック（1962年） ヤマギワ国際照明器具コンペ入賞作品展 ヒロシマアピールズ 特別展亀倉雄策のポスター展
東山魁夷展	北海道立近代美術館 宮城県美術館	平成24年7月20日～9月9日 平成24年9月22日～11月11日	東山魁夷	森の静寂
上村松園と鍋木清方	平塚市美術館	平成24年7月21日～9月2日	鍋木清方	春の夜のうらみ
第44回日展	国立新美術館	平成24年11月2日～12月9日	長谷部権次呂	静かな日
金銀の光彩ー日本画のきらめき	高崎市タワー美術館	平成24年10月13日～12月16日	麻田鷹司 横山操 横山操	東尋坊 秋 親不知夜雨
色めく彫刻	群馬県立館林美術館	平成24年9月22日～12月2日	北村四海	空想に耽り居る女
象徴派ー夢幻美の使徒たち	岐阜県美術館 姫路市立美術館	平成24年7月13日～8月26日（岐阜） 平成24年11月3日～12月16日（姫路）	J. E. ミレイ E. ベルナルル J. アンソール E. ムンク M. クリナー	アリス・グレイの肖像 サン・ブリアクの収穫 レゼビアンーサン・ブリアクの小湾 青い肩かけのブルターニュ婦人 アヴァン川の大きな赤い帆 川を渡る船上の四人の人物 ブルターニュの谷間の風景 ボンタヴァンのぼら色の道 帽子を被って座るボンタヴァンの二人の婦人 シノワズリー 病める少女 『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』呼びかけ（絵画の捧げ物） 『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』遭遇（ピュラモスとティスベス）

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
象徴派—夢幻美の使徒たち	岐阜県美術館 姫路市立美術館	平成24年7月13日～8月26日 (岐阜) 平成24年11月3日～12月16日 (姫路)	M.クリンガー	『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』とどのつまり (ビュラムスとティスベIV)
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』第一間奏曲
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』ナルキッソスとエコー (I)
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』ナルキッソスとエコー (II)
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』第二間奏曲
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』アポロンとダフネ (II)
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』アポロンとダフネ (III)
				『オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済』オヴィディウス (サテュルヌス)
			M.ドニ	夕映えの中のマルト
				版画集『アムール (愛)』1.表紙
				版画集『アムール (愛)』2.寓意
				版画集『アムール (愛)』3.物腰は優しく清らかな
				版画集『アムール (愛)』4.朝のブーケ、悲しみ
				版画集『アムール (愛)』5.それは敬虔な神秘さだった
				版画集『アムール (愛)』6.騎士は十字軍で死んではいない
				版画集『アムール (愛)』7.たそがれは古い絵画のような優しさを持つ
				版画集『アムール (愛)』8.彼女は夢よりも美しかった
				版画集『アムール (愛)』9.そして彼女の手が優しく触れる
				版画集『アムール (愛)』10.私たちの魂はゆっくりとした動作の中に
				版画集『アムール (愛)』11.青白い銀の長いすの上で
				版画集『アムール (愛)』12.人生は貴重な懐み深いものとなる
				版画集『アムール (愛)』13.けれどあまりにも高鳴る心
			P.ボナール	版画集『パリ生活の諸相』1.表紙
				版画集『パリ生活の諸相』3.街角
				版画集『パリ生活の諸相』4.中庭に面した家
				版画集『パリ生活の諸相』10.劇場にて
				版画集『パリ生活の諸相』11.街路、夕暮れ、雨
			E.ヴイヤール	版画集『風景と室内』1.表紙
				版画集『風景と室内』2.チェッカーの勝負
				版画集『風景と室内』3.大通り
				版画集『風景と室内』6.バラ色の壁紙のある室内 I
				版画集『風景と室内』7.バラ色の壁紙のある室内 II

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
象徴派—夢幻美の使徒たち	岐阜県美術館 姫路市立美術館	平成24年7月13日～8月26日 (岐阜) 平成24年11月3日～12月16日 (姫路)	E.ヴイヤー	版画集『風景と室内』9.炉辺 版画集『風景と室内』11.洋菓子店 版画集『風景と室内』13.義理の姉妹
			P.-E.ランソン	収穫する7人の女性
			F.ヴァロットン	ラ・ベビニエール エドガー・ポーの肖像 怠惰
			H.リヴィエール	『エッフェル塔36景』1.扉絵 『エッフェル塔36景』3.建築中のエッフェル塔、トロカデロからの眺め 『エッフェル塔36景』12.パリ祭 『エッフェル塔36景』16.パッシィ河岸、雨 『エッフェル塔36景』25.エッフェル塔の中で 『エッフェル塔36景』26.オステルリッツ橋
			F.ブラックモン	『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』表紙 『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』かもめ 『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』驚いた鴨 『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』葦と小鴨 『ブラックモンによる6枚の腐食銅版画』つばめ
			O.ロダン	疲れ
			J.トーロップ	聖アウグスティヌスの祝福
			M.エルンスト	鳥＝人頭
			阿部展也	埋葬2
			須田国太郎	三輪附近
マックス・エルンストフィギュア×スケープ	横浜美術館 愛知県美術館 宇都宮美術館	平成24年4月7日～6月24日 平成24年7月13日～9月9日 平成24年10月28日～12月16日		
美術にぶるっ! ベストセレクション 日本近代美術の100年	東京国立近代美術館	平成24年10月16日～平成25年1月14日	阿部展也	埋葬2
須田国太郎 没後50年に顧みる	神奈川県立近代美術館(葉山)	平成24年4月7日～5月27日	須田国太郎	三輪附近
	茨城県近代美術館	平成24年7月21日～8月26日		
	石川県立美術館	平成24年9月1日～10月14日		
	鳥取県立博物館	平成24年10月20日～11月25日		
	京都市美術館	平成24年12月1日～平成25年2月3日		
	島根県立美術館	平成25年2月15日～4月1日		
新潟ゆかりの作家たち —長井亮之・富川潤一・江川蒼竹—	新潟市美術館	平成25年2月23日～4月14日	長井亮之	砂丘
			富川潤一	アビラにて
			江川蒼竹	漢武帝詩秋風辞
生誕130年記念 小林古径展	小林古径記念美術館	平成25年3月23日～5月19日	小林古径	文珠 異端(下絵)
中村彝展	新宿歴史博物館	平成25年3月16日～5月12日	中村彝	洲崎義郎氏の肖像
				洲崎義郎宛書簡 (大正5年4月?28日付)
				洲崎義郎宛書簡 (大正5年7月18日付)
				洲崎義郎宛書簡 (大正9年9月20日付)
				洲崎義郎宛書簡 (大正12年9月18日付)
				洲崎義郎宛書簡 (大正12年10月5日付)

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
中村彝展	新宿歴史博物館	平成25年3月16日～5月12日	中村彝	洲崎義郎宛書簡 (大正13年12月1日付)
近代日本画と工芸の流れ 1868～1945	ローマ国立 近代美術館	平成25年2月26日～5月5日	竹内栖鳳	睡郷
			小杉放菴	春秋屏風
東京オリンピック1964 デザインプロジェクト	東京国立近代美術館	平成25年2月13日～5月26日	亀倉雄策	『第54次国際オリンピック委員会 総会』表紙
			亀倉雄策 他	東京オリンピックのシンボルマーク案
			亀倉雄策	東京オリンピックシンボルマーク
			亀倉雄策	オリンピックポスター、印刷原稿
			早崎治	聖火ランナー (第4号ポスター用ポジ)
			亀倉雄策	オリンピックポスター、印刷原稿
			亀倉雄策	オリンピックシンボルロゴ(日の丸) 印刷原稿
			亀倉雄策	XVIII Olympic Games, Tokyo Oct. 10-24, 1964
			不詳	ポスターの前で腕組みする亀倉雄策
			不詳	亀倉雄策、ポスター（水泳）写真撮 影風景
			不詳	亀倉雄策写真アルバム (研究室六本木1962-3)
			萩原正美	亀倉雄策、早崎治、村越襄
			不詳	オリンピック（日の丸）ポスターを 背景に
			不詳	亀倉雄策、ポスター（水泳）写真撮 影風景
				バッジ
				オリンピック歓迎装飾、安田火災ビル

平成24年度 作品貸与一覧（万代島美術館所管作品）

展 覧 会 名	貸 出 先	会 期	作 家 名	作 品 名
金銀の光彩—日本画のきらめき	高崎市タワー美術館	平成24年10月13日～12月16日	横山操	TOKYO
中島千波退任展	東京藝術大学大学美術館	平成24年11月15日～12月2日	中島千波	空※'98-7五蘊皆空「阿」
				空※'98-9五蘊皆空
				空※2000-9空即是色
夜明け前 知られざる日本写真開拓史	東京都写真美術館	平成25年3月5日～5月6日	金井弥一?	(女性の肖像)
			鈴木真一?	横山松三郎像
			江崎礼二	下岡蓮杖像
			鈴木真一	大朝鮮上司 朴泳孝氏像
			鈴木真一	九段鈴木真一御夫妻
			鈴木真一?	九段子息「パイ■」ヤスツク
			金井弥一	母子着色写真
			金井弥一	籠手田知事令嬢
			鈴木真一	横田先生御夫妻

管 理 ・ 運 営



新潟県立近代美術館

常設展（コレクション展）観覧者数（コレクション展のみの観覧者）

期 間 (企画展名)		23年度第5期		第1期			第2期				第3期			第4期			第5期		合計 (年間272日)
		H24 4/1~4/22 (19日間)		H24 4/26~6/24 (54日間)			H24 6/28~9/2 (59日間)				H24 9/6~10/28 (46日間)			H25 11/1~H25 2/3 (76日間)			H25 3/12~3/31 (18日間)		
		4/1~ 4/15 13日間 (びじゅつ のあそび 展)	4/17~ 4/22 6日間 (コレク ション展 のみ)	4/26~ 4/26 1日間 (コレク ション展 のみ)	4/27~ 6/3 34日間 (亀倉雄策 賞の作家 たち)	6/5~ 6/24 19日間 (コレク ション展 のみ)	6/28~ 7/1 4日間 (コレク ション展 のみ)	7/3~ 8/5 31日間 (北京・故 宮博物院 展)	8/7~ 8/12 6日間 (コレク ション展 のみ)	8/14~ 9/2 18日間 (水の記憶 吉原悠博 の)	9/6~ 9/7 2日間 (コレク ション展 のみ)	9/8~ 10/21 38日間 (象徴派・ 夢幻美の 使徒たち)	10/23~ 10/28 6日間 (コレク ション展 のみ)	11/1~ 11/2 2日間 (コレク ション展 のみ)	11/3~ H25/1/4 57日間 (GUN 新潟に 前衛があっ た頃)	1/16~ 2/3 17日間 (コレク ション展 のみ)	3/12~ 3/15 4日間 (コレク ション展 のみ)	3/16~ 3/31 14日間 (東京富士 美術館所蔵 近代日本画 の精華)	
個	一 般	413	49	8	79	270	83	49	158	1,061	20	41	128	22	127	255	21	12	2,796
	大学・高校生	12	5	0	1	24	2	4	15	89	6	6	4	0	11	9	4	3	195
人	小 計	425	54	8	80	294	85	53	173	1,150	26	47	132	22	138	264	25	15	2,991
		479		382			1,461				205			424			40		
団	一 般	25	0	2	1	96	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	144
	大学・高校生	0	0	48	34	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115
体	小 計	25	0	50	35	96	0	33	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	259
		25		181			33				0			20			0		
無 料		603	12	21	28	337	21	26	264	795	2	23	42	0	135	144	31	20	2,504
免 除		26	5	2	1	49	10	9	16	167	2	3	14	2	4	80	9	0	399
合 計		1,079	71	81	144	776	116	121	453	2,112	30	73	188	44	277	488	65	35	6,153
		1,150 (1,150)		1,001 (5,567)			2,802 (78,244)				291 (8,226)			809 (4,153)			100 (4,141)		6,153 (101,481)

* 企画展開催中は、その観覧者数がコレクション展観覧者と重複する。

* () 内は企画展観覧者数をあわせた人数。

* 無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名		時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち 4/27~6/3 (34日間)	地上の天宮 北京・故宮博物院展 7/3~8/5 (31日間)	象徴派— 夢幻美の使徒たち 9/8~10/21 (38日間)	GUN— 新潟に前衛があった頃 11/3~1/14 (57日間)	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華 3/16~3/31 (14日間)	合 計
個 人	一 般	1,605	16,584	3,380	1,162	2,079	24,810
	大学・高校生	118	321	229	115	76	859
	小 計	1,723	16,905	3,609	1,277	2,155	25,669
団 体	一 般	58	638	360	116	294	1,466
	大学・高校生	93	21	3	1	3	121
	小 計	151	659	363	117	297	1,587
前 売		1,254	44,369	503	25	775	46,926
無 料		1,078	11,489	2,162	1,598	601	16,928
免 除		360	2,020	1,298	327	213	4,218
合 計		4,566	75,442	7,935	3,344	4,041	95,328

企 画 展 名	亀倉雄策賞の 作家たち展	地上の天宮 北京・故宮博物院展	象徴派— 夢幻美の使徒たち	GUN— 新潟に前衛があった頃	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	合 計
図録販売数 (冊)	0	1,015	298	128	164	1,605
音声ガイド使用数 (台)		9,078	502		388	9,968

共催展

展覧会名	会期	日数	観覧者数
県展「長岡展」	6/13～6/19	7	3,194
第16回友の会作品展	7/10～7/16	7	669
第14回亀倉雄策賞受賞蒔谷克彦グラフィックデザイン展・JAGDA新人賞展2012	10/18～10/28	10	908
第16回長岡市中学校美術部作品展	11/10～11/11	2	710
新潟県ジュニア展「長岡展」	1/24～2/3	10	3,018
こどもものづくり大学校	3/16～3/24	8	1,141
計		44	9,640

展覧会名	会期	日数	観覧者数
こどもアートミュージアム	8/17～8/23	6	695

巡回ミュージアム

開催地	会場名	会期	日数	観覧者数
佐渡市	アミューズメント佐渡	9/26～10/11	20	1,682
計			20	1,682

総観覧者数

	コレクション展	企画展	共催展	巡回ミュージアム	合計
観覧者数	6,153	95,328	10,335	1,682	113,498

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名		異国憧憬	メアリー・ブレア 原画展	シャガール展 2012	ジパング展	巨匠たちの 英国水彩画展	ひとの姿／ 人のかたち	合 計
期 間		4/1～4/15 (13日間)	4/28～7/8 (68日間)	7/30～9/23 (53日間)	10/6～12/2 (55日間)	12/18～3/10 (71日間)	3/20～3/31 (11日間)	
個人	一 般	669	10,650	13,229	11,814	5,585	311	42,258
	大学・高校生	41	1,096	886	1,352	473	49	3,897
	小 計	710	11,746	14,115	13,166	6,058	360	46,155
団体	一 般	4	140	477	150	280	7	1,058
	大学・高校生	0	255	145	562	29	1	992
	小 計	4	395	622	712	309	8	2,050
前売（一般のみ）		0	3,529	8,956	2,243	1,000	0	15,728
無 料		334	9,706	4,962	4,795	1,918	98	21,813
免 除		52	824	1,219	1,000	485	33	3,613
合 計		1,100	26,200	29,874	21,916	9,770	499	89,359

*所蔵品展の無料には友の会会員を含む。

**小中学生は無料を含む

展覧会名	異国憧憬	メアリー・ブレア 原画展	シャガール展 2012	ジパング展	巨匠たちの 英国水彩画展	ひとの姿／ 人のかたち	合計
図録販売数(冊)	—	624	1,074	417	551	—	2,666
音声ガイド使用数(台)	—	1,059	2,117	—	—	—	3,176

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき26,400円、ギャラリーは1日につき17,300円、講座室は1日につき4,200円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/1	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	150
15	半日間	親と子のお笑い授業	NAMARAによるお笑いライブ	101
17	1日間	カワイ音楽研究会	ピアノ講座	40
22	1日間	翼の会	ピアノ発表会	150
5/13	1日間	トリオ・ベルガモ 室内楽演奏会	室内楽演奏会	140
16	1日間	カワイ音楽研究会	ピアノ講座	42
6/3	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	25
9	半日間	新潟県受託事業「にいがた食の安全・安心を考える講演会」	講演会	68
10	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	159
16	半日間	朗読のひろば リハーサル	表現朗読リハーサル	9
17	半日間	リハーサルとおさらい会	ピアノ発表会	20
23	1日間	朗読のひろば 表現朗読「いていのひととき」発表会	表現朗読発表会	102
24	半日間	ドルチェの会 ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
30	半日間	菅井音楽教室発表会	こどものピアノ・歌発表	60
7/8	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	161
15	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	161
22	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	162
29	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	150
8/5	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	151
12	1日間	Wing of music	音楽教室発表会	50
19	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	156
9	1日間	ピアノ練習	ピアノ練習	8
17	1日間	E.P.みゅーじっくらぶ コンサート	ピアノ・エレクトーンの発表会	60
21	半日間	カワイ音楽研究会	音楽研究会	60
10/7	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	138
8	1日間	豊島雄一トーク&ミニコンサート	トークと声楽のコンサート	180
14	1日間	新潟県競書大会	優秀作品の表彰	195
19	半日間	カワイ音楽研究会	ピアノ講座	60
20	半日間	清水ピアノ教室	ピアノ発表会	73
21	半日間	みんなで歌おう千人の第九合唱練習	第九合唱の練習	156
11/4	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	120
11	1日間	Family Jam Concert	ピアノ発表会	170
13	1日間	動物取扱責任者講習会	動物取扱業者への勉強会	149
16	半日間	新潟県立加茂高等学校 吹奏楽練習	吹奏楽練習	24
18	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	110
22	半日間	カワイ音楽研究会	ピアノ講座	45
23	1日間	Piano Concert	ピアノ教室発表会	30
24	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
25	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	200
12/1	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	108
2	半日間	エリーゼの会 ピアノ発表会	ピアノ演奏の発表	60
2	半日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏発表会	70
8	1日間	ピアノ発表会	ピアノの個人演奏	80
9	1日間	権藤ピアノ教室発表会	ピアノの発表会	150
24	1日間	クリスマスコンサート	ピアノ発表会	40

1/14	1日間	ピアノスタジオアンダンテ 第7回ピアノ発表会	ピアノ発表会	200
3/16	1日間	ティンカーベルの会プチコンサート	ピアノ発表会	180
17	1日間	ファミリーコンサート	ピアノ発表会	160
19	半日間	音楽研究会	ピアノ講座	46
24	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
30	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	120
31	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	80

以上52件（延べ日数…41日）

合計人数5,369

ギャラリー使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容	利用者人数
6/28~7/1	4日間	JNP日本風景写真協会 山本一 写真展	写真展示 公開	572
7/20~29	9日間	第5回美しいアルファベットカリグラフィーの世界	カリグラフィー作品展示	1,227
8/2~5	4日間	弥彦山写真展	写真展	492
9/6~12	6日間	JNP日本風景写真協会 新潟支部 写真展	写真展示 公開	454
10/12~15	3日間	新潟県競書大会	優秀作品展示	3,162
11/20~27	7日間	墨遊小路書展	書作品展示	689

以上6件（延べ日数…33日）

合計人数6,596

講座室使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容	利用者人数
4/5	1日間	月例会議	会議	18
4/21	1日間	生活習慣病の予防	講座	16
5/2	1日間	社内会議	会議	5
5/8	1日間	月例会議	会議	11
5/16	半日間	ミーティング	ミーティング	6
5/26	1日間	生活習慣病の予防	講座	18
6/3	1日間	ピアノ発表会	発表会控室	15
6	1日間	月例会議	会議	11
9	半日間	にいがた食の安全・安心を考える講演会	講演会控室	6
16	1日間	生活習慣病の予防	講座	20
23	1日間	朗読の広場「いていのひととき」発表会	発表会控室	11
24	半日間	ドルチェの会 ピアノ発表会	発表会控室	8
8/29	半日間	ミーティング	ミーティング	7
9/17	1日間	E.P.みゅーじっくらぶコンサート	発表会控室	10
10/12	半日間	田井小学校学校支援地域本部推進委員会研修	研修会議	10
11/13	半日間	動物取扱責任者講習会	講習会控室	7
24	1日間	ピアノ発表会	発表会控室	6
12/6	1日間	社内会議	会議	5
9	1日間	権藤ピアノ教室発表会	発表会控室	20
24	1日間	クリスマスコンサート	発表会控室	18
26	半日間	県中教研美術部会	会議	11
1/14	1日間	ピアノスタジオアンダンテ 第7回ピアノ発表会	発表会控室	50
17	1日間	警備員教育・試験	試験・教育	14
3/17	1日間	ファミリーコンサート	ピアノ発表会	10

以上24件（延べ日数…20.5日）

合計人数313

新潟県立近代美術館

展 覧 会 名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	4月23日～6月5日	13,622	104	0.76%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	7月23日～8月28日	35,338	316	0.89%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	9月3日～10月10日	3,074	40	1.30%
象徴派－夢幻美の使徒たち	11月3日～1月15日	175,686	564	0.32%
GUN－新潟に前衛があった頃	3月1日～4月15日	3,441	26	0.76%
合 計		231,161	1,050	0.45%

I 企画展覧会の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	59%	29%	5%	2%	5%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	42%	34%	13%	4%	7%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	29%	52%	14%	5%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	28%	52%	14%	5%	0%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	59%	36%	0%	3%	3%	100%
平 均	43%	41%	9%	4%	3%	100%

II 企画展覧会のきっかけ

展 覧 会 名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知 人	たまたま来て	その他	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	29%	22%	1%	2%	6%	6%	1%	9%	5%	15%	4%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	19%	24%	2%	17%	4%	3%	1%	11%	3%	15%	2%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	8%	10%	2%	15%	0%	6%	6%	10%	8%	27%	6%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	5%	53%	2%	10%	4%	3%	1%	7%	3%	10%	2%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	10%	3%	3%	17%	0%	14%	7%	14%	7%	14%	10%	100%
平 均	14%	22%	2%	12%	3%	6%	3%	10%	5%	16%	5%	100%

III 常設展の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	39%	27%	2%	0%	32%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	36%	31%	6%	3%	24%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	38%	38%	0%	0%	24%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	25%	30%	0%	3%	42%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	15%	36%	3%	0%	46%	100%
平 均	31%	32%	2%	1%	34%	100%

IV 普段の情報源

展 覧 会 名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知 人	たまたま来て	その他	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	15%	25%	11%	9%	7%	22%	1%	2%	4%	3%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	31%	32%	9%	6%	3%	15%	0%	2%	1%	1%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	16%	19%	8%	11%	5%	24%	3%	0%	8%	5%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	22%	25%	6%	14%	3%	23%	2%	4%	0%	2%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	17%	26%	9%	12%	9%	18%	2%	0%	3%	5%	100%
平 均	20%	25%	9%	10%	5%	20%	2%	2%	3%	3%	100%

V 当館への来館回数

展 覧 会 名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	44%	18%	16%	20%	2%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	24%	24%	20%	22%	10%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	24%	38%	5%	33%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	18%	13%	22%	37%	9%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	18%	18%	15%	33%	15%	100%
平 均	26%	22%	16%	29%	7%	100%

Ⅵ 展覧会ジャンルの希望

展 覧 会 名	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫 刻	版 画	工 芸	書	写 真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	11%	5%	13%	5%	5%	9%	1%	11%	21%	15%	3%	3%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	17%	10%	16%	6%	4%	8%	5%	8%	7%	8%	4%	8%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	11%	11%	9%	15%	8%	6%	2%	11%	6%	17%	2%	2%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	15%	12%	20%	10%	6%	6%	3%	6%	8%	7%	2%	5%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	9%	2%	9%	11%	7%	6%	3%	12%	10%	21%	2%	7%	100%
平 均	13%	8%	13%	9%	6%	7%	3%	10%	10%	14%	3%	5%	100%

Ⅶ ボランティア

展 覧 会 名	参加 しない	参加したい					合計
		展示作業	作品解説	ポスター掲示・ チラシ配り	ワークショップ の手伝い	その他	
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	78%	11%	0%	2%	9%	0%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	84%	6%	2%	5%	3%	0%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	67%	12%	11%	3%	8%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	67%	12%	11%	3%	8%	0%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	59%	11%	7%	11%	9%	2%	100%
平 均	71%	10%	6%	5%	7%	0%	100%

(性 別)

展 覧 会 名	男 性	女 性	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	34%	50%	16%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	36%	51%	13%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	57%	43%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	41%	44%	15%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	50%	50%	0%	100%
平 均	44%	48%	9%	100%

(お 住 ま い)

展 覧 会 名	長岡市	新潟市	県内	県 外	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	14%	34%	25%	14%	14%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	26%	29%	24%	4%	16%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	38%	10%	33%	19%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	25%	33%	28%	10%	3%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	23%	23%	33%	15%	5%	100%
平 均	25%	26%	29%	12%	8%	100%

(年 代)

展 覧 会 名	小・中学生	高校・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答	合 計
時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち	18%	18%	7%	7%	14%	7%	14%	2%	5%	9%	100%
地上の天宮 北京・故宮博物院展	7%	2%	0%	6%	14%	19%	12%	20%	7%	14%	100%
水の記憶：吉原悠博プロジェクト	19%	19%	0%	14%	14%	10%	5%	10%	10%	0%	100%
象徴派－夢幻美の使徒たち	9%	10%	1%	9%	13%	18%	15%	15%	6%	3%	100%
GUN－新潟に前衛があった頃	10%	5%	0%	13%	21%	18%	18%	5%	5%	5%	100%
平 均	13%	11%	2%	10%	15%	14%	13%	10%	7%	6%	100%

新潟県立万代島美術館

展 覧 会 名	会 期	入館者数	アンケート 回収数	アンケート 回収率
異国憧憬～あこがれの風景～	平成24年4月1日～4月15日	1,100	115	10.5%
メアリー・ブレア原画展	平成24年4月28日～7月8日	26,200	424	1.62%
シャガール展	平成24年7月30日～9月23日	29,874	502	1.68%
ジバング展	平成24年10月6日～12月2日	21,712	257	1.18%
巨匠たちの英国水彩画展	平成24年12月18日～平成25年3月10日	9,770	213	2.2%
ひとの姿／人のかたち	平成25年3月20日～3月31日	499	10	2.0%
合 計		89,155	1,521	1.7%

Ⅰ 展覧会の感想

展 覧 会 名	良かった	まあまあ 良かった	どちらとも いえない	良くな かった	無回答	計
異国憧憬～あこがれの風景～	73.0%	25.2%	0.0%	0.9%	0.9%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	81.1%	14.9%	1.2%	0.5%	2.4%	100.0%
シャガール展	66.7%	24.5%	4.0%	2.6%	2.2%	100.0%
ジバング展	72.7%	17.8%	4.7%	1.6%	3.2%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	61.8%	26.9%	4.7%	1.4%	5.2%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	40.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%	100.0%
平 均	65.9%	24.9%	4.1%	1.2%	4.0%	100.0%

Ⅱ 作品や作家についての解説

展 覧 会 名	適度な 量である	量が多い	量が 少ない	その他	無回答	計
異国憧憬～あこがれの風景～	61.0%	1.7%	11.9%	2.5%	22.9%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	60.8%	6.9%	8.3%	0.2%	23.9%	100.0%
シャガール展	61.3%	10.8%	10.4%	0.4%	17.1%	100.0%
ジバング展	52.9%	2.4%	25.9%	0.4%	18.4%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	55.3%	7.8%	9.2%	0.0%	27.7%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	40.0%	100.0%
平 均	56.9%	6.6%	10.9%	0.6%	25.0%	100.0%

展 覧 会 名	わかり やすい	難しい	簡単 すぎる	無回答	計
異国憧憬～あこがれの風景～	78.3%	3.5%	4.3%	13.9%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	78.3%	8.7%	1.9%	11.1%	100.0%
シャガール展	72.5%	14.8%	4.2%	8.4%	100.0%
ジバング展	50.6%	27.5%	11.0%	11.0%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	72.5%	6.9%	1.8%	18.8%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	50.0%	10.0%	20.0%	20.0%	100.0%
平 均	67.0%	11.9%	7.2%	13.9%	100.0%

Ⅲ 展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展 覧 会 名	ポスター	チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	知人	県民 だより	HP	フリー ペーパー	インター ネット	その他	無回答	計
異国憧憬～あこがれの風景～	24.8%	15.7%	11.1%	5.2%	3.3%	0.7%	6.5%	7.2%	6.5%	5.2%	6.5%	5.2%	2.0%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	17.6%	13.6%	8.4%	34.2%	2.3%	2.0%	6.5%	1.0%	2.3%	1.0%	2.1%	6.7%	2.4%	100.0%
シャガール展	19.9%	11.6%	15.5%	13.8%	1.8%	2.1%	13.1%	2.0%	3.9%	2.1%	3.6%	8.7%	1.9%	100.0%
ジバング展	18.5%	11.2%	5.6%	37.3%	3.6%	2.5%	8.9%	0.3%	1.8%	1.5%	2.3%	3.8%	2.8%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	16.4%	16.1%	19.3%	10.2%	2.6%	4.3%	6.6%	1.6%	4.9%	1.6%	6.2%	5.2%	4.9%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	6.3%	0.0%	12.5%	18.8%	12.5%	100.0%
平 均	18.3%	15.5%	10.0%	16.8%	2.2%	1.9%	8.0%	3.1%	4.3%	1.9%	5.6%	8.1%	4.4%	100.0%

Ⅳ お客様ご自身について

(1) 性別

展 覧 会 名	男性	女性	(不明)	計
異国憧憬～あこがれの風景～	47.0%	50.0%	3.0%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	23.3%	63.2%	13.4%	100.0%
シャガール展	29.3%	56.4%	14.3%	100.0%
ジパング展	25.0%	57.0%	18.0%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	26.4%	51.9%	21.7%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	33.3%	55.6%	11.1%	100.0%
平 均	31%	56%	14%	100.0%

(2) 年代

展 覧 会 名	小学生以下	中学・高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(無回答)	計
異国憧憬～あこがれの風景～	3.7%	1.8%	1.8%	10.1%	11.0%	10.1%	25.7%	15.6%	9.2%	11.0%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	19.7%	13.8%	8.1%	13.1%	11.2%	12.6%	6.7%	4.5%	1.9%	8.6%	100.0%
シャガール展	10.5%	19.8%	3.0%	12.5%	9.5%	9.1%	10.5%	8.5%	4.2%	12.5%	100.0%
ジパング展	7.3%	17.0%	4.0%	19.8%	13.4%	9.7%	6.9%	2.8%	2.0%	17.0%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	5.7%	4.8%	1.4%	13.4%	7.2%	7.7%	12.4%	19.1%	10.0%	18.2%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	0.0%	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%	100.0%
平 均	7.8%	9.5%	3.1%	18.9%	8.7%	10.0%	14.1%	10.3%	4.6%	13.1%	100.0%

(3) お住まい

展 覧 会 名	新潟市内	新潟市以外 の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(無回答)	計
異国憧憬～あこがれの風景～	60.0%	8.7%	0.0%	6.1%	2.6%	16.5%	6.1%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	51.5%	13.3%	1.2%	18.8%	3.6%	4.3%	7.4%	100.0%
シャガール展	50.0%	14.5%	1.4%	14.5%	2.4%	12.0%	5.2%	100.0%
ジパング展	46.1%	15.9%	1.2%	17.8%	3.5%	6.2%	9.3%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	57.3%	9.0%	0.5%	13.3%	2.4%	10.4%	7.1%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	0.0%	100.0%
平 均	53.4%	10.2%	0.7%	11.7%	2.4%	15.7%	5.8%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。

展 覧 会 名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	貸切バス	電車	その他	(無回答)	計
異国憧憬～あこがれの風景～	60.3%	10.7%	15.7%	3.3%	0.0%	6.6%	0.8%	2.5%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	60.3%	12.9%	13.3%	2.0%	0.7%	5.0%	1.6%	4.3%	100.0%
シャガール展	52.4%	11.5%	19.6%	2.4%	0.7%	8.9%	3.0%	1.5%	100.0%
ジパング展	55.2%	13.1%	14.9%	1.5%	1.1%	8.2%	1.9%	4.1%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	43.2%	14.1%	19.8%	4.0%	0.9%	10.6%	1.8%	5.7%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	100.0%
平 均	49.8%	14.9%	16.9%	3.7%	0.6%	6.5%	3.0%	4.5%	100.0%

(5) 万代島美術館に来たのは何回目ですか

展 覧 会 名	初めて	2～4回目	5回以上	回答なし	計
異国憧憬～あこがれの風景～	23.5%	25.2%	49.6%	1.7%	100.0%
メアリー・ブレア原画展	36.8%	37.5%	20.5%	5.1%	100.0%
シャガール展	29.9%	40.2%	26.3%	3.6%	100.0%
ジパング展	40.2%	28.1%	27.0%	4.7%	100.0%
巨匠たちの英国水彩画展	19.8%	31.1%	42.0%	7.1%	100.0%
ひとの姿／人のかたち	60.0%	0.0%	30.0%	10.0%	100.0%
平 均	35.0%	27.0%	32.6%	5.4%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

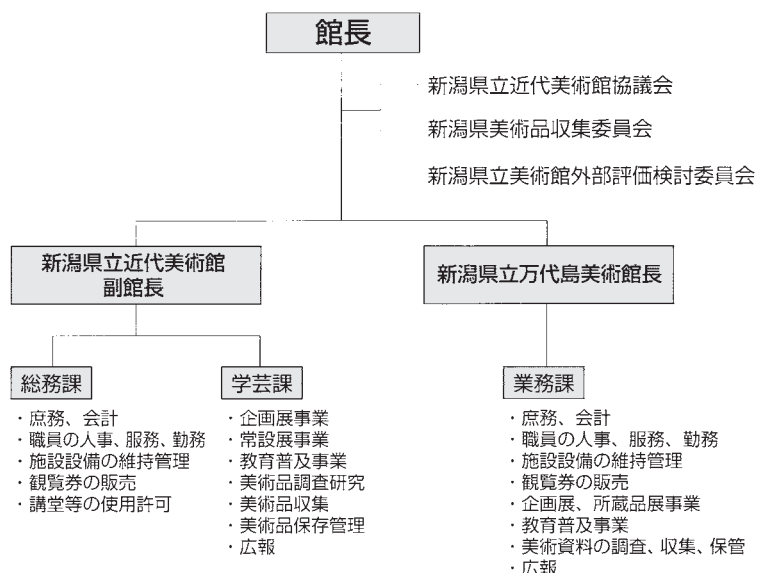
■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職 員

新潟県立近代美術館

館長	徳永 健一
副館長	立川 厚生
●総務課 総務課長	相澤 敏一
主事	星野 豊彰
主事	加瀬真奈美
臨時的任用職員	加茂谷直子（～H24.6.2）
臨時的任用職員	皆川 法美（H24.6.3～H25.2.28）
非常勤職員	深井 尚子
非常勤職員	佐藤 真希子
●学芸課 学芸課長	藤田 裕彦
専門学芸員	松矢 国憲
学芸課長代理	佐藤 克己
学芸課長代理	平石 昌子
学芸課長代理	宮下 東子
副参事	佐藤久美子
主任学芸員	荒井 直美
主任学芸員	長嶋 圭哉
美術学芸員	伊澤 朋美
嘱託員	池乗 進
嘱託員	林 美穂子
嘱託員	本多 五月
嘱託員	堀井つかさ
嘱託員	中島 結衣
嘱託員	関 紗織
嘱託員	今井ひとみ
嘱託員	佐藤 友紀

新潟県立万代島美術館

館長	伊藤 輝男
●業務課 業務課長	桐原 浩
課長代理	篠田 洋子
主任学芸員	今井 有
主任学芸員	池田 珠緒
主任学芸員	高 晟俊
主事	高橋 奈緒
美術学芸員	飯島沙耶子
臨時的任用職員	飯島 千秋（～H25.3.16）
臨時的任用職員	高橋 愛美（H24.4.24～）
嘱託員	相馬 幸絵
嘱託員	三浦 華林
嘱託員	五十嵐 茜（～H24.9.30）
嘱託員	宮本由紀恵（～H24.9.30）
嘱託員	五十嵐綾子
嘱託員	天木ひかり（H24.4.5～）
嘱託員	伊藤 祥子（H24.10.3～）
嘱託員	谷川加奈子（H24.10.3～）

新潟県立近代美術館

【施設概要】

〈名 称〉新潟県立近代美術館
 〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設 計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監 理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
 (株)日本設計
 〈施 工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,216,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC杭
 〈規 模〉 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 〈面 積〉 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下一機械室・電気室 716㎡
 1階—展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階—レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階—E.L.V機械室
 地域地区 市街化調整区域
 〈面積配分〉 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、
 ロビー576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡、ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、
 ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、
 書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、
 館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉

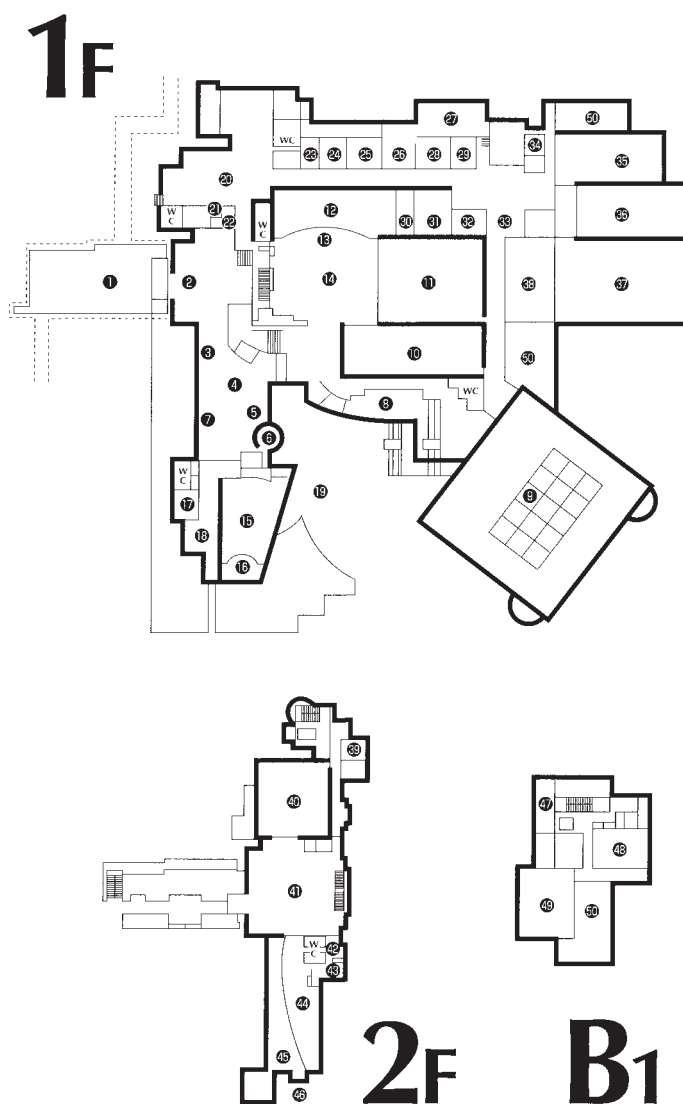
室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%

〈主な設備〉

空調方法 個別式(単一ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 給排水 排 水/屋内合流、屋外下水道放流
 B1F床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防 災 消火/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消火
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消火設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用E.L.V/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用E.L.V/3,000kg積
 (30m/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 〈主な外部仕上〉
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精妬器質タイル(割肌)
 二丁掛精妬器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上
 外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P.
 壁/ガラスクロスE.P.
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井・壁/スプル
 床/ナラ縁甲板張
 講 堂 天井/
 壁/四丁掛精妬器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|-------------|
| ① キャンピー | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ③⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ③⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ③⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ③⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ③⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ③⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ③⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ③⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ③⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ③⑲ ガラリー控室 |
| ⑮ 講堂 | ④⑰ ガラリー |
| ⑯ ステージ | ④⑱ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ④⑲ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ④⑳ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ④㉑ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ④㉒ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ④㉓ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ④㉔ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ④㉕ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ④㉖ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ④㉗ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内 訳	用 途 等	面 積
展示 1,400㎡	第一展示室	美術館所蔵の美術品等の展示	420㎡
	第二展示室	国内外の美術品等の企画展示	980㎡
収蔵 134㎡	収蔵庫	美術品等の保管	106㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温湿度を安定させる	28㎡
専用エレベーター 29㎡		地下1階より美術品を搬入	29㎡
管理 559㎡	事務室	学芸員、一般事務の執務室	63㎡
	資料倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	33㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	93㎡
	救護室	来館者の救護、職員の休憩等	22㎡
	給湯室	給水、湯沸かし等	3㎡
	トイレ	職員・来館者用	84㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120㎡
	ポンペ庫	ハロン消化設備用ポンペ庫（予）	46㎡
共通 649㎡	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	271㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	359㎡
	乳児室	乳児のために使用	6㎡
	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	13㎡
その他 159㎡	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	25㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	14㎡
	専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	120㎡
合 計			2,930㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種 別／複合ビル内包型 公立美術館

所 在 地／新潟県新潟市万代島5番1号

工事期間／平成12年10月3日～

平成15年3月30日

敷地面積／103,128.93㎡

(万代島一団地認定敷地全体)

建築面積／6,017.37㎡

延床面積／52,585.54㎡

(うち、美術館2930.00㎡)

構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造

階 高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設 計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

監 理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施 工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3. 仕上げ（美術館部分のみ）

屋 根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、コンクリート鋼製根太組天然スレート敷

外 壁／プレキャストコンクリート下地アルミスバンドレル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プレキャストコンクリートカーテンウォールふっ素樹脂常乾塗装

内 装／（設備概要を参照のこと）

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz、2回線受電、地中引込

受 変 電／1階サブ変電所。

キュービクル式受変電設備

非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、蓄電池400AH

電話設備／電話配管（機器、配線は別）

放送設備／非常放送兼用アンプ 1160W、130回線。

美術館業務用アンプ 80W、5回線

5. 空調設備

熱 源／全体熱源：冷温水発生器（ガス焚）240RT×2台

収 蔵 庫：空冷ヒートポンプ

空 調 機／コンパクトエアハンド7台

単一ダクト

換 気／個別換気

給気ファン1台、排気ファン15台

制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6. 昇降機

乗 用／ロープ式 210m／分 定員20名

1,350kg 4基(うち、車椅子仕様1基)

荷 物 用／油圧式

15m／分 3,000kg 1基

テーブルリフター／

リフト 0.9m

テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁 仕 上／不燃プラスターボード、ガラスクロス 表面仕上げ。

床 仕 上／フローリング

可 動 壁／不燃プラスターボード、ガラスクロス 表面仕上げ。L4.0m×H4.5m：30枚、L2.0m×H4.5m：26枚、L2.4m×H4.5m：4枚

固定展示ケース／2箇所

（外側）スチール製・高透過ガラス・スチール製・アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量キャスター・アジャスター付、シリンダー錠付

（内側）低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m

照 明／全て美術館用UV・IRカットフィルター付 ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー200W

展示照明：ローボルトハロゲン（12V50W）、

ケース内照明：高効率照明器具（32W）およびローボルトハロゲン（12V50W）

設定温湿度／春・夏期：23℃、60%
 秋・冬期：20℃、50%
 （変動率±3℃、±10%以内）

2. 収蔵庫概要

床 仕 上／フローリング
 壁 仕 上／ゼオライトパネル（天井共）
 内部寸法／L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
 入口寸法／H3.0m、W3.0m
 収蔵庫内作品固定方法／収蔵棚
 収蔵庫扉の構造及び仕様／スチール製
 耐火2時間扉
 照 明／高効率照明器具（32W）。美術館用
 UV／IRカットフィルター付。
 空 調／恒温恒湿パッケージ2台 単ーダクト
 （VAV）

設定温湿度／春・夏期：22℃、55%
 秋・冬期：22℃、55%
 （変動率±2℃、±5%以内）

3. 搬入口関連概要

専用搬入口寸法／H3.8m、W5.0m
 高位置の接岸ドック／地上からの高さ0.7m
 可動接岸ドック／0～0.9mレベルまで
 油圧式リフト／最大重量3,000kg
 クレーン／最大重量3,000kg
 搬入可能なクレーンの最大サイズ／
 H3.0m、W3.0m、D3.0m
 セキュリティ／画像センサー機械警備

荷解室への立入管理／カードリーダー方式電気錠
 昇降機内部寸法／L3.6m、W3.0m、天井H3.0m

4. 防災設備

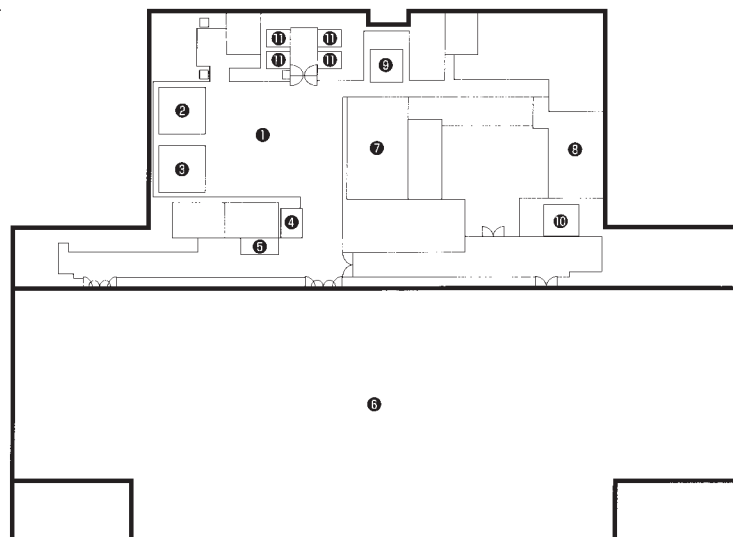
消火設備／湿式スプリンクラー（全体）
 展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫
 はハロン消火
 感知器の種類／自動煙感知
 火災警報への伝達／発信機、非常電話
 補助消火栓／搬入場所1基、その他4基
 連結送水管／その他2基
 消 火 器／搬入場所：粉末ABC
 展 示 室：ハロンガス
 そ の 他：粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

監視設備／ITVモニター、ITVカメラ15台
 （美術館14台、EV1台）
 機械警備設備／画像センサー＋スピーカ
 警備会社／SECOM株式会社
 使用警報機の種類／画像センサー及び
 水銀スイッチ
 警報入電場所／館内中央監視盤及び
 美術館事務室
 盗難防止ケースの種類／
 ガラス・ケース及び壁面固定
 ケース全てにシリンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ ハイビジョンギャラリー
- ④ 情報検索コーナー
- ⑤ 授乳室
- ⑥ 展示室
- ⑦ 収蔵庫
- ⑧ 事務室
- ⑨ ロッカー・自販機
- ⑩ 作品専用エレベーター
- ⑪ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委 員】（依嘱当時）

（平成22年6月1日から平成24年5月31日まで）

●学識経験者

- ◎近藤フチエ（前新潟大学教育学部教授）
- 松本 健義（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）
- 丸山 結香（有限会社 マックス・ゼンパフォーマンス・コンサルタンツ代表取締役）
- 雪山 行二（和歌山県立近代美術館長）
- 渡辺 富栄（新潟県美術家連盟会員）

●社会教育関係者

- 丸田 洋一（元新潟県文化振興財団事業課長）

●学校教育関係者

- 須佐 尚子（新潟県高等学校教育研究会美術・工芸、書道部会部長）
- 日諸 博美（新潟県美術教育連盟理事）

●一般公募

- 上原みゆき（食文化研究家）
- 高橋健太郎（株式会社アール・イー代表取締役）

※◎は会長 ○は副会長

（平成24年8月1日から平成26年7月31日まで）

●学識経験者

- ◎近藤フチエ（新潟大学名誉教授）
- 金子 賢治（茨城県陶芸美術館長／多治見市美濃焼ミュージアム館長）
- 松本 健義（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）
- 猪爪 彦一（新潟県美術家連盟洋画部代表理事／行動美術協会会員）
- 西條和佳子（特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事）

●社会教育関係者

- 丸田 洋一（柏崎市文化会館アルフォーレ館長）

●学校教育関係者

- 柴野ひさ子（新潟県美術教育連盟理事／中越美術教育研究会副会長）
- 風巻 洋（新潟県美術教育連盟副会長／下越美術教育研究会副会長）

●一般公募

- 上原みゆき（食文化研究家）
- 上松 和義（新潟大学工学部技術専門員）

※◎は会長 ○は副会長

【日程及び内容】

第1回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成24年4月21日（土）午後2時より

- 内容：(1) 平成23年度「美術館の自己評価に対する委員評価」の作成について
- (2) 平成24年度事業について

第2回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成24年9月25日（火）午後2時より

- 内容：(1) 平成23年度「美術館の自己評価に対する委員評価」について
- (2) 平成24年度近代美術館の事業計画について
- (3) 平成24年度評価シートについて

第3回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成24年12月11日（火）午後2時より

- 内容：(1) 平成24年度評価シートおよび評価分担について

(2) 平成24年度近代美術館事業の途中報告について

【自己評価に対する委員評価】

平成23年9月

はじめに

平成20年度に始まった近代美術館の運営に関する自己評価および外部評価の試行から3年間を経た現在、当初の評価から見ると、評価そのものが館の活動の活性化につながっているという実感があります。より実態に合わせた観点から行っている評価は、日常的な業務においても目標に合わせて改善に努める姿勢の現われと見ることができるからです。

もし自己評価が館の活動の見直しや改善に役立たないとしたら、評価の仕事は自己目的化し、通常業務の上に余分な仕事加わるだけにすぎません。本年度の評価においては、評価の項目が限定され、その中で年度ごとの達成目標を掲げて評価するというかたちを整ってきました。その点でも、美術館の管理者やスタッフにこの評価を館の管理運営に活用しようとする意識が明確になっています。しかしながら、数値目標の設定自体に意味が問われる項目もあり、数値よりもその内実の評価に注目していただくことが重要だと考えます。

本書の第2章では、分野別の自己評価に対する委員の見解が詳細に述べられています。概ね自己評価については適切だと判断する意見でした。今年度の評価は、いわゆる中期目標に当たる目標に対して年次ごとに評価を行い、次年度につなげるという評価サイクルの端緒に位置するものです。このように次年度につながる試行的な取り組みが多いなか、目標の達成に関しては次年度以降の実施と展開が期待されています。

そして、第3章では、本年度の評価を踏まえた平成23年度の実施と展開が期待されています。この評価結果の公開により、県民をはじめ多くの人々に対し美術館関係者が一層の改善に努めるだけでなく、県民の美術館活動への理解と支援をいただくことになれば幸いです。

平成23年9月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フチエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

1 平成22年度における美術館運営の全般について

県立近代美術館の主要な業務には、他の美術館や新聞社等との共催による展覧会の開催、自主企画展の単独開催、それに美術団体等への会場提供による展覧会の開催のほか、所蔵作品に関する資料収集と公開、これらの業務とあわせて鑑賞者への教育普及や連携が挙げられる。一般的に、館の主要な仕事は他の美術館等との共催による企画展であるように思われる。しかしながら、それに並行して開催されている美術館独自の所蔵品を中心に構成される自主企画展と、鑑賞者に対して行われる各種の作品解説等の教育普及やその他の活動は、地味であっても、美術館が予算や外的要因に作用されずに、日ごろの調査研究や情報収集、連携活動等、館の運営活動の実績を示す分野であり、この分野に焦点化した評価を行うことが重要だと考える。

2 目標設定のあり方について

県立近代美術館および県立万代島美術館とも、目標を着実に達成していることは評価されているが、数値目標の設定については協議会委員には必ずしも妥当と考えられていないようである。入場者数について、例えば「ボンベイ展」のケースのように、他館と比較して数的な目標を掲げることは、比較対象の違いが大きく、あまり意味がないように思われ、同時に「ウトリ口展」の入場者数も、確かに結果として多く目標を上回っているが、それは設定した目標値が低すぎた結果だと考えられなくもないからだ。館の過去の実績である類似の企画展や取組との比較で、それを上回ることで、そのためにどのような取組を行うかが重要だといえる。

入場者の満足度調査についても、アンケートの回収率を上げ、前年との比較で数値目標を設定し、同時にアンケート結果の詳細な分析のもとに、口頭や自由記載による鑑賞者の感想を丹念にまとめることで、数値の中身を明らかにしていることは今回の評価の改善点となっている。

目標を掲げて美術館の業務を再点検することは、すべての分野に求めることはできないかもしれないが、県民の要請と館の意識の相違の有無について、本年度の協議会でも問題にはならなかったが、人事や施設活用度などは県民の関心のあるところであり、今後そのような要請に応えるために評価項目で工夫することは必要と考える。

3 目標に対する達成状況について

各項目における目標の達成についての判定も、目標設定に関係して大きく異なってくる。数値目標で機械的な判定を行うわけにはいかない項目は、その進捗・達成度を数値目標に対するパーセンテージで示し、さらにアンケートや聞き取り調査の結果などを基礎として、進捗・達成度が評価されている。それらの判定を踏まえ、美術館の活動目標に照らした取組、事業目標について総評を添えて自己評価を行い、4段階の判定を記載している。すなわち◎は継続する項目、△は改善し、継続して目標として掲げる項目、×は目標として廃止する項目であり、さらに◇は新規の項目という4段階の判定を行った。目標達成の判定は必ずしも数値目標で示されるわけではないので、判定の基礎となる事項の記載を行い、さらに新たな取組を掲げることで次年度以降の改善につなげようとする評価が見てとれる。単年度では達成できずとも継続的に改善を図る努力を行ったかを平成22年度の目標達成の状況で示しており、その内容については特筆事項として記載するとともに、次年度の目標設定へつなげることで、評価の目的は達成されていると考える。

協議会委員の評価でも、常設展の企画、企画展の解説等や教育普及活動、広報については、取組内容の妥当性と効果について高く評価されている。工夫の余地があるとされるのは、連携の拡大と恒常的なサポート体制の構築であり、さらに「修繕計画」の完全実施について関係者の理解を得ることである。さらに予算措置の厳しい時代であっても、県立美術館の役割には継続的な作品収集があり、収集基金の再開の必要性も指摘されている。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

両美術館とも、館をあげての努力により設定した目標を着実に達成しつつあることは評価できるが、リピーター率の向上のように、館が置かれている状況に配慮しない数値目標が設定されている等、再考すべき点も少なくない。当然のこととはいえ、数値目標の達成を自己目的化すべきではない。定量的評価は必要であるが、その中にどこまで定性的評価を含めることができるか、この点の工夫が必要である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

近くに類似施設がない公立美術館として県民の幅広い要望に応えなければならないこと、また展覧会予算に占める一般財源の比率が低いこと、これらの理由からマスコミとの共催による巡回展を開催することは理解できるが、そのような企画自体に関与していない展覧会においても、図録、解説パネル、鑑賞の手引き、音声ガイドの作成、講演会、ギャラリートーク等において、主体的に取り組もうとする姿勢と努力は高く評価したい。

さらに、コレクションを主体にした企画展、あるいはテーマ展示に工夫をこらしていることを評価したい。特に、「亀倉雄策の世界」は大変内容が充実していた。新しい切り口を見つけることは今後次第に難しくなると思われるが、皆で知恵を出し合ってもらいたい。

また、自主企画展の「牧野虎雄展」については、経費上の理由により図録を作成できなかったことが惜しまれる。また、「県ゆかりの作家」であることを越えて、どこまで開催の意義をアピールすることができたのか、そこが知りたいところである。

「彫刻家・藪内佐斗司展」については、「せんとくん」のデザイナーであるとはいえ、このようなやや特異な作家の活動を取り上げたことは評価したい。しかし、それがどこまで来館者に理解されたかという問題は残る。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、反省点も明確に記されていて好感が持てる。このような自己評価の積み重ねが美術館活動の向上につながるものと思う。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

参加者数は前年度より約300名増加し、単年度目標は達成されている。

○県立万代島美術館

実施目標はおおむね達成されている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

「講演会等の開催」では、教員を対象とした美術教育講演、学校の教材開発に資するワークショップなど、教員研修や学校の教育活動と連携した取組が開始されている。「巡回ミュージアム」は学校も対象とする方向へと方針変更がなされている。こうした取組は、本年度長岡市教育委員会との体制づくりがなされた「近代美術館 教育普及活力プロ

ジェクト」の試験的取組ともいえる。23年度以降の教育普及企画は学習指導要領改定と連動し、学校教育や教員研修との協働も含めた生涯教育全体へと具体化されていく。この体制を確立した点が特に評価される。若年層の人材育成による県民の文化レベルの向上が期待される。また、県立歴史博物館や長岡リリックホールとの連携による広報や誘客、友の会との協働は、利用者側の利便性や充実した利用も配慮した取組が具体的に期待される。

○県立万代島美術館

教育普及事業は多面的に実施されており、広範な年代層が様々な企画を窓口として参加できる工夫がなされている。各事業への参加者数も一定の成果を得ており充実している。協力人材との連携体制については、中期的な見通しにより各事業と協力人材や組織とのネットワーク化を進め、友の会や幼小中高等学校等も含めて裾野を広げ、厚みのある支援体制を継続して構築していくことが望まれる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、適切と判断される。22年度は次年度以降の方向性をつくる体制づくりや試験的取組が多い。次年度以降の実施と展開を期待している。

評価シート上の自己評価の記載内容だけでは、単年度目標および取組・事業目標と自己評価との関係が読み取りにくい項目、また、記載に具体性を欠く項目がみられる。関係性が明確で具体的になるよう、記載量を増やし対応してほしい。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

データベースの画像入力を完了したことは重要である。中期目標をもとに、今後これをいかに活用するかが大きな課題である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

図録に収録された論文と作品解説、解説パネル、鑑賞用の手引き、講演会、研究紀要等から判断して、調査・研究は着実に進展しているものと認められる。美術館の活動の基礎にあるものが調査・研究であることを示すためにも、研究紀要が継続的に刊行されていることを高く評価したい。

さらに、上記の出版物、講演会、大学における講義等によって、発信は活発に行われていると判断されるが、紀要の論文等の専門的な内容のものについては、一般向けの説明会が必要ではないだろうか。

しかしながら、収集については、今年度は例外的に購入が認められたものの、美術品収集基金が凍結されていることは大変残念である。美術品の収集は美術館にとって活動の中心をなすものであり、エネルギーの源泉である。とりわけ収集における作品購入は、美術館の主体性を保持するためにも欠かせない。たとえ少額であっても美術品収集基金による購入の再開と継続が望まれる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、適切と判断される。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

平成22年度改修・修繕予定箇所を確実に施工するための補正予算を獲得することができ、ボイラー、自動ドア、搬入口脇の鉄扉などの改修は概ね実施できた。しかし、平成23年度当初予算の獲得はできなく目標を達成することはできなかった。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

単年度目標である「修繕計画の予算獲得」については主管課である文化行政課と共通認識を共有できるかどうかに係っている。平成22年度補正予算は緊急を要する修繕の実施について共通認識を共有できた。しかし、平成23年度分については危機的箇所の協議は緒に就いたようだが、実施確認までには至っていない。美術館の取組内容としては妥当なものであると考えるがより頻繁な協議が必要と考える。

(3) 自己評価に対する総括

来館者の安心、安全、また展示作品、収蔵作品の最適な環境での管理は美術館にとってなによりも優先されなければならない。美術館の自己評価には「予算獲得」の難しさと獲得できなかった無念さが滲み出ている。

それとは別に「予算を獲得する事」が単年度目標になっている事に少し違和感がある。また「判定」が目標を達成したかどうかではなく翌年度に向け目標を継続するかどうかを◎などの記号で表す事も誤解を招きかねない。定性的目標と定量的目標に分けて達成したのかどうか評価した上で翌年度にそれを生かした方が良いのではないだろうか。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

「越後上布・小千谷縮展」や「ジュニア展」「県展」など他団体に対して積極的に共催を働きかけた結果、目標値の「5,000人以上の参加」を遥かに上回る23,777人、昨年度対比486%と特筆すべき成果を生みだしている。地域と密接につながることは館の使命を果たし、また、長岡市という立地を強みとして最大限に活かした協働事業であり、高く評価したい。

課題としては、長岡市の新庁舎や周辺自治体に新設の施設が完成した場合、地元の魅力的、動員力のある企画展示に関しては競合することが考えられる。館はそのような存在と、一線を画してゆくの、それとも競合施設との協働を模索してゆくの、早い時期に戦略を立てるべきではないか。

友の会との関係づくりにおいては、取組目標「協働事業を行う」数値目標2回以上をクリアしているが、数値よりもむしろ友の会を協働パートナーと位置付け、良好な関係づくりと弱体化する会の運営に支援を始めるなどの具体的な行動を評価したい。

○県立万代島美術館

数値目標は達成されていないが、協働組織としてサポートメンバー（ボランティア）の組織化に取り組んだことは評価したい。少人数のため大きな活動実績はなかったが、写真展「ねこ」では、来館者から愛猫の写真を募り展示するなどのイベントを実施しており、企画展の作品と来館者

の関係を双方向型にする試みが出来たことは、立ち上げ初年度としてはまずまずの出来ではないだろうか。

万代島美術館は、近代美術館と比べ、大都市部に位置しており、既存の芸術、美術関連の組織の数が多いうえ、広域にわたって存在している。そのために協働関係をつくるには条件的に不利であると考えられている。しかし、近隣に集中している学校や口コミの効果の大きいタクシー会社を協働組織と位置づけた着眼点は大変良い。実際に、学校に関しては、今年度はチラシの配布程度、働きかけの段階でありながら、出張事業やギャラリートークの実施にもつながっており来年度に期待ができる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

協働組織を友の会、ボランティア、他団体に分け、それぞれの特質、ニーズに合わせた取組を設定しており妥当性は高い。しかし、取組内容については、まだまだ「手ぬるい」と感じている。それは、館が協働組織と何を生みだして行きたいのかなど方向性やビジョンが不明瞭なためではないだろうか。館はよりよい運営が実現でき、利用者は満足感や喜びを享受でき、協働組織や係わる人たちは活動の質を高めたり、また出来なかったことが可能になったなど、「三方よし」となるための明確な方向性と戦略、戦術を求めたい。

○県立万代島美術館

サポートメンバーの立上げや学校、タクシー会社を協働組織とし、関係づくりを働きかける取組には妥当性がある。しかし、拠点性などの課題はあるとしても、友の会との協働を部分的に事業の中でしか捉えていないのはなぜだろうか。友の会には下地域域の会員も多数おり、また回数は少なくとも、新潟での企画展の実施や会員の勧誘なども行っている。友の会の方針や具体的な運営計画を共有しながら協働関係を構築する努力を求めたい。

(3) 自己評価に対する総括

限られた（しかも緊縮し続ける）経営資源のなかで、最大限の効果を生み出すことは館単体では難しい。館単体のイノベーションから、他者を巻き込んだオープンイノベーションが求められている段階にきている。よって、協働組織との連携は優先順位の高い事業と考える。

他組織との協働の目的は、ただ単に集客を高める手段や人手不足を補うことではなく、能力面やシステムを補完し合いよりよい成果を生み出すことでもある。館の不得意なことを、それを得意とする他組織が代わって行う方が効率も良いし効果も高い。その分、館は自身の強みにエネルギーを集中させることができるので、館の持つ強みはより強化され他が追従できない特別な魅力や特徴となるだろう。反対に、他組織だけでは実現できなかったことが館の持つノウハウや経験で可能になることも多いだろう。そのように補完し合う「仲間」を充実させることは重要であると思う。

22年度の取組に関しては、評価に回数など数値を問うことが多かったが、「仲間」の充実、双方の満足はどうであったか、どのような活動を共にしてきたのか、何を助け、助けて貰ったのか、どのような思いを共有してきたのかなど、本来は定性的評価と併せて、具体的な内容やプロセスも評価すべきではない

だろうか。

第3章 平成23年度県立近代美術館運営への提言

【近藤 フチエ 会長】

首都圏の国立美術館の入場者数のこの10年間の伸びはほぼ2倍になっています。首都圏の美術館と新潟県立近代美術館を比較することは全く意味がないでしょう。しかしながら、全国的に加速化される少子高齢化時代の到来で、地方においても生涯学習の要請が高まっていると言えます。国内の主要な美術館見学や特定のアーティストの作品を見る海外旅行が盛んになっています。新潟県立近代美術館と万代島美術館は、内外の美術品や作家活動の紹介と作品の収集や展示により、芸術文化の歴史を学び、発展させるために、より多くの人々が親しみ、活用できる特色ある美術館の在り方を考える必要があります。かつてヨーロッパの主要美術館は休日無料、大学生無料でしたし、最近では高齢者割引など、多様なサービスが行われています。少なくとも所蔵品展はできるだけ安価な入場料を設定したり、他の博物館や水族館との連携を進め共通バスを設定したりすることで、県民の芸術文化施設の活用を促進することもできるでしょう。現在、小中学生に限定された無料設定をより多くの観衆に拡大することが望まれます。首都圏のように多くの見学者が確保できない実情を打開し、県民の財産である芸術作品を活用し、美術館という芸術文化の場を多くの人々に開放し、存在意義を高めるために、地方独自の対策を考える時代に来ています。このような社会的な要請については、当事者が、関係者はもちろん利用者の声を的確に受け止め、改善の施策につなげるためにも、評価を活用していただきたいと願っています。

美術館の学芸員は高度な知識を有する専門職にあたりますが、個々の研究とともに美術館の共同研究など多様な研究の成果をあげることが期待されています。有能な専門職員の意欲を高めその能力を館の運営に活用することも管理者の責務であり、人材の活用についても評価に反映されるような工夫の余地があるように思いました。

【雪山 行二 副会長】

これは全国の美術館に共通した傾向とも言えるが、近年、主催館独自の地道な調査・研究にもとづく骨太の展覧会が少なくなってきたように思われる。その最大の原因は、美術館に対する社会からの要望が拡大しているにもかかわらず、予算が削減されてきたため、少ない経費で一定以上の入場者数が見込める展覧会の開催に重点を置かざるを得なくなっていることにある。新聞等マスコミも以前ほど経済的余裕がないことから、赤字を出すような展覧会には出資をしない。その結果、収支のバランスがとれる展覧会、言い方を換えれば、特色のない展覧会、二番煎じの展覧会がふえることになる。

県立近代美術館と県立万代島美術館が限られた予算の下で県民の要望に最大限に応えられるよう、特に広報、普及、教育、来館者サービス等において多大な努力を払っていることは高く評価されるが、展覧会の内容についてはこのような傾向から免れていない。当面は一定の入場者数を保持できるようにせよ、長期的に見れば飽きられ、また、美術館として特性を失っていくのではないかと危惧される。予算の増額が見込めない現状において具体策を講ずることは容易でない。しかし、数多くの美術館

がひしめく中で、どうすれば唯一無二の美術館として生き残ることができるか、真剣に討議していただきたい。

公立美術館である以上、地元住民の幅広い要望に応え、最大多数の最大幸福を追求することは当然であるが、芸術がその時代が抱える問題を鋭く指摘し、未来を予言するものであるならば、たとえ多数の来館者を見込むことができなくとも、新しい価値を発信する事業を展開して欲しい。

美術館は文化を消費する場であるだけでなく、文化を創造する場であることを忘れてはならない。消費と創造の間に明確な線をひくことは不可能であるが、サービスの向上等の要望に応えると同時に、具体的な事業を通して、文化を創造するという使命を広くアピールして行く必要があるだろう。

コレクションの形成は、美術館、とりわけ近現代美術館にとって活動の中心をなすものであり、美術館が主体的に収集を進めるために購入は不可欠である。美術品収集基金の凍結を解除し、購入の再開と継続を強く希望する。

美術館の使命の一つは、美術を通してわれわれが今どのような時代に生きているのか考えるよう人々に促すことにあると、私は思う。願わくば職員の方々がこのような視点に立って仕事に取り組んでいただきたい。

また、新潟県知事ならびに県当局に対しては、県立近代美術館と県立万代島美術館が新潟県における文化発信の拠点として十全の活動ができるよう、設置者として責任を持って、予算、人事を含め必要な措置をとっていただきたい。

【松本 健義 委員】

県立近代美術館、県立万代島美術館ともにそれぞれの美術館の特性、立地条件をいかした多面的な教育普及事業が実施されており、広範な年代層が企画を窓口として参加できる工夫がなされている。各企画への参加者数も一定の成果を得ており、同事業が県民の憩いや学習の場として機能していることが伺える。

22年度は新たな方向性として、学校の教育活動や教員研修等と連携した企画の実施、巡回美術展の対象に学校も加えるなどした他、長岡市教育委員会の賛同を得て教育普及企画を学校教育の活動に積極的に活用してもらう新しい協働体制を構築している。学校教育と生涯教育が実質的に連動することで、より自然な形で若年層の利用者も増加し、美術に関心をもつ人材育成に寄与するとともに県民の文化レベルの向上にもつながるといえる。学校教育の側にも教育内容や学習経験の充実、教員研修機会につながる互恵的な協働関係となる。

個別の各企画による利用人数の増加を数値的に目標追求するのではなく、こうした、相互的で互恵的な協働を組織間につくりだしていくことが、今後の美術館の教育普及のあり方として期待される。また、そうした成果を足場としながら美術館の企画や事業をサポートする体制を、中期的なビジョンにたって、ボランティア、市民団体、学校、企業等へと裾野を広げてネットワーク化し、厚みのある支援体制へと継続的に構築していくことが必要である。それにより互恵的な協働関係もさらに拡充していくことが期待できる。

調査・研究については、企画展や紀要等を通じた新しい知見や成果の公開が継続して期待される。大学や大学教育との美術館との教育研究の連携の充実や拡張も期待される。作品の保存にはこれまでどおりの十分な対応を今後も継続してお願いしたい。また、美術品収集購入基金による購入の再開と継続が強く望まれる。

【渡辺 富栄 委員】

現在は失われた20年というものを取り返すべく、全てのものに対して見直しということが合い言葉ようになっており、何が何でも今までのあり方、やり方を変えることが正義であるという雰囲気の中にありますが、私はそういう風潮を好みません。何にでも競争原理を取り入れ、外部の意見を聞き、経済効率を第一として全てを自己責任で運営せよという。せっかく公立という経済原理から離れている機関ならではの長所をもっと悠々と生かしてゆくべきであると思います。美術館は遊園地ではありません。ただ楽しかった、たくさん遊べた、人が大勢いただけでは困ります。たとえ数は少なくとも本当に美術から何かを学びたい、生きる糧を掴みたいという観覧者を静かに待つべきであります。アンケートを採り観覧者の意向がいかほどの所にあるのかを把握することは無駄ではありませんが、多数の意見に迎合する必要はないと考えます。学芸員はじめスタッフの方々はただでも多忙な職場の中で本来の研究や調査の仕事に集中するべきです。入館者は多くにこしたことはないと思いますが、企画展の入り芳しくないこととその質とは相関関係にはありません。果たして芸術がそんなに簡単に分かるものなのでしょうか。

さて、私が高校教員であった時の経験で申し上げれば、今まで美術館というものに行ったことがないという生徒が90パーセントに及び、その数は現在も大して変わらないと思います。そこで、美術館として生徒に見せたい企画を県内の中学校あるいは高等学校の或る学年を半日でよいから授業の一環として館に連れてきて鑑賞させることだと思います。これは学校との連携が必要ですが、数年かけてでも県内全ての学校で実現することです。そうした経験の蓄積が美術館への抵抗感をなくし、将来のリピーターを作ることになると思います。団塊世代の私は映画も演劇も演奏会も全て学校で鑑賞したことがその最初でありましたから。

【丸山 結香 委員】

潜在的利用者へのフォーカスインタビューの実施を！

22年度は両館ともにアンケート回収率を高める為の取組を実施し成果をあげている。また、アンケート内容を分析し、出来ることは即運営に反映させる努力も認めたい。このように、利用者の満足度を把握、追求することは当然ながら重要である。しかし、それらと同様に重要なのは、来館しない潜在的利用者の把握とニーズの有無（とその内容）である。不特定多数を対象とするようなアンケートを含めた市場調査はコスト面において実現は難しいだろうが、館に足を運んだことがない、行く気がしないという人達を探して一本釣りすることは難しいことではないだろう。個々の意見は、館の中だけでは考えつかない新しい視点やアイデアなどの気づきを授けてくれるのではないだろうか。

【日諸 博美 委員】

評価シートの担当する分野「教育普及等関連事業」では、中期目標①～⑤達成のための単年度目標が「教育普及事業参加者数を前年度より増加させる」とあるが、この単年度目標が中期目標①⑤の2項目につながっていくと考えてよいのか。単年度目標のそれぞれの取組が中期目標達成のためのどの目標（①～⑤）達成のためのものなのかを明示する必要があるのではないかと。

単年度目標の「巡回ミュージアム開催方法の検討」の項目については、具体的な出口が「検討を行う」であり、数値目標には、「(定性)」ではなく「〇回以上開催」とした方が、具体的な方策・出口が見え、取り組み易いのではないかと感じた。

結果的には、単年度目標を達成できているが、単年度目標の達成が中期目標のどの項目(①～⑤)にどのように有効であったのか検証することができない。中期目標の達成あってこそその単年度目標と考えるといかがなものか。

【須佐 尚子 委員】

自分の子どもの頃を思い起こすと、美術館を訪れる時間は、まさに「ハレ」の時間であり、デパートでの食事等がセットになった非日常的な時であった。今でも、私にとって美術館は、デパートにおける美術品展示の特設会場とは一線を画した緊張と『さあ、これから美術品に囲まれた特別な時間を過ごすのだ。』という期待で心が満たされる。国外の大美術館のロビーに子どもたちが座り、参加型的美術鑑賞を行っている様子とは — 文化の違い、文化の継承者育成への姿勢そのものの違いもあるが — 隔世の感がある。

この度私は、県立近代美術館協議会委員をお引き受けしてしまい、正直なところ身の細る思いでいる。『教育関係者として、美術館と学校との橋渡しをすることが求められているのかな』などと、軽々に判断したことが原因のようだ。美術館発展のため、いや芸術の振興のため、芸術文化継承者育成のため等々、日々真摯に努力を重ねられておられる関係各位と交わることで、自分の狭薄さを否応なしに自覚することになっている。私の関わっている教育機関では、生徒の3年間の学習内容に占める芸術の時間の割合が2%程度の学校が多く、それも音楽、美術・工芸、書道からの選択であるというのが実情である。平成25年度完全実施の新学習指導要領において「芸術」の「目標」は「芸術文化についての理解を深め」の表現が「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う」という現行の表現に挿入された形となっている。かくも深淵なる目標に向け、限られた授業時間数の中で、教材をぎりぎりまで精選し、授業担当者が日々奮闘しているというのが現場の姿である。

そこで、

- (1) 参加型の活動に参加させ、芸術文化を体感させることで、充実感を味わわせ、美術館再来につなげる
 - (2) 再来を重ねさせることで、芸術の継承者としての児童生徒を育成し、芸術に親しむ未来の来館者育成を図る
 - (3) 日本の文化を継承発展させる
- という、教育的視点からの美術館の意義を考えると、
- (1) 近隣の文化施設、交通機関との連携により利用の利便性を図る
 - (2) たとえば割引券そのものに、他の施設での展示内容等を盛り込む
- 等の、手元で確認できる広報を行う等々の工夫をしてみることも、普及の新たな可能性の追求につながるかもしれないと、私は思っている。

とにかく、県立近代美術館協議会委員として、美術館の努力を内側から垣間見せていただいた。この貴重な体験を、私個人の経験に止めることなく、私の携わる機関に、時を捉えて御紹介し続けることが、せめてもの恩返しと考えている。

【丸田 洋一 委員】

新潟県は面積が広く全県から近代美術館に集客することは難しい。企画展などでのアンケートから見ても美術館の所在地(長岡市、新潟市)から遠隔地になればなる程来館者は少ない。これは仕方のない事だが、それなら現在も実施している「巡回ミュージアム」を学校や市民会館、また地域の行事と連携を図りながら実施回数を増やすなどの充実を要望したい。

「県立の美術館」から「県民の美術館」に向かう一つの道であると思う。

【高橋 健太郎 委員】

美術館の役割の変化を捉え、地域の人達にとって必要不可欠な施設となっていくことを願います。美術を好きな人の満足度だけではなく、全く初めてのお客様でも満足が得られるよう、色々な取組に挑戦してもらいたい。

数値による評価ではなく、お客様にとってどういう満足が得られたかなど言葉による評価も大切だと考えています。

協働組織である友の会、他団体との連携を深めることで、地域の人達にとって、必要不可欠で特別な場所へとどんどん変わっていくと思います。

県内の美術館、博物館と連携し、その協働できる企画についても積極的に提案し、他の美術館、博物館を引っ張る施設としても、重要な役割を担ってもらいたい。

【上原 みゆき 委員】

新潟県内のいたる所に目配り、心配りをしつつ、県立美術館としての独自の企画、運営をしていってほしい、そのために、県民のひとりとして実感のこもった意見を言うことができれば——これが公募委員をつとめさせていただこうと決心するに至った動機です。

委員の皆様方のお話を伺い、事務局の方々の努力を知り、その中で私自身、非常に豊かに勉強させていただく日々であったと思っております。委員をつとめさせていただいたことについて、大変感謝しております。

すばらしい芸術作品と触れあうことは人の心を豊かにします。もしも美術館が、住んでいる所の近くに存在し、頻繁に行けるのであればいいのですが、この広い新潟県、どれほどの割合の人が気軽に美術館に行ける環境にあるでしょうか。住んでいる場所の違いによって芸術作品と触れあう機会の多い少ないの差が生じてしまうというのが、残念ながら現実です。

そうではありますが、日常的に行くことは不可能でも、美術館の存在そのものが、ひとりひとりの県民にとってどれだけ大切な、ということをごろ考えます。むしろ、ごくたまにしか行けない所であるからこそ、その美術館の内容とも相まって、ずっと心に残り、ひとりひとりにとって心の財産となっていくというケースもあろうかと思えます。

雰囲気ということで言えば、県立近代美術館と県立万代島美術館は、まさに一度訪ねたら忘れられない貴重な思い出となる美術館ではないでしょうか。

企画展等の情報は、情報を受け取りにくい地域や人々にも、きちんと細やかに届くように、これからもさらに工夫を重ねていただければと望みます。そして、一度美術館のすばらしさを知った来館者が、その思いを外に向かって発信していくシステムなどができればいいなと思っています。

平成24年10月

はじめに

昨年度に引き続き、自己評価と委員評価のいずれも、「展覧会」、「教育普及等関連事業」、「調査・研究、収集・保存、発信」、「環境・設備」、「協働組織」についてそれぞれ目標を定め、反省点を挙げつつも、目標の達成に一定の成果を上げたという結果となっています。設定された目標に対し、様々な工夫を行って、目標の達成を目指してきたことがわかります。この数年間の評価を振り返ると、一定の目標に対して継続的に活動してきているので、具体的な成果が数値や顕著な傾向となって現れてきています。ただし、このような評価が実際の美術館の活動の大きな改善につながっているとは一概に言うことはできず、ここで行う評価が対象としていない問題も別に存在することを指摘しておくべきでしょう。

美術館を訪れる多くの人々は、日ごろから企画展自体や美術一般に対して関心を持っています。一方で、そうでない人たちが美術館を訪れるには、何らかの理由があります。アンケートにもあるように、マスメディアなどを通じて企画展の情報に接し、それによって美術館を訪れるのです。観客は、訪れる前に企画展をある程度判断していると言っているでしょう。しかしながら、この評価においては常設展の企画を除いて、最も重要な企画展の企画性そのものを評価することができません。美術館に対する評価においては、与えられた条件の中で美術館が最善を尽くしているというだけでは、十分ではないはずです。優れた活動に対してもさらなる改善のために評価は正當に活用されなくてはなりません。

毎年予算が縮小され、企画展が見劣りしたものになっていく時、美術館関係者の地道な努力は県民にはなかなか見えてきません。美術館の自己評価と外部評価は行っていればよいという性質のものではなく、次年度以降の予算や目標に反映されるべきものです。また企画展や作品の購入についても、予算的に裏付けを得られないなら、美術館の基本的な活動は、日常的業務の範囲内の改善に留まり、より高次元な芸術文化を渴望する来館者を満足させることはできないでしょう。

そのような状態を脱するためには、県民が自分たちの税金で作った美術館が地域と世界の芸術文化への理解を育み、発展に寄与する人材の育成につながる場となるように、改めて県民のための美術館を作り上げて行くという意識を認識することが必要であり、そのような声なき声が今後美術館の運営に反映されることを大いに期待したいものです。

平成24年10月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フチエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

1 平成23年度における美術館運営の全般について

平成23年度は、東日本大震災直後で全国的に活動が停滞化した中にありながらも、当該地域の美術館への協力人員の派遣や避難者の美術館利用などもあり、美術館の運営は順調に行われたと言える。展覧会企画会社が企画した展覧会についても、美術館が独自の工夫を凝らしながら、特に大勢の観客を得た県

立近代美術館の「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」、県立万代島美術館の「藤城清治展」では、絵画を壁に飾るこれまでの展覧方式とは異なり、美術館の空間を活用した一種の環境アートであって、美術館が万国博覧会のテーマパークのような雰囲気にも包まれた。鑑賞者も従来の美術愛好者とは異なり、より自由に主体的に、楽しい見世物、映画や物語の世界に引き込まれるなど、アートの新境地を提供することができたと言える。近年のアートの広がりに対応して、美術館の企画も変化して行くのは当然であり、日常的な感覚でアートを楽しむ若者や大衆の要請に応えていかなければならない。

教育普及等関連事業については、学芸員による美術鑑賞講座の継続をはじめ、ワークショップによる参加型講座、また出前講座や巡回ミュージアムによる鑑賞と体験、ワークシートの作成など、教育機関と積極的に連携した取組に多様な工夫が見られたが、さらなる改善が期待される。

調査・研究、収集・保存、発信については、次年度以降の企画展のための聞き取り調査や各種研究会への参加、企画展に関わるテーマの論文執筆等がなされており、これらは美術館運営に欠くことができない。美術鑑賞講座、展覧会図録の刊行、広報活動も、そのような調査研究等の基本的な活動を踏まえて質的な高さが保証されるものである。

また、美術館の環境・設備については、地域住民の誇れるものとして、また建物の老朽化や美術館の業務に差し支えのあるような事態を未然に防ぐためにも、職員は常に配慮する必要がある。不測の事態に備えて、通常枠以外の予算を認めてもらえるよう努めることが大切である。

協働組織については、長岡造形大学との連携が実現し、さらに周辺施設と連携が進められた。県立万代島美術館のサポートスクールの試みは、美術館と教育機関の連携を継続的に進めることで教育プログラムの作成が可能になる。タクシー会社との連携もすぐには効果が無くとも、県内外の訪問者の誘導のための地道な取組として評価される。

2 目標設定のあり方について

各分野で設定された目標は、これまで試行に留まっていたものを重点的に、達成をめざして活動の在り方を検証しつつ、改善の方向性を示すものであった。しかしながら、すべての目標が適切であったのかという疑問や、当初の計画通りに行かなかった項目もある。職員全員が目標達成のために方法や成果の検証などについて、意思を共有することが重要である。

中期目標の「④新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となる」については、物故作家のコレクションを中心とした常設展のほか、地域の作家の企画展が中心となっている。ただし、よく取り上げる作家たちだけでなく、より多様な地域や表現領域にも目を向けて新たな人材を発掘し、支援することが望まれる。地域の芸術文化の育成は、美術館事業の多様な分野に波及することから、その成果を判定するためには、個別的な取組についてその質と量を問う必要がある。

また、展覧会企画会社が企画した展覧会と美術館が独自に企画した展覧会を必ずしも同一の基準で評価することはできないので、年間の観覧者数や収支において、トータルで調整を図ったり、あるいは収支目標を超過した場合には、美術館に利益を還元できるような予算面での柔軟な改善が望まれる。

3 目標に対する達成状況について

問題点や改善点を自ら指摘しているように、多様な活動により各分野の目標はおおむね達成されたと判断される。ただし、目標の達成状況は数値だけではなく、利用者のアンケート結果の具体的な分析によってより正確な利用者の声と目標に関わる諸般の状況を知ることができる。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

展覧会の広報活動と普及活動については、新しい試みにも大胆に挑戦することによって、多大な成果をあげている。また、展覧会の構成と展示についても、より深い鑑賞を可能にするため、さまざまな工夫と努力を払っている。さらに、展覧会の企画会社が主導する展覧会においても、可能な限り美術館の主体性を示そうとする姿勢は評価してよいだろう。

しかし、展覧会が自主企画展と企画会社主導型の展覧会に二極分解していく中で、両者をつなぐことが極めて困難になっているのが現状である。後者の中には、「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」のような斬新な内容を持つ展覧会もあるが、それは一時的なイベントに終わり、美術館にとっては活動の成果として蓄積されない可能性がある。企画会社主導型の展覧会の観覧者をどのようにして自主企画展あるいは常設展に導入できるかが大きな課題である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

取組内容は、きめ細かく計画され、斬新なものも多く見られるが、企画会社主導型の展覧会にどのように対処するかという基本的な方針が不明瞭である。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、問題点を的確に指摘していて妥当である。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

教育普及に関する参加率は10ポイント以上上昇しており、目標は達成されている。

○県立万代美術館

実施目標はおおむね達成されている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

展覧会に即した美術鑑賞講座は、展覧会での鑑賞を深めるための工夫がなされている。今後は大学や研究者等との連携により、講座内容に対する参加者の期待に応えるような質的な充実を図るとともに、参加者の継続参加意欲を喚起するスタンプラリーや資格設定なども期待される。

他組織との連携では、長岡造形大学のこどもものづくり大学校をはじめ、展覧会に即した内容のワークショップの参加率が高く好評である。今後は、大学での単位化等による連携の互惠化を図るとともに、作品への関わり方に広が

りを持たせたワークショップ型鑑賞の開発を連携して進めることで、美術を愛好する若年層の拡大が期待される。

出前講座は、地域の団体・学校等と連携した事業として要望も高く、子育て広場、児童館、図書館、小中学校等の教育機関との連携も恒常化し、充実した内容で実施されている。

巡回ミュージアムは、新たに中学校での実施に伴い、参加者を1000名以上増加させており、学校との連携モデルとして期待される。ただし、作品保護上の展示環境の確保と離島での実施を実現させるためには、予算確保が課題となる。例えば、資金や運送、宣伝等の側面で、企業特徴を活かした協賛を得て、ホームページや開催案内等でPRするといった互惠的な連携を組むことによって、課題が解決されることを期待したい。

○県立万代美術館

館外の人材を活用した展覧会に関わるイベントは、新潟の作家や地域の演奏家等の協力を得るなど、美術館を支える体制に厚みと広がり生まれている。

友の会との連携・協働は、友の会の特性を活かした連携と協働のあり方及び年間計画を改めて明確にし、他の地域連携と差異化させた展開が今後期待される。

学校への鑑賞用ワークシートの提供と出前授業は、学校の教育活動に美術館の利用を促すとともに、学校での鑑賞学習を美術館と協働して実践する新たな連携の基盤を作るものである。また、大学での単位化や教育研究との連携も今後ますます期待される。

教育普及関連事業は前年度と比べ種類を増やして回数も約2倍にして、一層多彩に実施されている。それに伴い参加者は約4倍に増加し、効果的な工夫の成果が表れている。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、適切と判断される。平成23年度は小中学校及び大学との連携に具体的な展開が見られ、各種企画への参加者が増加しただけでなく、事業運営における協力機関との連携が具体化され、さらなる可能性が示されてきたと言える。今後は、予算と協賛・賛助等による活動運営資金の安定化を図ることや、美術館との連携が協力機関のイメージ向上と教育効果等において互惠的な形式となるように、友の会を含めた個々の連携機関の特性に応じて連携方法の多様化を進めていくことが望まれる。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

県内での作品調査のほか、次年度以降の展覧会計画に基づいて、GUN展のための聞き取り調査や、全国美術館連絡協議会による研究集会「朝鮮を愛した美術家たち」に参加するなど、着実な活動を展開していることを評価したい。

また、館の独自制作による展覧会図録を1冊以上刊行するという目標に対し、3冊刊行できたことを極めて高く評価したい。展覧会図録は、調査研究を発表する最も重要な場であるとともに、美術館活動の記録でもあることから、経済的ならびに労力上の負担が大きいことは理解できるが、今後とも展覧会図録の刊行を堅持してほしい。

○県立万代島美術館

「クレーとカンディンスキーの時代」展および「新潟の画家たち」展では、展覧会図録を刊行して学芸員が論文を執筆したほか、関連した美術鑑賞講座を実施するなど、積極的な取組が見られる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

取組内容には、特別目新しいものはないが、これらは美術館の基本的な課題であることから、着実に実施することが美術館の本来の使命を果たすことにおいて不可欠であると考ええる。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、問題点あるいは実現できなかった理由などを的確に示していて妥当である。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

今年度計画の確実な実施については、蓄電池交換工事、受変電設備交換工事、駐車場ライン引き直し工事を予定通り実施し目標を達成した。

来年度予算の獲得については、重要設備である空調設備のオーバーホール費用1台分は獲得し、次年度に向けても獲得に努力している。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

平成25年度の開館20周年を迎えるに当たり、老朽化した諸施設の修理を行うことは美術館の取組としては妥当なものと言える。

県の予算システムが大きな壁になっているのだが、「修繕計画」のロードマップを作成し、主管課と共通の認識の下に協議を続けてほしい。

(3) 自己評価に対する総括

現在の予算システムでは、大規模修理やリニューアルは無理であるとのことだが、昨年度の評価報告書でも記載した通り緊急を要するまたは危険箇所に対する修繕のための予算獲得は何にもまして優先されなければならない。老朽化や劣化設備の修理の遅れが致命的な事態（来館者のケガ、所蔵品の破損、劣化など）を引き起こす結果にならないように引き続き主管課を通じ県当局に要求されたい。

県民共有の財産である美術館は、「予防保全」の考えで施設の修繕、保守を行うべきであり、通常の予算枠以外での予算獲得策を早急に検討する必要があるのではないかと。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

単年度目標である「長岡造形大学との連携を深める」に関して、学生と学芸員の協働による試みを実現している。成果として大学との協力関係が整い、JAGDA新人賞をはじめいくつかの企画を成功させている。また、大学だけでなく、周辺の施設などとイベントでの連携や、駐車場の借用など館の不足機能を補完するための協力体制も出来つつある。よって、実施目標はほぼ達成していると考ええる。長岡造形大学をはじめ市内の大学、教育機関との連携、協働

は、長年の課題であり、ようやく実現への一歩が踏み出せたことは高く評価できる。

○県立万代島美術館

2つの目標の内、「サポートメンバー（ボランティア）活動を軌道に乗せる」に関しては、サポートメンバーとの活動日程の調整に課題があり、積極的な活動は出来ていない。よって、活動を軌道に乗せるレベルまでには達していないと考える。出来るだけ早い時期に年間の活動計画を立てるなどの基本的な準備が出来なかった原因は何であったのか、また、間口を広めて募集するよりも、活動しやすい世代などに絞り込んでアピールし募集することも必要ではないだろうか。

次に、「近隣施設との連携・協働（サポートスクール等）」に関しては、22年度から継続して連携・協働の取組対象として、近隣学校やタクシー会社との関係強化を進めており、23年度は取組・事業目標である親密な関係構築は実現しつつあると感じられるが、この取組が同じく目標である集客力の向上にどの程度貢献しているかについては不明である。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

「長岡造形大学等との連携を深める」という取組内容は妥当性があると評価する。館の運営の活性化や機能の補完はもちろんのこと、館の担う社会的使命、中期目標にある美術に関心がある人材を育成することにもつながるからである。

○県立万代島美術館

サポートメンバー活動と近隣施設との連携・協働ともに、取組内容には妥当性がある。特に、サポートメンバーは、館の運営のサポートだけでなく、利用者の代弁者として貴重な意見やニーズをもたらしてくれる存在でもある。本腰を入れて企画し、具体的な活動を今後望みたい。サポートスクール等に関しては、集客を意図するだけでなく、協働による新たな教育的な取組に発展することを期待したい。

(3) 自己評価に対する総括

○県立近代美術館

大学との連携・協働という枠に留まらず、若い世代の創造性を育てる教育機関としての役割を期待したい。学生が館をサポートするだけでなく、館で実践を学ぶ取組（単位化も含めて）が多く企画されると良いだろう。

○県立万代島美術館

サポートメンバー活動に関しては、自己評価では満足のいく成果は出せていないが、トライ＆エラーを繰り返しながらも館の特徴や立地条件などを考えた万代島美術館らしいボランティア活動のスタイルを模索し確立してほしい。観光タクシーとの連携では、解説会などの情報発信だけでなく、観光タクシーのドライバーが案内したくなるような美術館になるべく、彼らからニーズや課題などを引き出す機会を設けてみてはどうだろうか。

第3章 平成24年度県立近代美術館運営への提言

【近藤 フチエ 会長】

県立近代美術館は、義務教育との連携はかなり進んでいるのに対し、市民との連携はまだ希薄なように見えます。大学生のために学芸員の実習の他に、高齢者から幼児に至る世代に合わせた生涯教育のプログラムの開発に取り組んでほしい。現場の教育者も必要性を感じながらも十分に組み込んでいない課題だからです。

また、美術館には大変立派な講堂や展示場があり、それらの施設設備が十分に活用されていないように思います。県民が気軽に安価で自由に使える場所として、様々な県民の利用に供することが望ましい。これは新潟市美術館のギャラリーの使用がかなり盛んに行われているのと比較してあまりに低迷しています。設備の十全な活用は評価の対象でもありますし、何に原因があるのか改善が望まれます。

県立近代美術館を取り巻く様々な芸術文化活動との連携、例えば長岡市、県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、あるいは越後妻有アートトリエンナーレ、新潟市の水と土の芸術祭や地域の芸術活動との連携を探ることで、単一ではできないような大規模な活動を展開することもできます。他の地域で行っているような工夫が本館でも可能だと思われるので、一層の工夫を期待したいところです。

美術館の収集活動は、館の特質を打ち出す上で最も重要なものです。美術館の設立時の収集理念については、時代の変化の中でコレクションをより魅力的なものに発展させていくことができることから、今後は美術館の将来構想として改めて考えていかなければならない課題でしょう。

【雪山 行二 副会長】

美術品の収集活動については、寄贈作品を少数受け入れただけで、残念ながら改善の兆しは見られなかった。特に近現代美術を扱う美術館において、美術品の収集は新しい血を導入するようなものであり、活力の源である。美術館は自らの収集方針に基づいて作品を購入することにより、コレクションの形成が美術館活動の根幹にあることを示す必要がある。現在凍結されている美術品収集基金のすみやかな解除を求める次第である。

参考のために一例を挙げておこう。私が平成24年3月まで勤務していた和歌山県立近代美術館でも予算の削減が続いているが、美術品購入費は毎年700～800万円が計上されている。同館が所蔵品の適正な保存管理とコレクション形成を重視していることが、作家、作家の遺族、コレクター、美術商に広く知れ渡った結果、この数年間は毎年1000点を超える寄贈作品を受け入れている。購入の再開を希望する理由である。

展覧会については、自主企画展と企画会社主導型の展覧会に二極分解していることを憂慮する。企画会社が持ち込んだ人気作家の展覧会を開催して多くの人々に喜んでもらうことは有意義であるが、この場合、主催館が展覧会の内容と構成に関与することは一般的に難しい。展覧会予算に占める一般財源の比率が極めて低い現状においては、収支が見込めるパッケージになった巡回展に頼らざるを得ないことは十分に理解できるとはいえ、この体勢が続いていくと学芸員の能力が低下し、各美術館の個性が失われていくことは避けられない。この種の展覧会に訪れる多数の来館者を、どのようにして自主企画展あるいは常設展の観覧者にするかということが大きな課題である。この

種の展覧会の開催を決定するに当たっては、そのメリットとデメリットをあらかじめ詳細に検討しておく必要があるだろう。

ちなみにこの種の展覧会は一般に新聞社等との実行委員会方式で運営されるが、収益があった場合でも、出資比率に応じて新聞社等と県等に還元され、多大な努力を払った美術館には還元されない。美術館職員のモチベーションを高めるためにも、県側の収益は美術館の活動資金に充てるべきではないだろうか。

また、予算不足から美術館は調査・研究、広報・普及などに必要な資金の一部を民間企業や財団からの助成金に頼らざるを得ない状況にある。しかし、獲得した助成金が予算に計上された予定額を超えると、県に超過分を没収されるというのが現状ではないだろうか。美術館の設置者である県は、館が本来の使命を十分に果たせるよう予算など財政面においても特別の配慮をしていただきたい。それは、設置者としての責務であると思う。

【松本 健義 委員】

県立近代美術館、県立万代美術館ともにそれぞれの特性、立地条件を活かした多面的な教育普及事業が実施されており、広範な年代層が各種の企画を窓口として参加できる工夫がなされている。各企画への参加者数も大幅に増加しており、県民の憩いや学習の場として機能していることが伺える。

23年度は新たな方向性として、小中学校や大学の教育活動と連携した企画、学校への巡回ミュージアム、学校での教育活動への鑑賞シートの提供などに特に進展が見られた。こうした相互的で互恵的な協働が組織間に実際に作りだされたことで、予算、事業対象、個々の組織との連携・協働の差異化や個性化が、今後の課題及び可能性として明らかになってきた。

24年度は、この成果と課題を足場として中期的なビジョンに立ち、美術館の企画と事業の体制を、ボランティア、市民団体、学校、企業との特性が互いにより触発されるような互恵的関係を構築し、相互に協働者個々の個性が際立つようネットワーク化することで、美術館を軸とした厚みのある互恵的協働を安定的に構築することが期待される。また、学校教育と生涯学習が連動する事業のあり方や、美術館・学校・大学の連携した鑑賞活動の開発と指導者養成（教員研修）も現代的な課題である。美術に関心をもつ人材育成による若年層への教育普及と利用者の増加、大学における教育研究、地域の美術文化の普及発展への貢献を通じた生涯学習などに美術館の教育普及事業が寄与することで、県民の文化レベルの向上につながると言える。

【渡辺 富栄 委員】

全国いくつかの都市を巡回する企画展の場合は、企画元の意向が強く反映され、館独自の構成や学芸員の工夫の余地がないことが評価シートに触れているが、私はそうした出来合いの企画展は可能な限り絞り込んで、地味でもよいから手作りの味がする企画展の実施を心がけていただきたいと思う。例えば、県立近代美術館のすべての所蔵品を数年かけて展示するのを、県立万代島美術館と一緒に継続してやる試みなどがあったら嬉しい。県立近代美術館では常設展をよく観るが、会場が狭いこともありすべての所蔵品を観ることは何年経っても不可能である。入場者数が飛躍的に増えるなどということはあるまいが、郷土の美術館にどんな作品があるのかを知ることは、館への愛着にもつながると思う。私は、時折、東京国立博物館や東京国

立近代美術館に出かけるが、企画展は長蛇の列だが常設展はいつも人影も少なく静かに落ち着いて作品と対峙できる。常設展はこれでよいし、これこそが館本来の姿でもある。近年はどのような公立機関でも外部評価を気にして、不可能に近い数字を掲げており、達成率などという数値ばかりが大手を振ってまかり通っている。もともと上質な文化を提供すべき機関が人気投票ではあるまいし、入場者数に一喜一憂する必要など初めからないのである。

【丸山 結香 委員】

美術館を「ものづくりの新潟」復権のための人材育成の場に！仕事柄、長年県内の製造業で働く若い技術者の育成に関わっているが、残念なことに全般的に彼らの発想力や創造(想像)力、応用力が低下してきているように感じてならない。最近では、世界的に評価されるような創造的な製品づくりをしている技術者や企業が注目されているが、それはほんの一部でしかなく、業界全体から見ると危機感さえ覚える。その原因として考えられることは、彼らが育ってきた環境である家庭、学校、世間において、問われる(考える)ことが少なくなったことと、創造的なホンモノを目にする機会が激減しているからではないか。今や日本を追い越し、モノづくりをリードする韓国の半導体や家電の技術者は、時間を見つけては美術館に足を運ぶという。そこで、ホンモノの創造物に触れ、対話し、吸収して自らの創造力を高めている。

ただ、「美術館に行こう!」と掛け声をかけても何ものならない。モノづくりの人材育成に関わる組織や県の部局など異業種と連携し、人材育成プログラムとシステムなどの企画開発も県民の美術館としての役割ではないだろうか。

【日諸 博美 委員】

評価シートに美術館側が抱えているストーリー(意図)が見えるように工夫したい。

例えば、23年度評価シートの「教育普及等関連事業」の分野で2つの美術館のシートを見てみる。

県立近代美術館のシートでは、分野の「単年度目標」が1本で、「教育普及に関する参加率を…」とあり、その単年度目標実現のための取組(具体的な方策)が4本。この4本の取組一つ一つが、単年度目標達成のための方策として、適切なものであるかどうかは別にして、意図・ストーリーが読み取れるものとなっている。

「4本それぞれの取組を実施することにより、単年度目標が達成できると意図(考えて)している、ストーリーを考えているのだな」と理解することができ、評価もしやすくなる。

同様の視点で、県立万代島美術館のシートを見ると、「分野の単年度目標」が3本あり、それぞれの目標を達成するための「単年度目標実現のための取組」が記載されているが、目標と達成のための手立ての関係(ストーリー・意図)が読み取りにくい。もし、この計画が進めるのであれば、それぞれ3つの「単年度目標」が「中期目標」の①～⑥のどの目標実現のための「単年度目標」であるのかを明示する必要がある。単年度目標の1つ目「館外人材を活用した…」は、①～⑥のどの「中期目標」の実現につながるのか、同様に2つ目の「展覧会に関連した学習に…」は、どの「中期目標」にというように、それぞれのつながりにストーリー性(意図)が見えるものであるのか、疑問が残る。

「評価シート」活用の目的は、あくまでも「中期目標(社会的使命の具体像)」を達成・具現するためでなければならない。

【須佐 尚子 委員】

2年間、県立近代美術館協議会委員として、会議に出席し、美術館運営を内側から知る機会を与えていただき、感謝しています。美術館の存在そのものが身近に感じられるようになったのは、館長を初め、館の運営に携わる方々の熱意と努力を肌で感じる事が出来たからだと思っています。

そこで、私は、「この与えられた2年間で自分が具体的に何が出来たか」ということを自問しています。実を言うと、高等学校長としては、何の役にも立ちませんでした。

日頃から、長岡造形大学を含む、地域の文化施設との連携が密になることも、美術館の活性化や文化に親しむ次世代の育成の一助になると考え、発言してきました。

そこで、3月の長岡造形大学の保護者会三役会議で、「県立近代美術館協議会委員として、美術館と関わる機会があった。美術館関係者の皆さんの努力が非常によく分かった。しかし、美術館側から見た場合に、長岡造形大学からの美術館へのアプローチが見えない。美術館観覧補助等、保護者会の会費に組み入れてほしい。4月に近代美術館協議会がある予定なので、美術館側から見える形で実行してほしい」とお願いしました。

その後、長岡造形大学保護者会役員会で、大学側は、時間の無い中で、平成24年度事業計画並びに予算に、「近代美術館利用補助」として何十万円かの予算を助成費に組み込んでいただきました。学生への支援の形については、今後、県立近代美術館と調整予定との説明もありました。県立歴史博物館に関わる立場でもある保護者が、その新規事業についての発足を含む経緯についての説明を求め、説明を聞いた後、「近美、やるなあ」という感想を漏らしていました。その発言を聞いて、自分が素人考えで無理なことをお願いしたのだということを痛感すると同時に、館長を初め、皆様の努力がこのような場面で報われたようで、とても嬉しかったのが本心です。

そこで、今回の大学との連携を、上記の内容がくみ取れる形で具体的な文字に表現して、どこかに記していただきたいというのが、私の最後のお願いです。

【丸田 洋一 委員】

本書における私の担当分野は「環境・施設」だが、昨年と同様に予算の獲得が最も大きな取組のポイントとなっている。だが、現状では予算が大幅に増額されることは考えられない。では、方策はないのか。

両館の企画展示事業には、「県単独事業」と「実行委員会方式」があるが、企業、団体等の第三者と協力して行う「実行委員会方式」で収入を増やし、館独自で使える予算を組むことはできないのか。県の予算とは切り離し、自由裁量を認める予算を積み立てる等の方策も是非検討していただきたい。

【高橋 健太郎 委員】

私は、「美術館」が多くの県民にとって、どういう存在なのかという素朴な疑問を持っています。意識の中に、その存在すら無い人たちには、どのような企画展も意味を持ち得ません。来館者に向けたアンケートは、常々実施されていますので、「美術館」の存在を認知している人の動向は、ある程度、知ることが出来ます。是非、一度、次のようなアンケートを県全体で、

新潟県美術品収集委員会

実施してもらいたいと考えました。

「1、昨年、美術館に行ったことがありますか?」「2、昨年、県立近代美術館に行ったことがありますか?」。この二つの質問です。

もし、昨年、県立近代美術館はもとより、美術館そのものに一度も行ったことがないという人が大多数を占めていても、悲観的になることはありません。まだ、取り込む余地のある人たちが大勢いるということだからです。

美術館に来てもらうための手段はいろいろと考えられます。誰もが知っている作品や作家を扱う企画展も一つだと思いますし、協働事業として全く異なる分野の人たちと事業を行うことも一つです。本当に「きっかけ」は何でも良いと思います。県立近代美術館には、美術館を知る「きっかけ」を色々な方たちへ提供し、新しい発見や楽しみ方を県民の皆様へ提案してもらいたいと思います。

美術館が好きな人の裾野を広げ、10年後、20年後に美術館が更なる飛躍を遂げることを期待します。

【上原 みゆき 委員】

県立近代美術館協議会委員の在任中、精力的に両美術館の企画展、常設展を見て回った。正直なところ、居住する上越市から出かけていくには遠いこともあり、大変な面もあった。しかし、それをはるかにしのいで、いずれも行っただけの価値のあるものだった。一度出かけてみさえすれば、両館には周囲の雰囲気も含めて多くの人は必ずやリピーターになるだけの魅力がある、と美術館に通いつめた者として断言したい。

問題は、比較的遠方からの来訪者をどう確保するかだと思う。広報が重要であることは言うまでもない。その他についても、この点について常々いろいろと考えているが、実現が可能であろうと思われることから具体的に2点述べておきたい。1つは、巡回ミュージアムによりいっそう力を入れること。両館の存在や価値を実際に広く知ってもらうために極めて有効であると思う。もう1つは、小・中・高等学校の修学旅行時に来訪してもらうこと。この年代で美術館に訪れた経験は、時間はかかるかもしれないが必ず後になって活きる。何よりも、子どもたち自身にとって、すばらしい経験となる。

この協議会委員を務めたことにより、実に多くのことを学ぶことができた。それらを活かしつつ、これからも熱心に両美術館に通いたい。

※平成23年度版年報に、誤って24年度の委員評価を掲載したため、本書には2年分の委員評価を掲載した

【委員】

- ◎宮田 亮平（東京藝術大学学長）
- 草薙奈津子（平塚市美術館長）
- 本江 邦夫（多摩美術大学教授）
- 前川 公秀（佐倉市立美術館長）
- 柳原 正樹（富山県水墨美術館長）
- 松本 透（東京国立近代美術館副館長）
- 郷 晃（新潟大学教授）
- ◎は委員長。

【日程及び内容】

平成24年度「新潟県美術品収集委員会」

日程：平成25年1月29日（火）

内容：(1) 平成24年度美術品収集について

- ① 収集候補の全体説明
- ② 収集候補の内覧
- ③ 収集候補作品の協議
- (2) その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。会員553名。

広く美術を愛する人たちを中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

また、本年度においては、会員減少の対策として、会員特典の見直し、運営方法等の改革を図るため、運営協議委員会を発足、次年度に向けた新たな体制について、検討した。

■会費・会員の種類

一般会員	一般	4,000円	422人
	後期	1,000円	24人
	学生	2,000円	6人
ファミリー会員		10,000円	67人
特別会員	個人	30,000円	1人
	法人	(一口)	33人
計			553人

■会員の特典

- ・会員証による常設展の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展で利用できる無料観覧券の配布
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会だより、美術館便り等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

■役員体制

会 長 丸山 結香
 副会長 櫛谷 一代 小林 新治
 理 事 伊藤 英之 小栗 俊郎 佐藤 明
 澤 秀一郎 丸岡 稔
 監 事 大矢総一郎 桐山 晃
 代議員 阿部 貴子 阿部美恵子 石丸 雨虹
 永島 賢司 大平 剛 尾崎 正
 小幡 武代 恩田 里士 片野 トク
 近藤フジエ 斎藤 英世 斎藤 裕子
 佐藤 丈二 佐藤 節子 高野 豊昌
 田嶋 晴美 田中 弘邦 土屋 蔵三
 永井 正二 羽賀 亨 原 和彦
 樋口 栄治 保坂 太 舛岡 武雄
 丸山 智 宮本 恵子 山梨玲江子

山本 正明

顧問 徳永 健一 豊口 協 平山 征夫

■事務局 事務局員 佐藤 和子

■事業内容

- ◇5月15日 代議員会 会場：近代美術館会議室
- ◇7月10日～7月16日 「第16回友の会作品展」
会場：近代美術館ギャラリー
- ◇8月17日～8月23日 「こどもアートミュージアム」への協力 会場：近代美術館ギャラリー
- ◇8月29日 第1回運営協議委員会 会場：近代美術館会議室
- ◇9月8日～9月23日 CREATION Project 2011 東日本の職人と180人のクリエイターがつくる印染トートバッグ展 新潟巡回展 会場：朱鷺メッセ アトリウム
- ◇10月2日～10月21日 CREATION Project 2011 東日本の職人と180人のクリエイターがつくる印染トートバッグ展 長岡巡回展 会場：近代美術館内レストラン「広告塔」
- ◇10月8日 第2回運営協議委員会 会場：近代美術館会議室
- ◇12月23日 ワークショップ「クリスマスツリーを彩ろう！～プラスチックカップでできるカラフルオーナメント」(長岡市アオーレ長岡オープニング記念交流助成事業) 会場：アオーレ長岡 ホワイエ
- ◇友の会だよりの発行
- ◇近代美術館内レストラン「広告塔」を会場とした会員のミニ作品展を通年開催
- ◇ミュージアムグッズの販売 近代美術館、万代島美術館のミュージアムショップにて、グッズを委託販売
- ◇近代美術館で開催される展覧会のポスター発送作業への協力
- ◇「新潟県内博物館等友の会連絡会」加盟団体との連携

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催
(株)日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を(株)日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成13年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成14年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

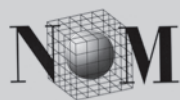
平成15年7月

開館

平成24年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 三条印刷株式会社
発行 平成26年2月28日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum